

MAKE THE
WORLD SEE

Milestone Systems

XProtect® Smart Client 2024 R2

ユーザーマニュアル



内容

著作権、商標、および免責条項	22
ドキュメントの履歴	23
新機能	23
基礎	27
はじめに	27
XProtect Smart Clientとは？	27
XProtect VMS の重要な概念	28
使用可能な機能	28
利用可能な機能について	28
ユーザー権限	28
組織の XProtect 製品と拡張機能	29
XProtect Smart Client 設定のデフォルト値	29
ビューとビューアイテム	30
ビューアイテムのコンテンツ	31
ライブモード、再生モード、設定モード	33
ルール	33
インシデント、イベント、アクション、アラーム	35
ブックマーク、エビデンスロック、ビデオ制限	36
マップとスマートマップ	37
バウンディングボックス	38
プライバシーマスク	38
アダプティブストリーミングとハードウェアアクセラレーション	40
一般的なタスクを解決	40
ビデオの表示とビューの操作	40
カメラをナビゲート	42
状況認識の向上	43
ビデオを共有する	45
ビデオの共有について	45

組織内の同僚とビデオを共有	45
組織外の警備員とのビデオ共有	47
調査および文書化インシデント	48
インシデントの調査と文書化	48
シナリオ：ライブビデオを見ている時にインシデントに気づいた	49
シナリオ：発生後にインシデントに気づいた	49
すべてのユーザーにXProtect Smart Clientを設定する。	50
コンピュータのパフォーマンスの最適化	51
個人情報保護法の遵守	52
システムの健全性を監視	53
ユーザーインターフェイスを理解する	54
ユーザーインターフェイスの概要	54
デフォルトのタブ	55
グローバルツールバー	56
タイムゾーン	56
エビデンスロックリストへのショートカット	57
ユーザーメニュー	57
設定とその他ウィンドウ	57
ワークスペースのツールバー	58
タイムライン	59
複数のタイムライン	59
メインタイムライン	60
タイムライン追跡	60
縦線	61
タイムラインからの録画の操作	61
タイムライン コントロール	61
コンテキスト固有タイムライン	68
拡張機能	68
拡張機能全般	68
XProtect Access	69

XProtect Hospital Assist	70
XProtect Incident Manager	70
XProtect LPR	71
XProtect Rapid REVIEW	72
XProtect Smart Wall	73
XProtect Transact	74
XProtect Smart Client の使用方法を学ぶ	75
ユーザーアシスタンスへのアクセス	75
追加のヘルプリソース	76
導入とログイン	77
ライセンスとシステム要件	77
最低限のシステム要件	77
最大ディスプレイ数	77
ライセンス	77
インストールとアップグレード	78
XProtect Smart Clientをインストールする	78
オフライン用のXProtect Smart Clientユーザーアシスタンスをインストールします。	78
XProtect Smart Client のアップグレード	79
現在のバージョンの XProtect Smart Client の検証	79
トラブルシューティング：インストールの試み	80
ログインとログアウト	81
ログイン	81
利用可能な追加ログインオプション	82
ログイン時のウィンドウとタブの復元	82
認証してログイン	82
入退室管理システムへのログイン	82
HTTP 接続を許可	82
トラブルシューティング：ログインの試み	83
ログアウト	85
パスワードの変更（基本認証のみ）	85

XProtect Smart Client システムのカスタマイズ	86
XProtect Smart Client 設定のデフォルト値	86
XProtect Smart Client の言語の変更	86
ログイン時のウィンドウとタブを復元すべきか定義する	87
ビデオとユーザーインターフェースナビゲーションのためにジョイスティックを追加する	87
音声通知の音を変更する	88
HTTP 接続を許可しない	88
XProtect Smart Client の使用方法を学ぶ	89
ユーザーアシスタンスへのアクセス	89
追加のヘルプリソース	89
ビデオの表示とビューの操作	90
ビデオの表示	90
表示と録画	90
ビューを開き、ビューアイテムを最大化する	90
ウィンドウを全画面表示モードで表示する	91
ビデオをホットスポットへ送信する	91
画面自動切替ビューアイテムのビデオを見る	91
ライブビデオのステータスを表示する	92
録画したビデオをメインのタイムラインとは別に表示	93
録画ビデオ内で時間を前後に移動する	94
カメラおよびビューの検索	95
複数のオープンビューを操作	95
追加の表示タブとウィンドウ	95
追加の表示タブを開く	97
ビューをサブウィンドウに送信する	98
サブウィンドウの時間をメインウィンドウの時刻と同期させる	99
他の開いているビューを選択し、次にビューアイテムを選択します。	99
すべてのビューのカメラチルトバーとカメララインジケーターを表示/非表示にする	100
カメラツールバー（カメラビューアイテム）	101
カメラツールバーを最小化する	103

カメラツールバーに表示された時刻を変更する	103
タイムラインの構成オプション	104
録画間のギャップの再生を設定する	104
タイムライン追跡に表示するものを設定	104
メインタイムラインを非表示にする	105
音で通知	105
音声通知の消音	105
デフォルトのキーボードショートカット	106
トラブルシューティング：ビデオやバウンディングボックスがない	107
ビューを一時的に変更	108
プライベートビューと共有ビュー	108
ビューを一時的に変更する	108
同じカメラからの別のビデオストリームを表示する	108
カメラビューアイテム内のビデオを置き換える	109
ビュー内でカメラビューアイテムを移動/交換する	109
カメラビューアイテムを別の開いているビューに送信する	109
検索を通して一時的なビューを作成する	110
ビューアイテムまたはビューをリセットする	110
ビデオのパン、チルト、ズームイン	110
光学ズームとデジタルズームの違い	110
カメラビューアイテムでデジタルにズームする	111
ライブビデオでパン、チルト、ズームインする	112
PTZカメラのプリセット位置を定義する	113
PTZカメラのプリセット位置を編集する	114
プリセット位置でビデオをパン、チルト、ズームインする	115
お気に入りの魚眼レンズの位置の定義	115
お気に入りの魚眼位置でビデオをパン、チルト、ズームインする	116
パトロール	116
パトロール	116
手動パトロールセッションの開始および停止	116

ルールに基づくパトロールセッションの停止と開始	117
ルールに基づくパトロールセッションまたは手動によるパトロールセッションを停止する	117
PTZセッションの予約とリリース	118
プライバシーマスクを外す	119
プライバシーマスク	119
プライバシーマスクの除去と再適用	120
マップで地理的な概要を把握	123
マップとスマートマップ	123
スマートマップの操作	124
スマートマップ	124
スマートマップ上のデバイスとアラームの表示	125
スマートマップ上でのデバイスの表示	125
スマートマップ上でのアラームの表示	128
スマートマップ上の移動	129
スマートマップ上でズームインおよびズームアウトを行う	129
スマートマップ上で定義されたロケーションへ移動する	130
スマートマップ上で前のロケーションに戻る	130
スマートマップ上のデバイスへ移動する	131
スマートマップ上でカスタムオーバーレイへ移動する	131
スマートマップからビデオや音声を視聴	132
1台のカメラからライブビデオをプレビューする	132
複数のカメラからライブビデオをプレビューする	132
ホットスポットとスマートマップを両方含むビューからのビデオを表示	134
ホットスポットを含むが、スマートマップを含まないビュー内のビデオを見る	135
スマートマップで音声を聞く	135
レイヤーの非表示と表示	135
スマートマップのレイヤー	135
スマートマップ上のレイヤーを表示または非表示にする	136
トラブルシューティング：スマートマップ	136
マップの操作	137

マップ	137
マップの外観	137
マップからビデオを視聴し、録画を開始する	139
マップのカメラから録画されたビデオを表示	140
エレメントとマップの関係	140
マップにあるマップ階層を理解するようにしてください。	142
マップからフロートウィンドウへカメラを送信	143
マップにステータスの詳細情報を表示する	143
マップをナビゲートする	143
音声の再生とブロードキャスト	144
音声	144
音声を聴く	144
音声ブロードキャスト	145
ブロードキャスト	145
一台のスピーカーに音声をブロードキャストする	145
複数のスピーカに音声をブロードキャストする	145
選択した音声デバイスへロック	146
オープンビューに関連付けられた音声デバイスだけをリスト表示する	146
音声ボリュームの調整	146
オーディオ設定概要	147
エビデンスの収集と共有	147
インシデントの調査と解決に対する貢献	147
ビデオの手動録画	148
スナップショットを撮って共有する	148
ビデオにブックマークを付ける	148
Matrix ビューアイテムを含む共有ビューへのビデオの送信	149
Matrixのコンテンツの表示	149
Matrixビューアイテムにビデオを送信する	149
インシデントへの対応	150
アラームおよびイベントでの作業	150

イベントおよびアラーム	150
イベント	150
アラーム	151
イベントとアラームの関係	151
イベントを手動で有効化する	152
アラームリストの使用	152
アラームリストのサーバー	153
アラームの状態	153
アラームのフィルター	153
アラームへの応答	154
アラーム詳細の表示および編集	154
アラームを確認	156
選択したイベントタイプで新規アラームをすべて無効にする	156
マップでアラームを無視する	158
アラームを処理済みにする	158
アラームレポートを印刷する	158
アラームの統計を取得する	159
マップ上のアラーム	159
スマートマップ上のアラーム	160
ビデオ制限への対処	160
ビデオへのアクセス制限	160
ビデオの制限（説明付き）	160
ビデオ制限とさまざまなサイト	160
再生制限を作成	161
ライブ制限を作成	161
ビデオ制限とエビデンスロック	161
ライブ映像または録画映像に制限を作成する	162
すでに制限のあるカメラへの新たな制限の作成	163
ライブ制限	163
再生制限	163

制限付きビデオを表示する	164
ビデオ制限リストから制限付きビデオを視聴する	164
制限付きビデオを編集する	164
ビデオ制限を解除する	165
再生制限の解除	165
ライブ制限の解除	166
制限付きビデオのエクスポート	166
ビデオ制限リスト	166
ライブ制限の非表示または未表示	167
リストの検索とフィルター	167
検索	167
フィルター	167
ビデオ制限リストの設定	168
ビデオ制限ステータスのメッセージ	169
FAQ	170
FAQ：アラーム	170
FAQ：ブックマーク	170
FAQ：通知	170
調査および文書化インシデント	172
インシデントの調査	172
インシデントの調査	172
録画された映像の閲覧	172
再生モード	173
ライブモード	174
検索タブ	174
再生モードでのビデオの表示	175
録画したビデオをメインのタイムラインとは別に表示	176
検索結果の調査	177
検索中	177
ビデオデータの検索	177

ビデオの検索	178
モーションの検索（スマートサーチ）	182
モーション検索いき値	184
ブックマークの検索	184
アラームの検索	186
イベントの検索	186
人物の検索	186
車両の検索	187
特定の場所で録画されたビデオを検索	188
検索結果、設定、アクション	188
検索タブでタイムラインを検索	188
検索結果から利用できるアクション	189
MIP関連のアクション	190
マージされた検索結果	190
検索条件の一部またはすべてに一致	191
カメラまたはビューから検索を実行	192
サブウィンドウで検索結果を開く	192
検索結果からビデオをプレビュー	193
検索中にバウンディングボックスを表示/非表示にする	195
並べ替えオプション	195
検索中にカメラの位置を特定する	197
カメラアイコン	199
検索結果のブックマーク	200
検索結果のブックマークを編集する	201
検索結果のスナップショットを撮る	202
検索時間をメインタイムラインに転送	203
検索の管理	203
検索条件の保存	204
保存した検索条件を探して開く	205
保存した検索条件の編集または削除	207

FAQ: 検索	208
トラブルシューティング: 検索	211
エラーメッセージと警告	211
エッジストレージとMilestone Interconnectの録音の操作	212
エッジ ストレージ およびMilestone Interconnectからの録画	212
メインタイムラインとエッジ取得	212
録画を手動で取得する	213
すべてのエッジ取得ジョブを表示する	213
ブックマークとエビデンスロックの適用	214
ブックマーク	214
ブックマークの追加	214
ブックマークウィンドウ	214
ブックマークを追加または編集する	217
ブックマークを削除	218
ブックマークされたビデオの検索またはエクスポート	219
FAQ: ブックマーク	219
エビデンスビデオのロック	219
エビデンスロック	219
エビデンスロックの作成	220
エビデンスロックの表示	222
エビデンスロックを編集する	222
エビデンスロックのあるビデオを再生する	222
ロックされたエビデンスビデオのエクスポート	223
エビデンスロックを削除する	223
エビデンスロック設定	224
エビデンスロックフィルター	225
エビデンスロックのステータスメッセージ	226
エクスポート	228
エビデンスビデオのエクスポート	228
ビデオ、音声、静止画像のエクスポート	228

エクスポート形式	228
エクスポートリストにビデオシーケンスを追加	230
エクスポート設定の調整	231
エクスポートを作成	232
エクスポート中にプライバシーマスクを録画に追加	234
ストーリーボード	234
ストーリーボードのエクスポート	235
ロックされたエビデンスビデオのエクスポート	235
エクスポートされたビデオの表示	235
監視レポートの印刷または作成	236
単一カメラから監視レポートを印刷	236
検索結果からレポートを作成	237
画像をクリップボードにコピー	238
エクスポート設定	239
XProtectフォーマットの設定	239
メディアプレーヤー形式の設定 - 個別ファイル	241
メディアプレーヤー形式の設定 - 統合されたファイル	242
静止画像の設定	244
エクスポートタブで設定する	244
XProtectフォーマットでエクスポートされたデータベースの修復	245
FAQ：エクスポート	246
トラブルシューティング：エクスポート中	247
システムの健全性を監視	249
サーバー接続を確認しています	249
サーバー接続のステータスをチェック	249
XProtect Smart Client のシステムを監視	249
システムの監視	249
クライアントリソースのモニター	249
Milestone Federated Architectureのある [システムモニター] タブ	250

ビューの作成	251
ビューの作成	251
プライベートビューと共有ビュー	251
ビューの作成	251
コンテンツをビューに追加	252
ビューグループの作成	252
ビューの作成	252
検索を通して一時的なビューを作成する	253
ビューまたはビューグループをコピーします。	253
ビューヘショートカット番号を割り当てる	254
ビューアイテムにビデオを追加	254
ビューにカメラを追加する	254
ビューアイテムでビデオの寸法を定義する	255
カメラタイトルバーとインジケータを表示／非表示にする	255
重要なオブジェクトの周囲にバウンディングボックスを表示する	256
ライブビデオからジッタを取り除く	256
カメラビューアイテムにカメラコマンドを追加	257
オーバーレイボタン	257
カメラビューアイテムにオーバーレイボタンを追加する	258
カメラは交換するが、その設定は維持する	258
画面自動切替をビューに追加する	259
ビューにホットスポットを追加する	259
ビューにMatrixのコンテンツを追加する	260
PTZクリックモードを変更する	260
音声通知を再生	261
音で通知	261
モーションに関する音声通知を再生する	261
イベント発時に音声通知を再生する	262
帯域幅、CPU、GPUの使用率の向上	263
帯域幅、CPU、GPUの使用率の改善	263

固定されたライブストリームを選択する	263
モーションのあるライブストリームのみを更新する	263
カメラ設定（プロパティペイン）	264
ビューアイテムに他のコンテンツを追加	265
ビューにアラームリストを追加する	265
ビューにスマートマップを追加する	266
Smart Mapをビューに追加する。	266
ビューにウェブページを追加する	267
Webページのプロパティ	268
トラブルシューティング：ビューにウェブページを追加する	268
ビューに画像を追加する	269
ビューにテキストを追加する	270
すべてのユーザーの機能を設定する	271
セットアップモード	271
セットアップモード	271
アダプティブストリーミングの有効化	272
アダプティブストリーミングの利点と要件	272
アダプティブストリーミングを有効にする	273
利用可能なビデオストリームの確認	275
ハードウェアアクセラレーションの有効化	276
ハードウェアアクセラレーションの利点と要件	276
ハードウェアアクセラレーション設定をチェックします	277
CPU Quick Syncのサポート確認	278
デバイスマネージャの確認	278
NVIDIAハードウェアアクセラレーションを確認します。	279
BIOSでIntel ディスプレイ アダプタを有効にする	280
ビデオドライバを更新します	280
モジュール設定の確認	281
アラームとイベントを構成	281
アラームおよびアラーム設定	281

アラームをビューに追加する	281
アラームリストの設定	282
アラームプレビューの設定	283
ブックマークを構成	284
詳細なブックマーク	284
詳細なブックマークを有効にする	284
パトロール設定の設定	284
パトロールプロファイル	284
パトロールプロファイルを追加する	284
パトロールプロファイルの削除	285
パトロールプロファイルを編集する	285
地理的概要の作成	287
スマートマップの作成	287
マップとスマートマップの違い	287
スマートマップをビューに追加	288
スマートマップの地理的背景を変更する	288
地理的背景	288
地理的背景の種類	289
有効にするMilestone Map Service	290
OpenStreetMapタイルサーバー	291
OpenStreetMapタイルサーバーの変更	292
スマートマップでレイヤーを表示または非表示する	293
スマートマップのレイヤー	293
レイヤーの順番	294
スマートマップ上のレイヤーを表示または非表示にする	294
スマートマップのデフォルト設定を指定する	295
カスタムオーバーレイの追加、削除および編集	295
カスタムオーバーレイ	295
カスタムオーバーレイおよびロケーション	296
スマートマップにカスタムオーバーレイを追加する	296

カスタムオーバーレイへのロケーションを追加する（スマートマップ）	297
スマートマップ上のカスタムオーバーレイを削除する	298
シェープファイル上のエリアをより見やすくする（スマートマップ）	298
カスタムオーバーレイの位置、サイズ、または配置の調整をする	299
スマートマップ上のデバイスの追加、削除、編集	300
スマートマップにデバイスを追加する	301
カメラの視野および方向を変更する	304
デバイスアイコンを選択または変更する	305
デバイス情報を表示または非表示にする	306
スマートマップからデバイスを削除する	306
スマートマップ上のリンクの追加、削除および編集	308
スマートマップ上のリンク	308
スマートマップのロケーションまたはマップへリンクを追加する	308
スマートマップ上のリンクを編集または削除する	309
スマートマップ上のロケーションの追加、削除および編集	309
スマートマップ上のロケーション	309
スマートマップのホームロケーション	310
スマートマップにロケーションを追加する	310
スマートマップ上のロケーションを追加、編集または削除する	310
ロケーション同士のリンク	311
スマートマップへの建物の追加、削除および編集	311
スマートマップ上の建物	311
スマートマップに建物を追加する	311
スマートマップ上の建物を編集する	312
スマートマップ上の建物を削除する	313
建物の階とデバイスの管理（スマートマップ）	313
建物のデバイスと階	313
建物の平面図とデバイス	314
建物の階を追加または削除する	314
建物内の階の並べ替え（スマートマップ）	315

建物のデフォルトの階を設定する（スマートマップ）	315
平面図を階に追加（スマートマップ）	316
平面図の削除（スマートマップ）	317
建物にデバイスを追加する（スマートマップ）	317
マップの作成	318
マップをビューに追加	318
マップ設定	319
マップツールボックスの中のツール	321
マップの右クリックメニュー	322
マップの背景を変更する	322
マップの削除	322
マップの要素の追加と削除	322
ホットゾーンをマップに追加	323
マップの要素の外観の変更	324
マップ上でのラベルの編集と回転	326
マップのテキストを追加/編集	326
スマートマップの作成	327
マップとスマートマップの違い	327
スマートマップをビューに追加	328
スマートマップの地理的背景を変更する	328
地理的背景	328
地理的背景の種類	329
有効にするMilestone Map Service	330
OpenStreetMapタイルサーバー	331
OpenStreetMapタイルサーバーの変更	332
スマートマップでレイヤーを表示または非表示する	333
スマートマップのレイヤー	333
レイヤーの順番	334
スマートマップ上のレイヤーを表示または非表示にする	334
スマートマップのデフォルト設定を指定する	335

カスタムオーバーレイの追加、削除および編集	335
カスタムオーバーレイ	335
カスタムオーバーレイおよびロケーション	336
スマートマップにカスタムオーバーレイを追加する	336
カスタムオーバーレイへロケーションを追加する（スマートマップ）	337
スマートマップ上のカスタムオーバーレイを削除する	338
シェープファイル上のエリアをより見やすくする（スマートマップ）	338
カスタムオーバーレイの位置、サイズ、または配置の調整をする	339
スマートマップ上のデバイスの追加、削除、編集	340
スマートマップにデバイスを追加する	341
カメラの視野および方向を変更する	344
デバイスアイコンを選択または変更する	345
デバイス情報を表示または非表示にする	346
スマートマップからデバイスを削除する	346
スマートマップ上のリンクの追加、削除および編集	348
スマートマップ上のリンク	348
スマートマップのロケーションまたはマップヘリンクを追加する	348
スマートマップ上のリンクを編集または削除する	349
スマートマップ上のロケーションの追加、削除および編集	349
スマートマップ上のロケーション	349
スマートマップのホームロケーション	350
スマートマップにロケーションを追加する	350
スマートマップ上のロケーションを追加、編集または削除する	350
ロケーション同士のリンク	351
スマートマップへの建物の追加、削除および編集	351
スマートマップ上の建物	351
スマートマップに建物を追加する	351
スマートマップ上の建物を編集する	352
スマートマップ上の建物を削除する	353
建物の階とデバイスの管理（スマートマップ）	353

建物のデバイスと階	353
建物の平面図とデバイス	354
建物の階を追加または削除する	354
建物内の階の並べ替え（スマートマップ）	355
建物のデフォルトの階を設定する（スマートマップ）	355
平面図を階に追加（スマートマップ）	356
平面図の削除（スマートマップ）	357
建物にデバイスを追加する（スマートマップ）	357
マップからスマートマップへの移行	358
マップからスマートマップへの移行	358
マップ移行ツールを用いたマップからスマートマップへの移行	358
ビューにスマートマップを追加する	359
マップオーバーレイをスマートマップを追加する	359
マップオーバーレイをスマートマップにインポートする	359
マップからすべてのデバイスをインポートするか、マップオーバーレイのみを追加する	360
マップオーバーレイのデバイスのみを保持する、またはマップオーバーレイの画像とデバイスの両方を保持する	360
FAQ: マップ	360
FAQ: スマートマップ	361
トラブルシューティング: スマートマップ	362
ログインスクリプトの作成	363
ログインスクリプト	363
XProtect Smart Clientへログインするためのスクリプト	363
ログインのスクリプト-パラメータ	364
ナビゲーション用のHTMLページのスクリプト	366
ユーザーアシスタンスへのアクセス	370
ユーザーアシスタンスへのアクセスを有効または無効にする	370
XProtect Smart Client設定の概要	372
XProtect Smart Client設定の概要	372
[設定] ウィンドウが表示されます。	372

アプリケーション設定	372
ペイン設定	376
機能設定	376
タイムライン設定	377
エクスポート設定	378
スマートマップ設定	380
検索設定	381
ジョイスティック設定	381
キーボード設定	384
アクセスコントロール設定	384
アラームマネージャー設定	385
拡張設定	386
言語設定	390
用語集	391

著作権、商標、および免責条項

Copyright © 2024 Milestone Systems A/S

商標

XProtect は Milestone Systems A/S の登録商標です。

Microsoft および Windows は、Microsoft Corporation の登録商標です。App Store は Apple Inc. のサービスマークです。Android は Google Inc. の商標です。

本文書に記載されているその他の商標はすべて、該当する各所有者の商標です。

免責条項

本マニュアルは一般的な情報を提供するためのものであり、その作成には細心の注意が払われています。

この情報を使用することにより発生するリスクはすべて、使用者が負うものとします。また、ここに記載されている内容はいずれも、いかなる事柄も保証するものではありません。

Milestone Systems A/S は、事前の通知なしに変更を加える権利を有するものとします。

本書の例で使用されている人物および組織の名前はすべて架空のものです。実在する組織や人物に対する類似性は、それが現存しているかどうかにかかわらず、まったく偶然であり、意図的なものではありません。

この製品では、特定の規約が適用される可能性があるサードパーティー製ソフトウェアを使用することがあります。その場合、詳細はMilestoneシステムインストールフォルダーにあるファイル`3rd_party_software_terms_and_conditions.txt`をご参照ください。

ドキュメントの履歴

新機能

XProtect Smart Client 2024 R2

ユーザーアシスタンスの再構築

- XProtect Smart Clientユーザーの様々な役割やタスクによりよく対応するために、ユーザーアシスタントのプレゼンテーションが再構築されました。この再構築は、今後のいくつかのリリースでも継続します。今回のリリースでは、**ビデオの表示とビューの操作**および**ビューの作成**セクションが充実し、これらの目標に関連するタスクを解決することで得られるすべてのメリットと解決方法が重点的に説明されています。
- Milestone XProtect VMSのすべてのバージョンでスマートマップが利用できるようになりました。一部のバージョンではGoogle Maps、Bing Maps、CAD ファイルだけが使用できます。
- 従来のマップ機能からスマートマップへの切り替えプロセスをサポートするため、マップ移行ツールが追加されています。このツールをガイドとして使用し、オーバーレイとデバイスを追加します。
- XProtect Smart Clientで人を検索する際、髪や服の色、服の柄の種類、ひげの種類などで検索できるようになりました。車両の検索についてもいくつかのアップデートがあり、車両の種類やブランドなど、検索オプションが増えました。

XProtect Access

- アクセスリクエスト通知の表示/非表示の方法もアップデートされています。

XProtect Smart Client 2024 R1

ユーザーアシスタンスのインストール

- 以前は、XProtect Smart Client のインストール時にユーザーアシスタンスもインストールされ、インストール後起動後に利用できるようになっていました。このアップデートにより、ユーザーアシスタンスはソフトウェアのインストール時に一緒にインストールされず、ユーザーアシスタンスのみを個別にインストールできるようになりました。[78 ページのオフライン用のXProtect Smart Clientユーザーアシスタンスをインストールします。](#)をご参照ください。

ビデオシーケンスのエクスポート

- メディアプレーヤー形式でビデオシーケンスをエクスポートする際は、ビデオシーケンスを個別ファイル（1つのビデオシーケンスを含む）または統合ファイル（複数の統合されたビデオシーケンス）としてエクスポートできます。

「**基礎**」の章の更新内容は以下の通りです。

- 重要な XProtect VMS の概念
- 一般的なタスクを解決。
- XProtect Smart Client の使用方法を学ぶ。

新しい**展開とログイン**についての章

- 新しい**展開とログイン**についての章には、XProtect Smart Client のインストール、アップグレード、最低要件、ライセンス、ログインについてのすべての既存のコンテンツに加え、XProtect Smart Client システムの初期カスタマイズについてのコンテンツが含まれています。

XProtect Smart Client 2023 R3 の新機能

複数の表示タブ：

- XProtect Smart Client のメインウィンドウおよびサブウィンドウには、ビューを持つタブをいくつでも作ることができます。ビューのあるタブには、選択したビューの名前が付けられます。

ログイン時のウィンドウとタブの復元：

- 機能と説明を改善しました。[82 ページのログイン時のウィンドウとタブの復元](#)と[87 ページのログイン時のウィンドウとタブを復元すべきか定義する](#)をご参照ください。

スマートマップ上のデバイスの追加、削除、編集：

- 入力デバイスと同じように、出力デバイスを追加して有効にすることができます。[340 ページのスマートマップ上のデバイスの追加、削除、編集](#)をご参照ください。

スマートマップ上のカスタムオーバーレイの追加、削除および編集：

- シェープファイルでは、塗りつぶしや線の色を追加して、シェープファイルをよりシャープに見せることができます。[335 ページのカスタムオーバーレイの追加、削除および編集](#)をご参照ください。

XProtect Smart Client 2023 R2 の新機能

メインタイムラインの再設計

- メインのタイムラインに関するドキュメントは、再設計を反映して更新しました。[60 ページのメインタイムライン](#)もご参照ください。
- ビデオ閲覧ディスプレイを最適化するために、非アクティブ中のメインタイムラインを非表示にする新しい2つの機能が追加されています。[105 ページのメインタイムラインを非表示にする](#)をご参照ください。
- タイムラインのさまざまな構成オプションのドキュメントが更新されました。[104 ページのタイムラインの構成オプション](#)をご参照ください。

特定の視聴者向けの2つの新ガイド

- 新規ユーザーを対象とした XProtect Smart Client 入門ガイドです。
- XProtect Smart Client – Player クイックガイドは、XProtect Smart Client – Player 形式でエクスポートされたビデオを受け取る、組織外のオペレータ、権限者、またはその他のセキュリティ専門家を対象としたクイックガイドです。

プライバシーマスク：

- プライバシーマスクの追加と削除は、**エクスポートリスト**で選択するカメラからのエクスポートにすべてのビデオシーケンスが摘要するようになりました。

XProtect Smart Client 2023 R1 の新機能

新しい**[表示]**タブでは、**[ライブ]**タブと**[再生]**タブが置き換えられています。

- **[表示]**タブでは、新しいトグルスイッチを使用してライブまたは再生モードでビデオを表示する選択ができます。
- 再生モードでは、**[再生]**タブと同じ特徴と機能を使用できます。
- ライブモードでは、**ライブ**タブと同じ特徴と機能を使用できます。

エクスポート、エビデンスロック、ビデオ制限のボタンが、XProtect Smart Clientの右下隅から右上隅にあるワークスペースツールバーに移動しました。

XProtect Incident Manager :

- GDPR または個人データに関するその他の適用法を遵守するために、XProtect Management Client のシステム管理者はインシデントプロジェクトの保存期間を定義できます。

XProtect Smart Client 2022 R3 の新機能

XProtect Incident Manager :

- 現在、XProtect Incident Manager 拡張機能は、XProtect Expert、XProtect Professional+、および XProtect Express+ のバージョン 2022 R3 以降とも互換性があります。
- XProtect Incident Manager は 10,000 件以上のインシデントプロジェクトを表示できるようになりました。

XProtect Smart Client 2022 R2 の新機能

XProtect Incident Manager :

- この拡張機能の最初のリリース。
- XProtect Incident Manager 拡張機能は、XProtect Corporate のバージョン 2022 R2 以降、およびXProtect Smart Client のバージョン 2022 R2 以降と互換性があります。

XProtect LPR :

- **[LPR]**タブでは、**LPR**イベントに関連付けられたナンバープレートスタイルを表示できるようになりました。

ブックマーク :

- キーワードを入力してブックマークの検索結果をフィルターする場合、すべてのブックマークフィールド、**ヘッドライン**のみ、または**説明**のみの中からキーワードを検索する場所を指定できるようになりました。[184 ページのブックマークの検索](#)をご参照ください。

XProtect Smart Client 2022 R1 の新機能

エクスポート :

- ビデオデータのエクスポートに関連するものは、すべて**エクスポート**という専用タブに残ります。[55 ページのエクスポートタブ](#)もご参照ください。

XProtect Smart Client 2021 R2

エクスポート：

- セキュリティを強化するために、このXProtect形式はデフォルトのエクスポート形式です。他のエクスポート形式を有効にするには、システム管理者に連絡してください。

新しいカメラアイコン：

- 新しいカメラアイコンを使用すると、固定カメラとPTZカメラを区別できます。

ビューとカメラの垂直スクロール：

- **Shift**キーをスクロールホイールと組み合わせて使用して、ナビゲーション領域を左または右に移動します。

削除された機能：

- カメラナビゲーター
- 簡易モード：この機能は、ビデオのエクスポートを表示するために使用されるXProtect Smart Client – Playerでも削除されました。

XProtect Smart Client 2021 R1

検索中：

- **関連性**で検索結果を並べ替えます。[195 ページの並べ替えオプション](#)もご参照ください。
- 管理者は1回の検索で許可されるカメラの数を制御できます。

スマートマップ：

- スマートマップの地理的背景としてMilestone Map Serviceを使用します。Milestone Map Serviceを有効にすると、それ以上の設定は必要ありません。[有効にするMilestone Map Service](#)を参照してください。
- クラスタ内のさまざまな種類のデバイスの概要を確認してください。ズームアウトしてクラスタをクリックすると、特定のエリア内のデバイスの種類と数が表示されます。[126 ページのクラスタアイコンによって共有される情報](#)をご参照ください。
- 異なるタイプのデバイスをスマートマップに追加します。カメラのほか、入力デバイスやマイク、MIP SDKで追加されたエレメントも使用できます。[340 ページのスマートマップ上のデバイスの追加、削除、編集](#)もご参照ください。
- ズーム機能が改善されました。クラスタをダブルクリックすると、グループ化されたデバイスにズームインできます。[129 ページのスマートマップ上でズームインおよびズームアウトを行う](#)もご参照ください。

セキュリティ：

- 基本ユーザーは、自主的に、または管理者に変更するよう指示された場合にパスワードを変更できます。[85 ページのパスワードの変更（基本認証のみ）](#)をご参照ください。

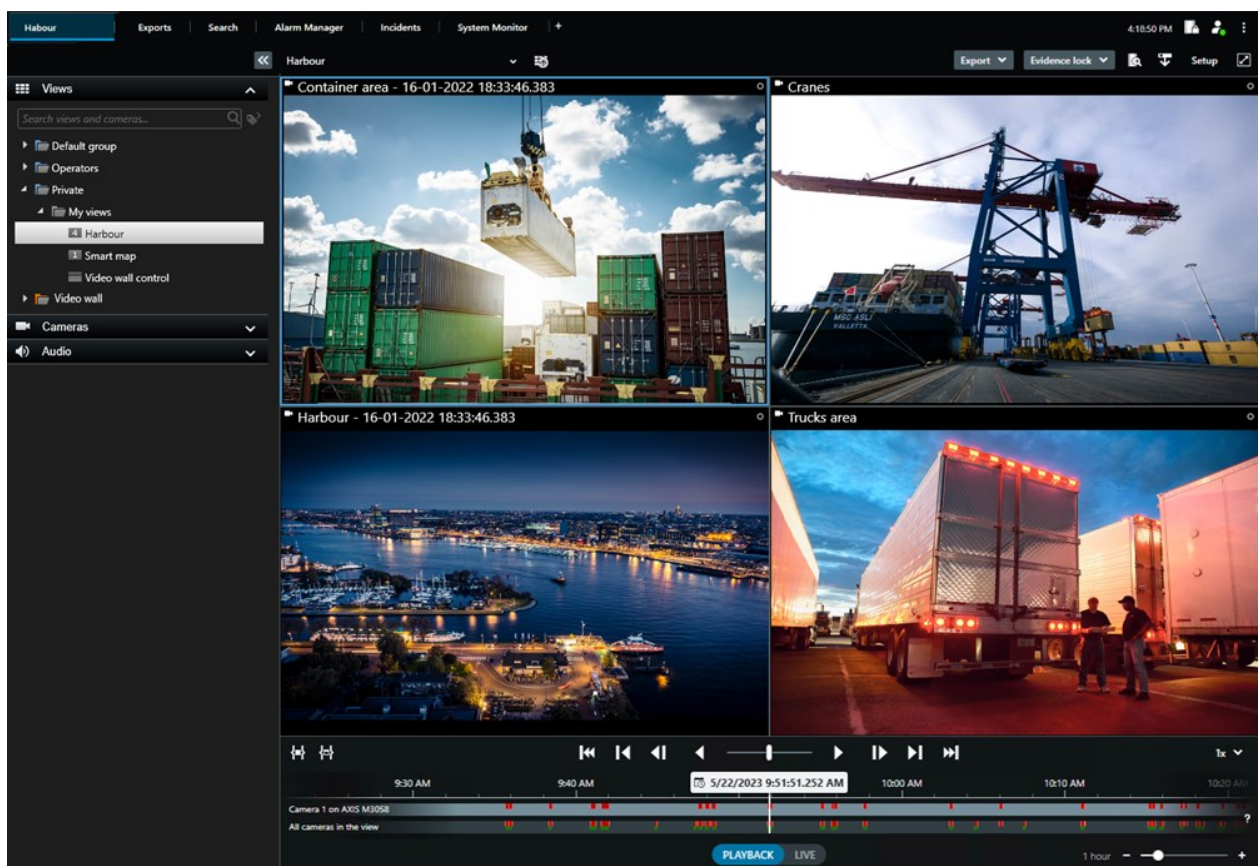
基礎

はじめに

XProtect Smart Clientとは？

XProtect Smart Clientは、XProtectVMSシステムに接続されたカメラやその他のデバイスのビデオを表示したり、音声を聞いたりするために設計されたデスクトップアプリケーションです。XProtect Smart Clientを通じて、ライブおよび録画されたビデオ、音声、メタデータにアクセスしたり、カメラやその他のコネクタデバイスを制御したりすることができます。高度な検索を実行して、サーバーに保存されているビデオデータや音声データ、サポートされているメタデータを見つけることができます。

XProtect Smart Clientは、複数の現地言語でご利用いただけます。適合性のあるユーザーインターフェースで、個々のユーザーのスキルに合わせて最適化され、特定のスキルや権限レベルに応じて調整できます。



XProtect VMS の重要な概念

使用可能な機能

利用可能な機能について

ログインして XProtect Smart Client を使用できるようになったからといって、ソフトウェアのすべての機能に自動的にアクセスできるわけではありません。

なぜですか？ XProtect Smart Client のどの機能を使用できるかは、以下に依存します。

- 組織が購入した XProtect VMS 製品
- 組織が購入した XProtect 拡張機能またはその他のサードパーティーソリューション
- システム管理者から付与されたユーザー権限
- システム管理者によって定義された XProtect Smart Client 設定、またはユーザー自身が定義した設定のデフォルト値

ユーザー権限

XProtect Smart Client には、多数の機能が含まれています。ユーザーが特定の機能にアクセスできるかどうかを制御するのは、XProtect VMS システムのシステム管理者です。

システム管理者が XProtect VMS システムでユーザーを作成する時、デフォルトではユーザーには権限はありません。

通常、機能に対するユーザー権限がない場合、その機能に関連するすべてのユーザーインターフェース要素は XProtect Smart Client で非表示になります。例えば、ビデオをエクスポートする権限がない場合、すべての **[エクスポート]** ボタンとデフォルトの **[エクスポート]** タブは非表示になります。

各ユーザーが XProtect Smart Client で表示、使用できる機能は、同じ組織内であっても大きく異なる場合があります。

例えば、以下の機能は管理者がお客様にユーザー権限を付与しない機能である場合があります。

- XProtect Smart Client へのログイン
- アラーム、ライブビデオ、または録画ビデオの表示
- ビデオの検索
- ビデオのエクスポート
- 設定モードへのアクセス
- 共有ビデオの作成
- 特定のカメラからのビデオの表示
- ブックマークまたはエビデンスロックの適用

ユーザー権限は、時刻、曜日、および複数の要因の組み合わせによっても異なります。例えば、月曜日から金曜日までの勤務時間中は、特定のカメラからのライブビデオのみを表示できますが、勤務中は、ビデオがいつ録画されたかに関係なく、カメラからすべての録画ビデオを確認することができます。

ビデオ制限機能を使用すると、調査員は特定のカメラからのビデオに対するユーザー権限を特定の期間、一時的に無効にすることができます。

組織の XProtect 製品と拡張機能

XProtect Smart Client で使用できる機能は、組織が購入した XProtect VMS 製品、XProtect 拡張機能、およびサードパーティーソリューションによっても異なります。

複数の XProtect VMS 製品があります。最上位の XProtect VMS 製品ではすべての機能が使用できますが、それ以外の XProtect VMS 製品で使用できる機能はそれより少なくなっています。

組織が最上位の XProtect VMS 製品を 1 つ購入すると、1 つ以上の XProtect 拡張機能が含まれます。拡張機能は、XProtect Smart Client に機能を追加します。同様に、XProtect Smart Client に機能を追加する他の XProtect 拡張機能やサードパーティーソリューションを購入している場合もあります。

興味がある場合は、システム管理者に問い合わせ、組織が所有している XProtect VMS 製品と拡張機能を確認してください。また、[製品比較チャート](#)を参照して、組織が購入した製品に含まれている機能一式を確認することもできます。

XProtect Smart Client 設定のデフォルト値

XProtect Smart Client は、さまざまな方法でカスタマイズできます。

XProtect Smart Client 設定では、XProtect Smart Client の動作の一部と使用可能な機能を変更できます。

システム管理者は、特定またはすべての設定のデフォルト値を設定したり、設定の責任をユーザーに委任したりする場合があります。特定の設定のデフォルト値を変更する権限がある場合もありますが、変更が許可されないこともあります。

設定はいつでも変更できますが、一部の設定を変更すると XProtect Smart Client の再起動が必要になる場合があります。

定義した設定は、コンピュータのローカルユーザーアカウントに保存されます。

XProtect Smart Client 設定の例をいくつか示します。

- ビデオの境界ボックスを表示／非表示にできます。
- メインタイムラインのタイムライン追跡の音声録音を表示／非表示にできます。
- スナップショットのデフォルトのパス。
- 前回のログインからビューを復元できます。

すべての XProtect Smart Client 設定は、以下で見つけることができます。

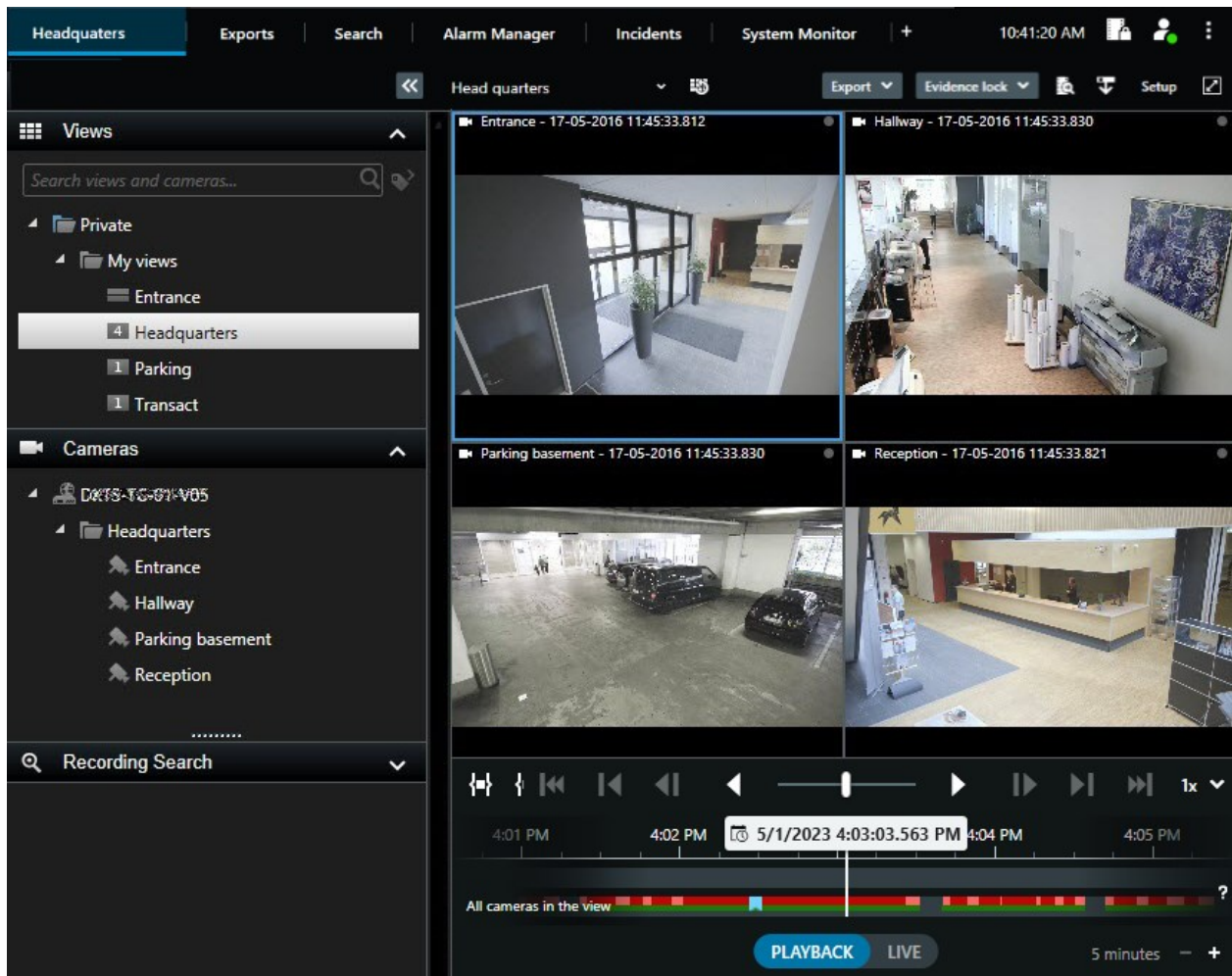
- グローバルツールバーで **[設定とその他]** メニュー、次に **[設定]** を選択します。

ビューとビューアイテム

XProtect Smart Client でビデオを表示するには、ライブモードまたは再生モードのビューを選択して切り替えます。

ビューはテーブルに似ています。XProtect Smart Client では、テーブル内のセルをビューアイテムと呼びます。ビューには、さまざまなコンテンツを表示するために、1~100 個のビューアイテムを含めることができます。

多くの場合、コンテンツはカメラからのビデオですが、マップ、Web ページ、静止画像、テキスト、ホットスポット、画面自動切替、Matrix などもあります。



必要な数のビューを作成し、同じカメラまたは他のコンテンツからのビデオを必要な数のビューとビューアイテムに追加できます。

魚眼カメラからデワープしたビデオを複数のビューアイテムに追加して、各ビューアイテムにビデオの異なる領域を表示できます。ライブビデオと録画ビデオの両方で、デジタルズームを使用してカメラビューアイテムのビデオ内を移動できます。

ビューには、共有ビューとプライベートビューがあります。

- 共有ビュー:複数のユーザーが利用できます。通常はシステム管理者またはスーパーバイザーによって作成されます。
- プライベートビュー:作成したユーザーのみが利用できます。

設定モードに切り替える権限がある場合は、プライベートビューを作成できます。プライベートビューは**プライベート**フォルダーに保存され、XProtect Smart Clientにログインすることで任意のコンピューターから利用できます。

また、デフォルトのペインから常に新しいコンテンツをドラッグして、既存のビューにアイテムを表示することもできます。ただし、ビューを編集する権限があり、最初から設定モードになっていない限り、変更は一時的なものにすぎません。

さまざまなエリアを網羅する、または特定の目的やタスクのために、カメラからのコンテンツやビデオを含むビューを作成することをお勧めします。例えば、すべてのカメラが網羅するビューは次のようになります。

- 建物 1 の受付エリア
- 駐車場 A
- 建物 1 のすべての廊下
- すべての建物のすべての入口
- 周辺エリア

ビューアイテムのコンテンツ

ビューアイテムには多くの場合、カメラからのビデオが含まれているため、何が起きているかを確認できますが、他の種類のコンテンツをビューアイテムに追加することもできます。

コンテンツの種類	目的とメリット
アラーム	優先順位を付けたアラームのリストを共有することで、XProtect Smart Clientユーザーはアラーム関連のインシデントに集中して対応することができます。
カメラ	カメラのライブビデオや録画ビデオを表示します。
画面自動切替	カメラグループ内の各カメラからのライブビデオを順番に表示するので、自分の地域で何が起きているかを把握できます。
ホットス	同じビュー内の他のビューアイテムでカメラを選択すると、ホットスポットビューアイテム

ポット	でより高画質でビデオを見ることができます。
マップとスマートマップ	地理マップを使用して、XProtectVMSシステム上のカメラおよびデバイスにアクセスできます。マップにより、ご自分の地域の状況認識が向上します。
Matrix	同僚同士が、インシデントの認識とコラボレーションを向上させるために、お互いにライブビデオストリームを送信することができます。
静止画像	例えば、容疑者のスナップショットや非常避難経路を共有します。
テキスト	例えば、メッセージの送信、指示の共有、警備員の勤務スケジュールをポストしたりします。
HTMLページ	リンクやオンライン指示を提供したり、会社のウェブページを表示します。

組織にXProtect拡張機能がある場合は、これらの拡張機能に関連するコンテンツを追加することもできます。

コンテンツの種類	目的とメリット
アクセスモニター	XProtect Access が必要です。例えば特定のドアのビューにアクセスモニターを追加できます。
ナンバープレート認識	XProtect LPR が必要です。ナンバープレート認識カメラをビューに追加します。
Smart Wallコントロール	XProtect Smart Wall が必要です。カメラや他のタイプのコンテンツからのビデオをビデオウォールにプッシュします。
Transact	XProtect Transact が必要です。PoS システムなどのメタデータをビューに追加することができます。

ライブモード、再生モード、設定モード

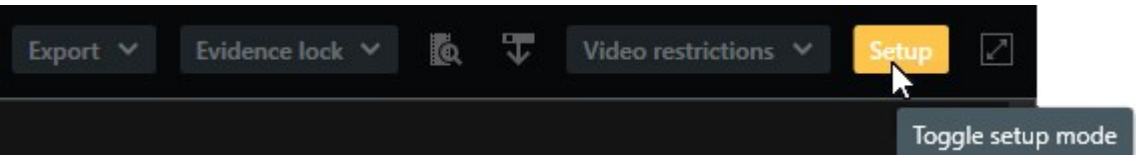
XProtect Smart Client には、以下の 3 つのモードがあります。

- ライブ
- 再生
- 設定

ライブモードおよび再生モードは、ライブおよび録画ビデオを表示するためのモードです。再生モードとライブモードは、メインタイムライン上の **PLAYBACK** **LIVE** スイッチで切り替えます。

プライベートビューと共有ビューは、設定モードで作成および編集できます。例えば、PTZ プリセット位置、PTZ パトロール設定、およびマップまたはスマートマップを設定することもできます。

設定モードを開始するには、ワークスペースツールバーの **[設定]** を選択します。



ルール

簡単に説明すると、ルールとはオペレータや調査員の業務を楽にするものです。

XProtect Smart Client の動作を定義するルールは、システム管理者が作成および定義します。

タスクと組織のニーズに見合ったルールを定義することが重要です。XProtect Smart Client のユーザーは、自分でルールを作成することはできませんが、新しいルールの必要性を最初に認識することはよくあります。

適切に定義されたルールは、重要な業務への集中、作業負担の軽減、状況認識の向上、応答時間の短縮、インシデント発生時の社内コミュニケーションの向上に役立ちます。

例えば、一部のルールでは、インシデントの発生時にイベントとアラームが自動的に生成されます。手動で有効化できるその他のルールとしては、カメラビューアイテム内のオーバーレイボタンなどがあります。

システム管理者は、さまざまな方法でルールを作成および定義できます。その例をいくつか示します。

ルールの例	ルールの動作の例	XProtect Smart Clientユーザーにとってのメリットの例

何かが起こったときに録画を開始し、何も起こっていないときに録画を停止する	例えば、XProtect VMS は、誰かがゲートを開く 30 秒前とゲートが再び閉じられた 30 秒後など、関連する録画のみを保存します。	録画ビデオの件数が少ないと、関連する録画を見つけやすくなります。
何かが発生したときにビューアイテムに表示されるビデオ画質を向上	XProtect VMS は、最も重要なインシデントのビデオを高画質で表示します。例えば、誰かがドアを開けると、ドアを監視するカメラからのビデオが、それ以外の場合よりも高画質でビューに表示されます。	これにより、誰が建物に立ち入っているかが特定しやすくなります。
何かが発生したときにイベントとアラームをトリガー	XProtect VMS は、特定のイベントが発生すると通知します。例えば、自動車がエリア内に進入してきたときなどです。 通知の方法はルールによって異なりますが、次のような方法が考えられます。 • XProtect Smart Client内：アラームリストのイベントとアラーム、マップ上の表示、ブックマークの配置など。 • XProtect Smart Client外：電子メール、テキストメッセージ、サイレンの作動など。	何かが発生すると、ユーザーとその同僚に通知されます。
PTZ カメラを一時的に特定の位置に移動し、何が起きているかをズームインし、指定した時間が経過したら PTZ カメラを元の位置に戻します。	XProtectVMS は、PTZ カメラを移動してインシデントが発生した領域をカバーし、詳細が見やすくなるようにズームインします。PTZ カメラが初期位置とズームレベルに戻ると、全体像が再び表示されます。 例： • ドアが開くと、通常は受付エリア全体を監視する PTZ カメラがわずかに動き、ドア付近の領域にズームします。 • PTZ カメラは 30 秒後に元の位置とズームレベルに戻ります。	最も関連性の高いビデオが表示されるため、ユーザーとその同僚はすばやく対応できます。
何かが発生したときに Matrix ビューアイテムでラ	XProtect VMS は、1 つ以上の共有ビューの Matrix コンテンツを含むビューアイテムに、インシデントを	ユーザーとその同僚は重大なインシデン

ライブビデオを共有	示すライブビデオを送信します。例えば、誰かがあなたのエリアの境界線に侵入したときなどです。	トを認識し、必要に応じて迅速に対応できます。
時間帯に応じてカメラの昼モードと夜モードを切り替える	XProtect VMS は、特定のカメラグループのカメラの昼／夜モードを切り替えて、最高画質のビデオを表示します。	最高画質のライブおよび録画ビデオをユーザーとその同僚に確実に提供します。

インシデント、イベント、アクション、アラーム

XProtect VMS について言及する際、インシデント、イベント、アクション、アラームは異なる意味を持ち、ルール内でそれぞれの役割を担っています。

用語	説明	シナリオ：
インシデント	インシデントとは、実世界で起こる出来事です。	誰かがドアを開ける。このシナリオでは、ドアを「Door1」と呼ぶことにします。
イベント	XProtect VMS において、イベントとは、インシデントを識別するためルールを定義するタイミングです。それによって、実世界のインシデントが XProtect VMS のイベントになります。 イベントのソースは、とりわけ、ビデオでとらえられたモーション、外部センサー、他のアプリケーションから受信したデータおよびユーザーによる入力となります。	Door1 に取付られたドアセンサーが、誰かがドアを開けたことを登録します。ルールは Door1Opened (Door1 が開いた) イベントとして登録されます。
アクション	アクションとは、XProtect VMS 内のルールが、イベントを使用して起こったことを XProtect VMS で起こったこととして定義するタイミングです。 アクションとしては、録画開始、PTZ カメラの動	ルールが Door1Opened イベントを登録すると、ルールは Door1 から近いカメラからの XProtect VMS による 2 分間の高画質ビデオ録画開始をトリガーします。

	き、カメラからのビデオの Matrix コンテンツとしての共有などが挙げられます。	
アラーム	アラームとは、XProtect VMS 内のルールが、イベントを使用して関係者に起こったインシデントを通知するタイミングです。 通知は出力デバイス、電子メール、テキストメッセージを通じて、またはその他の方法で行われます。	ルールが Door1Opened イベントをオフィスの営業時間外に登録すると、ルールはサイレンを作動し、セキュリティ責任者にテキストメッセージを送信します。

すべてのイベントとアラームは、XProtect Smart Client のアラームリストで確認できます。

ブックマーク、エビデンスロック、ビデオ制限

ビデオシーケンスには、ブックマーク、エビデンスロック、およびビデオ制限のタグを付けることができます。それぞれの機能タグのメリットは異なり、異なる目的に適用します。

ブックマーク

ブックマークを使用すると、ビデオシーケンスを社内外で共有しやすくなります。

- 社内では、タグ付けされたシーケンスに関する追加情報を追加したり、同僚と一緒に検索したりできるためです。これは、例えば、インシデントや調査の処理を支援することができることを意味します。
- 社外では、タグ付けされたビデオシーケンスを簡単にエクスポートすることができるためです。

エビデンスロック

エビデンスロックを使用してビデオシーケンスにタグを付けると、ブックマークと同じメリットがありますが、タグ付けされたビデオシーケンスが定義された期間削除されないように保護することもできます。

ビデオシーケンスを削除されないように保護することは、訴訟や重要な調査などにおいて重要なエビデンスを通常よりも長くこれらのシーケンスを保持する必要がある場合に役立ちます。

ビデオ制限

調査員は、ビデオシーケンスにビデオ制限タグを付けて、定義された期間中のビデオシーケンスへのアクセスを制限できます。ライブと録画ビデオの両方。

通常、調査員は、ビデオがプライバシー保護の対象である、重要なインシデントに関連している、またはその両方である場合に、ビデオ制限タグを適用します。

次に、ビデオへのアクセスを一時的に制限する理由の例を示します。

- インシデントの内容がメディアに漏えいしないようにするため。
- インシデントの調査と詳細を、数人の主要な調査員のみが知ることができるようにするため。
- 警察が安心して徹底的な捜査を行えるようにするため。
- ビデオに映った人物のプライバシーを保護するため。

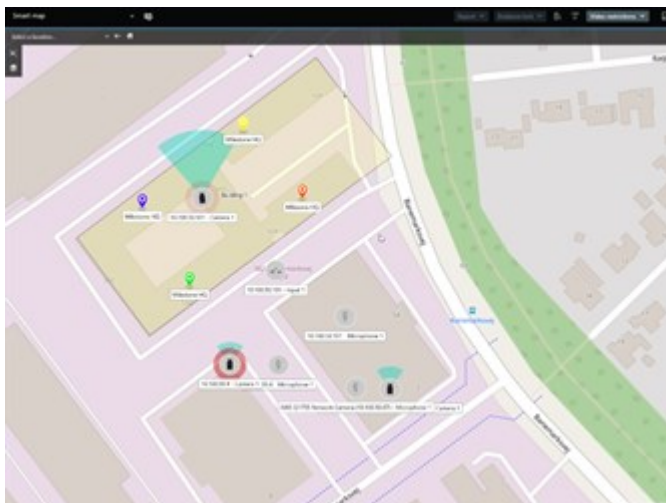
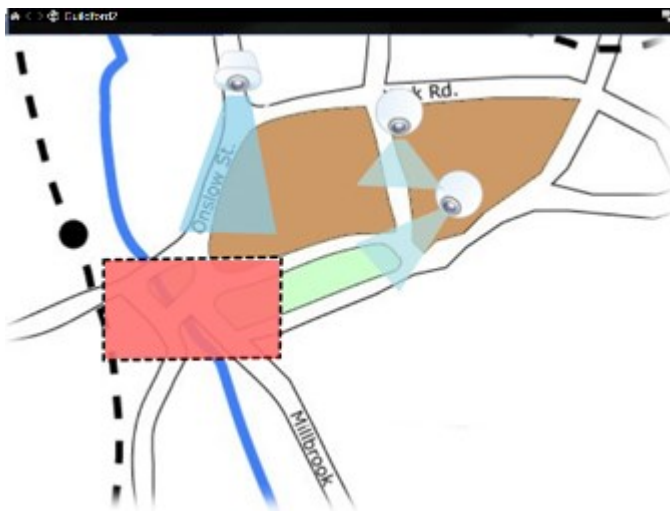
ビデオシーケンスにビデオ制限とエビデンスロックを同時に適用できます。

マップとスマートマップ

状況認識を向上させるために設計された2つのマップ機能があります。マップとスマートマップ。

両方の機能を使用することで、関心のあるエリアをパーチャルに再現できます。カメラやその他のデバイスが取り付けられているロケーションに、個々のカメラやその他のデバイスを示すアイコンを配置することができます。

マップとスマートマップの例はそれぞれ以下の通りです。



マップ上のカメラまたはデバイスを示すアイコンを選択して、カメラまたはデバイスと対話できます。ルールによりイベントが登録された場合、またはアラームがトリガーされた場合、関連するカメラまたはデバイスを示すアイコンが強調表示され、どこでインシデントが発生しているか特定しやすくなります。

スマートマップ機能は、マップ機能よりも高度です。マップ機能では、エリアや建物を視覚化するために静止画像のみ使用できます。

マップの場合はエリアや建物を仮想的に示すのに静止画像が使われますが、スマートマップの場合は、Google Map、BingMap、OpenstreetMapなどの地理情報システムを静止画像およびCAD図面と組み合わせることができます。この追加の機能により、1つまたは複数のロケーション全体でカメラのオーバービューがより正確なものになります。

バウンディングボックス

オブジェクトの位置を識別して XProtect VMS にメタデータを送信できるカメラまたは統合システムがある場合、XProtect VMS はビデオ内のオブジェクトの周囲に境界ボックスと呼ばれる視覚的なインジケータを配置できます。

境界ボックスは、組織や企業にとって重要なオブジェクトの場所を監視するのに役立ちます。

バウンディングボックスとは、XProtect Smart Clientのカメラの画像にあるオブジェクトを囲む長方形の境界です。ボックスのデフォルトの色は黄色ですが、システム管理者は別の色を選択することもできます。



設定モードに入ることができれば、個々のカメラのバウンディングボックスの表示／非表示を選択できます。設定モードに入れなくてもバウンディングボックスが表示される場合は、XProtect システム管理者がバウンディングボックスを有効にしています。

プライバシーマスク

システム管理者は、カメラの視野内の領域をぼかしたり隠したりすることで、個人住宅の窓などのプライベートまたは公共エリアを保護できます。XProtect Smart Clientでは、プライバシーマスクはライブ、再生、およびエクスポートに適用されます。

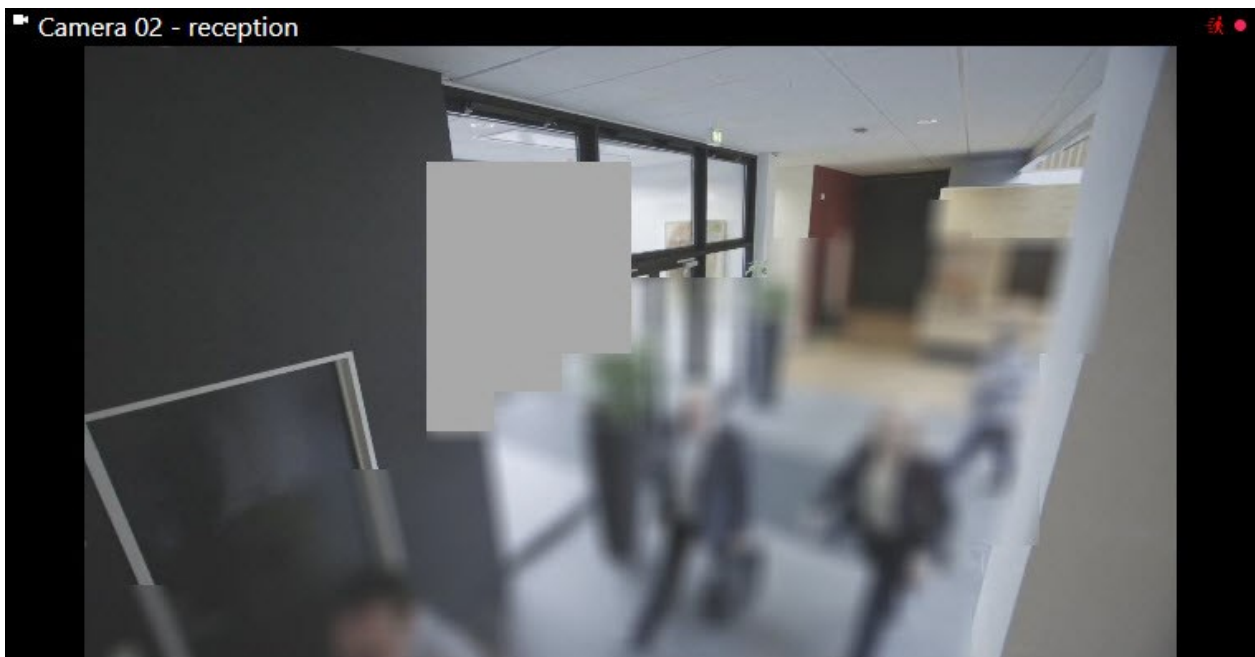
プライバシーマスクは、永続的または解除できるようにすることができます。永続的なマスクはデフォルトでは完全に塗りつぶされた状態で覆われますが、解除可能なマスクの場合は50%ぼかした状態になります。システム管理者は、いずれのタイプのプライバシーマスクをカメラに表示するかを定義します。

次の画像は、隣接する建物の5つの窓が永続的なプライバシーマスクで覆われていることを示しています。



システム管理者がプライバシーマスクを解除可能にすると定義し、適切なユーザー権限を持っている場合は、XProtect Smart Client ですべてのプライバシーマスクを一時的に解除することができます。

この例のプライバシーマスクは2種類のです。灰色の塗りつぶされた領域は永続的なプライバシー マスクで、ぼかされた領域は解除可能なプライバシーマスクです。



ビデオのエクスポート時に、エクスポートしたビデオにプライバシーマスクを追加できます。

アダプティブストリーミングとハードウェアアクセラレーション

XProtect Smart Client には、ビデオフィードを配信するネットワーク負荷を軽減し、コンピュータのデコーディング性能とパフォーマンスを向上するために使用できる2つの設定があります。

アダプティブストリーミングと再生

システム管理者は、複数のビデオストリームを録画できるよう、複数のビデオストリームを異なる解像度で XProtect Smart Client に送信する複数台のカメラを設定することができます。その場合、XProtect Smart Client でビューアイテムに表示するストリームの切り替えを定義でき、ビデオ画質と帯域幅の最適なバランスに保つことができます。

同じカメラから同じビューアイテムで複数のライブビデオストリームを表示するには、アダプティブストリーミングを使用します。アダプティブ再生も同様ですが、録画ビデオの再生にのみ使用します。これにより、ビューアイテムで要求されるストリームの解像度に最も近いビデオストリームが XProtect Smart Client によって自動的に選択されます。

ハードウェアアクセラレーション

ハードウェアアクセラレーションは、GPU リソースを使用して、XProtect Smart Client が稼働するコンピュータのデコーディング性能およびパフォーマンスを向上させます。ハードウェアアクセラレーションは、複数のビデオストリームを高速フレームレート、高解像度で視聴するのに役立ちます。



すべての GPU リソースをハードウェアアクセラレーションに使用することはできません。詳細については、スーパーバイザーまたはシステム管理者にお問い合わせください。

一般的なタスクを解決

ビデオの表示とビューの操作

XProtect Smart Client のユーザーにとって最も基本的なタスクには、次のようなものがあります。

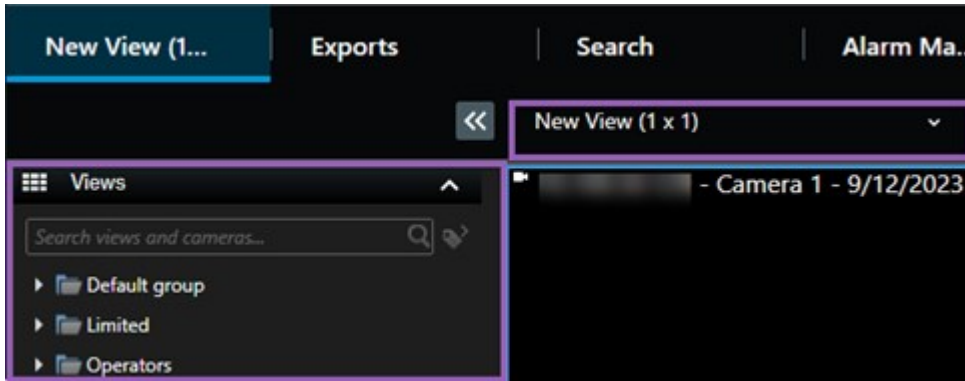
- カメラで撮影したビデオの表示
- マイクの音声を聞く
- XProtect VMS システムに追加されたデバイスから他のデータにアクセスする

これらのタスクを実行する方法をいくつかご紹介します。

ビューの選択

ビデオやその他のコンテンツを表示するには、さまざまなビューを選択します。音声があれば、聞くことができます。以下を実行してビューを選択します。

- ビューペインを選択します。
- ワークスペースツールバーのビュー選択リストを選択します。
- ビューにキーボードショートカットを割り当てている場合は、キーボードショートカットを使用します。



ビューアイテム、コンテンツ関連のメニュー、オーバーレイボタン

ビューでビューアイテムを選択すると、ビューアイテムのコンテンツに関連するメニューがビューアイテムの下部に表示されます。

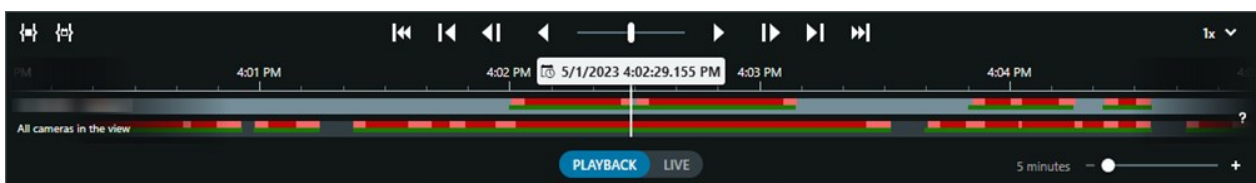


例えば、オーバーレイボタンを使用すると、ビデオのパンやズームにすばやくアクセスできます。

ビューアイテムのコンテンツの詳細を表示するには、ビューアイテムをダブルクリックして最大化します。

ビデオのナビゲート

メインタイムラインでは、ライブビデオと録画ビデオの表示を切り替えたり、録画ビデオ内を前後に移動することができます。ビデオやその他のコンテンツを検索することもできます。



複数のウィンドウとタブ

複数のビューから同時にビデオを表示するには、サブウィンドウにビューを送信します。開いているすべてのウィンドウに複数の表示タブを表示することもできます。

次回 XProtect Smart Client にログインしたときにすべてのウィンドウとタブを復元するには、それらを復元する設定を有効にしてください。

カメラをナビゲート

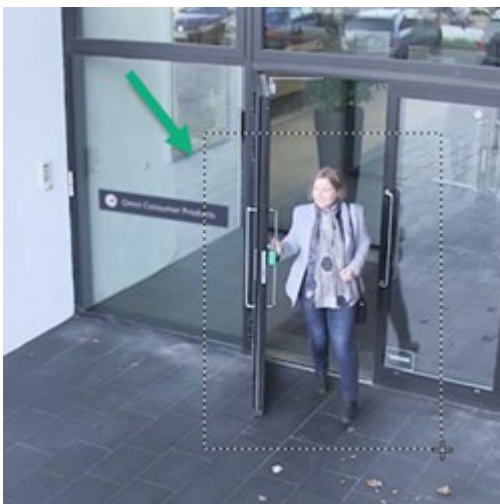
XProtect Smart Client には、ライブビデオや録画ビデオを表示したり、録画ビデオの時間の前後に移動したり、ビデオの詳細をズームインしたりする機能があります。

いくつかの要素に応じて、さまざまなナビゲーション機能を表示および使用できます。この機能には以下が含まれます。

- カメラのタイプ
- カメラの機能
- ライブモードまたは再生モードでビデオを表示している場合
- ユーザー権限

ズームインとズームアウト

ライブモードおよび再生モードでは、サポートされている任意のカメラのビデオをデジタルでズームイン、ズームアウトできます。



ライブビデオで光学ズームを使用できるのは、選択したカメラに可動カメラレンズが付いている場合だけです。光学的にズームインまたはズームアウトすると、録画内容にも影響します。

PTZ（パン/チルト/ズーム）

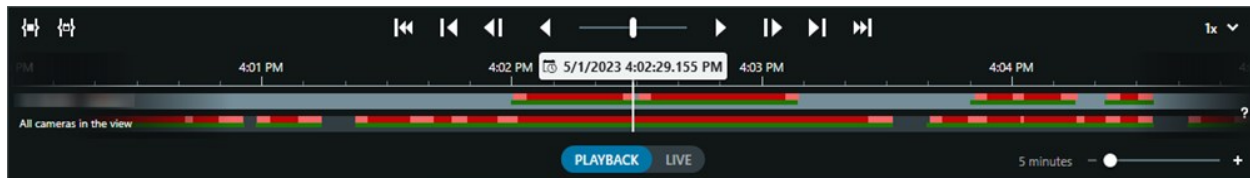
ライブモードおよび再生モードで、サポートされているカメラのビデオでデジタル PTZ を使用できます。

ライブビデオでは、PTZ カメラのビュー方向と焦点距離を物理的に移動（パン、チルト、ズーム）できます。PTZ カメラを動かすと、録画内容にも影響します。

魚眼カメラからデワープしたビデオを複数のビューアイテムに追加して、各ビューアイテムにビデオの異なる領域を表示できます。ライブビデオと録画ビデオの両方で、デジタルズームを使用してカメラビューアイテムのビデオ内を移動できます。

タイムナビゲーション

録画ビデオ内で時間を前後に移動できます。ビデオシーケンスを見つけるには、メインタイムラインのコントロール機能を使用して、ビュー内のすべてのカメラのビデオの時間を変更します。また、1つのカメラビューアイテムに表示されている録画ビデオ内で前後に移動することもできます。これを個別再生といいます。



パトロール

XProtect Smart Clientを使用すると、オフィスにいながら、異なる方向にPTZカメラの視野角を変えて異なるビューを選択し、保護対象の建物やエリアを手動でパトロールすることができます。

システム管理者がパトロールのルールを作成している場合は、パトロール用に設定された専用のビューとビューアイテムを使用できます。ルールベースのパトロールには、以下を含めることができます。

- PTZカメラの方向転換
- エリアへのカメラのズームイン
- 画面自動切替ビューアイテムでのカメラからのビデオフィードの表示（カメラグループ内の各カメラからの20秒のビデオなど）。

状況認識の向上

XProtect Smart Clientには、保護対象の建物やエリアで何が起きているかを容易に把握するための多くの機能が組み込まれています。

どの機能を使用できるかは、組織のXProtectVMS製品と利用可能な拡張機能、およびユーザー権限によって異なります。

XProtect Access

XProtect Accessでは、入退室管理システムと統合して、XProtect Smart Client内からエリアや建物への立ち入りが許可されるユーザーを制御できます。

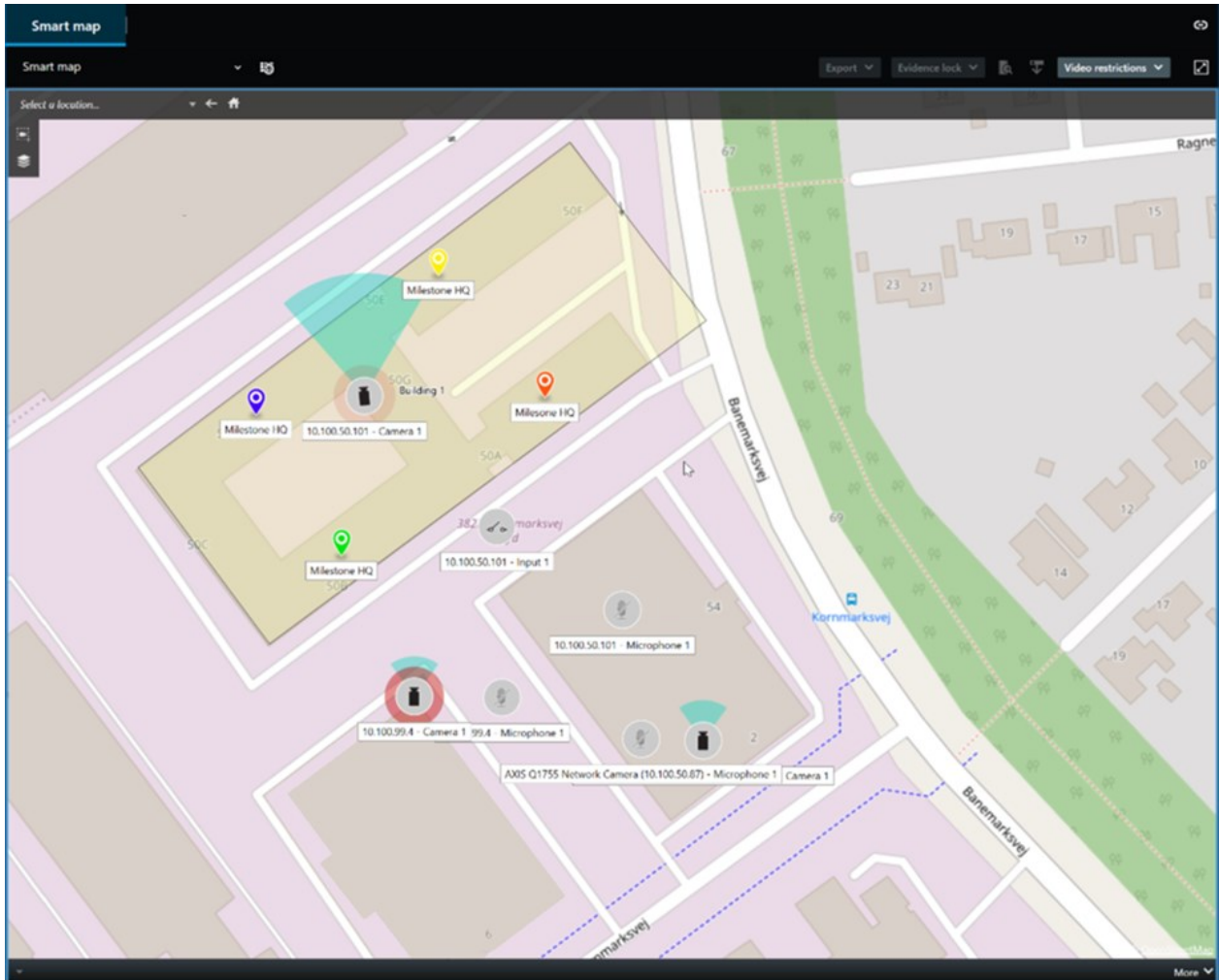
XProtect LPR

XProtect LPRは車両のナンバープレート情報を識別してキャプチャし、対応するビデオと組み合わせます。認識されたナンバープレートを定義済みリストと比較し、ルールを使用して自動アクションを開始できます。例えば、駐車券を発行したり、登録された車両がエリア内に進入できるようにゲートを開いたりします。

マップ

マップとスマートマップの2つのマップ機能を使用すると、保護対象のエリアと建物、およびXProtect VMS システムに追加されたカメラやその他のデバイスの位置を視覚化できます。

どちらのマップ機能でも、カメラまたはデバイスに関連付けられたイベントまたはアラームがルールによって生成されたときに、カメラまたはデバイスを強調表示できます。この動作により、インシデントが発生した場所が瞬時にわかり、状況に応じた迅速な対応が可能になります。



パトロール

XProtect Smart Clientを使用すると、オフィスにいながら、異なる方向にPTZカメラの視野角を変えて異なるビューを選択し、保護対象の建物やエリアを手動でパトロールすることができます。

システム管理者がパトロールのルールを作成している場合は、パトロール用に設定された専用のビューとビューアイテムを使用できます。ルールベースのパトロールには、以下を含めることができます。

- PTZ カメラの方向転換
- エリアへのカメラのズームイン
- 画面自動切替ビューアイテムでのカメラからのビデオフィードの表示（カメラグループ内の各カメラからの 20 秒のビデオなど）。

Matrix

このMatrix機能は、インシデントを発見したときにライブビデオストリームを共有するのに便利です。同僚とMatrixビューアイテムを含む共有ビューを通じて、ライブビデオストリームを送信し合うことができます。

システム管理者がルールを定義している場合は、イベントが発生したときにビデオの共有をトリガーすることもできます。

ホットスポット

ホットスポット機能は、ルールに基づいてインシデントのライブビデオを共有できる優れた状況認識機能です。

共有ビデオがホットスポットビューアイテムに表示されるタイミングは、システム管理者が定義したルールによって決まります。

Matrix 機能と比較すると、ホットスポット機能には、ホットスポットコンテンツを含むビューアイテムが他のビューアイテムのビデオよりも高画質でビデオを表示するように定義できるというメリットがあります。ホットスポットコンテンツにビューアイテムが大きいビューを選択すると、ユーザーとその同僚は共有ビデオで何が起きているかを明確に確認できます。

イベントおよびアラーム

ルールはイベントとアラームを生成します。この動作により、発生中のインシデントを認識できるようになり、インシデントによりすばやく対応できます。

ビデオを共有する

ビデオの共有について

コラボレーションは重要ですが、その性質上、容易ではありません。そのため、XProtect Smart Client には、組織内外の同僚や警備員とのコラボレーションを促進するいくつかの機能があります。

どの機能を共有するのが最適かは、ビデオを共有する相手、シナリオ、およびプリファレンスによって異なります。

組織内の同僚とビデオを共有

組織内の同僚とビデオを共有するには、次の機能が最適です。

XProtect Smart Wall

この XProtect Smart Wall 拡張機能は、特にビデオを共有したいという組織のニーズを満たすために設計されています。複数のオペレーターがいるコントロールセンターに最適です。

XProtect Incident Manager

XProtect Incident Managerのユーザーは、ビデオ以外にも、インシデントプロジェクトのすべてのインシデント情報を保存することができます。インシデントプロジェクトから、各インシデントのステータスとアクティビティを追跡することができます。このようにして、ユーザーはインシデントを効果的に管理し、内部的には同僚と、外部的には当局と強力なインシデントのエビデンスを簡単に共有できます。

Matrix

このMatrix機能は、インシデントを発見したときにライブビデオストリームを共有するのに便利です。同僚とMatrixビューアイテムを含む共有ビューを通じて、ライブビデオストリームを送信し合うことができます。

システム管理者がルールを定義している場合は、イベントが発生したときにビデオの共有をトリガーすることもできます。

ブックマーク、エビデンスロック、および検索

ブックマークとエビデンスロックを検索できます。検索は、メインタイムラインのさまざまなコントロールを使用するよりも高速で正確です。検索では、同じブックマークまたはエビデンスロックでタグ付けされたすべてのビデオシーケンスも検索されます。

共有とコラボレーションを向上させるために、検索をパブリック検索として保存できます。保存されたパブリック検索は、同僚がタグ付けされたビデオシーケンスを簡単に検索できるように使用できます。

Save as new search

Name
Main entrance - people entering

Description
Outer cameras

☐ Private search

Search filters included

Match any criterion

Time is saved as a relative timespan.
Last 2 hours

Save Cancel

マップとアラーム

マップとアラームは、状況認識とビデオ共有の両方の機能を備えています。ただし、ビデオを表示するには、マップ上のカメラの表示またはアラームリストのアラームを選択する必要があるため、ビデオの共有は間接的です。

マップ上のカメラが注意を必要とする何かが発生したことを示す、またはアラームリストにアラームを表示するなどの動作は、システム管理者が定義したルールによってトリガーされます。

組織外の警備員とのビデオ共有

組織外のユーザーとインシデントに関するビデオを共有するための最適な選択肢は、関連するビデオシーケンスでエクスポートすることです。

訴訟を起こす必要がある重大なインシデントの場合は、デジタル署名を使用してエクスポートして、エクスポートのコピーを自分で保存し、XProtectVMS システム内のすべてのビデオに対して定義された保存期間後も、そのビデオを使用できるようにします。XProtect VMS 製品がエビデンスロックをサポートしている場合は、インシデントを示すビデオにエビデンスロックを適用することもできます。

この XProtect Incident Manager 拡張機能は、ビデオを保存・エクスポートしたり、それぞれのインシデントのアクティビティについて文書付きのレポートを生成するという、組織のニーズを満たすよう設計されています。

調査および文書化インシデント

インシデントの調査と文書化

XProtect Smart Client には、インシデントの調査と文書化を容易にする多くのビルトイン機能があります。特にこれらの目的のために開発された XProtect 拡張機能もあります。

利用できる機能は、XProtect VMS 製品、利用可能な拡張機能、およびユーザー権限によって異なります。

最適な機能は、シナリオとプリファレンスによって異なります。

XProtect Rapid REVIEW

迅速な調査を可能にする XProtect 拡張機能。[72 ページのXProtect Rapid REVIEW](#)をご参照ください。

XProtect Incident Manager

エビデンスビデオをキャプチャし、インシデントを文書化および管理するために開発された XProtect 拡張機能。[70 ページのXProtect Incident Manager](#)をご参照ください。

ブックマーク、エビデンスロック、および検索

インシデントを示すビデオシーケンスには、ブックマークとエビデンスロックのタグを付けることができます。

ブックマークとエビデンスロックを検索できます。検索は、メインタイムラインのさまざまなコントロールを使用するよりも高速で正確です。検索では、同じブックマークまたはエビデンスロックでタグ付けされたすべてのビデオシーケンスも検索されます。

共有とコラボレーションを向上させるために、検索をパブリック検索として保存できます。保存されたパブリック検索は、同僚がタグ付けされたビデオシーケンスを簡単に検索できるように使用できます。

エビデンスロックを使用してビデオにタグを付けると、XProtect VMS システム内のすべてのビデオシーケンスに定義された保存期間が経過しても、タグ付きビデオシーケンスは削除されません。

イベント、アラーム、およびアラームリスト

ライブビデオを表示している場合は、アラームリストの新しいイベントとアラームに注目することをお勧めします。イベントとアラームは、調査が必要なインシデントによってトリガーされる場合があります。録画されたビデオのみを表示する場合は、毎日数回アラームリストを開いて、調査する必要があるインシデントが発生していないかどうかを確認します。

エクスポート

ビデオを XProtect VMS システムの外部に保存し、エクスポートしたビデオを他のユーザーと共有します。

シナリオ：ライブビデオを見ている時にインシデントに気づいた



このシナリオの例では、ビルトインの XProtect Smart Client 機能を使用してインシデントを調査および文書化する方法についてのみ説明します。

例えば、ライブビデオを見ている時、またはアラームがトリガーされたためにインシデントに気づいたとします。また、あなたはインシデントに対応するために現場に派遣されていないと仮定します。通常は次のようにします。

1. 現場の状況に対応する警備員を呼びます。
2. 関連するビデオシーケンスへのブックマークの適用をすぐに開始できるため、同僚とビデオを共有したり、検索によってビデオシーケンスを再度見つけたりすることが簡単にできます。
3. インシデントの経過を現場の警備員に継続的に知らせます。
4. インシデントが他のビューアイテムまたはビューに切り替えて新しいエリアに移動または拡大した場合は、その原因または結果を追跡し、これらのビデオシーケンスにもブックマークを追加します。

インシデントが収まったら、通常は次のようにします。

1. ブックマークを検索します。
2. ブックマークの開始時刻と終了時刻を調整して、インシデントが録画されたすべてのビデオシーケンスが含まれるようにします。
3. ブックマークしたビデオをドキュメントとしてエクスポートし、組織内外の関連するセキュリティ担当者と共有することができます。
4. エクスポートの代替（または追加）として、ビデオシーケンスにエビデンスロックを適用して、XProtectVMS システム内のすべてのビデオで定義した保存期間中はビデオシーケンスが削除されないようにすることができます。
5. 現場の警備員から、インシデントがどのようなものであったかについて証言を収集します。

シナリオ：発生後にインシデントに気づいた



このシナリオの例では、ビルトインの XProtect Smart Client 機能を使用してインシデントを調査および文書化する方法についてのみ説明します。

例えば、職場で、誰かが窓にペンキをかけて窓ガラスを破壊したとします。あなたは、前日に職場に出勤した時には、ペンキはついていなかったことを知っています。

このシナリオでは、通常、次のようにします。

1. 破壊された窓のある領域を録画しているカメラでビューを見つけます。
2. 再生モードでは、メインタイムラインの機能を使用して、前日の退社時刻からのビデオを検索します。インシデントによってトリガーされるアラームを設定している場合は、アラームのリストを確認することもできます。
3. 窓ガラスが割られた時の動画を見つけてブックマークします。また、エリアにどのように人物が入り出したかを確認する方法もあなたは知っています。エリアでのこの人物の挙動を示すビデオを見つけて、それもブックマークします。
4. ブックマークしたビデオをドキュメントとしてエクスポートし、組織内外の関連するセキュリティ担当者と共有することができます。
5. エクスポートの代替（または追加）として、ビデオシーケンスにエビデンスロックを適用して、XProtectVMS システム内のすべてのビデオで定義した保存期間中はビデオシーケンスが削除されないようにすることができます。

すべてのユーザーにXProtect Smart Clientを設定する。

XProtect VMS システムの大部分はシステム管理者が設定しますが、XProtect Smart ClientのスーパーバイザーがXProtect Smart Client のすべてのユーザーに対して設定する必要がある要素もあります。

設定モードですべてのXProtect Smart Client ユーザーの要素を設定できる場合は、以下の1つ以上を定義できます。

- 共有ビューの作成と編集
- ビューグループの作成
- ビューアイテムへのコンテンツ追加
- カメラ属性の定義
 - ビデオバッファリング
 - 画質
 - フレームレート
 - タイトルバー
- ビューアイテムに表示するカメラからのビデオストリームの定義（アダプティブストリーミング）
- 画面自動切替、ホットスポット、Matrixコンテンツとその動作の定義
- ショートカット番号のビューへの割り当て
- リンクとスクリプトを含む Web ページの作成
- マップの作成と編集
 - カメラやその他のデバイスのマップへの配置
- オーバーレイボタンの作成
- XProtect Smart Wallコントロールの定義

コンピュータのパフォーマンスの最適化

XProtect Smart Client 個人ユーザーのみが各自のコンピュータで設定できる XProtect Smart Client の要素がいくつかあります。

キーボードのショートカットキー

XProtect Smart Client では、タスクをすばやく完了するために役立つキーボードショートカットキーをいくつか定義できます。その例をいくつか示します。

- 新規タブを開く
- スナップショットの作成
- プライバシーマスクの除去／再適用
- すべてのサブウィンドウを閉じる
- 出力の有効化
- ズームイン／ズームアウト
- 特定のプリセット位置に移動
- メインタイムラインのさまざまな制御機能の有効化
- 特定のビューの選択

アダプティブストリーミングと再生

アダプティブストリーミング設定を有効にすると、ネットワーク経由でビデオストリームを送信するときのネットワーク負荷を軽減できます。

コンピュータで**アダプティブストリーミング**のステータスを確認するには、以下を実行します。

設定とその他メニューを開き、**[設定]**、**[詳細設定]** タブの順に選択して、コンピュータで**アダプティブストリーミング**設定が有効になっているかどうかを確認します。有効でない場合は、有効にしてください。



ライブビデオでアダプティブストリーミングを使用するには、システム管理者が、異なる解像度で少なくとも 2 つのライブビデオストリームを XProtect VMS システムに送信するようにカメラを設定する必要があります。アダプティブ再生を使用するには、異なる解像度の少なくとも 2 つのビデオストリームを録音します。また、XProtect Smart Client スーパーバイザーは複数のストリームを使用するビューを定義します。

ハードウェアアクセラレーション

ハードウェアアクセラレーション設定を有効にすると、コンピュータのデコード機能とパフォーマンスを向上させることができます。

XProtect Smart Client で**ハードウェアアクセラレーション**の設定を確認するには、以下を実行します。

[設定とその他] メニューを開き、**[設定]**、**[詳細設定]** タブの順に選択して、コンピューターでアダプティブストリーミング設定が有効になっているかどうかを確認します。有効でない場合は、有効にしてください。



ハードウェアアクセラレーションは GPU リソースを使用します。コンピューターに GPU リソースがない場合は、ハードウェアアクセラレーションを使用できません。



すべての GPU リソースをハードウェアアクセラレーションに使用することはできません。詳細については、スーパーバイザーまたはシステム管理者にお問い合わせください。

個人情報保護法の遵守

システム管理者は、XProtectVMS システムが各国の個人情報保護法に準拠していることを確認する必要があります。XProtect VMSシステムにどれくらいの期間ビデオを保存するか、ユーザーが正当なアクセス理由を持つビデオとデータだけを見ることができるようになっているか、個人住宅の窓を覆うためにプライバシーマスクを適用するか、などがその例として挙げられます。

ただし、XProtect Smart Client ユーザーは、組織がその国の個人情報保護法を準拠し続けるための役割を担います。

エクスポートされたコンテンツ

以下を確実に行ってください。

- エクスポートしたファイルを保護する。
 - エクスポート時に、エクスポートしたファイルをパスワードで保護することを選択する。
 - 権限のないユーザーがアクセスできないように、エクスポートしたファイルを安全に保管する。
- エクスポートしたコンテンツは、正当な目的を持つ個人または組織とのみ共有する。
- エクスポートしたコンテンツは、目的のために必要な期間のみ保持する。
- エクスポート中にビデオに追加のプライバシーマスクを適用して、エクスポートの受信者がビデオ内の無関係なエリアやプライベートなエリアを表示しないようにする。



XProtect形式でエクスポートする場合にのみ、追加のプライバシーマスクを適用する。

エビデンスロック

エビデンスロックでビデオとデータを保護できる期間は、システム管理者が定義します。

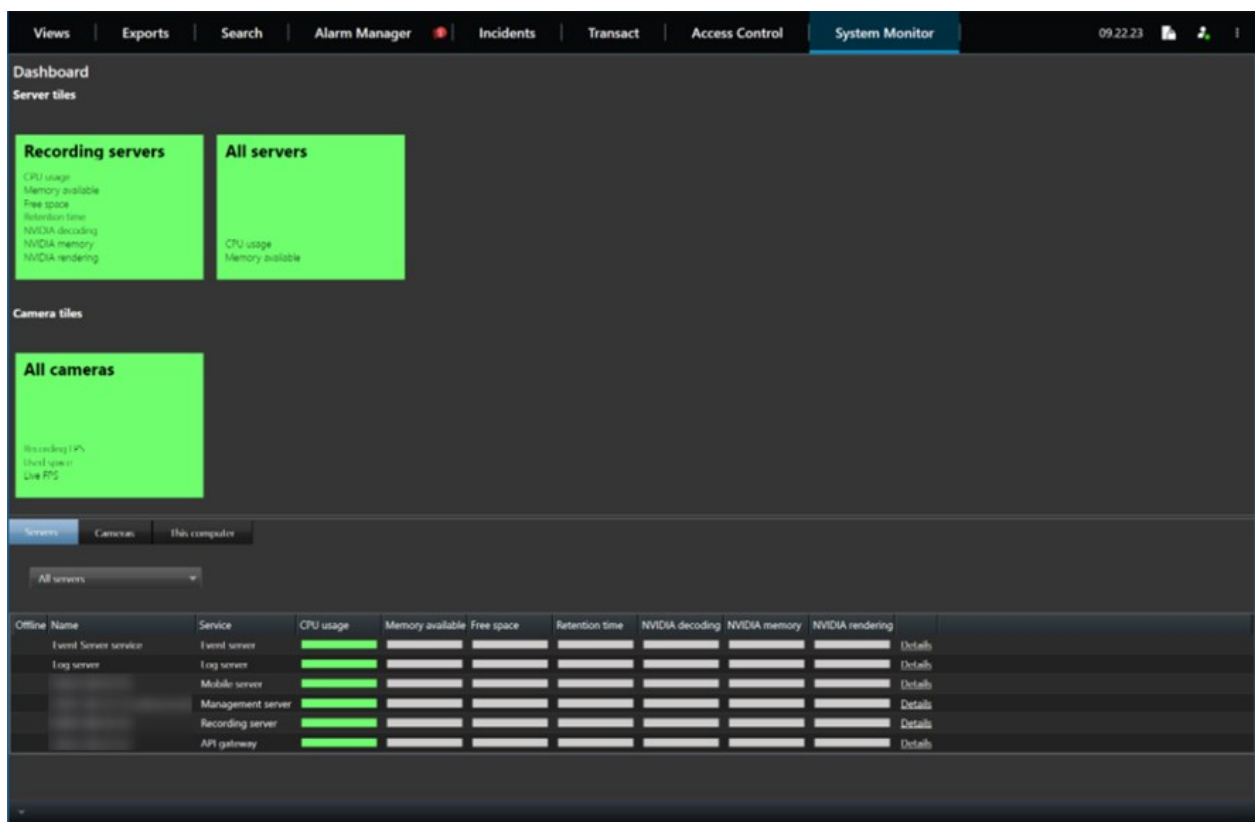
ただし、ユーザーは以下を確実に行う必要があります。

- ビデオまたはデータを保持する必要があると予測される期間に対応するエビデンスロック期間を選択する。
- エビデンスとして不要になった場合は、ビデオまたはデータからエビデンスロックを削除する。

システムの健全性を監視

XProtect VMS システム内のカメラやその他の要素が故障したことを迅速に知ることは、エリアや建物を中断なく保護するために不可欠です。

[システムモニター] タブには、すべての XProtect VMS システムエレメントの健全性を表示するダッシュボードがあります。ダッシュボードでは、たとえばカメラが動作しなくなったことにすぐに気づき、状況の是正を開始できます。また、コンポーネントが過負荷になっているかどうかを確認することもできます。例えば、レコーディングサーバーのいずれかがディスク容量またはメモリを使い果たしそうになっているかどうかを確認できます。



デフォルトで、すべての**レコーディングサーバー**、**すべてのサーバー**、**すべてのカメラ**を示すタイルが表示されます。これらのデフォルトのタイルの監視パラメーターをカスタマイズしたり、新しいパラメーターを作成したりできます。例えば、単一のサーバー、カメラ、カメラグループ、またはサーバグループを示すタイルを作成できます。

ユーザーインターフェイスを理解する

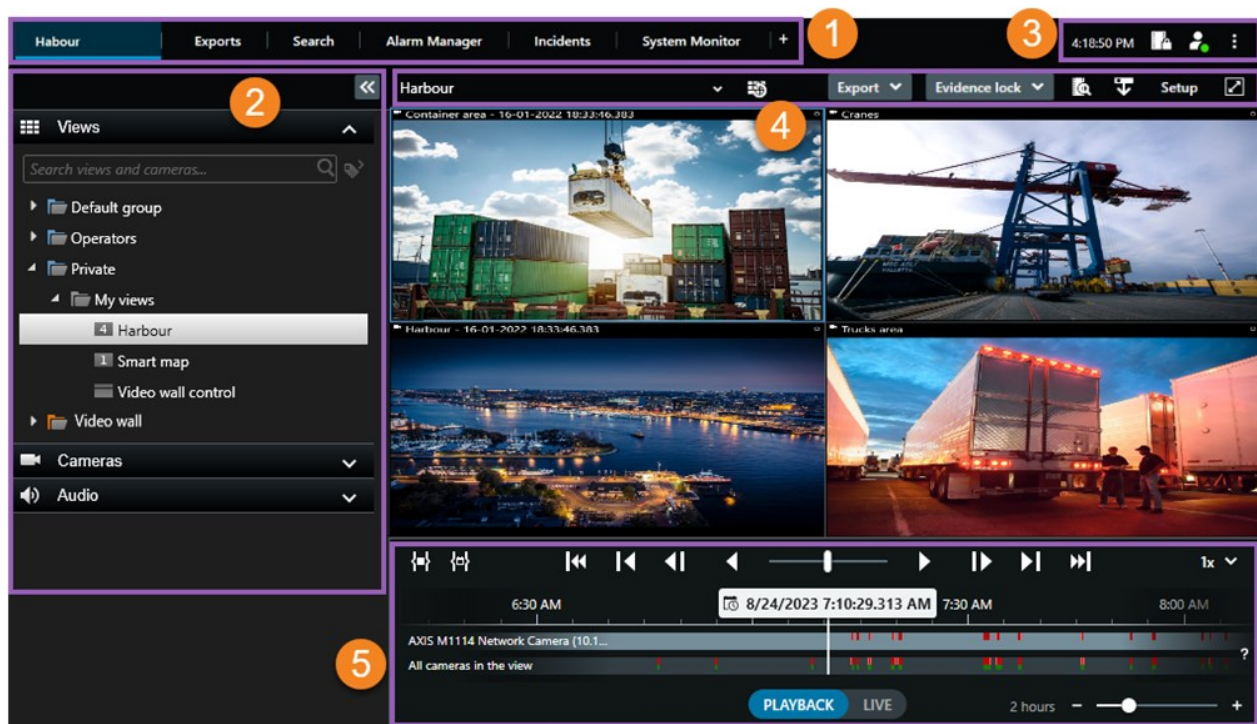
ユーザーインターフェイスの概要

XProtect Smart Clientは、XProtect VMS システムに接続されているカメラのビデオを管理して表示できるように設計されたデスクトップアプリケーションです。

弊社ドキュメント内のユーザーインターフェイス要素の配置に関する記述では、XProtect Smart Clientは左から右に読む言語のレイアウトで使用することを想定しています。[86 ページのXProtect Smart Client の言語の変更](#)もご参照ください。

XProtect Smart Client デスクトップアプリから、以下のようなワークスペースや機能にアクセスできます。

1. XProtect Smart Client の左上にある、[ビュー]、[エクスポート]、[検索]、[アラームマネージャー]、[システムモニター] などのデフォルトのタブ。[55 ページのデフォルトのタブ](#)をご参照ください。
2. デフォルトのタブの下にある、ビューとカメラを設定するデフォルトのペイン。[271 ページのセットアップモード](#)をご参照ください。
3. 右上にある、エビデンスロック リスト、ユーザープロファイル、設定とその他などにアクセスできるグローバルツールバー。[56 ページのグローバルツールバー](#)をご参照ください。
4. グローバルツールバーのすぐ下にある、エクスポート、エビデンスロック、設定にアクセスできるワークスペースツールバー。[58 ページのワークスペースのツールバー](#)をご参照ください。ワークスペースツールバーの機能は選択したタブにより変わります。
5. メインタイムライン。メインタイムラインは [表示] タブを選択した場合に使用できます。これはウィンドウの一番下にあります。[60 ページのメインタイムライン](#)をご参照ください。



デフォルトのタブ

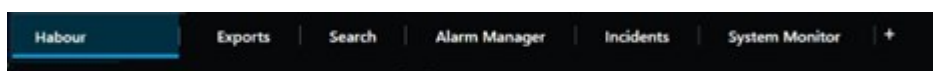
XProtect Smart Client には、日々のタスクに使用するデフォルトのタブ一式が含まれています。

いくつかのXProtect拡張機能には、その機能に特化したタブがあります。[68ページの拡張機能全般](#)をご参照ください。

一部のタブは MIP SDK でカスタマイズし、それぞれの組織の XProtect VMS システムに固有のものにできます。この文書では、MIP SDK に依存する機能については扱っていません。



デフォルトのタブの一部が表示されないのは、タブへのアクセスに必要な権限がないためです。



メイン表示タブ

XProtect Smart Client のメインウィンドウおよびサブウィンドウには、ビューを持つタブをいくつでも作成することができます。ビューのあるタブには、選択したビューの名前が付けられます。

ライブモードでは、ライブビデオフィードを表示し、音声、画面自動切替、ホットスポット、Matrix、スマートマップ、PTZ（パン/チルト/ズーム）コントロール、デジタルズーム、個別再生などの機能を使用できます。

再生モードでは、録画したビデオを再生して調査ができます。[メインタイムライン](#)は、録画ビデオを検索するための高度な機能を提供します。どのカメラやビューからでも検索を開始でき、見つけたものはエビデンスをエクスポートして文書化できます。エビデンスがデータベースから削除されないよう、録画ビデオにエビデンスロックをかけることができます。

さらに、以下が可能です。

- 選択した XProtect VMS システムに接続されている時に音声を聴く
- XProtect VMS 製品がスマートマップをサポートしている場合に、地理情報インターフェイスで XProtect VMS システムに追加されたカメラにアクセスする
- ホットスポット、デジタルズーム、画面自動切替のいずれかを使用して、魚眼レンズ画像をナビゲートしたり、画像を印刷する

ライブまたは再生モードから、カメラや他のタイプのコンテンツのビューを設定する設定モードに切り替える

エクスポートタブ

ビデオデータをエクスポートするには、関連するシーケンスを[エクスポートリスト](#)に追加します。次に、**開始時間**と**終了時間**を選択し、[エクスポートリスト](#)の各シーケンスのタイムスパンを変更できます。[228 ページのビデオ、音声、静止画像のエクスポート](#)もご参照ください。

エクスポートに使用するフォーマットを選択できます。またフォーマットごとに[エクスポートの設定](#)を変更できます。[239 ページのエクスポート設定](#)もご参照ください。

[**エクスポート**] ボタンを選択し、[**エクスポート名**] と [**エクスポート先**] を指定します。これで、エクスポートを作成できます。

[**エクスポートを作成**] ウィンドウと [**エクスポート先**] フィールドで指定したフォルダーにエクスポートが作成され、保存されます。[235 ページのエクスポートされたビデオの表示](#)も参照してください。

検索タブ

検索 タブでは、すべての録画を検索し、フィルターを適用して検索を絞り込むことができます。例えば、フィルターを使用して、特定のエリアでモーションが検知された車両、人物、または録画を見つけることができます。

検索結果に対して、複数のアクションを実行できます。[189 ページの検索結果から利用できるアクション](#)もご参照ください。

[アラームマネージャー] タブ

アラーム マネージャー タブで、アラームをトリガーしたインシデントや技術的問題を表示し、対応できます。このタブには、アラームリスト、アラーム プレビュー、および利用可能なマップが表示されます。

システムモニタータブ

システムモニター タブの色分けされたタイルは、XProtect Smart Client を実行している コンピュータ、システム サーバー、カメラ、および追加デバイスの現在のステータスの概要を提供します。

- 緑：**正常**ステータス。すべてが正常に動作しています。
- 黄色：**警告**ステータス。1 つ以上のモニターパラメータが**正常**ステータスの定義済みの値を超えています。
- 赤：**重大**ステータス。1 つ以上のモニターパラメータが、**正常**および**警告**ステータスとして定義された値を超えています。

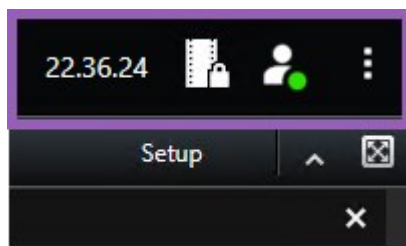
タイルの色が変わり、色が変わっているサーバーまたはパラメータを確認するには、対象のタイルを選択します。画面下部に概要が表示されます。ステータス変化の理由を表示するには、**[詳細]** ボタンを選択します。



タイルに警告記号が表示される場合は、監視対象のサーバーまたはカメラのいずれかの Data Collector Server が稼働していない可能性があります。タイルの上にマウスを置くと、該当するタイルで最後にデータ が収集された日時が表示されます。

グローバルツールバー

XProtect Smart Client の右上にあるグローバルツールバーから、XProtect Smart Client に関する情報や設定の変更方法にアクセスできます。これには以下が含まれます。



タイムゾーン

タイムゾーンを設定します。[373 ページのタイトルバーに現在の時刻を表示](#)をご参照ください。

エビデンスロックリストへのショートカット

エビデンスロックリストには、作成したエビデンスロックが表示されます。エビデンスロックのリストを並べ替え、絞り込み、検索し、各エビデンスロックに関する詳細を確認できます。[222 ページのエビデンスロックの表示](#)もご参照ください。

ユーザーメニュー

ユーザーメニューでは、**ログイン情報**を表示したり、XProtect Smart Client からログアウトできます。[81 ページのログイン](#)をご参照ください。**ログイン情報**には、XProtectが接続されている XProtect Smart Client VMS サーバーのステータスに関する情報が含まれています。



ユーザーメニュー



の赤い丸は、複数のサーバーが利用不可であることを示します。

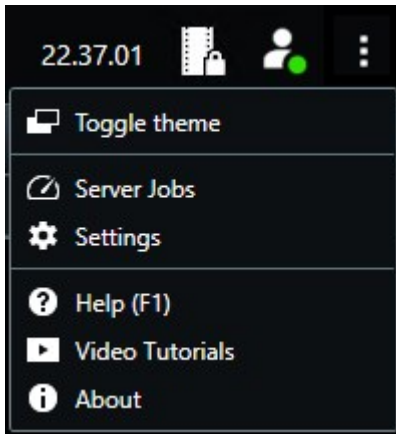
ログイン情報を選択して、サーバーのステータスを表示します。

- 使用可能なサーバーは、緑色で表示されます。
- 使用できないサーバーは、赤で表示されます。ログイン時にサーバーが使用できない場合、サーバーに接続しているカメラまたは機能も使用できなくなります。ステータスを表示すると、サーバーがまだ使用不可の場合でも、ボタンの赤い点滅が停止します。

表示されるサーバー数は、ログイン時に XProtect VMS システムから取得できるサーバー数を反映しています。特に、大きな階層構造を持つサーバーと接続している場合には、ログイン後、より多くのサーバーが利用可能になります。サーバーのリストは、サーバーステータスの静的表示です。サーバーが使用できない場合、選択すると **[ステータス]** フィールドに理由が表示されます。サーバーに接続するには、**[サーバーをロードする]** を選択します。そのサーバーのステータスが更新されます。サーバーが長時間使用できない場合は、システム管理者に連絡して助言を求めてください。

設定とその他ウィンドウ

設定とその他ウィンドウは、以下の機能を網羅します。



- **テーマの切り替え**—XProtect Smart Clientテーマの明暗を切り替えることができます。
- **サーバージョブ**—相互接続されたハードウェアデバイスまたはエッジストレージをサポートするカメラからデータを取得するためのユーザー権限に応じて、これらのデバイスの各データ取得リクエストに対して作成されたサーバーのジョブを閲覧できます。[213ページのすべてのエッジ取得ジョブを表示する](#)をご参照ください。
- **設定**—XProtect Smart Clientの設定と動作、ジョイスティック、キーボードショートカット、言語などを設定します。[372ページの\[設定\] ウィンドウが表示されます。](#) もご参照ください。
- **ヘルプ**—ヘルプシステムにアクセスし、オンラインビデオチュートリアルを再生したり、バージョン番号とプラグイン情報を表示したりできます。
- **ビデオチュートリアル**—Milestone Learning Portalを開きます。
- **バージョン情報**—最新の XProtect Smart Client プラグインやバージョンに関する情報。

ワークスペースのツールバー

XProtect Smart Client のワークスペースのツールバーから、日々の業務に役立ついくつかの重要な機能にアクセスできます。これらの機能には以下が含まれます。

機能	説明
ビューを選択	左側の ビュー ペインへのショートカット。
ビューを再読み込み	元のビューを復元するには、 [ビューを再読み込み] を選択します。

機能	説明
エクスポート	エビデンスビデオをエクスポートします。 228 ページのビデオ、音声、静止画像のエクスポート もご参照ください。
エビデンスロック	エビデンスロックを作成すると、エビデンスが削除されるのを防ぐことができます。 220 ページのエビデンスロックの作成 もご参照ください。 ビデオシーケンスのエビデンスロックを表示します。 222 ページのエビデンスロックの表示 もご参照ください。
データを取得	接続されているハードウェアデバイスまたはエッジストレージに対応するカメラから録画を取得します。
設定	設定モードに入ります。 271 ページのセットアップモード もご参照ください。
全画面表示モード切替 	全画面表示と、希望するサイズに調整できる小さいウィンドウの間で表示を切り替えられます。
プライバシーマスクを除去	適切なユーザー権限があるユーザーは、一時的にプライバシーマスクを外せます。 120 ページのプライバシーマスクの除去と再適用 もご参照ください。

タイムライン

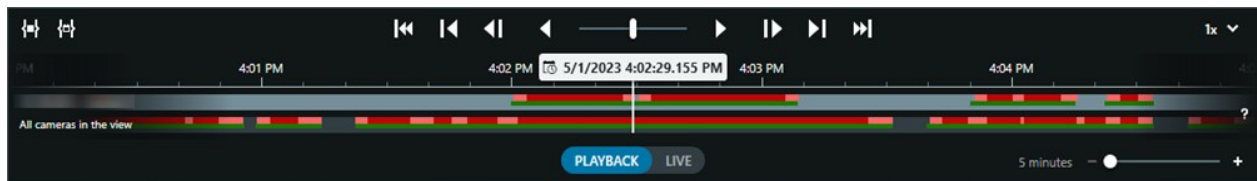
複数のタイムライン

XProtect Smart Client には、録画内での前後の移動に使用できるタイムラインがいくつかあります。

メインタイムラインの内容が最も豊富になっていますが、特定の状況では、内容はそれほど豊富ではないものの、他のタイムラインも使用できます。

タイムラインの表示は若干異なる場合がありますが、多くの共通点があります。

メインタイムライン

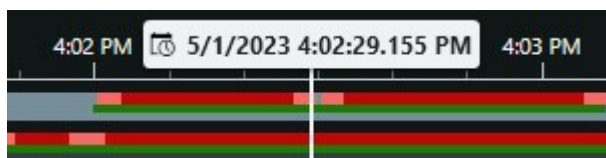


メインタイムラインには、現在のビューにあるカメラとその他のデバイスからの録画期間の概要が表示されます。メインタイムラインは表示タブから利用可能です。調査中に録画を操作したり、エクスポートする録画シーケンス、エビデンスロックによる保護、ブックマークの追加などを選択するために使用できるさまざまなコントロールがあります。

表示タブを選択し、再生モードに切り替えると、すべてのタイムライン コントロールが表示されます。

タイムラインの見え方や挙動は調整できます。タイムライン追跡で、どの録画タイプやその他の要素を表示するかを選択します。例えば、録音音声とブックマークを表示したい場合、録画間のギャップをどのように再生するかも選択できます。また、非アクティブ時にメインタイムラインを非表示にすると、XProtect Smart Client でビデオを閲覧するためにディスプレイの大部分を解放できます。[104 ページのタイムラインの構成オプション](#)をご参照ください。

タイムライン追跡



- 上部のタイムライン追跡には、選択したカメラの録画期間が表示されます。
- 下部のタイムライン追跡には、選択したカメラを含む、ビューにあるすべてのカメラが表示されます。

メインウィンドウと時間的に同期しているサブウィンドウがある場合、これらのウィンドウ内のカメラやデバイスからの録画も下のタイムライン追跡に表示されます。

色の凡例

タイムライン追跡では、異なるタイプの録画は異なる色で表示されます。知っておくべき最も重要な色は、以下の通りです。

- 明るい赤は録画を示します
- 赤はモーション付きの録画を示します
- ライトグリーンは発信音声付きの録画を示します
- グリーンは受信音声を示します

現在表示されているタイムライン追跡のすべての色の凡例を表示するには、タイムライン追跡の右側にある **[カラーコード凡例]**  を選択します。



ブックマーク

タイムライン追跡では、ブックマークは青いブックマークアイコン  で表示されます。ブックマークされたビデオを再生するには、マウスをアイコンの上に置きます。

追加マーカ

XProtect VMS システムで追加のデータソースを利用できる場合、これらのソースからのインシデントはマーカとして青以外の色で表示されます。インシデントはタイムライン追跡のポップアップとして開きます。



縦線

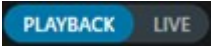
縦線は、録画が現在再生されている位置から見た再生ヘッドの位置を示します。これはメイン再生時間と呼ばれます。上のテキストは現在再生されているビデオの正確な日時を示しています。メイン再生時間は、一部のカメラからの個別の再生を表示している場合以外は、ビュー内のすべてのカメラおよび同期されているビューに適用されます。メイン再生時間に一致するビューに 1 台以上のカメラの録画ビデオがない場合、メイン再生時間前のカメラデータベースからの最後のフレームが表示されますが、フレームはグレースアウトします。

タイムラインからの録画の操作

メインタイムラインコントロールを使用することで録画内を移動できます。

- タイムライン追跡を左または右にドラッグします。ゆっくり移動する場合は、CTRLキーを押しながらドラッグします。
- タイムラインコントロール、マウスのスクロールホイールを使用するか、再生ヘッド上の日付を選択して、特定の時間に移動します。

タイムライン コントロール

コントロール	説明
	再生モードまたはライブモードに切り替えます。
	ビデオ内を異なる速度で前後に移動します。横にコントロールをドラッグするにつれて、再生速度は速くなります。
	時間内で逆再生  または順再生  します。再生ボ

コントロール	説明
	タンの 1つを 選択す ると、 ボタン は一時 停止ボ タン  に変わ りま す。
	現在表 示され ている フレー ムのす ぐ前  または 後  のフ レーム に移動 しま す。
	前の シーケ ンス  の開 始、ま

コントロール	説明
	たは次のシーケンス  へ移動します。
	データベース内の最初のシーケンス  、または最後のシーケンス  へ移動します。
	エクスポート、エビデンスロックの作成またはその他の操作のために録

コントロール	説明
	画期間を選択する方法は、2通りあります。 タイムラインで開始/終了時間を選択  : 選択すると、タイムラインとビューが選択モードに切り替わります。どのビューアイテムを含めるかを選択し、タイムライン追跡上の時間選

コントロール	説明
	括弧 ケット をド ラッグ して、 選択し たいビ デオ シーケ ンスの 開始時 間と終 了時間 を変更 しま す。 カレンダーで 開始/ 終了時 間を選 択  : 選択し て、カ レン ダーか ら開始 日時と 終了日 時を指 定しま す。タ イムラ イン追 跡は選

コントロール	説明
	択した開始時間にジャンプし、選択済みの期間は時間選択ブラケットで囲まれます。
	再生速度を変更します。
	タイムライン追跡のタイムスパンを指定します。または、Ctrl + マウスのスクロールも使用できます。

コンテキスト固有タイムライン

特定の状況において、調査や操作に役立ついくつかのタイムラインがあります。

これらのコンテキスト固有タイムラインには、多くの場合、タイムライン追跡は 1 つしかありません。また、メインタイムラインで利用できるコントロールはほとんどありません。しかし、タイムライン コントロールがある場合は、メインのタイムラインのものと同じように機能します。

タイムライン	場所	目的	詳細
個別再生	すべての表示タブ	ライブビデオ閲覧中に、ビューのカメラの 1 台から録画を表示したり、前後移動ができます。	176 ページの録画したビデオをメインのタイムラインとは別に表示
ブックマーク	すべての表示タブ	録画のシーケンスにブックマークがある場合、そのシーケンスを簡単に見つけ、開くことができます。	214 ページのブックマークウィンドウ
検索	検索 タブ	検索 タブで検索をすると、タイムライン検索で一致する録画の概要がわかります。見つけたさまざまな録画を選択して表示できます。	188 ページの検索タブでタイムラインを検索
エクスポート	エクスポート タブ	エクスポートする録画を選択した場合、選択済みの録画内を前後に移動し、エクスポートの開始時間と終了時間を変更できます。	228 ページのエビデンスビデオのエクスポート

拡張機能

拡張機能全般

Milestone はさまざまな拡張機能を開発してきました。拡張機能とは、XProtectVMS製品の機能を拡張し、さらに特殊な機能を追加した製品のことです。

XProtect はオープンプラットフォームであるため、サードパーティーの拡張機能を XProtect VMS システムに統合し、XProtect Smart Client に機能を追加することもできます。



使用可能な機能は、使用しているシステムによって異なります。すべての機能に関するリストをご確認ください。リストは、Milestoneウェブサイト (<https://www.milestonesys.com/products/software/xprotect-comparison/>) の製品概要ページにあります。

XProtect Smart Client では、拡張機能へのアクセスは、ユーザー権限にも依存します。

XProtect Access

XProtect Access では、1 つ以上の入退室管理システムのイベントが XProtect ビデオ管理ソフトウェアの機能に統合されます。XProtect Access 向けのベンダー固有のプラグインを提供するベンダーの入退室管理システムで、XProtect Access を使用することができます。



XProtectSmartClientに**入退室管理**タブがあれば、XProtectAccess拡張機能にアクセスできます。



入退室管理システムにより登録されたインシデントにより、XProtect VMS システムでイベントが生成されます。

- ライブモードでは、ドアに関連付けられたカメラでリアルタイムで入退室管理イベントをモニターできます。設定モードでは、オーバーレイボタンを使用して、**アクセスモニター**のビューアイテムをカスタマイズできます。マップビューアイテムでは、入退室管理ユニットをマップにドラッグできます。
- **入退室管理**タブでは、イベント、ドアのステータス、またはカードホルダーを表示および調査できます。イベントを検索またはフィルターして、関連する映像を表示できます。イベントのレポートを作成し、エクスポートできます。
- システムであらかじめ設定されている場合、ユーザーがアクセスをリクエストすると、カメラフィードの横に関連情報のリストとともに、別に通知ポップアップが表示されます。ドアのロックおよびロック解除などの入退室管理コマンドをトリガーできます。使用可能なコマンドはシステム設定により異なります。

XProtect Hospital Assist

XProtectHospitalAssistは、24時間365日、または経過観察が必要な患者を看護する病棟専用に設計されています。

この XProtect VMS 拡張機能は、患者を遠隔監視するための専用ソリューションで、医療機関で以下を実現します。

- スタッフの効率の向上
- インシデントへの迅速な対応
- 高品質な患者ケアの提供



XProtect Hospital Assist 機能へのアクセス権限がある場合は、付箋を追加したり、カメラ位置からぼかし加工を有効にできます。人の転倒が検出された時に、**アラームマネージャー** ウィンドウから通知を受け取ることができます。

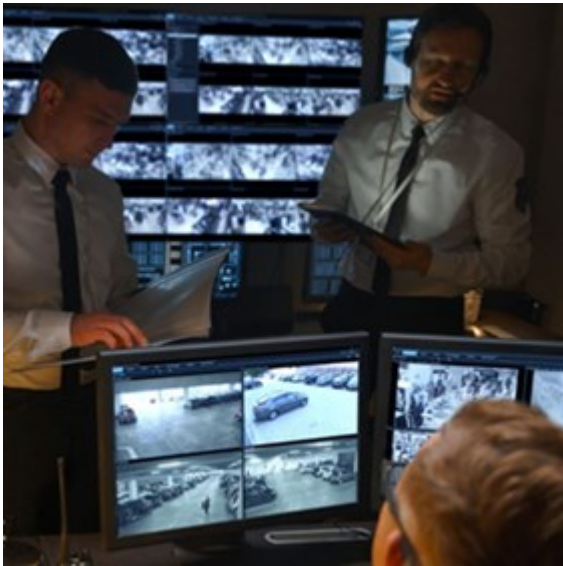


XProtect Incident Manager

XProtect Incident Manager は、組織がインシデントを文書化したり、XProtect VMS からのシーケンスエビデンス（ビデオ、音声の場合もあり）と組み合わせることを可能にする拡張機能です。



XProtect Incident Manager で XProtect Smart Client の機能にアクセスできる場合、**[MIP プラグイン]** ペインでインシデントプロジェクトを開始し、**[インシデント]** タブで既存のインシデントプロジェクトを確認することができます。**[インシデント]** タブが存在するだけでは、XProtect Incident Manager 拡張機能が提供する機能にアクセスできるとは限りません。



XProtect Incident Managerのユーザーは、ビデオ以外にも、インシデントプロジェクトのすべてのインシデント情報を保存することができます。インシデントプロジェクトから、各インシデントのステータスとアクティビティを追跡することができます。このようにして、ユーザーはインシデントを効果的に管理し、内部的には同僚と、外部的には当局と強力なインシデントのエビデンスを簡単に共有できます。

XProtect Incident Manager は、調査対象の場所で起きているインシデントを概観および理解するのに役立ちます。この知識により、組織は同様のインシデントが今後発生する可能性を最小限に抑えるための手順を実装できます。

XProtect Management Client では、組織の XProtect VMS のシステム管理者は、XProtect Incident Manager で使用可能なインシデントプロパティを組織のニーズに合わせて定義することができます。XProtect Smart Client のオペレータはインシデントプロジェクトを開始、保存、管理し、インシデントプロジェクトにさまざまな情報を追加することができます。これには、フリーテキスト、システム管理者が定義したインシデントプロパティ、および XProtect VMSからのシーケンスが含まれます。完全なトレーサビリティを実現するために、XProtect VMSは、システム管理者がインシデントプロパティを定義および編集するとき、およびオペレータがインシデントプロジェクトを作成および更新するときにログを記録します。

この XProtect Incident Manager の拡張機能は以下と互換性があります。

- XProtect Corporate バージョン2022 R2 以降
- XProtect Expert、XProtect Professional+、およびXProtect Express+ バージョン2022 R3 以降
- XProtect Smart Client バージョン2022 R2 以降

XProtect LPR

カメラのビデオフィードからナンバープレートを認識するために設計された Milestone 拡張機能。



XProtect Smart Client に**ナンバープレート認識**のタブがあれば、XProtect LPR 拡張機能にアクセスできます。



[ナンバープレート認識] タブでは、すべてのナンバープレート認識カメラからのナンバープレート認識イベントを調査し、関連付けられたビデオ録画とナンバープレート認識データを表示します。ナンバープレート一致リストを最新の状態に保ち、レポートを作成します。

このタブには、ナンバープレート認識イベントリストとナンバープレート認識カメラプレビューが含まれています。プレビューでは、ナンバープレート認識イベントの詳細に関するビデオを見ることができます。プレビューの下に、ナンバープレートに関する情報が、ナンバープレート一致リストの詳細と関連付けられているナンバープレートスタイルとともに表示されます。

イベントリストには、期間、国モジュール、ナンバープレート認識カメラ、ナンバープレート一致リストまたはナンバープレートスタイルでフィルターをかけることができます。**[登録番号の検索]** フィールドを使用して、特定のナンバープレート登録番号を検索することができます。デフォルトで、このリストには直近 1 時間のナンバープレート認識イベントが表示されます。

関連するイベントを PDF 形式で指定し、エクスポートすることができます。

ナンバープレート一致リスト機能を使用すると、既存のナンバープレート一致リストを更新できます。

XProtect Rapid REVIEW

調査の迅速化のために設計された Milestone 拡張機能。



XProtect Smart Client に**Rapid REVIEW**のタブがあれば、XProtect Rapid REVIEW 拡張機能にアクセスできます。



XProtect Rapid REVIEW 拡張機能の機能により、以下が可能になりました。

- VIDEO SYNOPSIS® で数時間のビデオを数分でレビュー
- 以下をベースにした堅牢な複数カメラ検索機能で、対象物を瞬時に見つけます。
 - 顔認識
 - 外見の類似性
 - 色と大きさ
 - 速度、経路、方向、滞留時間
- 調査に関するすべてのビデオ資産を迅速かつ効果的に整理
- 活動レベル、滞留時間、共通経路、背景の変化を迅速に可視化

XProtect Smart Wall

XProtect Smart Wall は、組織特有のセキュリティ要件を満たすビデオウォールを作成することを可能にする、高度な拡張機能です。XProtect Smart Wall は、XProtect VMS システム上のビデオデータすべての概要を提供し、台数や組み合わせを問わず、すべてのモニターをサポートします。



組織が XProtect Smart Wall 拡張機能を有する場合、複数の物理ディスプレイから成るビデオウォールが制御室に設置されます。カメラのビューアイテムを選択し、**[詳細]**、**[送信先]Smart Wall** の順に選択して、ビデオウォールにコンテンツを送信することもできます。



XProtect Smart Wall により、オペレータは、カメラとモニターのレイアウトの固定セットを使用してシステム管理者によって設定された静的動画を確認できます。ただし、ビデオウォールは、オペレータが表示されるコンテンツをコントロールできる、ある意味オペレータ主導のウォールです。これには以下が含まれます。

- カメラやその他のタイプのコンテンツ（画像、テキスト、アラーム、スマートマップなど）をビデオウォールにプッシュ
- ビュー全体をモニターに送信
- 特定のイベントの過程で、代替プリセットを適用

最後に、ディスプレイの変更は、特定のイベントまたはタイムスケジュールに応じてプリセットを自動変更するルールでコントロールできます。



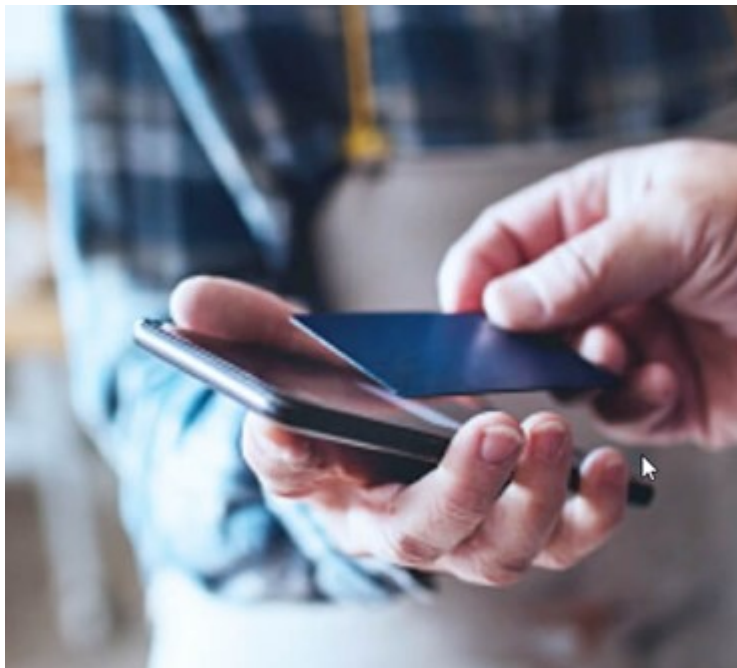
別途、XProtect Smart Wall マニュアルも参照してください。

XProtect Transact

XProtect Transact は Milestone の IP ビデオ監視ソリューションの拡張機能で、実行中のトランザクションを監視し、過去のトランザクションを調査することができます。トランザクションは、詐欺を証明したり、犯人のエビデンスを提供するのに役立つよう、トランザクションをモニターするデジタル監視ビデオにリンクされます。トランザクションラインとビデオ画像は1対1の関係になっています。



XProtectSmartClientに**Transact**タブがあれば、XProtectTransact拡張機能にアクセスできます。



トランザクションデータは、さまざまなタイプのトランザクションソースから発生します。典型的には、POS システムや ATM などです。トランザクションラインを選択すると、それぞれの関連付けられたカメラのビデオ静止フレームがプレビューエリアに表示され、録画を確認できます。プレビューエリアの下には、選択されたラインに関連付けられたトランザクションがレシートとして表示されます。

XProtect Smart Client の使用方法を学ぶ

ユーザーアシスタンスへのアクセス

XProtect Smart Client インターフェイスでは、**F1** を押すと、XProtect Smart Client ユーザーアシスタンス内の関連するトピックが開きます。ユーザーアシスタンストピックは現在取り組んでいるタスクの遂行を支援するようにカスタマイズされています。

XProtect Smart Client 2024 R1 以降、ユーザーアシスタンスはソフトウェアと一緒にインストールされず、別途インストールできるようになりました。

XProtect Smart Client のインストールされているコンピュータがインターネットへアクセスできる場合は、ユーザーアシスタントをインストールする必要はありません。**F1** を押せば、Milestone Systems のすべてのソフトウェアのすべてのユーザーアシスタンスが含まれた Milestone Documentation ポータルが開きます。

インターネットにアクセスできず、ユーザーアシスタンスがインストールされていない場合は、**F1**キーを押すと、Milestone Documentationポータルに誘導するQRコードとURLが表示されます。

追加のヘルプリソース



Milestone DocumentationポータルでのXProtect Smart Clientユーザーアシスタンスまたはヘルプリソースで必要な情報が得られない場合は、<https://www.milestonesys.com/support/>でセルフヘルプリソースを参照するか、リセラーにお問い合わせください。

Milestone は通常すべての XProtect 製品の e ラーニングコースを提供しています。e ラーニングコースはXProtect Smart Client、[XProtect Smart Clientトレーニングウェブページ](https://learn.milestonesys.com/tools/customer_portal/index.html) (https://learn.milestonesys.com/tools/customer_portal/index.html) で見つかります。

導入とログイン

ライセンスとシステム要件

最低限のシステム要件

さまざまな VMS アプリケーションおよびシステムコンポーネントのシステム要件についての情報は、Milestone ウェブサイト (<https://www.milestonesys.com/systemrequirements/>) をご覧ください。

コンピュータが要件を満たしているかどうかを確認

オペレーティングシステムと DirectX のバージョン、およびインストールされているデバイスおよびドライバなど、お使いのシステムに関する情報を表示するには、以下を実行します。

1. **[スタート]** メニューを開き、「dxdiag」と入力します。
2. **dxdiag** のテキストを選択して、**[DirectX診断ツール]** ウィンドウを開きます。



3. **[システム]** タブでシステム情報を表示します。

最大ディスプレイ数

XProtect Smart Client では、コンピュータに取り付けるディスプレイの数に制限はありません。

最大数はハードウェア（ディスプレイアダプタなど）と Windows のバージョンによります。

ライセンス

所属する組織が XProtect VMS 製品と XProtect 拡張機能のライセンスを所有している場合、XProtect Smart Client をインストール、使用するのに追加のライセンスは必要ありません。

システム管理者が XProtect® VMS をインストールする際、組織の XProtect VMS 製品および XProtect 拡張機能のライセンスを登録し、アクティベートします。

インストールとアップグレード

XProtect Smart Clientをインストールする

Web ページから XProtect Smart Client を XProtect VMS システムのマネジメントサーバーにダウンロードし、コンピュータにインストールします。



XProtect VMS システムに含まれるすべての新しい特徴と機能に確実にアクセスするために、お使いの XProtect VMS バージョンに見合ったバージョンの XProtect Smart Client をご使用ください。より新しいバージョンの XProtect Smart Client を使用することもできます。これにより、パフォーマンスの向上が期待できる場合があります。システム管理者に助言をお求めください。

1. ブラウザを開き、マネジメントサーバーの URL または IP アドレスを入力します。
 - XProtect Smart Client をマネジメントサーバーにインストールする場合：
(<http://localhost/installation>)
 - XProtect Smart Client をマネジメントサーバー稼働しているコンピュータとは異なるコンピュータにインストールする場合：([http://\[IP_address\]/installation](http://[IP_address]/installation))
2. オプションで、Web ページの言語を変更します。
3. Web ページで XProtect Smart Client インストーラを見つけ、**[すべての言語]** を選択します。
4. ダウンロードした XProtect Smart Client インストーラを実行し、以下のインストールの指示に従います。
5. インターネットにアクセスできない場合に XProtect Smart Client ユーザーアシスタンスにアクセスするには、ダウンロードしてインストールします。[78 ページのオフライン用の XProtect Smart Client ユーザーアシスタンスをインストールします。](#)をご参照ください。

オフライン用の XProtect Smart Client ユーザーアシスタンスをインストールします。

インターネットにアクセスできない場合に XProtect Smart Client ユーザーアシスタンスにアクセスするには、さまざまな言語の XProtect Smart Client ユーザーアシスタンスをダウンロードしてインストールします。各言語には独自の言語パッケージがあり、個別にインストールします。ユーザーアシスタンスでは、組織にある XProtect 拡張 XProtect Smart Client 機能を使用する方法についても説明します。

インターネットにアクセスできず、ユーザーアシスタンスがインストールされていない場合は、**F1** キーを押すと、Milestone Documentation ポータルに誘導する QR コードと URL が表示されます。

ユーザーアシスタンスをダウンロードしてインストールするには：

1. インターネットにアクセスできるコンピュータで、<https://doc.milestonesys.com/2024r2/ja-JP/default.htm#csid=67> にアクセスします。
2. ユーザーアシスタンスをダウンロードしてインストールする方法については、ページの指示に従ってください。

XProtect Smart Client のアップグレード

ほとんどの場合、XProtect Smart Client のアップグレードプロセスは最初のソフトウェアとユーザーアシスタンスのインストール時と似通っています。

例外と説明については、以下の情報をご参照ください。

メッセージ：新しいバージョンをご利用いただけます

ログインすると、新しいバージョンの XProtect Smart Client が入手可能であり、システム管理者が XProtect VMS システムをアップデートしたことを伝えるメッセージが表示されます。新しいバージョンをダウンロード、インストールして、新しい特徴と機能に確実にアクセスできるようにします。

インストーラで示されるインストールパス

アップグレードを行う際に、インストーラで示されるインストールパスを使用してユーザー設定を維持します。他のパスを使用したい場合は、現在インストールされている XProtect Smart Client を削除し、新しいバージョンをインストールする必要があります。

XProtect VMS バージョンより新しいバージョンへの XProtect Smart Client のアップグレード

XProtect VMS システムのバージョンより新しいバージョンの XProtect Smart Client をインストールすることもできますが、使用可能な特徴と機能は XProtect VMS システムで使用可能な特徴と機能に対応したものになります。[79 ページの現在のバージョンの XProtect Smart Client の検証](#) をご参照のうえ、スーパーバイザーまたはシステム管理者に助言を求めてください。

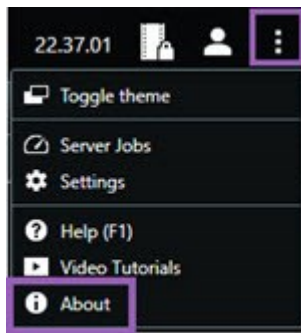
現在のバージョンの XProtect Smart Client の検証

XProtectSmartClientのバージョンとXProtectSmartClientのプラグインを知ることは、以下を行う場合に重要です。

- アップグレード
- XProtect VMS のバージョンとの互換性の検証
- サポートにお問い合わせください

手順：

1. グローバルツールバーから、[設定とその他] メニューを選択します。
2. バージョン情報を選択します。



トラブルシューティング：インストールの試み

XProtect Smart Client のインストールを試みる際に表示される可能性のあるエラーメッセージは、以下の通りです。

このオペレーティングシステムには Milestone XProtect Smart Client をインストールできません。OS がサポートされていません。

XProtect Smart Client でサポートされていない Windows OS がインストールされているコンピュータに XProtect Smart Client のインストールを試みています。OS をアップグレードして再度お試しください。

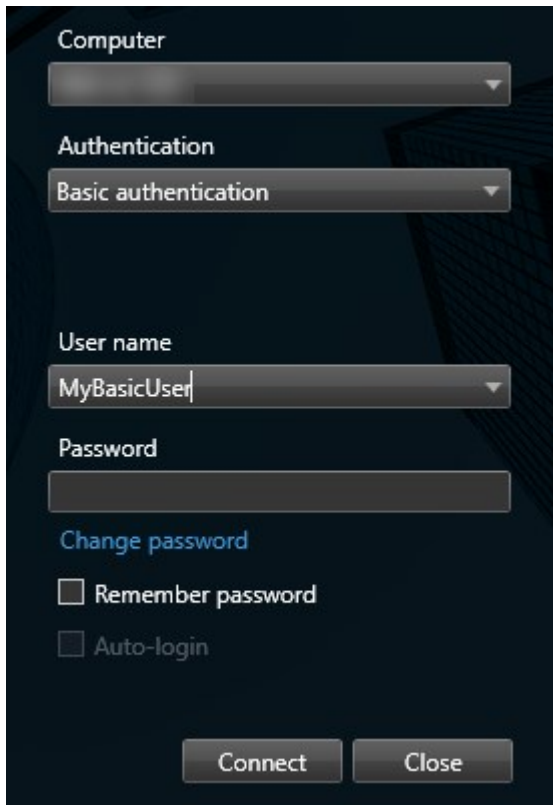
システムエラーが発生しました。この製品は 64 ビット Windows システムにのみインストールできます。

64 ビットでない Windows OS がインストールされているコンピュータに XProtect Smart Client のインストールを試みています。OS をアップグレードして再度お試しください。

ログインとログアウト

ログイン

1. XProtect Smart Client を起動します。ログインウィンドウが表示されます。

The image shows the login window of XProtect Smart Client. It has a dark background with a subtle grid pattern. The window contains several fields and options: a 'Computer' dropdown menu, an 'Authentication' dropdown menu set to 'Basic authentication', a 'User name' dropdown menu with 'MyBasicUser' entered, a 'Password' text field, a 'Change password' link, two checkboxes for 'Remember password' and 'Auto-login', and two buttons at the bottom: 'Connect' and 'Close'.

2. 接続したいマネジメントサーバーの名前またはアドレスを指定します。
3. 以下の認証方法のいずれかを選択します。
 - **Windows 認証（現行ユーザー）** - 現在のログインと同じ Windows ユーザー認証情報を使用してログインします。
 - **Windows 認証** - 現在使用している Windows ユーザー認証情報とは異なるユーザー認証情報を使ってログインします。
 - **基本認証** - 基本ユーザーとしてログインします。XProtect Management Client の基本ユーザーはシステム管理者が設定します。
 - **[外部 IDP の名前]** - このオプションを選択すると、外部 IDP でログインします。
4. **[接続]** を選択します。



ログインにどれくらい時間がかかるかは、お客様の組織の XProtect VMS システムの複雑さと設定によって異なります。

XProtect VMS システムの設定と製品拡張機能によっては、追加でいくつかのステップと質問が表示されることがあります。以下も参照してください：

- [82 ページのログイン時のウィンドウとタブの復元](#)
- [82 ページのHTTP 接続を許可](#)

ログイン中に問題が発生すると、エラー メッセージが表示されます。[83 ページのトラブルシューティング：ログインの試み](#)をご参照ください。

利用可能な追加ログインオプション

ログイン時のウィンドウとタブの復元

タスクを素早く開始するために、XProtect Smart Client から最後にログアウトしたときに開いていたウィンドウやタブをすべて復元することができます。

- ログインして [**ウィンドウとタブの復元**] ウィンドウが開いたら、復元するかどうかを選択します。

おそらく XProtectVMS のシステム管理者が、復元するかどうかを通知するようにすでに設定していると思われますが、自分で定義することもできます。[87 ページのログイン時のウィンドウとタブを復元すべきか定義する](#)をご参照ください。

認証してログイン

XProtect Smart Client にログインする際に、追加のログイン認証が要求されることがあります。

- ログインウィンドウで、あなたとスーパーバイザーの両者があなたのログイン資格情報を入力する必要があります。

誰から認証を得るべきか分からない場合は、スーパーバイザーまたはシステム管理者にお問い合わせください。

入退室管理システムへのログイン

所属する組織が入退室管理システムを有する場合、XProtect Smart Client にログインする際に、追加のログイン資格情報を尋ねられることがあります。

- 入退室管理システムのログインウィンドウで、ログイン資格情報を入力します。

入退室管理システムのログイン資格情報が分からない場合は、スーパーバイザーまたはシステム管理者にお問い合わせください。

HTTP 接続を許可

XProtect VMS システムに証明書がインストールされていない場合、XProtect の最新のセキュリティモデルへ接続することができません。セキュリティモデルは HTTPS ネットワークプロトコルをベースにしています。

- HTTP 接続を許可するには、次を選択します：**この選択を記憶する。今後このメッセージを表示しない。**



XProtect Smart Client が古いセキュリティモデル（HTTP）を使用する XProtect VMS システムまたはフェデレーテッドサイトに接続している場合、**安全でない**という情報メッセージがグローバルツールバーの左側に表示されます。

88 ページのHTTP 接続を許可しないもご参照ください。

トラブルシューティング：ログインの試み

XProtect Smart Client にログインすると、以下のメッセージと警告が表示されることがあります。

現在のユーザー権限では、ログインが認められません。ユーザー権限は、時間帯や曜日などによって異なる場合があります。

ユーザー権限によりログインが許可されていない時間帯にログインを試みています。

解決方法：ログインが許可されるまでお待ちください。ユーザー権限についてご不明な点がある場合は、システム管理者にお問い合わせください。

アプリケーションのどの部分にもアクセスする権限がありません。システム管理者にお問い合わせください。

現在、XProtect Smart Client のどの部分にもアクセスする権限がありません。

解決方法：必要に応じて、アクセス権限を変更できるシステム管理者に連絡してください。

2 台（以上）のカメラが同じ名前または ID を使用しているため、アプリケーションを起動できません...

このエラーメッセージは、誰かがバックアップを使用した、設定が他の XProtect VMS システムの 1 つの XProtect VMS システムで変更されていないなど、稀なケースでのみ表示されます。結果：異なる複数のカメラが同じ ID を使用しようとしているため、XProtect Smart Client ユーザーが XProtect VMS システムにアクセスできません。

解決方法：システム管理者にお問い合わせください。

認証失敗：自分自身を認証することはできません。

自分の資格情報を **[承認者名]** フィールドに入力しています。

解決方法：認証権限のある担当者にご連絡ください。これは、スーパーバイザーかシステム管理者になります。この人物があなたのログインを認証するため、資格情報を入力する必要があります。

認証失敗：認証する権限がありません。

ユーザーを認証しようとしたますが、それを行うユーザー権限がありません。

解決方法：他のユーザーを認証するのに必要な権限があることを確認するようシステム管理者に依頼するか、もしくは必要な権限を持っている人にユーザーの認証を依頼してください。

接続できませんでした。サーバーのアドレスを確認してください。

XProtect VMS システムのマネジメントサーバーが指定されたサーバーアドレスに存在しません。

解決方法：入力したサーバーアドレスが正しいか確認してください。サーバーアドレスの一部として `http://` または `https://` のプレフィックスとポート番号が必要です（例：`https://123.123.123.123:80`、「:80」はポート番号）。ご不明点がある場合は、システム管理者にお問い合わせください。

接続できませんでした。ユーザー名とパスワードを確認してください。

XProtect VMS システムが指定のユーザー名および／またはパスワードを認識できません。

解決方法：ユーザー名が正しいかを確認し、再度パスワードを入力します。ユーザー名とパスワードでは大文字と小文字を区別します。例えば、**Amanda** と **amanda** は同じ文字として認識されません。

接続できませんでした。最大限の数のクライアントがすでに接続しています。

XProtect VMS システムへの同時の接続を許可されているクライアントの最大数に達しました。

解決方法：しばらく待ってからもう一度接続してください。至急XProtectVMSシステムへのアクセスが必要な場合は、システム管理者にお問い合わせください。システム管理者は同時に接続可能なクライアント数を増やすことができます。

古いセキュリティモデルを使用した接続。最新のセキュリティモデルを使用して Web ページにアクセスすることができません。

証明書がインストールされていない XProtect VMS システムへのログインを試みています。

解決方法：システム管理者に問い合わせるか、**[許可]** を選択し HTTP を使用してログインします。HTTP は証明書を使用せずに機能するネットワークプロトコルです。



XProtect Smart Client が古いセキュリティモデル（HTTP）を使用する XProtect VMS システムまたはフェデレーテッドサイトに接続している場合、**安全でない**という情報メッセージがグローバルツールバーの左側に表示されます。

この操作を行う権限がありません

時間帯によって変わるユーザー権限であるため、機能の使用が許可されません。ユーザー権限は、時間帯や曜日などによって異なる場合があります。そのため、後でその機能を使用できる可能性もあります。

解決方法：後でやり直すか、システム管理者に問い合わせます。

システムの設定により、XProtect Smart Client セッションは次の時間内に失効します[...]

XProtect Smart Client を使用する権限が時間帯や曜日などによって異なる可能性があります。

この場合、通常はセッションが終了する数分または数秒前にこのメッセージが表示されます。このメッセージをどのような時に送信するかは、システム管理者が定義します。

解決方法：後でやり直すか、システム管理者に問い合わせます。

ユーザーアクティビティがしばらく検出されなかったため、XProtect Smart Client セッションは次の時間内に終了します[...]

アプリケーションをしばらく使用しないと、セキュリティ上の理由により、XProtect Smart Client が終了します。通常は、セッションが終了する数分または数秒前にこのメッセージが表示されます。このメッセージをどのような時に送信するかは、システム管理者が定義します。

ログアウト

- グローバルツールバーで、[ユーザーメニュー]、次に [ログアウト] を選択します。

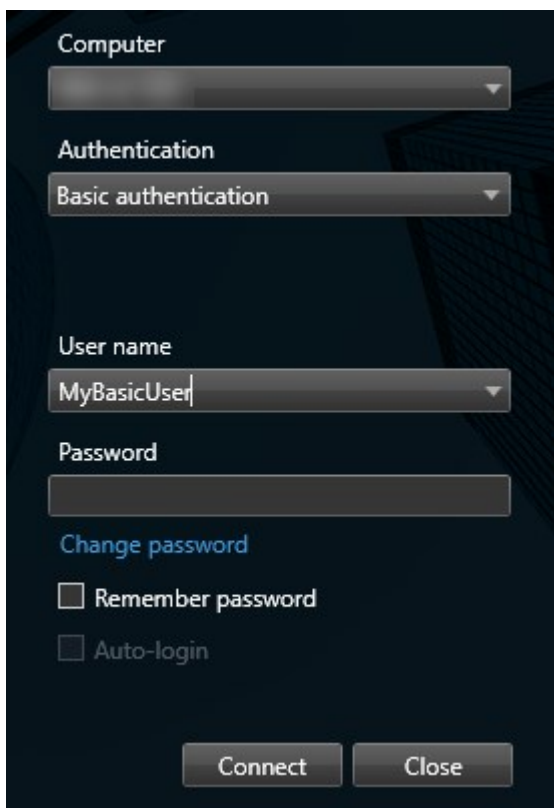
XProtect Smart Clientが再起動します。ログイン画面が表示されますので、再度ログインしてください。

パスワードの変更（基本認証のみ）

基本ユーザー（**基本認証**）としてログインし、XProtect VMS システムで 2021 R1 以降のバージョンをお使いの場合は、パスワードの変更ができます。

異なる認証方法を選択すると、システム管理者しかパスワードを変更できなくなります。パスワードを頻繁に変更すると、XProtect VMS システムのセキュリティが向上します。

- XProtect Smart Client を起動します。ログインウィンドウが表示されます。
- ログイン情報を指定します。**認証**リストで、[基本認証] を選択します。「パスワード変更」と書かれたリンクが表示されます。

The image shows the login window of XProtect Smart Client. It has a dark blue background with a subtle pattern. The window contains several fields and options: a 'Computer' dropdown menu, an 'Authentication' dropdown menu set to 'Basic authentication', a 'User name' dropdown menu with 'MyBasicUser' selected, and a 'Password' text field. Below these is a 'Change password' link in blue text. There are two checkboxes: 'Remember password' and 'Auto-login', both of which are currently unchecked. At the bottom, there are two buttons: 'Connect' and 'Close'.

3. **[パスワード変更]** を選択します。
4. 指示に従い、変更を保存します。
5. 新しいパスワードを使用して XProtect Smart Client にログインします。

XProtect Smart Client システムのカスタマイズ

XProtect Smart Client 設定のデフォルト値

XProtect Smart Client は、さまざまな方法でカスタマイズできます。

XProtect Smart Client 設定では、XProtect Smart Client の動作の一部と使用可能な機能を変更できます。

システム管理者は、特定またはすべての設定のデフォルト値を設定したり、設定の責任をユーザーに委任したりする場合があります。特定の設定のデフォルト値を変更する権限がある場合もありますが、変更が許可されないこともあります。

設定はいつでも変更できますが、一部の設定を変更すると XProtectSmartClient の再起動が必要になる場合があります。

定義した設定は、コンピュータのローカルユーザーアカウントに保存されます。

XProtect Smart Client 設定の例をいくつか示します。

- ビデオの境界ボックスを表示／非表示にできます。
- メインタイムラインのタイムライン追跡の音声録音を表示／非表示にできます。
- スナップショットのデフォルトのパス。
- 前回のログインからビューを復元できます。

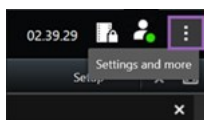
すべての XProtect Smart Client 設定は、以下で見つけることができます。

- グローバルツールバーで **[設定とその他]** メニュー、次に **[設定]** を選択します。

XProtect Smart Client の言語の変更

XProtect Smart Client では複数の言語が利用可能です。

1. グローバルツールバーから、**[設定とその他]** ボタンを選択します。



2. **[設定]** を選択します。
3. **[言語]** タブで、使用する言語を選択します。

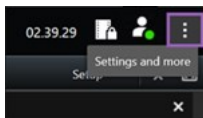
右から左に読む言語

XProtect Smart Client は特定の右から左に読む言語に対応しています。このような言語を使用する場合、ユーザーインターフェースのレイアウトも右から左読みに変わります。例えば、ボタン、ツールバー、ペインは、英語とは反対側に表示されます。右から左に読む言語の使用を選択した場合、レイアウトを左から右のままにしておくことを選択することができます。

ログイン時のウィンドウとタブを復元すべきか定義する

最後に XProtect Smart Client からログアウトしたときに開いていたウィンドウやタブを復元するかどうかを指定できます。ログイン時にすべてが復元され、ワークスペースがプリファレンスに従い整理されます。

1. グローバルツールバーから、**[設定とその他]** ボタンを選択します。



2. **[設定]** を選択します。
3. **[アプリケーション]** タブで、**[ウィンドウとタブの復元]** 設定のドロップダウンメニューを開きます。
4. あなたに最適なオプションをお選びください：
 - **最後**：XProtect Smart Client からログアウトしたときに開いていたすべてのウィンドウとタブを常に復元します。
 - **該当なし**：XProtect Smart Clientからログアウトしたときに開いていたすべてのウィンドウとタブを復元しません。
 - **尋ねる**：ログインすると、前回のセッションから XProtect Smart Client ウィンドウとタブを復元するかどうか尋ねられます。

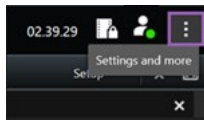
ビデオとユーザーインターフェースナビゲーションのためにジョイスティックを追加する

お使いのコンピューターのUSBポートにジョイスティックを接続すると、通常のジョイスティックはすぐにXProtect Smart Clientで機能します。

それ以外のジョイスティックについては、ドライバーをインストールし、手動でXProtect Smart Clientを追加しなければなりません。またこれは、ジョイスティックをシリアルポートに接続したりIPアドレスを介して接続した場合にもあてはまります。

ジョイスティックを手動で追加するには、次のことを行ってください。

1. グローバルツールバーから、**[設定とその他]** ボタンを選択します。



2. **[設定]** を選択します。
3. **[ジョイスティック]** タブで、**[追加]** を選択します。
4. ジョイスティック用にインストールしたドライバーを選択し、ジョイスティックのプロパティを定義します。



ドライバーによって、プロパティの値が事前に入力されている場合と、手動で入力する必要がある場合があります。正しいプロパティ値を入力した場合にのみ、ジョイスティックを追加することができます。プロパティ値を確認する必要がある場合は、ジョイスティックのベンダーにお問い合わせください。

5. **[追加]** を選択します。
6. **[ジョイスティック]** タブで、異なる軸の動き、デッドゾーン、ジョイスティックのボタン設定を定義します。381 ページの [ジョイスティック設定](#) をご参照ください。

音声通知の音を変更する

XProtect Smart Clientを搭載したコンピューターごとに、異なるサウンド通知を設定すると便利です。イベントまたはモーションが検知されるたびに音声ファイルが再生されます。サウンドファイルを変えて、各コンピューターの通知音を異なるものにすることができますが、そのためには管理者権限が必要です。

音声ファイルは、**Notification.wav**と呼ばれ、XProtect Smart Clientインストールフォルダ内にあります。通常：**C:\Program Files\Milestone\XProtect Smart Client**。

- 別の.wavファイルを使用したい場合は、ファイルに**Notification.wav**という名前を付けて、XProtect Smart Clientインストールフォルダーにコピーするだけです。



カメラごとに異なるサウンドファイルを使用したり、イベント検知やモーション検知を区別する機能はありません。

HTTP 接続を許可しない

古いセキュリティモデル（HTTP）を使用する接続を使用するネットワークプロトコルでXProtect VMS システムにログインすることを許可する設定を解除できます。82 ページの [HTTP 接続を許可](#) をご参照ください。

1. グローバルツールバーで [**ユーザーメニュー**] を選択します。
2. [**ログイン情報**] を選択します。
3. [**クリア**] を選択します。
4. [**OK**] を選択します。

XProtect Smart Client の使用方法を学ぶ

ユーザーアシスタンスへのアクセス

XProtect Smart Client インターフェイスでは、**F1** を押すと、XProtect Smart Client ユーザーアシスタンス内の関連するトピックが開きます。ユーザーアシスタンストピックは現在取り組んでいるタスクの遂行を支援するようにカスタマイズされています。

XProtect Smart Client 2024 R1 以降、ユーザーアシスタンスはソフトウェアと一緒にインストールされず、別途インストールできるようになりました。

XProtect Smart Client のインストールされているコンピュータがインターネットへアクセスできる場合は、ユーザーアシスタントをインストールする必要はありません。**F1** を押せば、Milestone Systems のすべてのソフトウェアのすべてのユーザーアシスタンスが含まれた Milestone Documentation ポータルが開きます。

インターネットにアクセスできず、ユーザーアシスタンスがインストールされていない場合は、**F1** キーを押すと、Milestone Documentationポータルに誘導するQRコードとURLが表示されます。

追加のヘルプリソース



Milestone DocumentationポータルのXProtect Smart Clientユーザーアシスタンスまたはヘルプリソースで必要な情報が得られない場合は、<https://www.milestonesys.com/support/>でセルフヘルプリソースを参照するか、リセラーにお問い合わせください。

Milestone は通常すべての XProtect 製品の e ラーニングコースを提供しています。eラーニングコースはXProtect Smart Client、[XProtect Smart Clientトレーニングウェブページ](https://learn.milestonesys.com/tools/customer_portal/index.html) (https://learn.milestonesys.com/tools/customer_portal/index.html) で見つかります。

ビデオの表示とビューの操作

ビデオの表示

表示と録画

XProtectSmartClientでビデオを表示するには、ライブモードまたは再生モードの異なるビューを選択して切り替えます。

ビューが無い場合、それらを作成することができます。[251ページのプライベートビューと共有ビュー](#)をご参照ください。

カメラにマイクや個別のマイクが追加されている場合は、ライブ音声や録音された音声を聞くことができます。カメラにスピーカーがある場合は、音声をブロードキャストすることができます。

カメラのビデオは常に録画されているわけではありません。通常、録画はモーション、スケジュール、イベントによりトリガーされます。デバイスからのデータやマイクからの音声は通常継続的に録画されています。

ビデオにバウンディングボックスが表示される場合は、カメラに関連付けられたデバイスがシステムにメタデータを送信しています。

ビューを開き、ビューアイテムを最大化する

ライブビデオまたは録画されたビデオを見る場合、関連するビデオを含むビューを選択します。

1. メイン表示タブを選択します。
2. **[ビュー]** ペインで関連するビデオを含むビューを選択します。

または、ビューにショットカット番号が割り振られている場合は、テンキーの* + [ショットカット番号] + **Enter**でビューを選択できます例えば、ショットカット番号**1**のビューを選択するには、* + **1** + **Enter**キーを押します。



割り当てられた番号は、**ビュー**ペインのビュー名の前の括弧内に表示されます。

3. ビューアイテムを最大化してビューアイテム内のコンテンツの細部を見るには、**[ビューアイテム]** を選択してダブルクリック、またはEnterキーを押します。最小化するには、もう一度ダブルクリックするか、Enterキーを押します。

[106 ページのデフォルトのキーボードショートカット](#)と[254 ページのビューヘショートカット番号を割り当てる](#)をご参照ください。

ビデオチュートリアルを見る



ウィンドウを全画面表示モードで表示する

ビューを全画面表示モードに送ることによってメニューとコントロールを非表示にし、視聴のためのインターフェースを最大化します。

- ワークスペースツールバーで、**[全画面表示モードに切り替え]**  を選択します。
- 全画面表示を修了するには、マウスカーソルをウィンドウの上部へ移動させ、**[全画面表示モードの切替]**  を選択します。

ビデオをホットスポットへ送信する

ホットスポットビューアイテムがある場合は、別のカメラビューから拡大された高品質のビデオをそこで表示することができます。

- ホットスポットビューアイテムにビデオを表示するためのカメラビューを選択します。



チルトバーにある  アイコンで、ホットスポットビューアイテムを把握することができます。

ビデオチュートリアルを見る



画面自動切替ビューアイテムのビデオを見る

ライブモードでは、画像自動切替ビューアイテムは定義された間隔でカメラフィールド間を回転します。画像自動切替ビュー時間により、関心のあるエリアをパトロールし、そこで起こっていることを把握することができます。

画像自動切替のタイミングは、ビューを開いた時に始まります。同じ画像自動切替ビューアイテムが開いている2つのビューがある場合、同じ画像自動切替の2つの独立したタイミングを見ていることになります。



チルトバーにある  アイコンで、画像自動切替ビューアイテムを把握することができます。

1. 画像自動切替が含まれているビューを開きます。
2. 次のアクションの1つを実行してください。
 - ビューアイテム内にある同じビデオを見続ける場合、カメラツールバーで**[画面自動切替の開始/停止]**  を選択します。**[画面自動切替の開始/停止]**  を再び選択して、画像自動切替を開始します。



画像自動切替ビューアイテム内のビデオにズームインする場合は、画像自動切替は自動的に停止します。

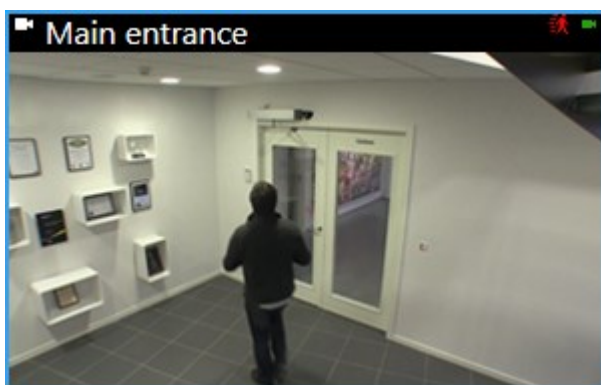
- 画像自動切替ビューアイテム内の次のまたは前のカメラからのビデオを表示するには、**[前のカメラ]**  または **[次のカメラ]**  を選択します。

ビデオチュートリアルを見る



ライブビデオのステータスを表示する

ライブモードで、それぞれのカメラビューアイテムの上部にあるカメラインジケーターによってビデオのステータスが表示されます。



インジケータ	説明
	モーションが感知されました。インジケータは、ビューアイテムを選択しモーションインジケータをリセットすることにより、インジケータを見たことを承認するまで、表示されます  カメラプロパティでは、モーションが検出された際の音による通知を加えることができます。
	カメラとサーバーの接続が切断されました。
	カメラからビデオを録画中です。
	カメラへの接続が確立されました。このアイコンはライブビデオ専用です。
	録画された動画を再生しています。
	サーバーから2秒間以上新しい画像を受信していません。

録画したビデオをメインのタイムラインとは別に表示

ビューアイテム内でビデオを確認したい場合は、ビュー内の他のビデオとは独立してそのビデオを再生することができます。再生モードでは、再生は選択したメインのタイムラインとは無関係です。ライブモードでは、再生はライブビデオとは無関係です。



ホットスポット、画像自動切替、またはMatrixコンテンツを含むビューアイテムにはこの機能は使用できません。

1. ビューアイテムを選択し、カメラツールバーから、**[個別再生]**  を選択します。

カメラのビューアイテムのトップバーが黄色に変わり、個別再生タイムラインが表示されます。



- ライブモードでは、**[個別再生]** が選択された時刻の10秒前からビデオの再生が開始されます。
 - 再生モードでは、再生した場合、ビデオは反対方向に10秒ジャンプします。一時停止された場合、ビデオは現在時刻で一時停止します。
2. 別の時間に録画したビデオを見るには、個別再生タイムラインをドラッグします。
 3. ビュー内のすべてのカメラからの録画ビデオを個別再生時刻に同期させるには、**[再生タイムラインに選択した時間を使用]**  を選択します。

これにより、再生モードで、個別再生用に最初に選択した時刻にビデオが同期化されて表示されます。

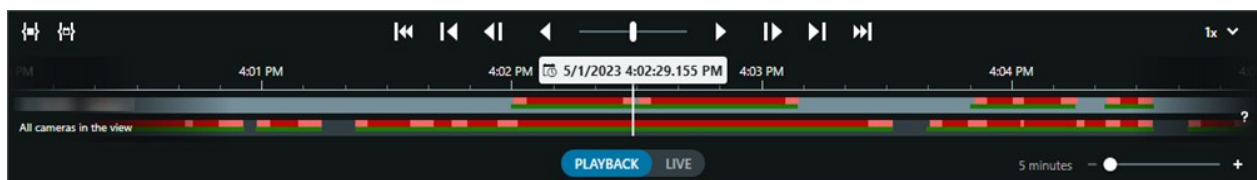
ビデオチュートリアルを見る



録画ビデオ内で時間を前後に移動する

メインタイムラインコントロールを使用することで録画内を移動できます。

- タイムライン追跡を左または右にドラッグします。ゆっくり移動する場合は、CTRLキーを押しながらドラッグします。
- タイムラインコントロール、マウスのスクロールホイールを使用するか、再生ヘッド上の日付を選択して、特定の時間に移動します。



60 ページのメインタイムラインもご参照ください。

カメラおよびビューの検索

ビューまたはカメラの名前を知っている場合、またはカメラの特徴または説明を知っている場合は、すべてのビューグループ内でそれらを検索できます。

例：

- カメラの説明：システム管理者はすべてのアウトドアカメラに**屋外**タグをつけています。
- カメラの機能：PTZ、音声、入力および出力

検索結果にはカメラと、そのカメラが属するビューが含まれます。

1. **[表示]** タブの**[カメラとビューの検索]** フィールドで、検索したいテキストを入力します。

または、検索フィールドの横の  を選択し、一般的な検索キーワードの1つを選びます。

2. 検索結果から、次のものを選択できます。

- ビューを開くためのビュー。
- 一時的ビューにあるビデオを見るための1台または複数のカメラ。1台のカメラを選択するか、**Ctrl** キーまたは**Shift**キーを押して複数のカメラを選択し、**Enter**キーを押します。

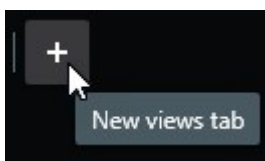
複数のオープンビューを操作

追加の表示タブとウィンドウ

メインウィンドウに加えて、追加のサブウィンドウでビューを開くことができます。メインウィンドウとサブウィンドウの両方で複数の表示タブを開くこともできます。

追加の表示タブ

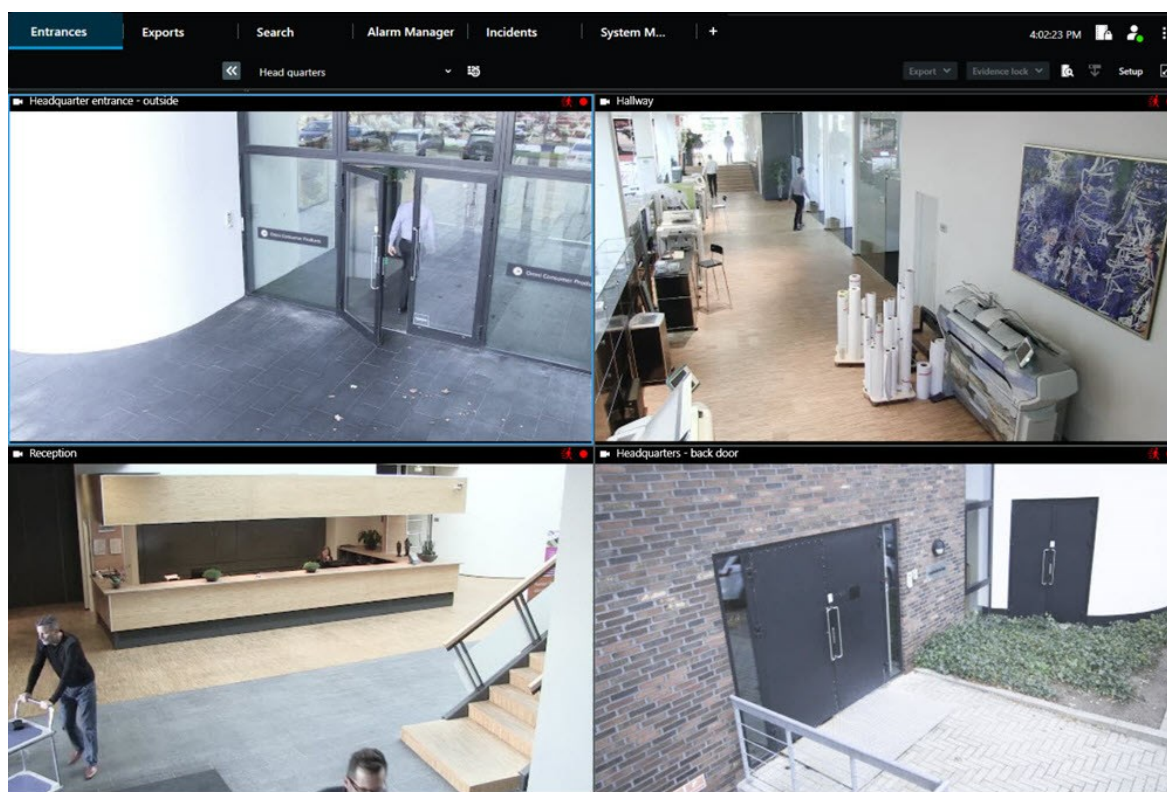
すべてのウィンドウにはメインの表示タブがありますが、追加の表示タブを開くことができます。



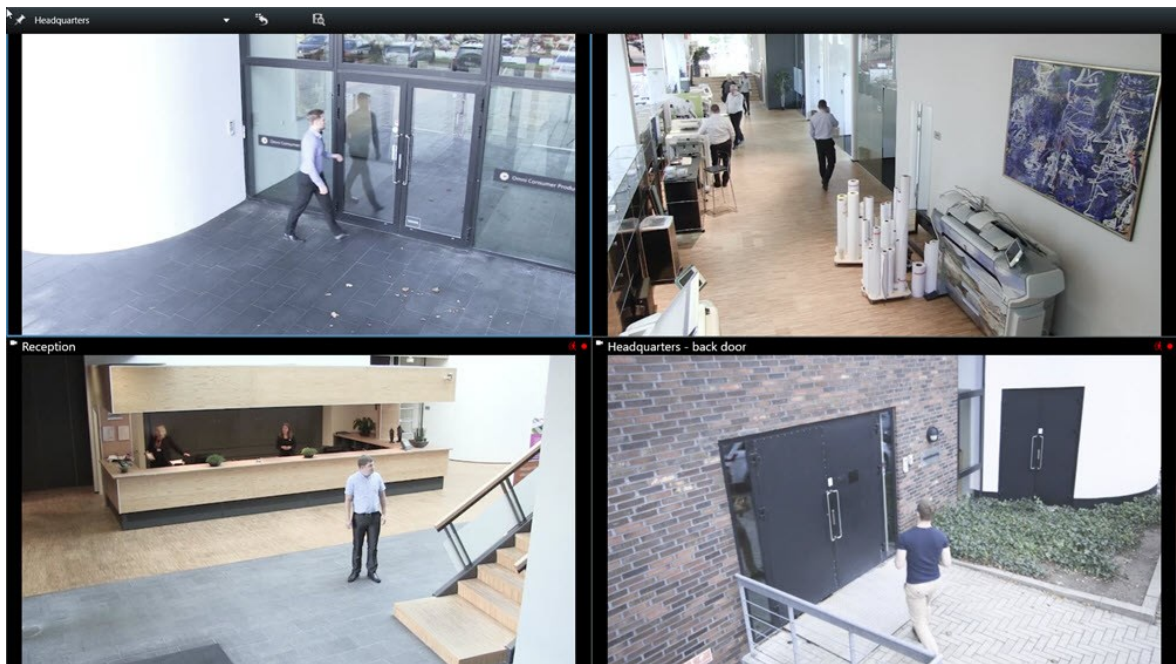
サブウィンドウ

フローティングウィンドウとディスプレイウィンドウの2つの種類のサブウィンドウにビューを送ることができます。

- フローティングウィンドウ：すべてのタブと制御が表示されているサブウィンドウ。



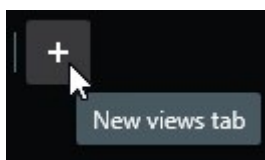
- ディスプレイウィンドウ（プライマリ、セカンダリなど）：すべてのタブと制御が非表示になっているフルスクリーンウィンドウ。このウィンドウを閉じるには、マウスカーソルをウィンドウの上部で動かし **[閉じる]** ボタンなど非表示にするためのボタンを表示します。



追加の表示タブを開く

異なるビューに切り替えるために、メインウィンドウやサブウィンドウに必要なだけ表示タブを開くことができます。

- デフォルトタブから、**[新規表示タブ]** を選択します。



- 関連するビデオを含むビューを選択します。新しい表示タブの名前は、選択したビューの名前になります。
- 追加した表示タブを再度閉じるには、**[タブを閉じる]** を選択します。





追加の表示タブの開閉にショートカットキーを割り当てることができます。**[設定とその他]**のメニューから、**[設定]**を選択します。**[キーボード]**タブから、**[アプリケーション]**カテゴリを選択します。これで、**[選択したタブを閉じる]**と**[新しい表示タブを開く]**オプションにショートカットキーを割り当てることができます。



デフォルトメニューではメインタブをとじることはできません。追加されたタブをとじることのみ可能です。

ビデオチュートリアルを見る



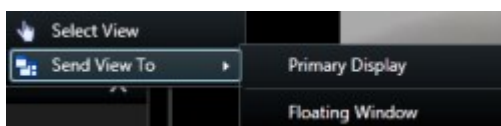
ビューをサブウィンドウに送信する

いくつかのモニターがあり、同時に複数のビューからのビデオを表示したい場合は、ビューをディスプレイウィンドウまたはフローティングウィンドウとしてサブウィンドウに送ることができます。

サブウィンドウは希望する数だけ開くことができ、コンピュータに接続されているあらゆるモニターにドラッグすることもできます。



1. **[ビュー]**ペインで、サブウィンドウに送信したいビューを右クリックします。
2. **[ビューを送信]**を選択し、次にビューを送信したいサブウィンドウを選択します。



95 ページの追加の表示タブとウィンドウもご参照ください。



XProtect Smart Clientからログアウトすると、開いているすべてのウィンドウとタブの情報がローカルコンピュータに保存されます。XProtect Smart Clientにログインした後すぐに、ワークスペースを希望通りに配置するために、すべてのウィンドウとタブの復元を定義することができます。87 ページのログイン時のウィンドウとタブを復元すべきか定義するをご参照ください。

ビデオチュートリアルを見る



サブウィンドウの時間をメインウィンドウの時刻と同期させる

インシデントを調査している場合、メインウィンドウと同じ時刻のビデオがサブウィンドウに表示されるようにすることができます。

1. サブウィンドウで、**[メイン表示タブと時間を同期する]**  を選択します。
2. メインタイムラインは、サブウィンドウの中に隠されています。
3. メインウィンドウで、メインタイムラインを使用して、メインウィンドウとサブウィンドウの両方のビデオ内を行き来します。

他の開いているビューを選択し、次にビューアイテムを選択します。

複数のビューを開いた場合、マウスまたはキーボードを使用してビューを容易に切り替えることができます。選択オプションを組み合わせることもできます。例えば、マウスでビューを選択してから、キーボードオプションの1つを使ってビューアイテムを選択します。

- 次の1つをやってみてください。

	ビューを選択し、次にビューアイテムを選択します。
	ショートカット番号が割り振られたビューを選ぶ場合は、テンキーの* + [ショートカット番号] + Enterキーを押します。 テンキーの矢印キー2、4、6、8で関連するビューアイテムを選択します。
	Altキーを押すと、開いているすべてのビューに番号が割り振られます。 選択したいビューの番号を押すと、選択したビュー内にあるすべてのビューアイテムに番号が割り振られます。 選択したいビューアイテムの番号を押します。

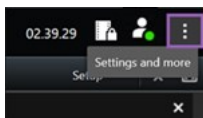


キーボードのショートカットとマウスまたはジョイスティックを同時に使用すると、マルチタスクを実行できます。たとえば、ジョイスティックでPTZカメラを移動し、キーボードのショートカットでビューを開くことができます。

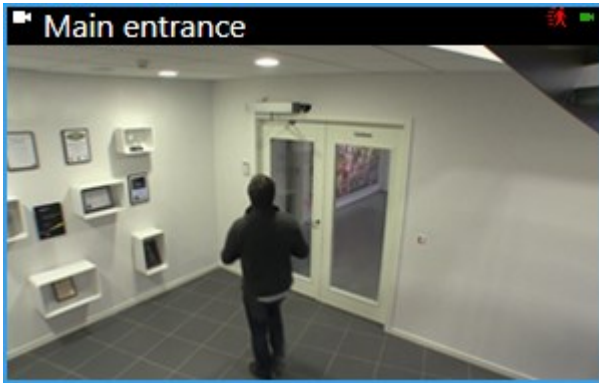
すべてのビューのカメラチルトバーとカメラインジケータを表示/非表示にする

表示されたビデオのステータスを知っておくと便利です。例えば、このビデオは録画中だろうか？しかし、カメラインジケータを表示したくない場合もあるかもしれません。

1. グローバルツールバーから、**[設定とその他]**を選択します。



2. **[設定]**を選択します。
3. **[アプリケーション]**タブの**[カメラのタイトルバーの既定値]**オプションで、**[表示]**または**[非表示]**を選択します。



タイトルバーを表示しないを選択した場合は、モーションやイベントの視覚的インジケータは表示されません。代わりに、音声による通知を使用できます。

カメラツールバー（カメラビューアイテム）

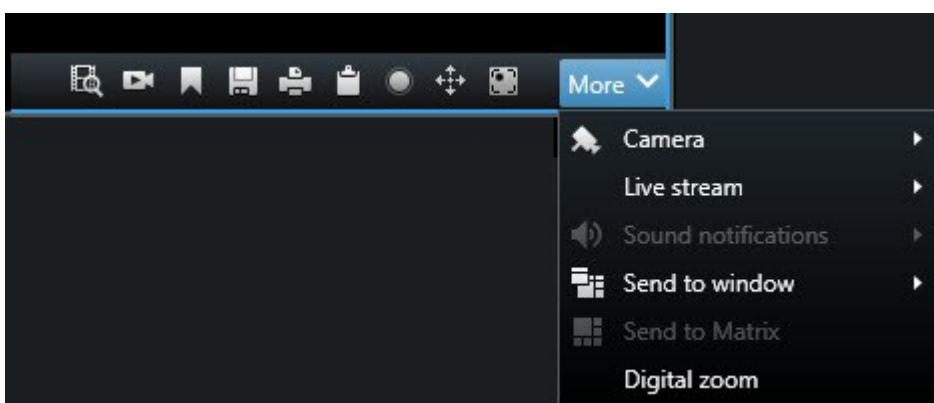
すべてのカメラビューアイテムにはカメラツールバーが付いています。カメラツールバーはライブモードおよび再生モードで使用でき、カメラビューアイテムの内側にカーソルを合わせると表示されます。



マウスをビューアイテムの間で移動させる際にカメラツールバーを一時的に非表示にしたい場合は**Ctrl**キーを長押しします。

ツールバーに表示されるアイコンは以下によって異なります。

- お客様が利用可能な製品や機能。
- ライブモードまたは再生モードのどちらでビデオを表示しているか
- ビューアイテムに表示されているカメラの種類で使用可能な機能。



機能	説明
	131 ページのスマートマップ上のデバイスへ移動する
	192 ページのカメラまたはビューから検索を実行。
	93 ページの録画したビデオをメインのタイムラインとは別に表示。
	217 ページのブックマークを追加または編集する。
	148 ページのスナップショットを撮って共有する。
	236 ページの単一カメラから監視レポートを印刷。
	238 ページの画像をクリップボードにコピー。
	148 ページのビデオの手動録画。
	112 ページのライブビデオでパン、チルト、ズームインする。
	XProtect Incident Manager が必要です。インシデントプロジェクトを開始する
	XProtect Hospital Assist が必要です。一定時間、ビューアイテム内のビデオをほかします。
	XProtect Hospital Assist が必要です。カメラビューアイテムに付箋を付けます。
[詳細] > [カメラ]	109 ページのカメラビューアイテム内のビデオを置き換える

機能	説明
[詳細] > [ウィンドウに送信]	109 ページのカメラビューアイテムを別の開いているビューに送信する
[詳細] > [に送信]Smart Wall	ビデオウォールの1つにカメラストリームを送信することによって、それを共有します。
[詳細] > [に送信]Matrix	149 ページのMatrixビューアイテムにビデオを送信する
[詳細] > [デジタルズーム]	111 ページのカメラビューアイテムでデジタルにズームする。

ビデオチュートリアルを見る



カメラツールバーを最小化する

ビューアイテムのカメラツールバーを最小化して、ビデオにさらに集中することができます。

1. [カメラビューアイテム] を選択します。
2. カメラのツールバーで、 を選択して、最小化します。

再びカメラツールバーを最大化して、 を選択します。



マウスをビューアイテムの間で移動させる際にカメラツールバーを一時的に非表示にしたい場合は**Ctrl**キーを長押しします。

カメラツールバーに表示された時刻を変更する

サーバー側で設定されたタイムゾーンは、現在のタイムゾーンやお使いのコンピューターのタイムゾーンとは異なる可能性があります。

- カメラのツールバーに表示されている時間を変更するには、[設定] ウィンドウで、[詳細] > [タイムゾーン] にアクセスします。

タイムラインの構成オプション

必要に応じてタイムラインをカスタマイズすることができます。

- タイムライン追跡に表示する録画タイプやエレメントを選びます（録音された音声、ブックマークなど）。
- 録画間のギャップの処理方法を選択します。
- 操作がない場合はタイムラインを非表示にして、ビデオを見るためのディスプレイを最大化します。

録画間のギャップの再生を設定する

メインタイムラインで録画間のギャップを再生する方法を調整できます。

例えば、あるビューのすべてのカメラで同じ期間録画がない場合、録画していないものを平均速度で再生する必要はありません。従って、タイムラインは録画間のギャップの再生をデフォルトでスキップする構成になっています。この動作を変更したい場合は、以下のようにできます。

1. グローバルツールバーで **設定その他** を選択し、次に **設定** を選択します。
2. [設定] ウィンドウで、[タイムライン] を選択します。
3. **再生** オプションを、**ギャップをスキップ** または **ギャップをスキップしない** のいずれかで設定します。

タイムライン追跡に表示するものを設定

録画、ブックマーク、マーカのオーバービューをよりクリアにするために、タイムライン追跡に表示されている内容を調整することができます。

1. グローバルツールバーで **設定その他** を選択し、次に **設定** を選択します。
2. [設定] ウィンドウで、[タイムライン] を選択します。
3. 異なるデバイスまたはソースからの録画の表示または非表示を選択します。録画の各タイプはタイムライン追跡で違う色でコード化されています。
 - **受信音声**
 - **送信音声**
 - **追加データ**（他のソースからのメタデータ）
 - **追加マーカ**（他のソースから）
 - **ブックマーク**
 - **動作指示**（モーションのある録画）
 - **全カメラタイムライン** - （ビュー内の全カメラからの全録画の情報）

メインタイムラインを非表示にする

ビデオディスプレイを拡大するため、数秒間操作がない場合にメインのタイムラインを非表示にすることができます。

メインタイムラインがどの程度非表示になるかは、ライブモードと再生モードのどちらでビデオを視聴するかによります。ライブモードではメインタイムラインは非表示になります。再生モードではタイムライン追跡以外が非表示になります。コンピュータを再度操作すると、メインタイムラインが完全に表示されます。

1. グローバルツールバーで **設定その他** を選択し、次に **設定** を選択します。
2. **[設定]** ウィンドウで、**[タイムライン]** を選択します。
3. メインタイムラインを非表示にするタイミングを選択します。
 - **操作がない場合はタイムラインを非表示にする** - (Smart Wallビューを除くすべてのビュー)。デフォルトの値は「never (なし)」です。
 - **Smart Wallビューでタイムラインを非表示** (Smart Wallビュー)。デフォルト値は5秒後です。

音で通知

カメラビューアイテムの音声通知を有効化すると、ユーザーが積極的にライブビデオを見ていない時でも、モーション検知やイベントトリガーなど特別な注意が必要な場合に警告を受け取ることができます。これらの通知は現在オープンな、表示されているビューでのみ有効です。

お客様、およびシステム管理者は次の場合に音声通知を再生するよう設定することができます。

- モーションが感知されました。
- イベントが発生した場合。



XProtect Smart Clientは、選択済みで、オープンな、表示されているビューからのサウンド通知のみを再生します。ウィンドウを最小化しカメラビューアイテムを最大化した場合、非表示のビューアイテムから音声通知を受信することはありません。

音声通知の消音

ライブモードで、一時的にカメラビューアイテムの音声通知を消音することができます。

1. マイク付きカメラからのビデオを含むカメラビューアイテムを選択します。
2. カメラツールバーで、**[詳細]** > **[音声通知]** > **[消音]** を選択します。
3. 消音を解除するには、**[詳細]** > **[音声通知]** > **[消音]** を再度選択します。

デフォルトのキーボードショートカット

XProtect Smart Clientには、ビューアイテムの移動/交換、ビューアイテムのリセット、ビューを開く、ビュー間のコンテンツ移動、が簡単にできるよう、デフォルトキーボードショートカットが搭載されています。例えば、ジョイスティックまたはマウスを使用してPTZカメラを動かしたり、キーボードショートカットを使用してカメラビューアイテムをホットスポットまたはその他のビューに同時に送信することができます。



キーボードのショートカットとマウスまたはジョイスティックを同時に使用すると、マルチタスクを実行できます。たとえば、ジョイスティックでPTZカメラを移動し、キーボードのショートカットでビューを開くことができます。

XProtect Smart Clientでは、アクションにお客様のショートカットキーの組み合わせを割り当てることもできます。[384 ページのキーボード設定](#)をご参照ください。

キーボードキー	実行される操作
Enter	90 ページのビューを開き、ビューアイテムを最大化する。
Alt + [ビューの数] + [ビューアイテムの数]	99 ページの他の開いているビューを選択し、次にビューアイテムを選択します。
/+Enter (数字キーパッドのみ)	ビューアイテムをデフォルトのコンテンツにリセットします。 110 ページのビューアイテムまたはビューをリセットする をご参照ください。
/+/+Enter (数字キーパッドのみ)	ビューをデフォルトのコンテンツにリセットします。 110 ページのビューアイテムまたはビューをリセットする をご参照ください。
2、4、6、8 (矢印キー) (数字キーパッドのみ)	現在のビューアイテムの横にあるビューアイテムを選択します (右、左、上、下)。 99 ページの他の開いているビューを選択し、次にビューアイテムを選択します。

キーボードキー	実行される操作
/+<カメラのショートカット番号>+Enter (数字キーパッドのみ)	109 ページのカメラビューアイテム内のビデオを置き換える。 要件：システム管理者がカメラにショートカット番号を割り当てている。  割り当てられた番号は、[ビュー] ペインのカメラ名の前にある括弧内に表示されます。
*+<ビューのショートカット番号>+Enter (数字キーパッドのみ)	90 ページのビューを開き、ビューアイテムを最大化する。 要件：お客様がショートカット番号をビューに割り当てている。  割り当てられた番号は、ビュー ペインのビュー名の前の括弧内に表示されます。

トラブルシューティング：ビデオやバウンディングボックスがない

ビデオがない理由

XProtect Smart Clientでカメラからのビデオを突然見ることができなくなるのには、いくつか理由があります。

考えられる原因には以下があります。

- カメラまたはネットワークでメンテナンスが進行中の場合。
- ネットワークの中断。
- システム管理者が、ある一定の時間に限りお客様にビデオを見る権限を与えている場合。
- システム管理者がお客様がカメラからビデオを見る権限を取り消した場合。
- システム管理者がお客様のXProtectVMSの設定を変更した場合。

バウンディングボックスが開けない。コンピューターのシステム時刻が正しいかを確認します。システム時刻に問題が無い場合はシステム管理者に連絡してください。

このメッセージは、一つ以上のカメラビューアイテムがバウンディングボックスを表示できない場合に提示されます。

バウンディングボックスとビデオが同期していない場合。

コンピューターシステムの時刻に問題がない場合、システム管理者はバウンディングボックスのメタデータとレコーディングサーバーからのビデオが適切に同期しているか確認する必要があります。

ビューを一時的に変更

プライベートビューと共有ビュー

ビューには、共有ビューとプライベートビューがあります。

- 共有ビュー: 複数のユーザーが利用できます。通常はシステム管理者またはスーパーバイザーによって作成されます。
- プライベートビュー: 作成したユーザーのみが利用できます。

設定モードに切り替える権限がある場合は、プライベートビューを作成できます。プライベートビューは**プライベート**フォルダーに保存され、XProtect Smart Clientにログインすることで任意のコンピューターから利用できます。

[ビュー] ペインには以下が含まれます：

- **[プライベート]** フォルダー：ログインするとどのコンピューターからでもアクセスできるプライベートビューが含まれます。これには、すべてのカメラからのビデオを含む自動で生成されたデフォルトのビューが含まれる場合があります。
- **共有** フォルダー：共有ビューを含むビューグループが含まれます。保護されているフォルダーにはパドロックアイコンがついており、通常のユーザーには変更できません。

ビューを一時的に変更する

ビュー内のカメラを一時的に変更し、インシデント発生時や調査中に関連するビデオを素早く表示できます。

ビューの内容を恒久的に変更し新しいビューを作成するには、セットアップモードに入る必要があります。[251 ページのビューの作成](#)をご参照ください。

ビデオチュートリアルを見る



同じカメラからの別のビデオストリームを表示する

カメラが複数のストリームを送信するよう設定されている場合、一時的にビデオを高解像度で表示することができます。

1. [カメラビューアイテム] を選択します。
2. カメラツールバーで **[詳細]** を選択します。
3. **[ライブストリーム]** を選択し、次にストリームを選択します。

カメラビューアイテム内のビデオを置き換える

ビューを開いていて、そのビューではないところで何かが起きた場合、ビデオを一時的に別のカメラからのビデオに置き換えることができます。

1. 置き換えるカメラビューアイテムを選択します。
2. カメラツールバーから関連するカメラを選択するか、テンキーのショートカットを使用して、**/+<カメラショートカット番号<+Enter** キーを押します。
3. ビューを復元するには、**ビューの再読み込み**  を選択するか、テンキーの **/+/+エンター** キーを押します。



ビューを永続的に変更する場合は、ワークスペースのツールバーで**設定**を選択します。

ビデオチュートリアルを見る



ビュー内でカメラビューアイテムを移動/交換する

容易に比較できるよう、ビュー内のカメラビューアイテムを一時的に移動することができます。

1. 移動するカメラビューアイテムを選択します。
2. タイトルバーを使用して選択したカメラビューアイテムを別のカメラビューアイテムヘドラッグします。
3. ビューを復元するには、**ビューの再読み込み**  を選択するか、テンキーの **/+/+エンター** キーを押します。



ビューを永続的に変更する場合は、ワークスペースのツールバーで**設定**を選択します。

カメラビューアイテムを別の開いているビューに送信する

別のビューにカメラからのインシデントのビデオを表示するには、一時的に1つのビューから別の開いているビューにビデオを送信します。

1. 別のビューに含めるカメラビューアイテムを選択します。
2. カメラのツールバーで、**[詳細]** を、次に **[ウィンドウに送信]** を選択します。
3. 開いているビューと置き換えるビューアイテムを選択します。

4. ビューを復元するには、**ビューの再読み込み**  を選択するか、テンキーの **/+/+Enter** キーを押します。



ビューを永続的に変更する場合は、ワークスペースのツールバーで**設定**を選択します。

検索を通して一時的なビューを作成する

カメラの検索により一時的なビューを簡単に作成することができます。

1. **[ビュー]** タブで、**[ビューおよびカメラの検索]** フィールドを使ってカメラを検索します。

さらに、検索フィールドの横の  を選択すると、一般的な検索キーワードを使用できます。

2. 検索結果からビューを選択します。
3. 1つまたは複数のカメラを選択し（複数のカメラを選択するには **Ctrl** または **Shift** キーを使います）、**Enter** キーを押して一時的なビューを作成します。

ビューを保存したい場合は、ワークスペースのツールバーで **[セットアップ]** を選択します。

ビューアイテムまたはビューをリセットする

一時的に変更した内容をもとに戻します。

- **カメラビューアイテムをリセットする**： **/+Enter** キーを押します。
- **ビュー内のすべてのカメラをリセットする**： ワークスペースで **[ビューの再ロード]**  を選択するか、テンキーで **/+/+Enter** キーを押します。

ビデオのパン、チルト、ズームイン

光学ズームとデジタルズームの違い

ズーム機能はお使いのカメラの種類によって異なります。固定されたカメラもパン/チルト/スーム（PTZ）カメラもズームできますが、光学ズームとデジタルズームには重要な違いがあります。

光学ズーム

光学ズームの場合、カメラのレンズ部分が物理的に動作して、画質を低下させることなく必要なビューアングルを提供します。光学的にズームインまたはズームアウトすると、録画内容に影響を及ぼします。

PTZカメラからライブビデオを見る場合、通常はPTZカメラの光学ズーム機能を使用します。

デジタルズーム

デジタルズームは光学ズームと同じように動作しますが、デジタルズームされた部分は元の画像よりも画質が低くなります。

デジタルズームの場合、画像の一部だけを切り取って拡大表示し、元の画像のピクセルサイズへ戻すことができます。これは補間と呼ばれるプロセスです。

カメラビューアイテムでデジタルにズームする

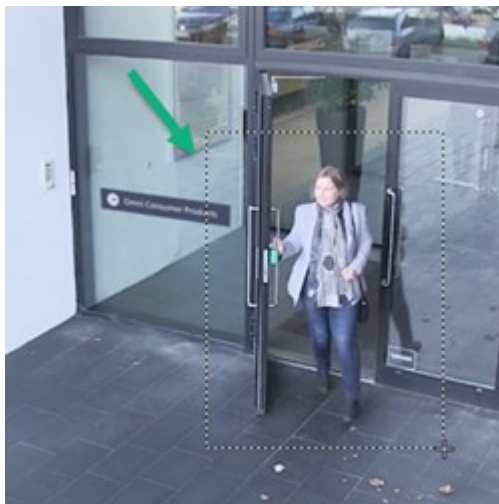
ライブモードでも再生モードでも、細かい部分を見るためにデジタルにズームインすることができます。

やり方はすべてのカメラタイプで同じですが、重要な違いがいくつかあります。

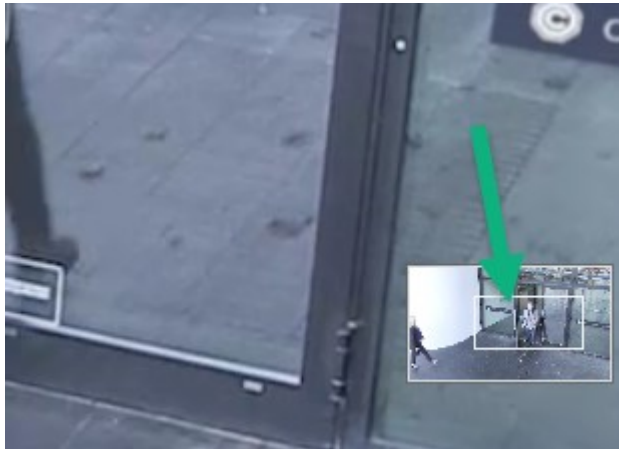
- **デジタルズーム**：固定カメラと魚眼カメラで、すべての録画されたビデオに使用できます。
- **PTZカメラ**：PTZカメラからライブビデオでズームインする場合、カメラレンズが動き、焦点距離が変わり録画内容が影響を受けます。

ズームインするには：

1. カメラビューアイテムを選択します。ビデオでズームインできない場合、カメラツールバーで **[詳細]** を、続いて **[デジタルズーム]** を選択します。
2. あるエリアにズームインする：
 - **マウスホイール**：スクロールしてズームイン、またはズームアウトを行います。
 - **クリックしてドラッグ**：カーソルが十字形の場合、ズームインしたいエリアの角を選択し、反対の角にドラッグし、ボタンを開放します。
 - **キーボードショートカット**：**SHIFT**キーを押しながらマウスを動かしてスライダーからズームレベルを選択します。



3. 別のエリアをズームインしたい場合は、オーバービューフレームで方向PTZナビゲーションボタンを使用して、ズームするエリアのフレームをドラッグするか、ズームするエリアのフレーム外の位置を選択します。



ズームの調整

1. 方向PTZボタンを使用して、ズームインしたエリアの位置を変更します。
2. オーバービューフレームで、ズームエリアをドラッグするか、ズームエリア外をクリックして、位置を変更します。

通常のズームに戻る

1. マウスホイールか、マウスボタンの真ん中を押します。
2. マウスホイールをスクロールしてズームアウトします。
3. PTZナビゲーションボタンのホームアイコンをクリックします。

ビデオチュートリアルを見る



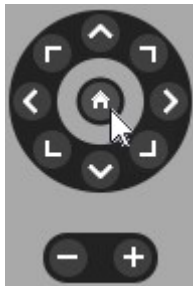
ライブビデオでパン、チルト、ズームインする

ライブビデオでパン、チルト、ズームインを行い、特定のエリアに焦点を絞ることができます。

PTZカメラと魚眼カメラの操作手法は似ていますが、PTZカメラでパン、チルト、ズームインを行う場合は物理的にカメラの方向やレンズを動かすことになり、表示される内容や録画に影響を及ぼします。

1. ライブモードで、PTZカメラまたは魚眼カメラのビデオを含むビューアイテムを選択します。
2. これらの異なる手法を使って調査を行います。

- **PTZナビゲーションボタン**：これらのボタンを使ってパン、ズームインまたはズームアウト、チルトを行います。



- **バーチャルジョイスティック**：マウスカーソルが黒い矢印である場合、ビューアイテムの内側をクリックし、左のマウスボタンを長押しすると、矢印が指している方向へカメラをパン/チルトすることができます。



- **クリックして中央へ**：マウスカーソルが十字形の場合は、ビューアイテムの内側をクリックすると、選択した場所を中心にパン/チルトが行われます。十字形に四角がある場合は、マウスであるエリアにズームインできます。



- **プリセット位置**：魚眼カメラのお気に入り位置またはPTZカメラのPTZプリセット位置を定義している場合、これらの位置へカメラを移動することができます。[116 ページのお気に入りの魚眼位置でビデオをパン、チルト、ズームインすると115 ページのプリセット位置でビデオをパン、チルト、ズームインする](#)を参照

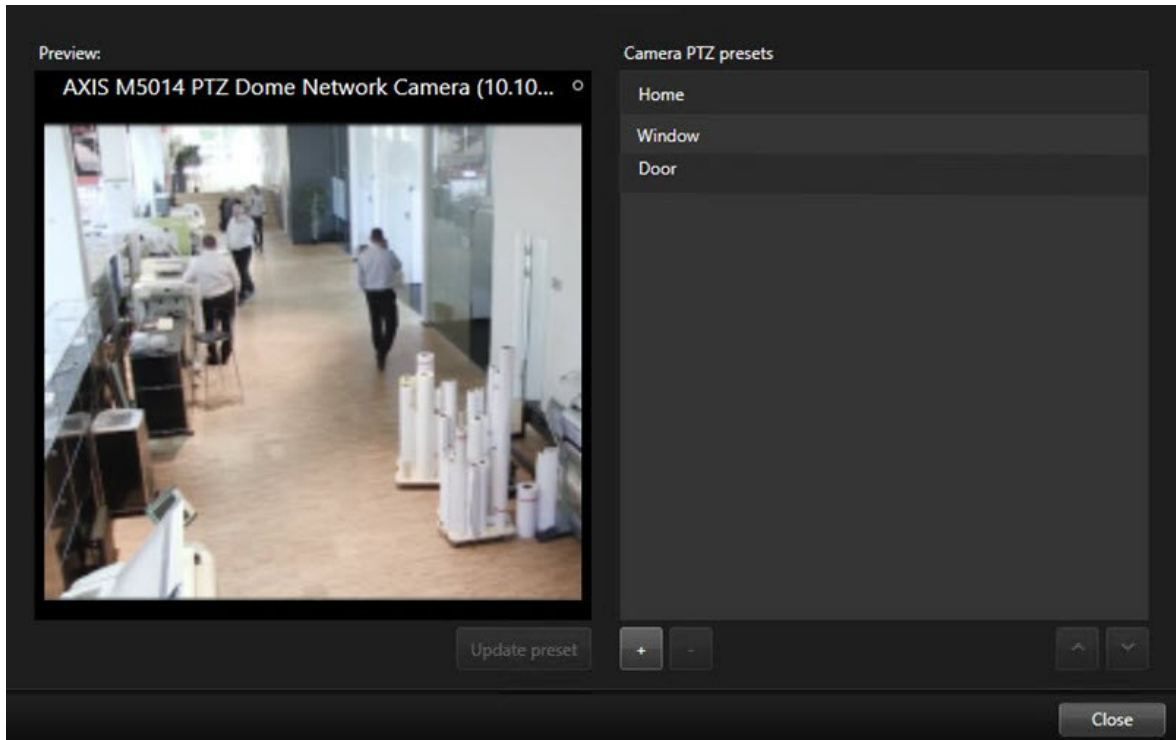
3. PTZカメラのデフォルト位置に戻るには、**[ホーム]**を選択します。

すべてのズームオプションについては、[111 ページのカメラビューアイテムでデジタルにズームする](#)を参照してください。

PTZカメラのプリセット位置を定義する

PTZカメラで同じパン、チルト、ズーム移動を頻繁に行う場合、素早くアクセスするためにこれらの位置をプリセットとして保存できます。

1. PTZカメラからのビデオを含むカメラビューアイテムを選択します。
2. カメラツールバーで、PTZアイコンを選択し、PTZメニューを開きます。
3. **[PTZプリセットの管理]** を選択してウィンドウを開きます。



4. プラスアイコンを選択し、新しいプリセット位置に追加します。
5. プリセット位置を選択し、名前を付けます。
6. PTZボタンを使用して、関連する位置に移動し、**[プリセットの更新]** を選択して保存します。
7. プリセットを並べ替える場合は、上向き矢印や下向き矢印を使用してリストにあるプリセット位置を並べ替えます。

PTZカメラのプリセット位置を編集する

PTZカメラのプリセット位置の名前を変更したり、位置を変更したりすることができます。

1. PTZカメラからのビデオを含むビューアイテムを選択します。
2. カメラツールバーで、PTZアイコン  を選択し、PTZメニューを開きます。
3. **[PTZプリセットの管理]** を選択し、編集したいPTZプリセット位置を選択します。
 - 名前を編集するには、名前を選択し、新しい名前を入力します。
 - カメラ位置を変更するには、PTZボタンを使用して目的の位置へ移動し、**[プリセットの更新]** を選択して保存します。
4. プリセットを並べ替える場合は、上向き矢印や下向き矢印を使用してリストにあるプリセット位置を並べ替えます。
5. **[とじる]** を選択してウィンドウを閉じます。

プリセット位置でビデオをパン、チルト、ズームインする

プリセット位置を使用することで、よく使う方向やズームレベルにPTZカメラを素早く移動することができます。

PTZカメラをプリセット位置に移動する。

1. PTZカメラからのビデオを含むビューアイテムを選択します。
2. カメラツールバーで、**PTZ**  を選択し、PTZメニューを開きます。
3. PTZメニューで、リストからプリセット位置を選択しカメラを目的の方向とズームレベルに移動します。
カメラがプリセット位置に到達するまで、PTZアイコンは緑で表示されます。

プリセット位置のロック：システム管理者はプリセット位置をロックすることができます。その場合PTZメニューにあるパドロックアイコンが表示されます。ロックされた位置は変更できません。

ホーム位置：プリセット位置「ホーム」を選択すると、カメラはそのホームプリセット位置に移動します。

お気に入りの魚眼レンズの位置の定義

頻繁に使用する方向や焦点距離を魚眼カメラのお気に入り位置として保存することができます。



それぞれの魚眼カメラに対し、一度に一つのお気に入り位置を保存できます。

1. 魚眼カメラからのビデオを含むビューアイテムを選択します。
2. カメラツールバーで、**PTZ**  を選択し、PTZメニューを開きます。
3. ビデオをパン、チルト、ズームインして目的の位置に移動します。
4. **[魚眼レンズ位置の保存]** を選択します。

お気に入りの魚眼位置でビデオをパン、チルト、ズームインする

定義されたお気に入りの魚眼位置を選択することで、よく使用する方向や焦点レベルに素早く移動することができます。

1. 魚眼カメラからのビデオを含むビューアイテムを選択します。
2. カメラツールバーで、**PTZ**  を選択し、PTZメニューを開きます。
3. 定義されたお気に入りの魚眼位置に移動するには、**[魚眼レンズ位置の読み込み]** を選択します。

パトロール

パトロール

XProtect Smart Clientには、PTZカメラのためのさまざまなパトロール機能があり、さまざまな状況下での状況認識を高めます。

- ルール制御によるパトロール。
 - [117 ページのルールに基づくパトロールセッションの停止と開始](#)
 - [117 ページのルールに基づくパトロールセッションまたは手動によるパトロールセッションを停止する](#)
- パトロールプロファイルをトリガーすることで、手動でパトロールを開始するのが手動パトロールです。
 - [116 ページの手動パトロールセッションの開始および停止](#)
 - [117 ページのルールに基づくパトロールセッションまたは手動によるパトロールセッションを停止する](#)
- 重大なインシデントやカメラのメンテナンスの際に、PTZセッションを予約することで、お客様だけがPTZカメラを制御できます。
 - [118 ページのPTZセッションの予約とリリース](#)

手動パトロールセッションの開始および停止

ルールに基づくパトロールで部屋のある領域が適切に監視されない場合や、ルールに基づくパトロールが設定されていない場合などに、手動でPTZカメラによるパトロールセッションを開始できます。

手動によるパトロールセッションを開始するには、ユーザーは、現在カメラを制御しているユーザーやルールよりも高位のPTZ優先度を持っている必要があります。

1. パトロールを開始する必要があるPTZカメラを含むビューアイテムを選択します。
2. カメラツールバーで、**PTZ**  を選択し、PTZメニューを開きます。
3. **[PTZプリセットの管理]** エントリの下で、このカメラに設定されたパトロールプロファイルを見つけます。

4. 必要なパトロールプロファイルを選択します。

PTZメニューでは、チェックマーク  が付いている場合すべてのユーザーがパトロール プロファイルが実行中であることを確認できます。

5. 手動パトロールを停止するには、もう一度プロファイルを選択します。

XProtectVMSによりカメラによる定期パトロールが再開され、他のユーザーは再びカメラを使用できるようになります。

ルールに基づくパトロールセッションの停止と開始

システム管理者がPTZカメラにパトロールをさせるルールを定義している場合、インシデントが起こった際にルールに基づくパトロールを停止することができます。例えば、カメラを特定の方向に維持したり、動かしたりします。

お客様が現在カメラを制御しているユーザーやルールよりも高位のPTZ優先度を持っている場合は、パトロールセッションを停止することができます。

1. ライブモードで、関連するPTZカメラを含むビューアイテムを選択します。

2. カメラツールバーで、**PTZ**  を選択し、PTZメニューを開きます。

PTZアイコンが赤の場合は、PTZカメラがパトロール中か、別のユーザーが手動でカメラを制御しています。

3. **[PTZパトロールの停止]** を選択します。

4. これで手動でパン、チルト、ズームできる他、PTZカメラを現在の方向に維持できるようになりました。

5. ルールに基づくパトロールを再開するには、もう一度**[PTZパトロールの停止]** コマンドを選択します。

ルールに基づくパトロールセッションまたは手動によるパトロールセッションを停止する

システム管理者がお客様にPTZ優先度権限を付与している場合、ルールに基づくパトロールセッションや他のユーザーが開始した手動によるパトロールセッションを一時停止することができます。

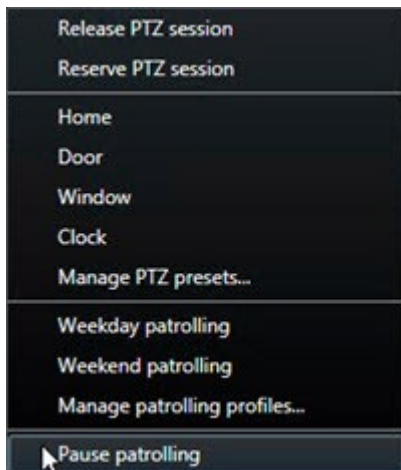
お客様が現在カメラを制御しているユーザーやルールよりも高位のPTZ優先度を持っている場合は、パトロールセッションを一時停止することができます。

1. ライブモードで、関連するPTZカメラを含むビューアイテムを選択します。

2. カメラツールバーで、**PTZ**  を選択し、PTZメニューを開きます。

PTZアイコンが赤の場合は、PTZカメラがパトロール中か、別のユーザーが手動でカメラを制御しています。

3. **[パトロールの一時停止]** を選択します。



お客様のPTZアイコンがグリーンに、他のすべてのXProtectSmartClientユーザーのアイコンが赤になります。



カメラでパンやズームをすると、パトロールの一時停止が解除されます。

4. ルールに基づくパトロールを再開したり、カメラを開放し他のユーザーが制御できるようにするには、**[パトロールの一時停止]** を選択します。

PTZセッションの予約とリリース

PTZカメラのメンテナンスが必要な場合や、PTZカメラを完全に制御することが求められるインシデントが発生した場合は、システム管理者定義した時間内であれば、カメラを制御する権利を留保することができます。

PTZセッションを予約した場合、高位のPTZ優先権を持っているユーザーも含め、他のユーザーはカメラを制御できなくなります。PTZセッションの必要がなくなったら権利を手放し、他のユーザーがカメラを制御できるようにするか、ルールに基づく通常のパトロールを再開します。手続きをし忘れた場合でも、システム管理者が定義した時間が過ぎると、予約は修了します。



自分よりも高い優先度を持つユーザーがカメラを制御している場合や、別のユーザーがすでにカメラを予約している場合は、PTZセッションを予約できません。

PTZセッションの予約：

1. ライブモードで、予約するPTZカメラのビデオを含むカメラビューアイテムを選択します。
2. カメラツールバーで、PTZ  を選択し、PTZメニューを開きます。
3. [PTZセッションの保存]を選択します。手動でパトロールを開始した場合には、自動的に停止します。

これでPTZカメラの予約ができました。タイマーにより、予約したPTZセッションの残り時間が表示されます。

PTZセッションのリリース：

1. ライブモードで、予約したPTZカメラを含むビューアイテムを選択します。
2. カメラツールバーで、PTZ  を選択し、PTZメニューを開きます。
アイコンが緑色の場合は、現在自分がPTZカメラを制御していることを示しています。
3. メニューで[PTZセッションのリリース]を選択します。

プライバシーマスクを外す

プライバシーマスク

システム管理者は、カメラの視野内の領域をばかしたり隠したりすることで、個人住宅の窓などのプライベートまたは公共エリアを保護できます。XProtect Smart Clientでは、プライバシーマスクはライブ、再生、およびエクスポートに適用されます。

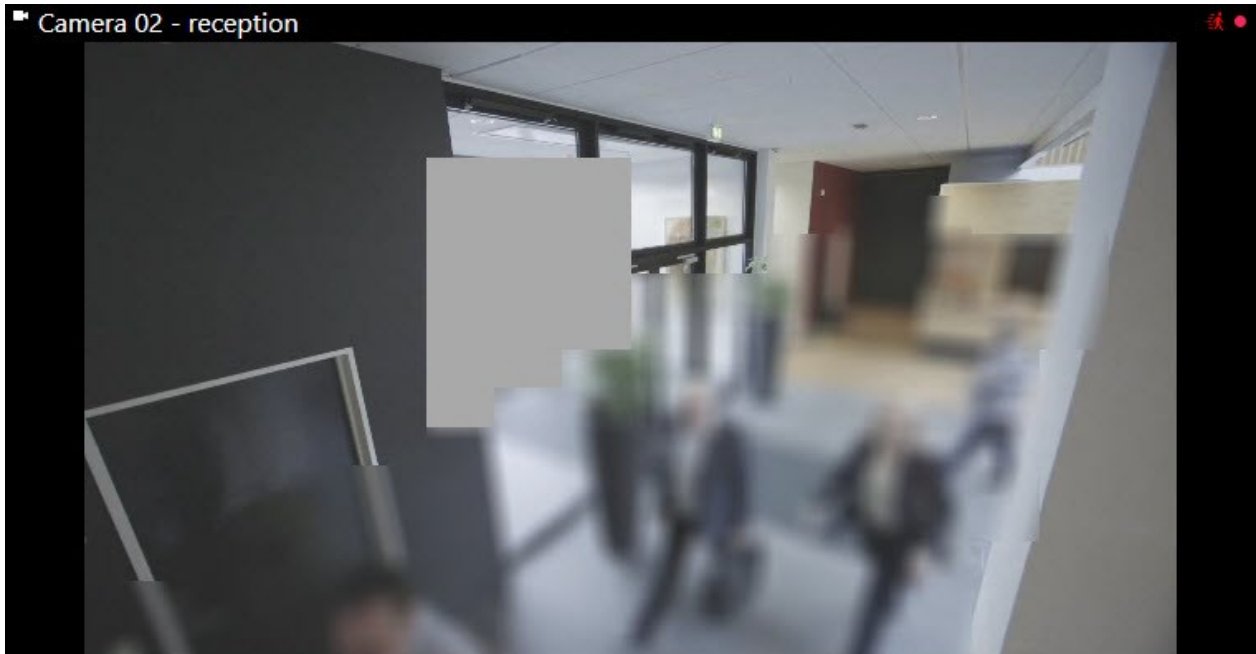
プライバシーマスクは、永続的または解除できるようにすることができます。永続的なマスクはデフォルトでは完全に塗りつぶされた状態で覆われますが、解除可能なマスクの場合は50%ばかした状態になります。システム管理者は、いずれのタイプのプライバシーマスクをカメラに表示するかを定義します。

次の画像は、隣接する建物の5つの窓が永続的なプライバシーマスクで覆われていることを示しています。



システム管理者がプライバシーマスクを解除可能にすると定義し、適切なユーザー権限を持っている場合は、XProtect Smart Client ですべてのプライバシーマスクを一時的に解除することができます。

この例のプライバシーマスクは2種類です。灰色の塗りつぶされた領域は永続的なプライバシー マスクで、ぼかされた領域は解除可能なプライバシーマスクです。



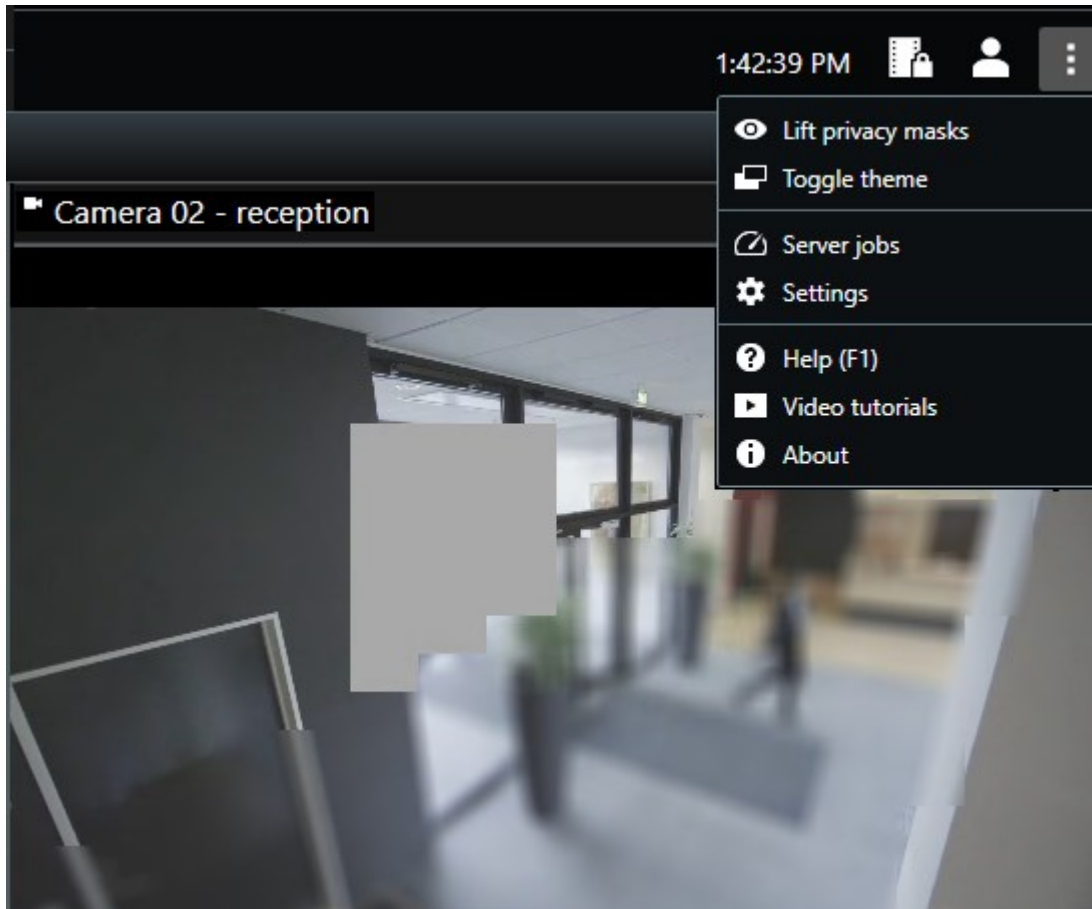
ビデオのエクスポート時に、エクスポートしたビデオにプライバシーマスクを追加できます。

234 ページのエクスポート中に[プライバシーマスクを録画に追加](#)もご参照ください。

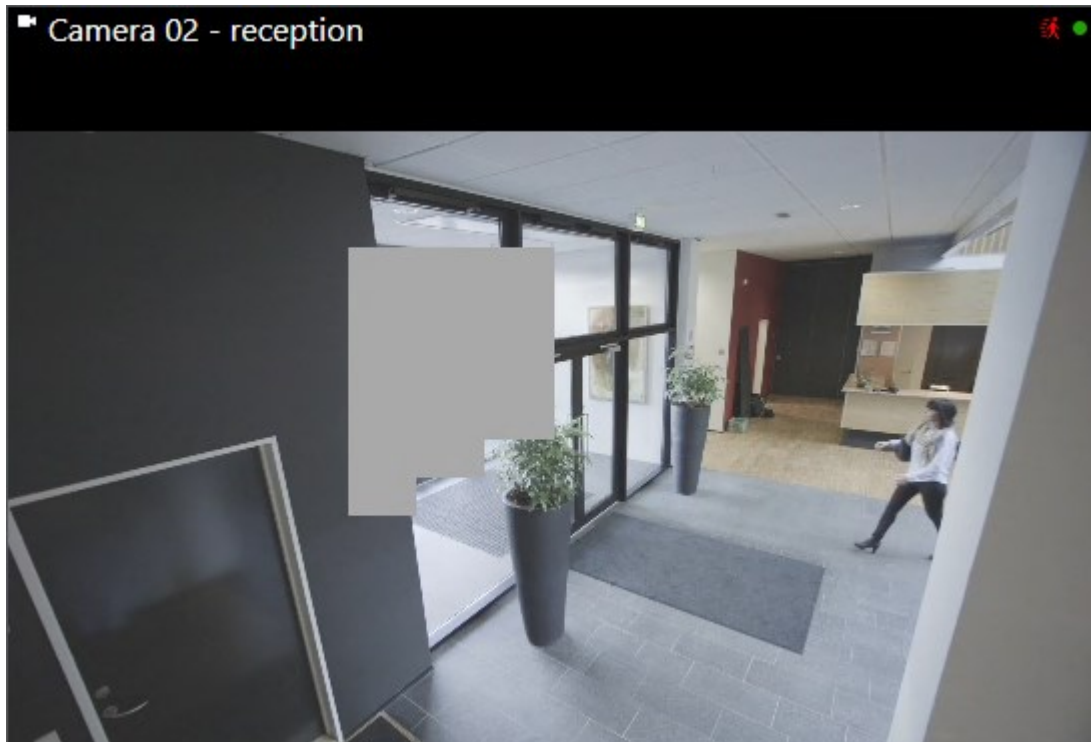
プライバシーマスクの除去と再適用

状況によっては、プライバシーマスクでカバーされた領域を見る必要がある場合があります。権限が付与されていない場合は、除去可能なプライバシーマスクを除去することはできません。

1. グローバルツールバーで、**[設定その他]** および**[プライバシーマスクの除去]** を選択します。



適切な権限が付与されている場合、除外可能なプライバシーマスクは表示されなくなります。常設のプライバシーマスクは、担当領域をカバーし続けます。



ユーザー権限が付与されていない場合、スーパーバイザーに問い合わせるよう求めるウィンドウが表示されます。

An authorization dialog box with a dark background and white text. The text reads: 'Contact a supervisor that has the rights to authorize you to temporarily lift privacy masks for all cameras.' Below this, it says 'User currently logged in: 5/5'. There are three sections: 'Authentication' with a dropdown menu set to 'Windows authentication', 'Domain:' followed by a text input field, and 'Authorized by' followed by a text input field. At the bottom, there is a 'Password' label and another text input field. At the very bottom right, there are two buttons: 'Authorize' and 'Cancel'.

2. 除去可能なプライバシーマスクを再度適用するには、**[設定その他]** および **[プライバシーマスクの適用]** を選択します。

プライバシーマスクの再適用をし忘れた場合、システム管理者によって定義された時間が経過すると、プライバシーマスクが再度適用されます。デフォルトの時間は30分です。

ビデオチュートリアルを見る



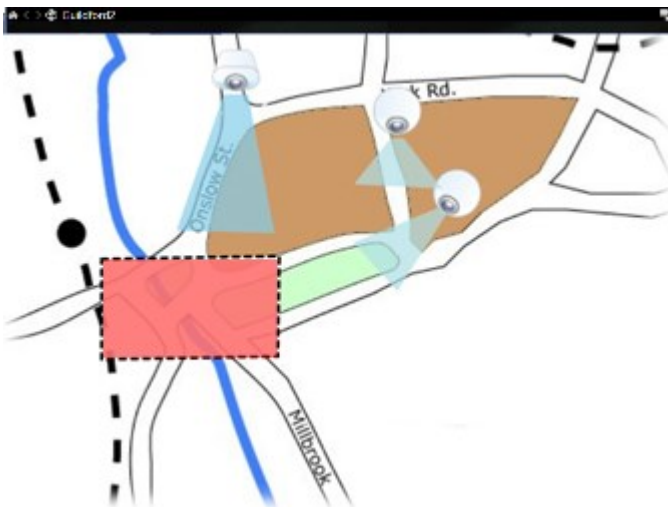
マップで地理的な概要を把握

マップとスマートマップ

状況認識を向上させるために設計された2つのマップ機能があります。マップとスマートマップ。

両方の機能を使用することで、関心のあるエリアをバーチャルに再現できます。カメラやその他のデバイスが取り付けられているロケーションに、個々のカメラやその他のデバイスを示すアイコンを配置することができます。

マップとスマートマップの例はそれぞれ以下の通りです。



マップ上のカメラまたはデバイスを示すアイコンを選択して、カメラまたはデバイスと対話できます。ルールによりイベントが登録された場合、またはアラームがトリガーされた場合、関連するカメラまたはデバイスを示すアイコンが強調表示され、どこでインシデントが発生しているか特定しやすくなります。

スマートマップ機能は、マップ機能よりも高度です。マップ機能では、エリアや建物を視覚化するために静止画像のみ使用できます。

マップの場合はエリアや建物を仮想的に示すのに静止画像が使われますが、スマートマップの場合は、Google Map、BingMap、OpenstreetMapなどの地理情報システムを静止画像およびCAD図面と組み合わせることができます。この追加の機能により、1つまたは複数のロケーション全体でカメラのオーバービューがより正確なものになります。

スマートマップの操作

スマートマップ

Milestone XProtect VMSのスマートマップには、お客様の組織のロケーションのインタラクティブなリアルタイムビューが表示されます。スマートマップでは、カメラ、アラーム、その他のデバイスがお客様の組織のロケーションのデジタルマップに表示されるため、容易にインシデントをモニターして応答できるようになります。

スマートマップを使用すると次のことができます。

- お客様のロケーションの高度なオーバービューを取得：スマートマップ上にすべてのセキュリティデバイスがマッピングされているので、潜在的な問題をすばやく特定して対応することができます。
- ビジュアルフィードバックを直ちに取得：アラームがトリガーされるとスマートマップ上に正確なロケーションが表示されるため、状況をすばやく評価して対応することができます。
- デバイスを効率よく操作：スマートマップ上のアイコンを選択してライブカメラフィードにアクセスできます。リストを検索しなくても、さまざまなエリアに移動できます。
- スマートマップ上でセキュリティデバイスを直接的に制御：カメラの調整、アラームの承認の他、マップインターフェースから直接その他のタスクを実行できます。
- セントラルビューでロケーションをモニター：単一のマップで複数のロケーションを管理できます。スマートマップは、さまざまなロケーションでのセキュリティオペレーションを1つのビューにまとめることができるため、作業をより効率よく実行できます。

スマートマップ上で複数の都市、地域、国、および大陸のあらゆる場所をズームアウトで確認したり、それぞれにロケーションに迅速に移動して関連するカメラのビデオを表示したりできます。

例：スマートマップ上で様々な施設のカメラの録画を1つの場所で確認し、ズームアウトして、マウスで一度ドラッグするだけで世界中を移動し、様々な地理的ロケーションにある施設内のカメラで拡大することができます。

スマートマップは、お客様の組織が監視を行っている場所を含むMilestoneMapサービス、Google Maps、Bing Mapsなどのオンラインサービスに接続することができます。



ほとんどのスマートマップ機能を、Milestone XProtect VMSのすべてのバージョンで 사용할 수 있습니다. Google Maps, Bing Maps, CAD 파일의 오버레이에 대한サポート는, XProtect® CorporateおよびXProtect Expertのみで利用可能です。

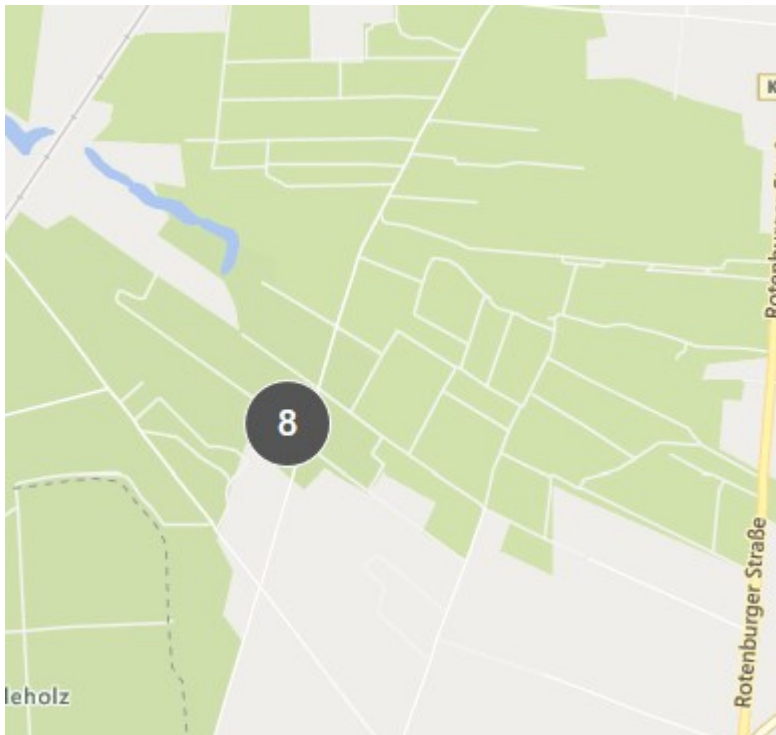
スマートマップ上のデバイスとアラームの表示

スマートマップ上でのデバイスの表示

スマートマップ上でのデバイスの表示のされ方は、デバイスがお互いにどれだけ近いことや、どれだけズームインまたはズームアウトしたかによって異なります。また、いくつデバイスを選択したかにも影響を受けます。

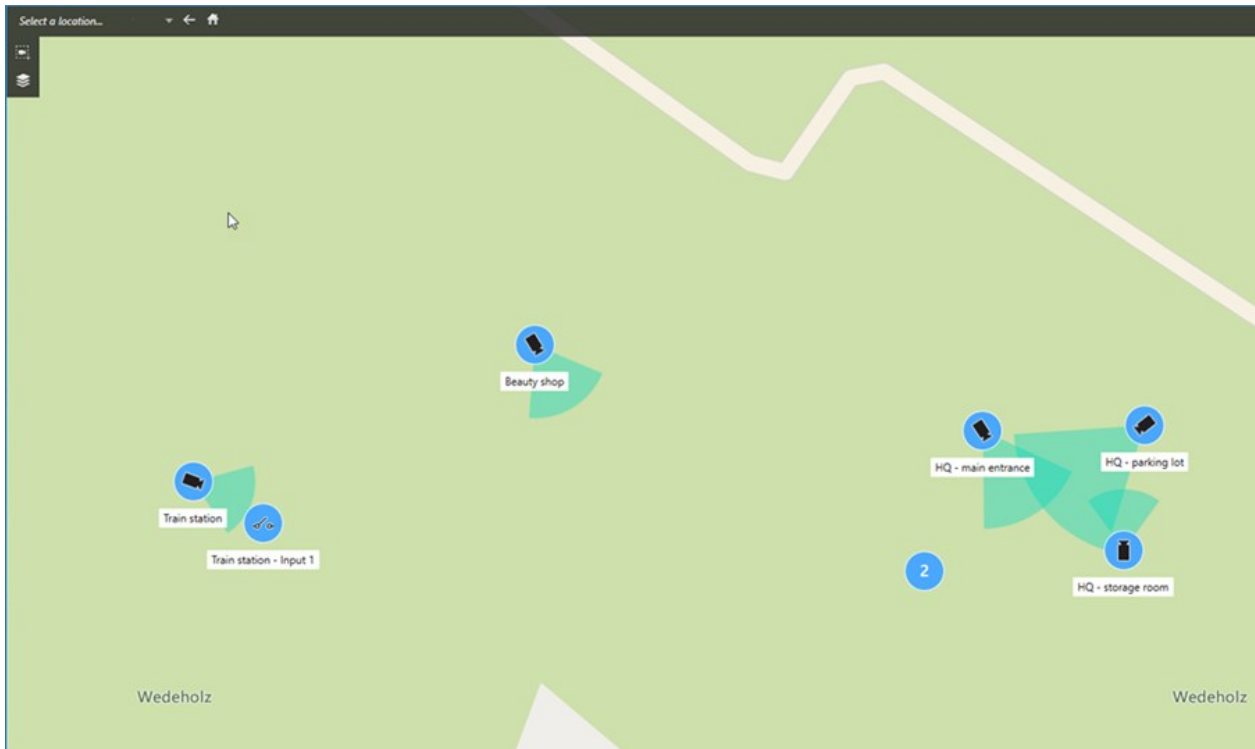
ズームレベルとの相対的な関係で、互いに距離の近いデバイス

カメラと他のデバイスが互いに近くにあるときにズームアウトすると、デバイスはクラスタにグループ化され、円状のアイコンで表示されます。クラスタアイコンには、クラスタ内のデバイスの数が表示されます。



ズームレベルとの相対的な関係で、互いに距離の遠いデバイス

クラスタをダブルクリックするなどしてズームインした場合、個々のデバイスとサブクラスタが表示されます。

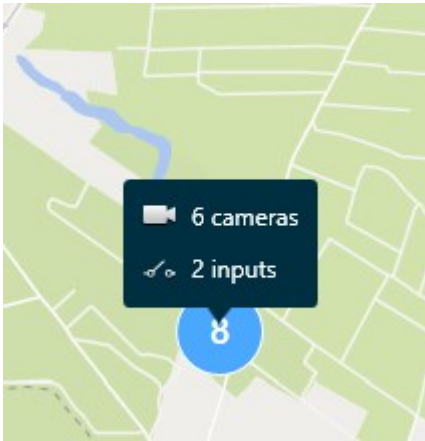


クラスターアイコンによって共有される情報

クラスターに複数のタイプのデバイス（カメラや入力デバイス、カメラなど）が含まれている場合、クラスターアイコンにはデバイスの数が表示されます。クラスターに1種類のデバイスしか含まれていない場合は、クラスターはデバイスのタイプと数が両方とも表示されます。



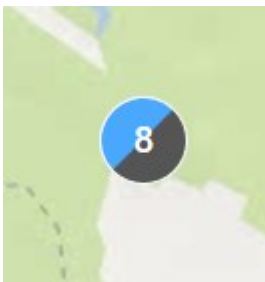
クラスターアイコンをクリックすると、クラスター内のさまざまな種類のデバイスの概要を見ることができます。



選択したデバイスとクラスタの表示

スマートマップ上でデバイスとクラスタを選択した場合、それらは青色に変わります。デバイスとクラスタは好きな組み合わせと数で選択できます。

このようなクラスタアイコンが表示された場合は、クラスタ内の一部のデバイスのみが選択されています。

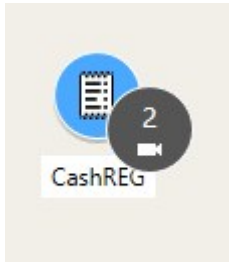


MIPエレメントクラスタ



MIPエレメントは、他の種類のデバイスとはクラスタを形成しません。同じタイプのMIPエレメントのみとクラスタになります。

- 例1：2台のカメラと1つのMIPエレメントがある場合、クラスタは以下の画像にあるように表示されます。



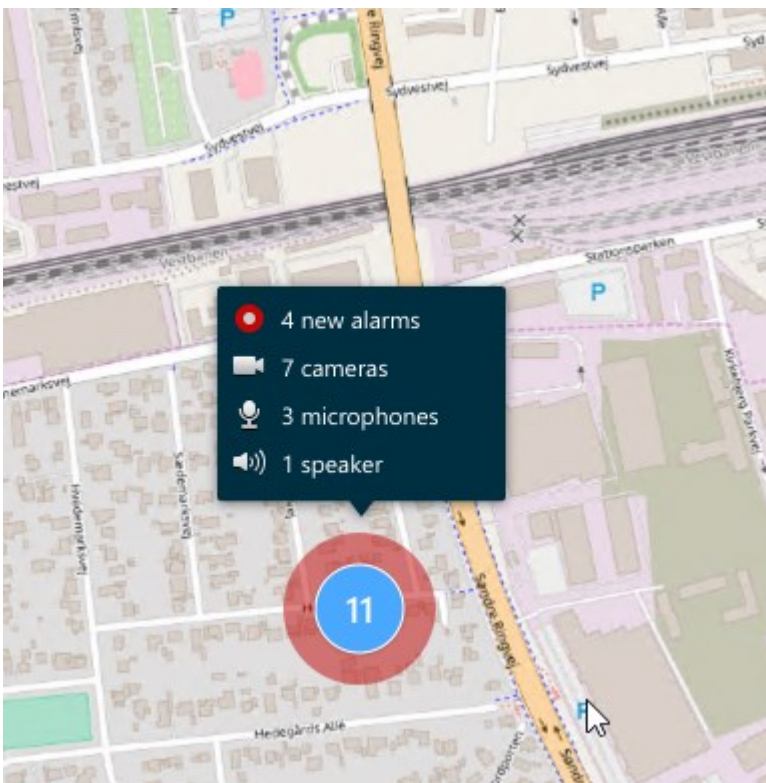
- 例2：エリア内に異なる種類のMIPエレメントが2つある場合、クラスタは表示されません。

MIPエレメントには独自のレイヤーがあり、スマートマップのツールバーで  [レイヤーおよびカスタムオーバーレイを表示または非表示にする] を選択するとオンまたはオフにできます。

スマートマップ上でのアラームの表示

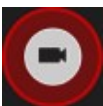
適切な権限が付与されている場合、スマートマップ上にアラームが表示されます。

デバイスがアラームをトリガーし、そのデバイスがスマートマップに追加されると、アラームはデバイスの周囲に赤い円として表示されるか、デバイス内のクラスタアイコンとして表示されます。[340 ページのスマートマップ上のデバイスの追加、削除、編集](#)をご参照ください。



下のアイコンは、デバイスがアラームをトリガーしたかどうか、またはアラームがアラームをトリガーしたデバイスに関連しているかどうかに応じて、アラームがスマートマップにどのように表示されるかを示しています。

例としてカメラアイコンが表示されていますが、原則はすべてのデバイスとクラスタにおいて同様です。

アイコン	説明
	これはソースカメラ（アラームをトリガーしたカメラ）です。
	これは関連カメラ（選択したソースカメラ（アラームを起動したカメラ）に関連付けられているカメラ）です。 このアイコンは、ソースカメラを選択した場合に表示されます。
	これは、ソースカメラと関連カメラの両方を指します。このカメラはアラームをトリガーし、そのカメラはアラームのある別のソースカメラにも関連付けられています。 このアイコンは、その他のソースカメラを選択した場合に表示されます。

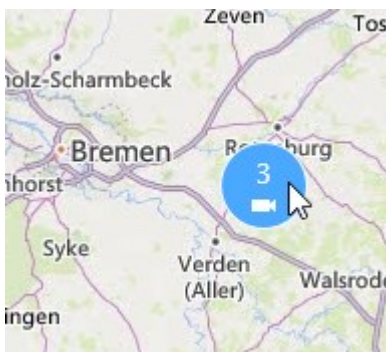
スマートマップ上の移動

スマートマップ上でズームインおよびズームアウトを行う

スマートマップ上でズームインして、特定の場所にあるすべてのカメラやその他のデバイスを確認することができます。またズームアウトして、以前とは異なるロケーションにズームインするなど、すべてのロケーションを確認できます。

スマートマップを選択した場合、以下の方法でズームできます。

- マウスのスクロールホイールを使用します。
- クラスタがある場合、クラスタをダブルクリックするか右クリックして、**[ズーム]**を選択します。スマートマップは、クラスタ内のあらゆるデバイスまたはサブクラスタが表示されているレベルにズームします。



- SHIFT**キーを押しながら、ポインターをドラッグしてスマートマップ上のエリアを選択します。マップが拡大し、選択した場所が中心に表示されます。

以下のサービスを使用している場合は、マップ上でのズームインに制限が発生する場合があります。



- Bing マップ
- Google マップ
- Milestone Map Service
- OpenStreetMap

ズームの限度を超えると、スマートマップは地理的背景を表示できなくなります。デバイスとシェープファイル画像を含む他のレイヤーは引き続き表示されます。

スマートマップ上で定義されたロケーションへ移動する

スマートマップ上の定義されたロケーションへジャンプすることで、特定のエリアにすばやく正確にアクセスすることができます。

1. スマートマップを含むビューを選択します。
2. ビューの左上で、**[場所の選択]** リストを開きます。ロケーションを既に選択している場合は、そのロケーションがリストに表示されます。



3. リスト内で移動したいスマートマップ上の場所を選択します。

スマートマップ上で前のロケーションに戻る

スマートマップ上で一つのロケーションから別のロケーションへ移動する際、XProtect Smart Clientによる訪問履歴が記録されています。このロケーション履歴には、パン/ズームし、クリックした場所が記録されます。パンまたはズームしただけの場所は履歴に残りません。

後戻りすると、たった今閲覧していたロケーションが履歴から削除されます。前に進む動きだけが記録に残り、他のビューを選択すると消去されます。

- 前のロケーションに戻るには、 **[戻る]** を選択します。さらに戻るには数回クリックします。



スマートマップ上のデバイスへ移動する

システム管理者がデバイスの地理座標を指定した場合、スマートマップ上でデバイスのある場所へ移動し、地理的コンテキストでそれを表示することができます。これは、デバイスの場所を忘れてしまったり、近くのデバイスをチェックしたい場合に便利です。

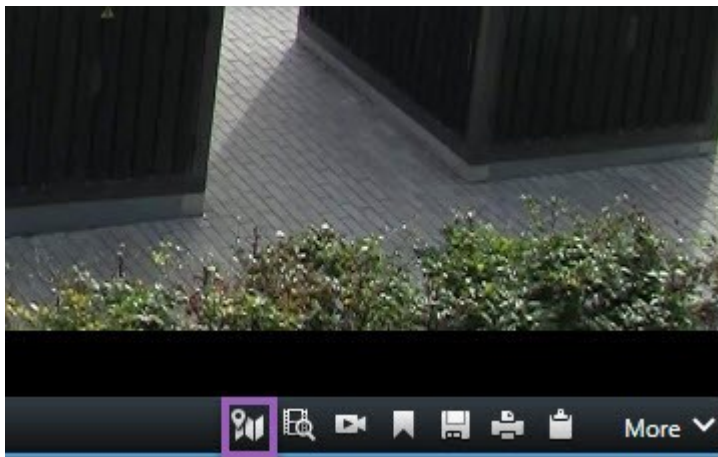
2通りの方法で、デバイスへ移動できます。

[ビュー]ペインを選択します。

1. [ビュー] ペインを開きます。
2. デバイスを検索します。デバイスが存在する場合は、検索結果に表示されます。
3. 移動したいデバイスの上にマウスを合わせます。
4.  を選択して、デバイスに移動します。スマートマップがフローティングウィンドウ上に現れます。

カメラツールバーから、以下を実行します。

1. スマートマップ上で移動したいカメラを含むビューおよびビューアイテムを選択します。
2. カメラのツールバーで、 を選択し、カメラへ移動します。



スマートマップ上でカスタムオーバーレイへ移動する

スマートマップにカスタムオーバーレイがある場合は（建物のCAD図面など）、簡単に移動することができます。

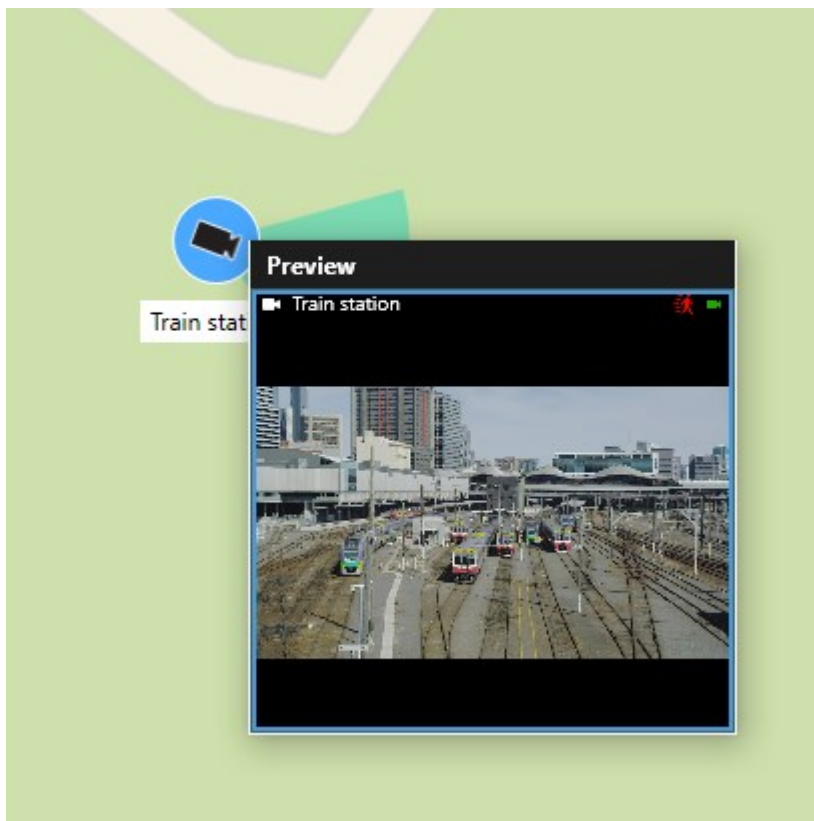
1. スマートマップで、 **レイヤーとカスタムオーバーレイを表示または非表示にする** をクリックします。ウィンドウが表示されます。
2. **カスタムオーバーレイ** セクションへ移動します。
3. お探しのオーバーレイの横にある  を選択して、スマートマップ上のそのロケーションへ移動します。

スマートマップからビデオや音声を視聴

1台のカメラからライブビデオをプレビューする

スマートマップ上で単一のカメラからプレビュービデオを見ることができます。ライブビデオはプレビューウィンドウに表示されます。カメラから録画されたビデオを見るには、個別再生をスタートするか、ビデオを新しいフローティングウィンドウに送信します。

1. スマートマップを選択し、ビデオを見るカメラを見つけます。
2. カメラをダブルクリックするか、右クリックして [**ライブプレビュー**] を選択します。ライブビデオフィードは**プレビュー**ウィンドウに表示されます。



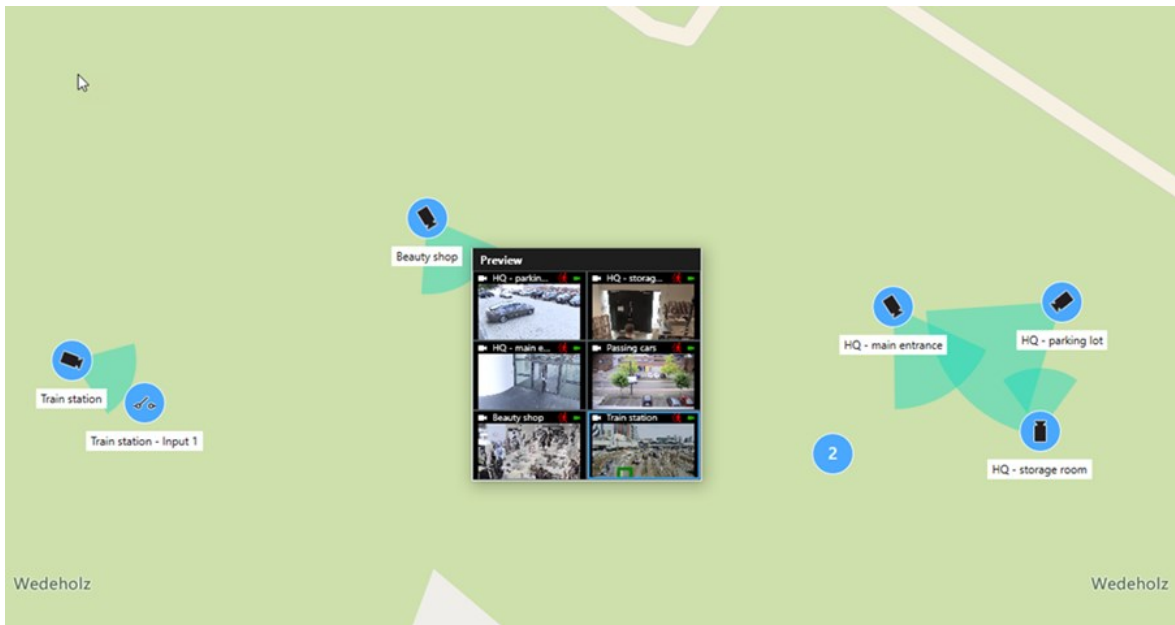
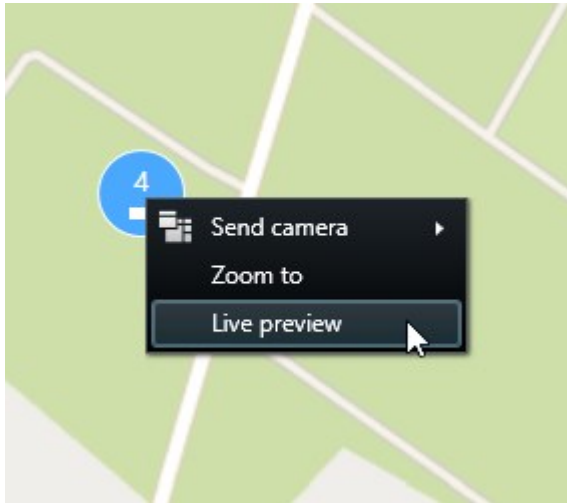
3. ビデオを再生して詳細を調べる場合:
 - **プレビュー**ウィンドウで**個別再生**を選択します。
 - または、**プレビュー**ウィンドウで、**詳細**、**ウィンドウに送信**、**新しいフローティングウィンドウ**の順に選択します。

複数のカメラからライブビデオをプレビューする

スマートマップ上で、最大25台のカメラからのライブビデオを同時にプレビューすることができます。録画されたビデオを見るには、ビデオを新しいフローティングウィンドウに送信します。

1. スマートマップを選択し、ビデオを見るカメラを見つけます。
2. 以下のいずれかの方法でカメラを選択します。
 - カメラを選択する際、**Ctrl** キーを長押ししてください。
 - ツールバーで  **[複数のカメラを選択する]** を選択し、選択 & ドラッグでエリア内のカメラを選択します。
 - クラスタアイコンをダブルクリックしてズームインし、クラスタ内のデバイスとサブクラスタ（適宜）を選択します。
 - クラスタ内のすべてのカメラを一度に選択するには、少なくとも1つのクラスタを選択します。

3. 選択したカメラまたはクラスタを右クリックし、**[ライブプレビュー]**を選択するか、**Enter**キーを押します。



4. ビデオを再生して詳細を調べる場合:

- プレビューウィンドウで**個別再生**を選択します。
- または、**プレビューウィンドウで、詳細、ウィンドウに送信、新しいフローティングウィンドウ**の順に選択します。

ホットスポットとスマートマップを両方含むビューからのビデオを表示

スマートマップとホットスポットビューアイテムの両方を含むビューがある場合、ホットスポットビューアイテムにあるスマートマップ上のカメラからビデオを見ることができます。スマートマップ上でカメラを選択するたびに、ホットスポットビューアイテムにそのビデオが表示されます。この方法は、ホットスポットを含む別のビューでビデオをプレビューしたりビデオを見たりするよりも素早く簡単です。

1. スマートマップおよびホットスポットビューアイテムを含むビューを開きます。
2. スマートマップ上でカメラを見つけます。
3. ビデオを表示するカメラを選択してください。カメラを選択すると、そのビデオがホットスポットビューアイテムに表示されます。

ホットスポットを含むが、スマートマップを含まないビュー内のビデオを見る

ホットスポットビューアイテムを含むビューがある場合、それらが別のビューにある場合でも、ホットスポットビューアイテムでスマートマップ上のカメラからそのビデオを見ることができます。

1つのビューにあるスマートマップ上のカメラを選択すると、別のビューのホットスポットビューアイテムにあるそのビデオが表示されます。

1. **[ビュー]** ペインで、ホットスポットを含むビューを右クリックします。
2. **ビューを送信**を選択し、**フローティングウィンドウ**といったディスプレイオプションを選択します。
3. ホットスポットとスマートマップを含むビューをモニター上に配置すると、両方を見ることができます。
4. スマートマップ上でカメラを見つけます。
5. カメラを選択します。カメラを選択すると、そのビデオがホットスポットビューアイテムに表示されます。

スマートマップで音声を聞く

スマートマップにマイクを追加すると、ライブモードで一度に1つのマイクからの音声を聞くことができます。

1. スマートマップを選択します。
2. マップ上でマイクを見つけます。
3. マイクをダブルクリックすると、ミュート/ミュート解除ができます。

また、マイクを右クリックして、**[マイクのミュート]**または**マイクのミュート解除**を選択することもできます。

レイヤーの非表示と表示

スマートマップのレイヤー

スマートマップには複数のレイヤーがあります。各レイヤーには異なる要素が含まれています。

スマートマップレイヤー上の要素は非表示にすることができます。この機能を使用すると、特定のエレメントにフォーカスしたり、スマートマップ上の表示を簡素化したりすることができます。

レイヤー	要素

システム要素	カメラとその他のデバイス。リンクとロケーション。
カスタムオーバーレイ	ビットマップ画像、CAD図面、およびシェープファイル。
地理的背景	基本的な世界地図または以下のサービスのいずれか: • Bing マップ • Google マップ • Milestone Map Service • OpenStreetMap

スマートマップ上のレイヤーを表示または非表示にする

地理的背景を含め、スマートマップ上のレイヤーを表示または非表示にすることができます。この機能を使用すると、特定の要素にフォーカスしたり、スマートマップ上の表示を簡素化したりすることができます。

1. スマートマップを選択します。
2. ツールバーで、 **[レイヤーとカスタムオーバーレイを表示または非表示にする]** をクリックします。
3. **[システム要素]**と**[カスタムオーバーレイ]**を含むレイヤーを表示または非表示にするには、チェックボックスを選択又は選択解除します。



システム要素レイヤーを非表示にすると、レイヤーを再度表示するまですべてのマイクがミュートされます。手動で消音されたマイクは消音されたままになります。

4. **地理的背景**レイヤーを非表示にするには、**なし**を選択します。

地理的背景レイヤーが非表示になった場合でも、地理参照はスマートマップに適用されます。

トラブルシューティング：スマートマップ

スマートマップにデバイスが表示されていません

スマートマップにカメラやその他のデバイスが表示されていない場合、システム要素のレイヤーが非表示に設定されている可能性があります。有効にするには、[334 ページのスマートマップ上のレイヤーを表示または非表示にする](#)を参照してください。

デバイスがスマートマップに表示されません

スマートマップに1つ以上のデバイスが表示されるはずなのに表示されない場合は、デバイスが地理的な位置が定まっていない可能性があります。

この問題を解決するには次のいずれかを実行します：

- 階層表示されたデバイスのリストから、スマートマップにデバイスをドラッグしてください。このアクションは、ユーザープロファイルでデバイスの編集が有効になっている場合にのみ実行できます。
- または、XProtect Management Clientでデバイスプロパティの地理座標を指定するようシステム管理者に依頼してください

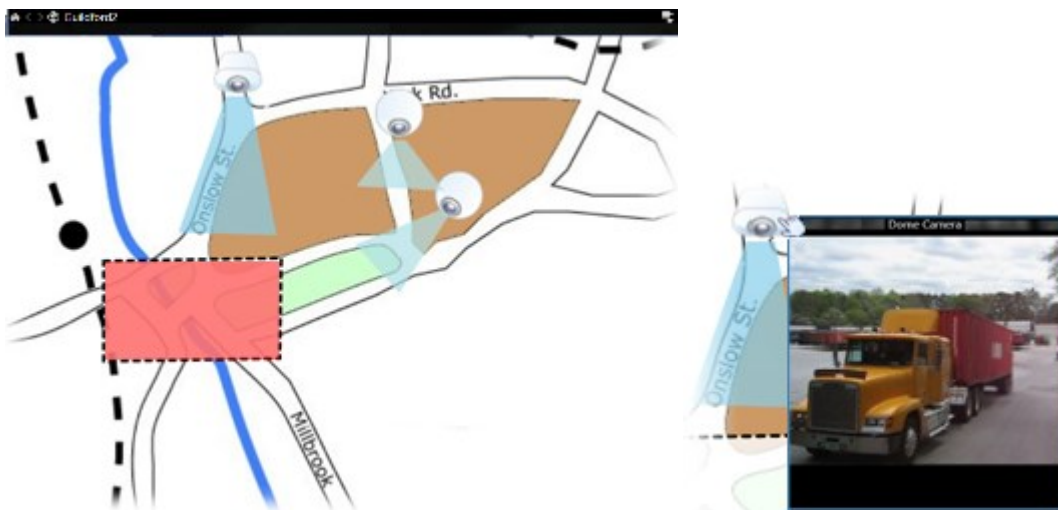
マップの操作

マップ

マップで、XProtectVMSシステムの物理的概観を把握できます。マップに追加されたカメラや他のデバイス、そしてカメラが向いている方向を直ちに確認することができます。マップはナビゲーションに使用できます。マップは階層にグループ分けすることができます。これにより、大まかな視点から詳細な視点へ（たとえば、市レベルから町村レベルへ、建物レベルから部屋レベルへなど）と、ホットゾーンを掘り下げることができます。

マップにあるカメラのアイコンの上にマウスを移動させると、カメラからの録画済みビデオをプレビューウィンドウで再生することができます。再生モードのステータス情報は、記録されたデータを基にして生成されたものではなく、ライブモードで再生されるものと同様、エレメントの現在のステータスから取得されています。

カメラエレメントとホットゾーンのあるマップの例：



マップの外観

マップはXProtectVMSシステム内のカメラやその他のデバイスを表すエレメントが追加された静止画像です。マップの大半は地理的なマップですが、それ以外であっても構いません。組織のニーズによって異なりますが、写真およびその他の種類の画像ファイルもマップとして使用できます。



マップは、スマートマップと同じではありません。[327 ページのマップとスマートマップの違い](#)をご参照ください。

マップで、デバイスの状況を確認することができます。ステータス表示は、マップに追加されたエレメントのステータスを表示する機能です。マップが完全に操作可能で正常な状態ならば、ステータスは表示されません。

完全に操作可能なデバイスとホットゾーンを含むマップの例：



完全に操作可能ではないデバイスを含んでおり、ステータスが表示されているマップの例：



ステータス可視化ウィンドウでは、マップのステータス表示の視覚的表現を定義できます。

イン ジ ケー タ	説明
	要注意 —エレメントがまだ作動しているが、対処が必要な場合(たとえば、サーバーのディスクの空き容量がなくなっている場合)。問題のデバイスがマップに含まれているとは限らないことに注意してください。デフォルトの表示色は黄色です。
	使用できません —エレメントにエラーがある場合(たとえば、サーバーがマイクやスピーカーに接続できない場合)。デフォルトの表示色はオレンジ色です。
	アラーム —エレメントにアラームがある場合。デフォルトの表示色は赤色です。
	無効/ステータス不明 —エレメントが監視サーバー上で無効になっているか、サーバーからステータス情報を取得できない場合。デフォルトの表示色は紫色です。
	ステータスを無視する —エレメントのステータスが対応を必要としない場合(たとえば、すでに何が問題であるか判明している場合)。デフォルトの表示色は青色です。

マップのステータスは、マップ上のすべてのエレメントのステータスと同じです。影響を受けたサーバーの名前は、最高4つまでマップのタイトルバーに表示できます。使用できないサーバーがあるためにマップ上のエレメントが無効になり、そのサーバー自体はマップに含まれていない場合は、マップに**無効なエレメント**しか含まれていない場合でも、マップに**使用できません**状態で表示されます。使用できないサーバーがマップに含まれている場合は、マップには単純に**無効/ステータス不明**と表示されます。ステータス情報については、**マップ概要**もあわせて参照してください。

マップからビデオを視聴し、録画を開始する

マップ上で単一のカメラからプレビュービデオを見ることができます。ライブビデオがプレビューウィンドウに表示され、それをフローティングウィンドウに送信することができます。

1. マウスポインタをマップのカメラの上に置くと、カメラからのライブプレビューが表示されます。
2. プレビューウィンドウのタイトルバーを選択すると、そのウィンドウは別のフローティングウィンドウとして開いたままになります。

録画を開始するには、必要なカメラを右クリックして、**手動録画の開始**を選択します。この機能を使用するには、特定のユーザー権限が必要な場合があります。

固定カメラは、関連付けられたビューゾーンと共にマップに表示され、カメラのビューアングルが表示されます。

PTZカメラは、監視システムのカメラに対して定義されているPTZプリセット位置を使用して、マップに表示されます。プリセットは、PTZカメラのアイコンから放射状に広がる色付きの角度で図示されます。それぞれの角度は、特定のプリセットを表しています。カメラのプリセット角度と一致するように、角度を調節する必要があります。角度を調節するには、ドラッグして適切なサイズと位置にするだけです。カメラに25以上のプリセットがある場合、角度が小さすぎると最初は角度は表示されません。このような場合、**エレメントの選択**ウィンドウからマップへ、該当するカメラからプリセットを個別にドラッグして必要な角度を追加することができます。マップ上のプリセットを選択するだけで、PTZカメラのプリセットのいずれかに移行できます。これは、マップ自体のフローティングプレビューウィンドウおよびホットスポットビューアイテムで機能します。[259ページのビューにホットスポットを追加する](#)をご参照ください。または、カメラを右クリックし、**PTZプリセット**を選択してから、必要なプリセットを選択します。

マップのカメラから録画されたビデオを表示

マップにあるカメラのアイコンの上にマウスを移動させると、カメラからの録画済みビデオをプレビューウィンドウで再生することができます。再生モードのステータス情報は、カメラの現在のライブステータスから取得されます。

- カメラがサポートしている場合は、カメラプレビューからデジタルズームとPTZコントロールを使用できます。プレビューウィンドウで、詳細ボタンを選択してデジタルズームを選択するか、表示されるPTZコントロール ([112 ページのライブビデオでパン、チルト、ズームインする](#) を参照) を使用します。特定のカメラでPTZプリセット位置が設定されている場合は、プレビューでプリセットを選択して、プリセット位置を有効にすることができます
- フロートウィンドウでマップ上で同時にすべてのカメラ(1つのビューに最大25台)を表示するには、マップのタイトルバーの上部にある**[すべてのカメラをフローティングウィンドウに送信]**をクリックします。 



マップ上にフローティングウィンドウに送信したカメラが25台以上ある場合、表示されるカメラが常に同じになるとは限りません。

エレメントとマップの関係

以下の方法で、マップエレメントを使用して実際のデバイス进行操作できます：

カメラ

マウスカーソルをマップのカメラの上に置くと、カメラからのライブプレビューが表示されます。プレビューのタイトルバーを選択すると、別のフローティングウィンドウにプレビューが表示されます。フローティングウィンドウのサイズは、その隅を引っ張って変更できます。録画を開始するには、必要なカメラを右クリックして、**手動録画の開始**を選択します。この機能を使用するには、特定のユーザー権限が必要な場合があります。

固定カメラは、関連付けられたビューゾーンと共にマップに表示され、カメラのビューアングルが表示されます。カメラのビューアングルと一致するように、マップ上の角度を調節する必要があります。角度を調節するには、ドラッグして適切なサイズと位置にするだけです。

PTZカメラは、XProtectVMSシステムのカメラに対して定義されているPTZプリセット位置を使用して、マップに表示されます。プリセットは、PTZカメラのアイコンから放射状に広がる色付きの角度で図示されます。それぞれの角度は、特定のプリセットを表しています。カメラのプリセット角度と一致するように、角度を調節する必要があります。角度を調節するには、ドラッグして適切なサイズと位置にするだけです。カメラに25以上のプリセットがあ

る場合、角度が小さすぎるので最初は角度は表示されません。このような場合、**エレメントの選択**ウィンドウからマップへ、該当するカメラからプリセットを個別にドラッグして必要な角度を追加することができます。マップ上のプリセットを選択するだけで、PTZカメラのプリセットのいずれかに移行できます。これは、マップ自体のフローティングプレビューウィンドウおよびホットスポットビューアイテムで機能します。[259 ページのビューにホットスポットを追加する](#)をご参照ください。または、カメラを右クリックし、**PTZプリセット**を選択してから、必要なプリセットを選択します。

マイク

マイクの上にマウスを置き、左マウスボタンを押したままにすると、マイクからの受信音声を聞くことができます。または、マイクを右クリックし、**マイクの使用**を選択します。再生モードのマップビューでマイクを使用することはできません。

スピーカー

スピーカーにマウスを置き、左マウスボタンを押したままにすると、スピーカーから話すことができます。再生モードのマップビューでスピーカーを使用することはできません。

イベント

これを起動するには、マップ上のイベント ([151 ページのアラーム](#)を参照) を選択するか、イベントを右クリックして**[イベントをアクティブ化]**を選択します。イベントを左クリックすると、マウスカーソルが一瞬、稲妻の記号に変わり、イベントが起動中であることを示します。

アラーム

マップ上のアラーム ([151 ページのアラーム](#)を参照) を選択するか、アラームを右クリックして**[アラームの有効化]**を選択します。右クリックして、アラームを確認します。

出力

マップにある出力を選択すると有効化されます。または、出力を右クリックし、**[出力の有効化]**を選択します。出力を選択すると、マウスカーソルが一瞬、稲妻のアイコンに変わり、出力が起動中であることを示します。

ホットゾーン

ホットゾーンには通常色が付いており、識別しやすくなっています。ホットゾーンに関連付けられたサブマップに移行するには、ホットゾーンを選択します。または、必要なホットゾーンを右クリックし、**[サブマップへ移行]**を選択します。

ホットゾーンが点線で囲まれて表示された場合は、そのホットゾーンに関連付けられたマップはありません。



XProtectVMSシステムの種類によっては、複数の異なるサーバーからのマップが、マップ階層に含まれることがあります。これは、ホットゾーンを選択した時に、サーバーが使用できないためにサブマップが使用できないことがあることを意味します。サーバーが使用できない理由は、定期メンテナンスからネットワークの問題までさまざまです。問題が解決しない場合は、システム管理者にお問い合わせください。



ホットゾーンが、ユーザーがアクセス権を持たないマップを指していることもあり、この場合、XProtectSmartClientによってユーザーに通知されます。ユーザー権限は時間に基づいているため、以前にアクセスできたマップにアクセスできない場合もあります。これは、1日の特定の時間帯、あるいは特定の曜日にアクセス権がないことが理由である可能性があります。ユーザー権限についてご不明な点がある場合は、システム管理者にお問い合わせください。

プラグイン

プラグイン要素は、XProtectVMSシステムで使用されている場合にのみ使用できます。プラグイン要素の例：アクセスコントロールシステム、火災検知システムなど

相互接続されたハードウェア

Milestone Interconnectシステムの一部のInterconnectで接続されたハードウェアはオフラインのことがあるため、Interconnectで接続されたハードウェア要素のエラーステータスが頻繁にマップに表示される場合があります。

マップにあるマップ階層を理解するようにしてください。

マップ概要ウィンドウは、XProtect Smart Clientで設定されたマップ階層の概要を示します。**[マップ概要]** ウィンドウを開くには、マップを右クリックし、**[マップ概要]** を選択するか、マップのタイトルバーにあるアイコンを選択します。

マップ名の横に + 記号が付いている場合は、マップに1つ以上のサブマップがホットゾーンとして含まれていることを示します。**[マップ概要]** のマップを選択すると、選択したマップがすぐにビューに表示されます。



多数のマップを含む大規模なXProtectVMSシステムに接続している場合、**[マップ概要]** のコンテンツを読み込むのに時間がかかる場合があります。



Milestone Federated ArchitectureをサポートしているXProtectVMSシステムに接続している場合、追加できるのはログインしているXProtectVMSシステムサーバーからのマップだけであることを注意してください。Milestone Federated Architectureは、関連していても物理的に離れているXProtectVMSシステムのシステム設定です。このような設定は、独立運営しながらも関連しているXProtect VMSシステムが多数ある店舗のチェーンなどに適しています。



どのXProtectVMS監視システムがMilestone Federated Architectureに対応しているかについては、<https://www.milestonesys.com/products/software/xprotect-comparison/>でXProtect比較表を参照してください。

マップからフロートウィンドウへカメラを送信

フロートウィンドウで同時にマップ上にすべてのカメラを表示する方法（各ビューにつき最大25台）：

1. ライブまたは再生モードで、フローティングウィンドウに表示するカメラを含むマップを選択します。
2. マップのタイトルバーの上部で、**すべてのカメラをフローティングウィンドウに送信**  を選択します。

フロートウィンドウでは、ビューに最大25台のカメラが表示されます。



マップ上にある25台以上のカメラをフローティングウィンドウに送信する場合、表示されるカメラが常に同じになるとは限りません。

マップにステータスの詳細情報を表示する

カメラ(たとえば、解像度、画像サイズやビットレート、およびFPS)とサーバー(たとえば、CPU使用率、メモリ、ネットワーク使用率)の詳細ステータスを表示できます。

- 詳細ステータスを表示するには、必要なエレメントを右クリックし、**詳細ステータス**を選択します。詳細ステータスは、個別のフローティングウィンドウに表示されます



「イベントサーバーのレコーディングサーバーへのアクセス権が不十分です」というエラーメッセージが表示された場合、レコーディングサーバーから詳細ステータスを表示できません。このエラーメッセージは、XProtectVMSシステムのマップ関連の通信を処理する、Event Serverサービスに関係します。Event Serverサービスは、XProtectVMSシステムサーバーで管理されます。この問題を処理できるシステム管理者に連絡してください。

マップをナビゲートする

マップが、XProtect Smart Clientのビューエリアより大きい場合、またはマップでズームインしている場合は、マップをパンして、マップの隠れている部分を表示できます。追加されたエレメントの外側のマップの任意の場所をクリックすると、クリックした場所が中心になるようマップが移動します。マップを選択してパンし、任意の方向にマップをドラッグします。

- マップのズーム機能を使用するには、マップを右クリックし、必要に応じて**ズームイン**または**ズームアウト**を選択します。または、**[標準サイズへズーム]**機能を使用して通常のサイズに戻します。



または、マウススクロールホイールを使用してズームします。上にスクロールするとズームインし、下にスクロールするとズームアウトします。

マップを自動最大化が有効で、複数の位置があるビューの一部にマップビュー位置がある場合、セットアップモードで、**プロパティ**ペインで指定されている時間が経過すると、マップが画面全体に自動的に最大化されます。元のビューに戻るには、任意の追加されたエレメントの外側にあるマップの場所をダブルクリックします。

音声の再生とブロードキャスト

音声

XProtect Smart Clientは入ってくる音声と出ていく音声の双方に対応します。

- 受信音声とはカメラに付けられたマイクから来る音声のことです。これは常に録音されており、ビデオが録画されていない時でも録音されています。
- 送信音声とは、スピーカーを通してお客様がブロードキャストする音声のことです。これは、XProtect VMSシステムが双方向音声をサポートしている場合にのみ録音されます。送信音声の録音は、オペレーターがスピーカーを通して特定の指示を出したことを証明する必要がある場合に不可欠です。

お客様のユーザー権限と XProtect VMS製品に応じて、次のことができます。

- カメラに付けられたマイクから、ライブモードでライブ音声を聞く。
- カメラに接続されたスピーカーを使って、ライブモードで対象者と話す。
- 再生モードで、マイク、スピーカー、または両方が付いたカメラからの録画音声を聞く。

音声を聴く

メインの表示タブで、ライブモードまたは再生モードでカメラビューアイテムを選択する際、マイクを選択することもでき、そうすることで、その音声を聞くことができます。

- ビューで音声を聞きたいカメラビューアイテムを選択します。

選択したカメラビューアイテムとは別個に録音された音声を聞くこともできます。

- **[音声]** ペインで、音声を聞きたいマイクを選択します。

音声とマップ

ビューにマイクの付いたマップが含まれている場合、関連するマイクエレメントを選択することで、音声を聞くことができます。

- マイクエレメントを選択し、音声を聞く間、ずっとマウスボタンを押し続けます。



カメラのマイクから音声を聞くことができない場合は、コンピューターのスピーカーが消音になっていないかどうか確認してください。**[音声]** ペインで、**[消音]** チェックボックスのチェックを外します。この問題が解消されない場合、スピーカーが無効になっている可能性がありますので、システム管理者に問い合わせてください。その他の XProtect Smart Client ユーザーは通常スピーカーを通してブロードキャストを聞くことはできませんが、マイクが近くにあれば、聞くことができる場合があります。

音声ブロードキャスト

ブロードキャスト

スピーカーの近くに立っている人物とコミュニケーションを取る必要がある場合は、音声を対象者にブロードキャストすることができます。お客様がライブモードでカメラビューを選択すると、システムは同時に対応するスピーカーを選択し、それを通してお客様が音声をブロードキャストできるようにします。

[音声] ペインと**[レベルメーター]** にブロードキャストボリュームが表示されます。ボリュームレベルが低い場合は、マイクに近寄り、ボリュームレベルが表示されない場合は、マイクの接続と設定を確認してください。

お客様がお使いの XProtect VMS 製品によっては、送信される音声をシステムが録音できるものもあります。マイクがスピーカの近くにある場合は、ブロードキャストの音声を拾い録音することがあります。

一台のスピーカーに音声をブロードキャストする

カメラに取り付けられた一台のスピーカーの近くにいる人々と話したり、音声をブロードキャストすることができます。

1. **[音声]** ペインで、音声をブロードキャストするスピーカーを選択します。
2. **[話す]** を選択し、話す間ずっと押し続けます。**話す** ボタンが無効になっている場合、コンピューターにスピーカーがインストールされていないか、スピーカーが無効になっています。リストに**スピーカーソースなし**と表示された場合は、カメラに付いているスピーカーが使用できないことを意味します。

または、カメラビューアイテムに音声をブロードキャストするためのオーバーレイボタンがある場合は、そのオーバーレイボタンを選択します。**[音声]** ペインで**[スピーカー]** リストが使用できない場合は、お使いの XProtect VMS システムは双方向音声をサポートしていません。



マイク リストに **ローカルPCにハードウェアがありません**と表示されている場合、コンピュータにマイクがインストールされていないか、無効になっています。**マイクソースがありません**と表示されている場合、カメラにマイクが接続されていません。

音声とマップ

ビューにスピーカーの付いたマップが含まれている場合、関連するスピーカーエレメントを選択することで、音声をブロードキャストすることができます。

- スピーカーエレメントを選択し、話す、または音声をブロードキャストする間、ずっとマウスボタンを押し続けます。

複数のスピーカに音声をブロードキャストする

カメラに取り付けられた複数のスピーカーの近くにいる人々と話したり、音声をブロードキャストすることができます。

1. **[音声]** ペインの**[スピーカー]** リストで、**[すべてのスピーカー]** を選択します。
2. **[話す]** を選択し、話す間ずっと押し続けます。



[音声] ペインの **[現在のビューのデバイスのみをリスト]** を選択した場合、一部のデバイスは表示されないことがあります。



マイク リストに **ローカルPCにハードウェアがありません**と表示されている場合、コンピュータにマイクがインストールされていないか、無効になっています。**マイクソースがありません**と表示されている場合、カメラにマイクが接続されていません。

選択した音声デバイスへロック

ビューでカメラビューアイテムを選択した場合、カメラに取り付けられた音声デバイスも選択されます。カメラからの音声を聞いたり、カメラに対して音声をブロードキャストしたりすることができます。

場合によっては、特定のカメラから音声を聞いたりブロードキャストし、同時に他のビューとカメラからビデオを見る必要があることがあります。

例：カメラAに取り付けられたマイクとスピーカーを通して犯罪被害者から話を聞き、彼らに話しかけると同時に、カメラX、Y、Zからのビデオを他のビューで表示して、犯罪者の居場所を追跡する必要があります。

1. **[音声]** ペインで、関連するマイクとスピーカーを選択します。
2. **[選択した音声デバイスへロック]** を選択します。
3. インシデントが解決したら、**[選択した音声デバイスへロック]** を忘れずに解除してください。

オープンビューに関連付けられた音声デバイスだけをリスト表示する

お使いのXProtectVMSシステムに大量のマイクやスピーカーが含まれる場合、**[音声]** ペインのマイクおよびスピーカーのリストは長くなる可能性があります。音声デバイスの台数が多いと、探している音声デバイスを見つけるのが困難になります。

こうした事態を避けるため、現在オープン中のビューに関連するマイクやスピーカーを含むデバイスだけをリスト表示することができます。

- **[音声]** ペインで、**[現在のビューのデバイスのみをリスト]** を選択します。

音声ボリュームの調整

XProtect Smart Client には音声ボリュームを変更するオプションはありませんが、別の場所で調整可能です。

- Windowsの音声設定。
- マイクの録音ボリューム、またはカメラデバイスの設定インターフェースを通して。
- スピーカーの出力ボリューム、またはカメラデバイスの設定インターフェースを通して。

音声ボリュームに問題がある場合は、システム管理者に問い合わせてください。



[音声] ペインの**[レベルメーター]** により入力ボリューム（ブロードキャストするもの）が表示され、出力ボリューム（スピーカーからの音声）の概要がわかります。

オーディオ設定概要

ライブまたは録画されたビデオを見る際、**[音声]** ペインには次の音声設定があります。

名前	説明
マイク	144 ページの音声を聴く
消音	マイクまたはスピーカーのいずれかを消音に設定する場合に選択します。
スピーカー	音声をブロードキャストするスピーカーを選択します。
出力	145 ページの一台のスピーカーに音声をブロードキャストする 145 ページの複数のスピーカに音声をブロードキャストする
レベルメーター	146 ページの音声ボリュームの調整
選択した音声デバイスへロック	146 ページの選択した音声デバイスへロック
現在のビューのデバイスのみをリスト	146 ページのオープンビューに関連付けられた音声デバイスだけをリスト表示する

エビデンスの収集と共有

インシデントの調査と解決に対する貢献

ライブビデオや録画されたビデオを見る場合、調査員のために証拠を確保したり、インシデントが発生した際に同僚と情報を共有する重要な役割を担う可能性があります。システム管理者がXProtectVMSを自動的に録画するよう設定した場合でも、場合によっては証拠をとらえるために録画を手動で開始する必要があることもあります。

インシデントやカメラ名を表示するビューを共有したり、インシデントをブックマークしたり、ビデオウォールまたは Matrixビューアイテムにビデオを送信したりできます。

ビデオの手動録画

ライブビデオの録画は、なにか関心を引くものを見つけた際に有益です。同時に複数のカメラから録画をスタートすることができますが、それぞれのカメラを個別に選択する必要があります。

1. 録画したいビデオを含むビューアイテムを選択します。
2. カメラのツールバーで、次のオプションから1つ選択します。

- # 分/秒で録画を開始

録画が始まると、数分間続きます。システム管理者がどのくらいの分数かを定義しています。手動で録画を停止することはできません。

- 手動録画の開始

録画が始まると、システム管理者の定義に従って、数分間または数秒間録画が続くか、または[手動録画の停止]  を選択するまで、録画が続きます。

スナップショットを撮って共有する

ライブビデオまたは録画されたビデオを見る、またはビデオを検索する場合、インスタントスナップショットを撮って共有することができます。

ライブモードまたは再生モードで、以下を実行します。

- カメラ、ホットスポット、または画像自動切替ビューアイテムを選択し、カメラツールバーで[スナップショットの作成]  を選択します。

[検索] タブで、

- 検索結果を検索して選択し、下部にある青いバーで [スナップショットの作成] を選択します。

スナップショットを共有します。ビデオ内のプライバシーマスクも、スナップショットに表示されます。

ビデオにブックマークを付ける

適切なユーザー権限をお持ちの場合は、ライブビデオにブックマークを付けることができます。これにより、同僚がブックマーク済みビデオを検索できます。

1. カメラビューアイテムを選択し、カメラツールバーから、[ブックマークの追加]  を選択します。
または、[検索] タブで1つまたは複数の検索結果を選択し、[検索] タブの下部の青いバーにある[ブックマーク] アイコンを選択します。
2. オプションで、ブックマークに名前や説明をつけて、同僚が正しいビデオを見つけられるようにすることもできます。
3. [OK] を選択します。

4. 同僚に、インシデントに関係するビデオシーケンスにブックマークを追加したことを伝えてください。同僚は、お客様が作成したブックマークを、ブックマークID、または名前や説明のテキストで検索できます。同僚が迅速にインシデントの映ったビデオを見つけられるよう、必要な情報を共有するようにしてください。

ビデオチュートリアルを見る



Matrix ビューアイテムを含む共有ビューへのビデオの送信

Matrixのコンテンツの表示

このMatrix機能は、インシデントを発見したときにライブビデオストリームを共有するのに便利です。同僚とMatrixビューアイテムを含む共有ビューを通じて、ライブビデオストリームを送信し合うことができます。

システム管理者がルールを定義している場合は、イベントが発生したときにビデオの共有をトリガーすることもできます。

タイトルバーの  アイコンで、Matrixビューアイテムを確認できます。ビューに複数のMatrixアイテムが含まれている場合は、プライマリアイテムが最初に受信したビデオストリームを表示します。次のストリームがプライマリアイテムに表示されると、前のストリームはセカンダリアイテムに押し出されます。

再生モードでは、Matrixアイテムは最後に送信されたビデオを表示します。

Matrixビューアイテムにビデオを送信する

同僚からの支援を要するインシデントが発生しているのを目にした場合、カメラからのビデオをMatrixビューアイテムのあるビューに送信することができ、同僚は直ちに何が発生しているか、見ることができます。

1. 共有するビデオを含むカメラビューアイテムを選択します。
2. カメラのツールバーで、[詳細] > [ウィンドウに送信]Matrix を選択します。
3. リストから、関連するMatrix受信者を選択します。
4. 手続きが終わったら、同僚に通知して、必ずそのMatrix共有ビデオを見るよう依頼することができます。

インシデントへの対応

アラームおよびイベントでの作業

イベントおよびアラーム

XProtectでは、イベントおよびアラームがシステム内のカメラや他のデバイスを監視し、XProtect Smart Clientにおけるセキュリティインシデントに対応できるようにする主要コンポーネントです。

- イベントとは、VMSが検知したモーション検知、カメラの変更、システムステータスの変更といった特別なインシデントを指します。これらのイベントは通常、カメラ、センサー、VMSなどの接続されたデバイスにより生成されます。それぞれのイベントは、時刻、場所、インシデントの種類といった関連する詳細情報と共に記録されます。
- アラームは、事前定義されたイベントに対してトリガーされる応答です。特定のイベントがXProtectVMS内に設定された基準を満たした場合、アラームが有効化されます。セキュリティ担当者への通知、録画の開始、自動化されたシステム応答（ドアのロック、照明の点灯など）のトリガーといった様々なアクションを指示するために、アラームを設定することができます。インシデントによりアラームがトリガーされた場合、マップまたはスマートマップが表示され、インシデントが発生した場所を地理的に把握できるようになります。アラームがトリガーされた場合に表示されるデスクトップ通知や音声通知をWindowsに受信することができます。お客様のXProtect Smart Client設定で、マップやスマートマップ、デスクトップ通知が利用可能かどうかについては、システム管理者にお問い合わせください。

イベントとアラームが共にVMS内の潜在的なセキュリティ脅威を特定・分析し、それに応答するための強力なフレームワークが実現します。アラームへの迅速な応答を実現するため、マップ、スマートマップ、Windows通知を利用することができます。

イベント

XProtectVMS内のイベントは、アラームをトリガーするよう設定できる事前定義されたインシデントです。イベントは事前に定義されたシステムインシデント、またはユーザー定義のイベントです。アナリティクスイベント、ジェネリックイベントなどがあります。イベントとアラームのリンクは必須ではありませんが、リンクは可能です。

通常、イベントは、検知されたモーションやその他のアプリケーションからのデータを通し、バックグラウンドで自動的に有効化されます。また、手動でイベントを有効化することもできます。VMSはイベントを使用してアクションをトリガーします。録画の開始や停止、ビデオ設定の変更、出力の有効化、アクションの組み合わせなどのアクションがあります。

XProtect Smart Clientからイベントを有効にすると、VMSシステムでアクションが自動的にトリガーされます（特定の期間、特定のフレームレートで、特定のカメラで録画するなど）。手動でイベントを有効化した場合の処理については、システム管理者が決定します。

アラーム



この機能は、特定のXProtect VMSシステムでのみ使用できます。詳細については、製品比較チャートを参照してください。

<https://www.milestonesys.com/products/software/xprotect-comparison/>

XProtect VMSサーバーでは、ほぼどのようなインシデントや技術的な問題（イベント）でもアラームをトリガーするよう設定できます。アラームとイベントは**アラームマネージャー**タブで表示できます。ここには、VMSインシデント、ステータス、可能性のある技術的問題の概要が一元的に表示されます。

XProtect Smart Clientでは、お客様自身はアラームトリガーを設定できません。システム管理者がXProtectVMSシステムを設定する際に、アラームトリガーの設定を行います。**アラームマネージャー**タブは、システム管理者の定義した設定に応じて表示または非表示されます。

アラームマネージャータブは、アラームやイベントの処理専用のビューを提供します。このタブには、アクティブなアラームの数が表示されます。9件を超えるアラームは、で表示されます。**アラームマネージャー**タブには、アラームリスト、各アラームまたはイベントに関連のあるビデオをプレビューするためのアラームプレビューのほか、アラームに関連のあるカメラの地理的ロケーションを示すマップも含まれていることがあります。

イベントとアラームの関係



この機能は、特定のXProtect VMSシステムでのみ使用できます。詳細については、製品比較チャートを参照してください。

<https://www.milestonesys.com/products/software/xprotect-comparison/>

XProtectシステムで発生したインシデントや技術的な問題は、イベントとして認識されます。イベントという用語は、監視システムによって検出された、ユーザーの注意やアクションが必要になる可能性のある出来事やアクティビティを指します。例えば、システム内のカメラでモーション検出が有効になっており、モーション検出が設定されているカメラで動きが検出された場合、これはイベントになります。

イベントに反応するため、システム管理者はXProtectにアラーム設定を行います。イベントがトリガーされた場合、アラームが生成され、XProtect Smart Clientに表示されます。

例えば、モーション検知イベントがトリガーされた場合、対応するアラームがXProtect Smart Clientに表示され、動きが検出されたことを示します。

アラームとイベントは**[アラームマネージャー]**タブに表示できます。ここには、インシデント、ステータス、可能性のある技術的問題の概要が一元的に表示されます。XProtect Smart Clientのユーザーは、直接アラームトリガーを設定できません。システム管理者は、XProtectVMSシステムを設定する際にアラームトリガーの設定を行うことができます。



システム管理者が**[アラームマネージャー]**タブを表示するかどうか定義します。

[アラームマネージャー] タブは、アラームやイベントの処理専用のビューをユーザーに提供します。このタブには、アクティブなアラームの数が表示されます。9つを超すアラームがトリガーされた場合、これらは (9+)  という通知ボタンで示されます。

また、**[アラームマネージャー]** タブには、アラームリスト、各アラームまたはイベントに関連のあるビデオをプレビューするためのアラームプレビューのほか、アラームに関連のあるカメラの地理的ロケーションを示すマップも含まれていることがあります。

イベントを手動で有効化する

イベントは手動で有効にできます。イベントを有効にした場合、確認はありません。選択可能なイベントのリストは、イベントサーバーと、イベントが関連付けられているカメラ/デバイスごとにグループ分けされています。

- ライブモードで、**[イベント]** ペインを展開し、**[起動]** をクリックします。



関連するイベントサーバーの下にグローバルイベントが表示されます。イベントサーバーが赤のアイコン付きでリストに表示されている場合は、そのイベントサーバーは利用不可で、イベントを有効にできません。

アラームリストの使用

アラームリスト には、受信したアラームが表示されます。最新のアラームは、一覧の一番上に表示されます。アラームリストには、いくつかの種類のアラームが表示されます。これには、MIP入退室管理やナンバープレート認識から発生するプラグインおよびアナリティクスイベントなどによってトリガーされるアラームが含まれます。

ビデオが関連付けられているアラームまたはイベントは、ビデオが添付されていることを示すアイコン  が表示されます ()。

- アラームやイベントの発生時からの静止画をプレビューするには、アイコンの上にマウスを移動させます。
- アラームやイベントに関連のあるカメラからの録画ビデオをプレビューするには、リストでアラームまたはイベントを選択します。
- アラームの繰り返しを止めるには、リストからその音に該当するアラームを選択します。

アラームリストでは、次のことができます。

- リストの表示方法を決定する
- 列をフィルタリングする
- 列を別の位置にドラッグする
- 右クリックをして特定の列を表示/非表示する



イベントリストには、モーション検知やアーカイブ障害などのシステムやユーザーが生成するイベントは表示されません。

リストは3秒ごとに更新されます。

Priority	Level	Name	ID	State	Level	State Name	Time	Source	Name	Owner	Message
30	Kaliforniakana Hag	401545	1	New			16:26:17 13-01-2012	PaulHCE (10.100.53.23)	Alarm-Motion	PaulHCE	Motion Detected
30	Kaliforniakana Hag	401544	1	New			16:26:43 13-01-2012	PaulHCE (10.100.53.23)	Alarm-Motion	PaulHCE	Motion Detected
30	Kaliforniakana Hag	401543	1	New			16:24:04 13-01-2012	PaulHCE (10.100.53.23)	Alarm-Motion	PaulHCE	Motion Detected
30	Kaliforniakana Hag	401542	1	New			16:21:37 13-01-2012	PaulHCE (10.100.53.23)	Alarm-Motion	PaulHCE	Motion Detected
30	Kaliforniakana Hag	401541	1	New			16:21:28 13-01-2012	PaulHCE (10.100.53.23)	Alarm-Motion	PaulHCE	Motion Detected
30	Kaliforniakana Hag	401540	1	New			16:20:25 13-01-2012	PaulHCE (10.100.53.23)	Alarm-Motion	PaulHCE	Motion Detected
30	Kaliforniakana Hag	401539	1	New			16:19:42 13-01-2012	PaulHCE (10.100.53.23)	Alarm-Motion	PaulHCE	Motion Detected
30	Kaliforniakana Hag	401538	1	New			16:19:33 13-01-2012	PaulHCE (10.100.53.23)	Alarm-Motion	PaulHCE	Motion Detected
30	Kaliforniakana Hag	401537	1	New			16:18:49 13-01-2012	PaulHCE (10.100.53.23)	Alarm-Motion	PaulHCE	Motion Detected
30	Kaliforniakana Hag	401536	1	New			16:16:03 13-01-2012	PaulHCE (10.100.53.23)	Alarm-Motion	PaulHCE	Motion Detected
30	Kaliforniakana Hag	401535	1	New			16:15:00 13-01-2012	PaulHCE (10.100.53.23)	Alarm-Motion	PaulHCE	Motion Detected
30	Kaliforniakana Hag	401534	1	New			16:14:35 13-01-2012	PaulHCE (10.100.53.23)	Alarm-Motion	PaulHCE	Motion Detected
30	Kaliforniakana Hag	401533	1	New			16:14:29 13-01-2012	PaulHCE (10.100.53.23)	Alarm-Motion	PaulHCE	Motion Detected
30	Kaliforniakana Hag	401532	1	New			16:12:09 13-01-2012	PaulHCE (10.100.53.23)	Alarm-Motion	PaulHCE	Motion Detected
30	Kaliforniakana Hag	401531	1	New			16:10:53 13-01-2012	PaulHCE (10.100.53.23)	Alarm-Motion	PaulHCE	Motion Detected
30	Kaliforniakana Hag	401530	1	New			16:08:22 13-01-2012	PaulHCE (10.100.53.23)	Alarm-Motion	PaulHCE	Motion Detected
30	Kaliforniakana Hag	401529	1	New			16:07:30 13-01-2012	PaulHCE (10.100.53.23)	Alarm-Motion	PaulHCE	Motion Detected
30	Kaliforniakana Hag	401528	1	New			16:04:20 13-01-2012	PaulHCE (10.100.53.23)	Alarm-Motion	PaulHCE	Motion Detected



イベントのリストを表示するには、設定モードに入り、**プロパティペインでイベント**を選択します。[282 ページのアラームリストの設定](#)もご参照ください。

アラームリストのサーバー

アラームリストの左側で、アラームが発生したイベントサーバーを表示できます。

多くのXProtectVMS システムのイベントサーバーは1つのみですが、階層に複数のイベントサーバーが構成されているシステムもあります。アクセスできるすべてのイベントサーバーが一覧表示されます。アラームはイベントサーバーでフィルターできます。

アラームの状態

アラームには以下のステータスがあります。

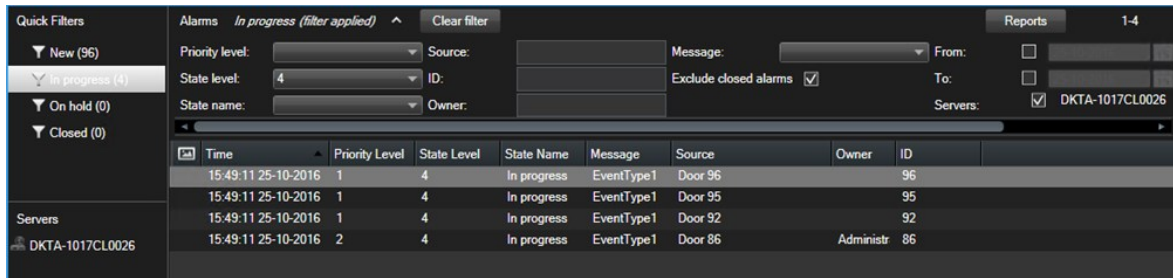
新規、処理中、保留中、処理済み。

各アラームのステータスは**ステータス名列のアラームリスト**で見ることができます。**[フィルター]** ペインを使用して、特定の条件に従ってフィルターできます。最初はすべてのアラームが**新規**ステータスですが、アラームの処理中にステータスが更新されます。

アラームのフィルター

アラームリストをフィルターする方法は複数あり、関心のあるデータのみを表示することができます。

1. アラームリストのツールバーで、**カスタム（フィルター適用済み）**または**フィルターなし**テキストをクリックします。選択したフィルターによっては、テキストが異なる場合があります。



2. フィルターをかける列のフィルター条件を入力します。例えば、**ID**フィールドにユーザーIDを入力すると、そのユーザーに割り当てられているアラームのみが表示されます。
3. 例えば、**州名**および**所有者**（割り当て済み）などのようにフィルターを組み合わせることができます。
4. フィルターなしのアラームリストに戻るには、**フィルター解除**ボタンをクリックします。
5. アラームリストの内容を並べ替えるには、列のタイトルをクリックします。



アラーム処理ビューにマップコンテンツが含まれる場合、マップ上の要素（カメラ、イベントサーバーなど）を右クリックして、**アラームを表示**を選択することで、アラームリストをフィルターすることもできます。これにより、選択した要素からのアラームのみがアラームリストに表示されます。

アラームへの応答

アラーム詳細の表示および編集

アラームに対しては、いくつかの方法で応答できます。

- **アラームリスト**を追加したいいずれかのビューに移動して、アラームをダブルクリックできます。アラームが別のウィンドウで開き、ここでアラームインシデントとそれに関連するライブビデオのプレビューを表示できます。
- XProtectVMSシステムの設定に応じて、アラームのデスクトップ通知を受信することも可能です。この通知は、画面に15秒間表示されます。通知をクリックすると、**アラームマネージャー**タブに直接移動し、アラームウィンドウが開きます。
- また、以下のテーブルのフィールドを変更することで、アラームに応答することもできます。

フィールド	説明
ステータス	アラームのステータスは、誰かがイベントに対応したかどうかを示します。アラームのステータスは変更できます。通常、 新規 から 処理中 にステータスを変更した後、 保留中 または 処理済み に変更します。
優先度	アラームの優先度を変更します。
割り当て先	自分自身を含めて、組織内のユーザーにアラームを割り当てます。アラームを割り当てられたユーザーがアラームの所有者になり、アラームリストの 所有者 列に表示されます。
コメント	アクティビティセクションに追加されるコメントや備考を入力します。コメントは通常、ユーザーが行ったアクションに関連します。例えば、「警備担当者が容疑者を拘束」、「容疑者を警察に引き渡し済み」、「誤認アラーム」などです。 ウィンドウの最下部にコメントフィールドが表示されます。
アクティビティ	アクティビティはユーザーがアラームをどのように処理したかを簡単に示します。[アクティビティ]セクションには自動的に次のものが含まれます。 - アラームのステータスまたは優先順位に、自分または同僚が加えた変更 - ユーザー間でのアラームの再割り当て - 追加されたコメント。  XProtectVMSサーバーの設定によって、アラームにアラーム受信時の対応手順を含めることができます。この手順は、アラーム定義の一環としてサーバー側で定義されます。この場合、アラームを編集するときにアクティビティが自動的に表示されます。
印刷	アラームに関する情報を含むレポートを印刷できます。アラーム履歴や、画像を利用できる場合はアラーム発生時の静止画像などです。

アラームを確認

アラームを受信した場合、そのアラームを承認することで対処する意思を示すことができます。多くのユーザーが使用しているシステムでは、アラームを承認することで、そのアラームを誰が処理するかをすべてのユーザーが簡単に確認できるようになります。確認できるのは新規のアラームのみです。

1. アラームリスト内でアラームを右クリックして**確認**を選択します。アラームのステータスは**処理中**に変更されます。
2. 複数のアラームを同時に確認することができます。**Ctrl**キーを押したまま、確認するアラームを選択します。
3. アラームをダブルクリックすると、アラームの詳細を編集することができます。例えば、アラームを個人に割り当て、指示を追加します。

選択したイベントタイプで新規アラームをすべて無効にする

あるイベントが誤認アラームをトリガーする場合は、一定期間、そのタイプのイベントで新規アラームをすべて無効にすることもできます。

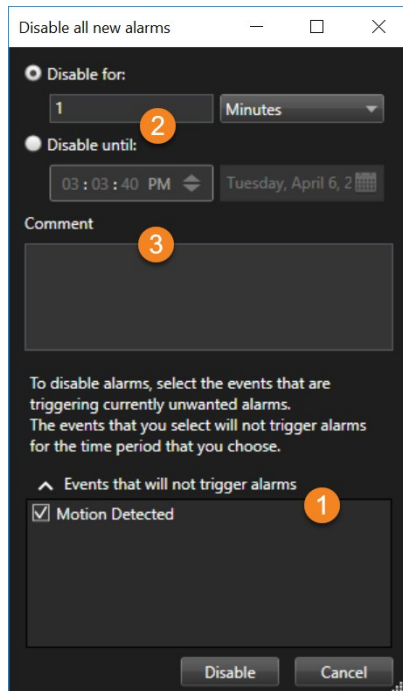
例えば、カメラの周辺に動きが多く、その動きによって何度も誤認アラームが発生している場合は、このカメラのモーション検知アラームを10分間、無効にできます。これにより、誤認アラームにわずらわされることなく、注意の必要なアラームに集中できます。アラームを無効にすると、同じXProtectVMSシステムに接続しているオペレータ全員に影響します。

アラームマネージャーまたはマップを使用して、新規アラームをすべて無効にできます。

1. **アラームマネージャー**を使用している場合：アラームリストでアラームを右クリックし、**新規アラームをすべて無効にする**を選択します。

マップを使用している場合：アラームを右クリックし、**[新規アラームをすべて無効にする] > [無効にする]**を選択します。

新規アラームをすべて無効にするのウィンドウが表示されます。



2. **アラームをトリガーしないイベントリスト**で、アラームをトリガーしないイベントのタイプを選択します。
3. いつまで、またはどれくらいの期間、選択したイベントのタイプがアラームをトリガーしないようにするのか指定します。
4. また、選択したイベントのタイプでアラームを無効にしている理由を追加することもできます。

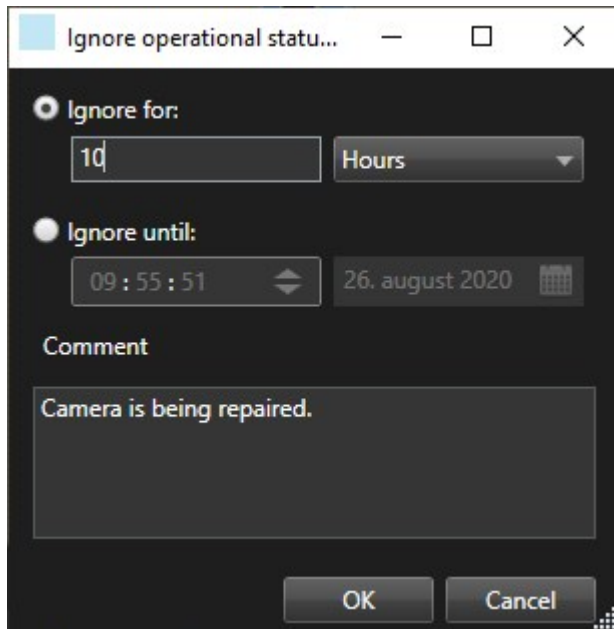
イベントを右クリックすると、無効なイベントの概要が表示され、どのイベントが無効になっているかと、そのイベントのタイムアウトを確認することができます。



アラームは、イベントサーバー毎に無効になります。あるイベントサーバーで障害が発生し、別のイベントサーバーに引き継がれた場合、障害が発生したイベントサーバーで無効化されたアラームは、再びアラームとして表示されます。

マップでアラームを無視する

マップで指定した期間、ある要素に対するアラームを無視することができます。例えば、カメラが修理中で接続が切断されている場合、修理中はマップにエラーが表示されても無視する必要があります。マップでアラームを無視しても、アラームはマップから削除されるだけで、アラームリストには残ります。



アラームを処理済みにする

アラームを確認した後、通常は、調査担当者にアラームを割り当てます。この間、アラームのステータスは**処理中**になります。アラームを処理した後、処理済みにできます。

アラームを処理済みにするには、**アラームリスト**で以下のいずれかを実行します。

- アラームを右クリックして、**処理済み**を選択します。
- アラームをダブルクリックし、**ステータスリスト**で、**処理済み**を選択します。

アラームレポートを印刷する

アラーム履歴や、利用できる場合はアラーム発生時の静止画像を含め、アラームに関する情報を記載したレポートを印刷できます。ただし、アラームリストで複数のアラームを選択している場合は、この機能は使用できません。GDPR規則に準拠するため、デフォルトではレポート作成者の名前は印刷したレポートには表示されず、そのレポートを印刷した人の名前が表示されます。レポートに関連付けられた名前をすべて表示するには、**名前を表示**ボタンを選択します。

1. アラームリストで、アラームを右クリックします。
2. **印刷**を選択します。ウィンドウが表示されます。
3. メモを追加するには**メモ**フィールドにテキストを入力します。
4. **印刷**ボタンをクリックします。

アラームの統計を取得する

以下の期間にXProtectVMSシステムでトリガーされたアラームに関する統計データを取得します。

- 最後の24時間
- 最後の7日間
- 最後の30日間
- 直近6か月間
- 直近1年間

アラームレポートウィンドウには、カテゴリでフィルターされたアラーム数を示すグラフが2つ表示されます。例えば、**優先度**や**ステータス**などで、2つのグラフを並べて比較できます。

手順：

1. **アラームリスト**で**レポート**ボタンをクリックします。 ウィンドウが表示されます。
2. グラフの上でタイムスパンを選択します（例：**直近24時間**）。
3. **レポートを選択**リストで、次のカテゴリのいずれかを選択します。
 - カテゴリ
 - ステータス
 - 優先度
 - 処理済みにする理由
 - サイト
 - 対応にかかった時間
4. 各グラフでサブフィルターを選択します。例えば、**ステータス**を選択すると、最初のグラフで**新規**、2番目のグラフで**処理中**を選択できます。グラフは自動的に入力されます。
5. PDFレポートとしてグラフを印刷するには、をクリックします。

マップ上のアラーム

アラーム対応ビューに1つまたは複数のマップ位置が含まれている場合は、マップにもアラームを表示できます。マップは、カメラ、イベントサーバーまたはアラームをトリガーする他のデバイスの地理的位置に基づいてアラームを表示するので、アラームがどこで発生したのかすぐに確認できます。右クリックすることで、マップから直接アラームを確認、無効化、制限することができます。

カメラ要素は、マウスを置くと、サムネイル形式のビデオを表示します。アラームと併用すると、アラーム発生時にマップ上のグラフィック要素が赤い丸で囲まれます。例えば、特定のカメラに関連付けられたアラームが発生すると、そのカメラを表すグラフィック要素が即座に赤い丸で囲まれます。カメラ要素をクリックすると、そのカメラのビデオを表示するだけでなく、表示されるメニューを介してアラームに対応できます。



マップ上のアラームを強調表示する色として赤が妥当でない場合は、色を変更できます。

アラームが関連付けられているカメラが番地レベルのマップにあるが、市レベルのマップを表示しているとします。この場合、どのようにすれば、アラームに気づけるでしょうか？異なるマップ階層レベルをつなぐグラフィック表現であるホットゾーンを使用すれば問題ありません。アラームが番地レベルのマップで検出されると、市レベルのマップ上のホットゾーンの色が赤に変わり、（これらの間に他のマップレベルが存在する場合でも）下位レベルのマップにアラームが発生していることが示されます。

複数の要素からのアラームを表示できるアラームリストモードに戻るには、アラームリストに表示されている必要なイベントサーバー、優先度、またはステータスをクリックします。

スマートマップ上のアラーム

デバイスがアラームをトリガーし、そのデバイスがスマートマップに追加されると、アラームはデバイスの周囲に赤い円として表示されるか、デバイス内のクラスターアイコンとして表示されます。[340 ページのスマートマップ上のデバイスの追加、削除、編集](#)を参照してください。

スマートマップのアイコンの詳細については、[199 ページのカメラアイコン](#)を参照してください。

ビデオ制限への対処

ビデオへのアクセス制限

選択したライブビデオや音声ストリーム、録画したビデオや音声シーケンスへのアクセスを制限し、権限のないオペレータによる機密資料の閲覧を防止できます。

ビデオの制限（説明付き）

ビデオ制限機能により、ビデオシーケンス（ビデオ、音声、およびデバイスメタデータ）へのアクセスを、制限付きビデオの視聴を許可されたオペレータのみに制限できます。

ライブストリームと録画ビデオの両方に制限をかけることができ、ビデオ素材への一般的なアクセスを回復させる必要がある場合は、制限を解除する権限を持つオペレータによって制限を解除できます。

制限付きの素材であっても削除できるため、制限付きビデオの自動または手動削除も防止する場合は、シーケンスにもエビデンスロックを適用する必要があります。



ユーザー権限に応じて、ビデオ制限を作成、表示、編集、および解除できます。

ビデオ制限とさまざまなサイト

ビデオ制限は、異なるサイトにあるカメラも含め、アクセス可能なすべてのカメラに作成できます。

異なるサイトに配置された複数のカメラを選択し、選択したカメラに対してビデオ制限を作成した場合、選択したカメラに対して複数の制限が作成されます。通常、再生制限ではサイトごとに1つ、ライブ制限ではサイトごとに複数の制限が作成されます。実際のライブ制限数は、関連デバイスの数によって異なります。

これは、複数のサイトの複数のカメラに制限を適用すると、複数の制限が作成され、**ビデオ制限リスト**に表示されることを意味します。**ビデオ制限リスト**に表示されている各制限は、個別の制限として編集、メンテナンス、解除が可能です。

複数のサイトで作成されたビデオ制限の例

XProtectインストールは、3つのサイトにまたがります。

- サイトA：それぞれにマイク、スピーカー、およびメタデータのある3台のカメラで構成され、12個のデバイスが利用可能。
- サイトB：それぞれにマイク、スピーカー、およびメタデータのある2台のカメラで構成され、8個のデバイスが利用可能。
- サイトC：マイク、スピーカー、およびメタデータのある1台のカメラで構成され、4個のデバイスが利用可能。

再生制限を作成

3つのサイトのすべてのデバイスにアクセスできるユーザーが、すべてのサイトのすべてのカメラに再生制限を作成する場合、3つの再生制限が作成されることになります。各再生制限は、各サイトのそれぞれのデバイス（カメラ、マイク、スピーカー、およびメタデータ）で構成されます。

ライブ制限を作成

以下のように、3つのサイトのすべてのデバイスにアクセスできるユーザーが、すべてのカメラにライブ制限を作成した場合、24のライブ制限が作成されます（サイト上の各デバイスに対して1つ）。

- サイトA（12個のデバイス）に12のライブ制限
- サイトB（8個のデバイス）に8のライブ制限
- サイトC（4個のデバイス）に4のライブ制限

作成された制限は互いにリンクしておらず、各制限は個別に編集、メンテナンス、解除が可能です。



ライブ制限と再生制限を同時に作成することはできません。代わりに、まず1つの制限タイプを作成し、次に別の制限タイプを作成する必要があります。

作成された制限はリンクしておらず、各制限は個別に編集、メンテナンス、解除が可能です。

ビデオ制限とエビデンスロック

ビデオ制限とエビデンスロックは、どちらも権限のないユーザーによるビデオ素材へのアクションを防ぐものですが、大きな違いがあります。

ビデオ制限では、権限のないオペレータによるビデオシーケンスまたは音声シーケンスの閲覧を防ぎ、エビデンスロックでは、ビデオシーケンスまたは音声シーケンスが手動または自動で削除されることを防ぎます。

エビデンスロックを作成する場合は、**再生ビデオ制限を作成**チェックボックスをオンにして、エビデンスロックを適用するのと同じビデオシーケンスにビデオ制限を作成することもできます。

ただし、ビデオ制限を作成する場合は、エビデンスロックの作成は同時にできません。代わりに、ビデオ制限を作成したのと同じビデオシーケンスに手動でエビデンスロックを作成する必要があります。

作成されたエビデンスロックとビデオ制限は、個別に編集、メンテナンス、解除をしなければなりません。制限されているビデオシーケンスと、同じビデオシーケンスに適用されているエビデンスロックの間には接続がありません。

ライブ映像または録画映像に制限を作成する

ライブストリームまたは録画映像に制限を作成し、権限のないオペレータによるコンテンツの閲覧を防止できます。ライブ制限を作成する場合、デフォルトで、現在のビューにあるすべてのカメラが制限に含まれるように選択されます。制限の作成時に含めたくないカメラを削除できますが、ライブ制限の作成後に削除はできません。

録画映像にビデオ制限（再生制限）を作成する場合は、制限を編集することでカメラの再生制限を解除できます。

複数のカメラに対してライブ制限を作成する場合、カメラ1台につき、1つのライブ制限が作成されます。複数のカメラに対して再生制限を行う場合、選択されたすべてのカメラを対象とした1つの制限が作成されるだけです。

ライブビデオの制限の場合、**見出し**フィールドにはカメラ名が表示され、ユーザー入力は無効となります。また、**説明**と**インターバル終了**のフィールドも空となり、ユーザー入力が無効となります。ライブ制限が有効である限り、ライブストリームの録画映像も、定義されたタイムインターバルのライブ制限の対象となります。実際には、ライブビデオ制限を作成することで同じビデオシーケンスに再生制限も作成されます。ライブ制限を解除した場合、再生制限を維持するか、再生制限を解除するかを選択できます。

再生制限付きビデオにエビデンスロックもしたい場合は、ビデオシーケンスに手動でエビデンスロックを作成する必要があります。

ライブ制限の作成

1. **[ライブ]**モードで、アクセスを制限したいカメラビューを選択し、**[ビデオ制限]>[作成]**をクリックして、**[ライブ制限を作成]**を開きます。選択したビューにあるすべてのカメラが、デフォルトで制限に追加されます。
2. **[ライブ制限を作成]**ダイアログ > **[インターバル開始]** フィールドで、制限の開始時刻を設定します。制限開始時刻の初期値は、5分前です。
3. 必要に応じて、**ライブ制限を作成**ダイアログの右半分で、**カメラを追加**をクリックし、制限に追加するカメラを選択します。また、制限をかけるべきでないカメラを除外することも可能です。
4. **ライブ制限を作成**をクリックすると、**ライブ制限を作成**ダイアログが開きます。制限の作成が完了したら、**閉じる**をクリックしてダイアログを閉じます。
詳細をクリックすると、作成手順についてより詳しく知ることができます。

再生制限を作成する

録音/録画されたビデオ映像または音声映像は、権限のないオペレータによって、コンテンツが視聴されないように制限できます。

作成する制限の開始時刻と終了時刻を定義する必要があります。

1. **再生**モードで、アクセスを制限したいカメラを選択し、メインタイムラインで、制限を作成したいインターバルの開始時刻と終了時刻を選択します。**タイムラインに開始時刻と終了時刻を設定**を選択し、タイムライン追跡から開始時刻と終了時刻を選択するか、**カレンダーに開始時刻と終了時刻を設定**を選択できます。
2. ツールバーで、**[ビデオ制限] > [作成]**をクリックして、**[再生制限を作成]**ダイアログを開きます。
3. **再生制限の作成**ダイアログで、以下を実行します。
 1. **見出し**フィールドに、制限の見出しを入力します。短い一意の見出しをつけることで、他のオペレータが、より早く制限を見つけることができます。
 2. **説明**フィールドに、制限の説明を入力します。
 3. **インターバル開始**および**インターバル終了**フィールドで、定義された制限インターバルが、制限したいシーケンスに適切であることを確認します。また、インターバルの開始および終了時刻を新たに入力することも可能です。開始および終了時刻が同じであれば、インターバル開始時刻は、自動的に5分前に調整されます。
 4. **再生制限を作成**ダイアログの右半分で、**カメラを追加**をクリックし、制限に追加するカメラを選択します。
4. **制限を作成**ボタンをクリックすると、**再生制限を作成**ダイアログが開きます。
5. **再生制限を作成**ダイアログで、**制限を作成**をクリックし、選択を確認します。
6. 制限の作成が完了したら、**閉じる**をクリックしてダイアログを閉じます。
詳細をクリックすると、作成手順についてより詳しく知ることができます。

制限を作成したら、**ビデオ制限リスト**で制限を開き、制限設定を編集してカメラを追加できます。

すでに制限のあるカメラへの新たな制限の作成

カメラ単体、現在のビュー内のカメラ、およびカメラグループに対して制限を適用できるため、すでに制限のあるカメラに対して、新たに制限を作成することができます。

ライブ制限

すでにライブ制限のあるカメラに新たなライブ制限を作成する場合、新たなライブ制限の開始時刻が、既存のライブ制限の開始時刻より早ければ、既存のライブ制限の開始時刻が更新されます。

新たなライブ制限の開始時刻が、既存のライブ制限の開始時刻と同じ、またはそれよりも遅い場合、既存のライブ制限の開始時刻は変更されません。

再生制限

すでに再生制限のあるカメラに新たな再生制限を作成すると、同じカメラに2つの再生制限が適用されます。

上記のシナリオは、すでに制限のあるカメラに、新たな制限を作成する場合にのみ該当します。既存の制限を編集してインターバル時間を変更するのと同様に、いつでもカメラを追加または除外できます。

制限付きビデオを表示する

制限付きビデオまたは音声を視聴する権限が与えられているオペレータは、通常通り視聴できます。表示された映像には、現在素材が制限されていることを示す警告が含まれます。

制限付きビデオまたは音声を視聴する権限が与えられていないオペレータは、映像を視聴できず、その素材を含むカメラは、ユーザーインターフェイスで制限されていると表示されます。

制限付きビデオは、カメラビューを直接開いてビデオ素材を再生することで、**ライブ**モードまたは**再生**モードで視聴できます。

また、リストにアクセスするのに十分なユーザー権限が割り当てられている場合、**ビデオ制限リスト**からカメラビューを開くことができます。

ビデオ制限リストから制限付きビデオを視聴する

1. **[ライブ]** モードまたは **[再生]** モードで、**[ビデオ制限]** > **[表示]** をクリックして、**[ビデオ制限リスト]** ダイアログを開きます。
2. **ビデオ制限リスト** で、フィルターと検索フィールドを使用して、表示したい制限を見つけます。
3. 表示したい制限を選択し、**ビュー** をクリックします。
一部の制限には複数のカメラが含まれている場合があります、同時視聴できるカメラは100台までです。

制限付きビデオを編集する

ユーザー権限に応じて、既存のビデオ制限を編集できます。例えば、制限開始時刻や制限終了時刻の変更、カメラの追加、および制限の見出しや説明の更新などが可能です。

制限付きビデオの制限設定のみ編集可能です。制限付きビデオに作成されたエビデンスロック設定は、別途編集する必要があります。

現在ログインしているサイトにあるカメラのみ、編集または制限の解除が可能です。

1つ以上のライブ制限を編集する

制限開始時刻の変更は、ライブ制限の場合のみ可能です。

ビデオ制限リスト には、**ライブ**モードまたは**再生**モードのどちらからでもアクセスできます。

1. **[ライブ]** モードまたは **[再生]** モードで、**[ビデオ制限]** > **[表示]** をクリックして、**[ビデオ制限リスト]** ダイアログを開きます。
2. **ビデオ制限リスト** で、フィルターと検索フィールドを使用して、編集したい制限を見つけます。
3. 編集したい制限を選択し、**編集** をクリックすると、**ライブ制限を編集** ダイアログが開きます。
4. **ライブ制限を編集** ダイアログで、**インターバル開始** フィールドを更新し、**変更を保存** をクリックすると、**ライブ制限を編集** ダイアログに更新の進捗状況が表示されます。
5. **ライブ制限を編集** ダイアログで変更が更新されたら、**閉じる** をクリックしてダイアログを閉じます。
詳細 をクリックすると、更新についてより詳しく知ることができます。

1つ以上の再生制限を編集する

複数の再生制限のすべての設定を更新でき、見出し、説明、インターバルの開始および終了時刻の変更、制限へのカメラの追加も可能です。

ビデオ制限リストには、**ライブ**モードまたは**再生**モードのどちらからでもアクセスできます。

1. **[ライブ]** モードまたは**[再生]** モードで、**[ビデオ制限]** > **[表示]** をクリックして、**[ビデオ制限リスト]** ダイアログを開きます。
2. **ビデオ制限リスト**で、フィルターと検索フィールドを使用して、編集したい制限を見つけます。
3. 編集したい制限を選択し、**編集** をクリックすると、**再生制限を編集**ダイアログが開きます。
4. **再生制限を編集**フォームで、関連する制限設定を更新し、**変更を保存** をクリックすると、**再生制限を編集**ダイアログに更新の進捗状況が表示されます。
5. **再生制限を編集**ダイアログで変更が更新されたら、**閉じる** をクリックしてダイアログを閉じます。
詳細をクリックすると、更新についてより詳しく知ることができます。

ビデオ制限を解除する

制限が解除されると、その下にあるビデオ素材（ライブおよび録画）は、通常通りオペレータが視聴できるようになります。

現在ログインしているサイトにあるカメラのみ、編集または制限の解除が可能です。

制限を解除しても、同じビデオシーケンスに適用されたエビデンスロックのステータスは変わりません。ビデオシーケンスにロックがかかっている場合、ビデオを削除するには、ビデオのエビデンスロックを削除する必要があります。

再生制限の解除

複数の再生制限を、同時に解除できません。再生制限の選択と解除は、それぞれ1つずつ行う必要があります。

再生制限の削除

1. **[ライブ]** モードまたは**[再生]** モードで、**[ビデオ制限]** > **[表示]** をクリックして、**[ビデオ制限リスト]** ダイアログを開きます。
2. **ビデオ制限リスト**で、フィルターと検索フィールドを使用して、解除したい制限を見つけます。
ライブ制限はリスト上部に表示され、各ライブ制限は緑色のライブアイコンでマークされます。
再生制限は、ライブ制限の下に表示されます。
3. 解除したい再生制限を選択し、**[解除]** をクリックすると、**[再生制限を解除]** ダイアログが開きます。
4. **再生制限を解除** ダイアログで、**制限を解除** をクリックすると、選択した再生制限が解除され、**再生制限を解除**ダイアログが開きます。
5. **再生制限を解除**ダイアログで、解除処理が完了したら **閉じる** をクリックします。
詳細をクリックすると、解除ステータスの詳細が表示されます。

ライブ制限の解除

複数のライブ制限を選択して解除することはできますが、制限の種類を混在させること、つまり再生制限とライブ制限の両方を同時に選択して解除することはできません。

ライブストリームの制限を解除した場合、同じビデオシーケンスの録画映像をデフォルトで制限できます。オペレータは、ライブビデオストリームの制限を解除する際に、録画映像の制限を保持しないことを選択できます。

制限付きライブストリームの再生制限の作成過程では、カメラの追加または既存カメラの除外はできません。ただし、制限を作成した後に、再生制限を編集して、カメラを除外したり追加したりすることは可能です。

ライブ制限の削除

1. **[ライブ]** モードまたは **[再生]** モードで、**[ビデオ制限]** > **[表示]** をクリックして、**[ビデオ制限リスト]** ダイアログを開きます。
2. **ビデオ制限リスト** で、フィルターと検索フィールドを使用して、解除したい制限を見つけます。ライブ制限はリスト上部に表示され、各ライブ制限は緑色のライブアイコンでマークされます。
3. 解除したいライブ制限を選択し、**[解除]** をクリックすると、**[ライブ制限を解除]** ダイアログが開きます。
4. **ライブ制限を解除** ダイアログで、**録画映像に制限を作成** を選択して、解除するライブ制限に再生制限を作成します。
解除するライブ制限の再生制限を作成しない場合は、**録画映像に制限を作成** チェックボックスをオフにします。
5. **ライブ制限を解除** をクリックすると、選択したライブ制限が解除され、**ライブ制限を解除** ダイアログが開きます。
6. **ライブ制限を解除** ダイアログで、解除処理が完了したら**閉じる** をクリックします。**詳細** をクリックすると、解除ステータスの詳細が表示されます。

制限付きビデオのエクスポート

制限された映像の視聴権限を割り当てられたオペレータのみが、素材にアクセスし、映像をエクスポートできます。

ビデオ制限リスト

ビデオ制限リスト は、すべてのサイトのカメラデバイスのすべての既存ビデオ制限を表示します。リストの一番上にライブ制限が表示され、次に録画映像の制限（再生制限）が表示されます。

ビデオ制限リスト を開けるのは、制限の閲覧および管理権限が付与されているオペレータのみです。

1つ以上の制限を選択して、制限設定の編集または制限の解除ができますが、現在ログインしているサイトのカメラの制限のみ編集または解除が可能です。

例えば、異なる制限タイプ（ライブおよび再生）が選択されている場合、制限設定を表示することはできないなど、一部のアクションは利用できません。

ライブ制限の非表示または未表示

ビデオ制限がカメラ以外のデバイスにのみ適用されている場合（カメラマイクまたはカメラスピーカーなど）、**ビデオ制限リスト**にはカメラデバイスの既存のビデオ制限のみが表示されるため、ライブ制限は存在しますが、**ビデオ制限リスト**には表示されません。

カメラにライブ制限をかけると、すべてのデバイスが制限対象になります。ライブ制限を解除すると、ハードウェア（マイク、カメラ、スピーカー、およびメタデータ）のすべてのデバイスで制限が解除されますが、ライブ制限の解除が一部しか成功していない場合、一部のデバイスで制限が残っている場合があります。これらのデバイスが、マイク、スピーカーおよび／またはメタデータである場合、残りの制限は**ビデオ制限リスト**に表示されませんが、カメラ自体は制限されたままです。

非表示のライブ制限を含むカメラに新しい制限を作成することで、非表示のライブ制限を**ビデオ制限リスト**に表示させることができます。これにより、既存のライブ制限が更新され、リストに表示され、非表示ではなくなります。

リストの検索とフィルター

リストに多くの制限がある場合、リストにフィルターを適用して、制限の数を絞り込むことができます。

また、**検索**フィールドを使用して、特定の制限を検索できます。**検索**フィールドは、すべての制限の見出しと説明文に、検索条件を適用してリストをフィルターします。

検索

検索フィールドに制限の見出しや説明の一部を入力して、制限リストを検索します。

フィルター

1つ以上のフィルターを適用して、リストに表示される制限の数を絞り込んで減らします。定義されたフィルターは累積されます。また、必要に応じて、フィルターされたリストを検索することもできます。

制限の種類

- **すべて**：リスト内のすべての（ライブと再生の）制限を表示します。
- **再生**：リスト内の再生制限のみを表示します。
- **ライブ**：リスト内のライブ制限のみを表示します。

インターバルまたは作成日

- **今日**：今日作成されたすべての制限を表示します。
- **昨日**：昨日作成されたすべての制限を表示します。
- **直近7日間**：過去7日以内に作成されたすべての制限を表示します。
- **すべて**：インターバルの開始が設定されているすべての制限を表示します。
- **カスタム**：任意の日付インターバルをフィルターとして定義します。

作成者：

- **すべて**：自分を含むユーザーが作成したすべての制限を表示します。
- **自分のみ**：自分が作成したすべての制限を表示します。

カメラ：

- **すべて**：すべてのカメラの制限を表示します。
- **選択**：選択したカメラのみの制限を表示します。

ビデオ制限リストの設定

名前	説明
見出し	制限のタイトル。 ビデオ制限リストをフィルターする場合、見出しおよび説明フィールドの内容が検索フィルターに含まれます。 編集時の再生制限にのみ有効です。
説明	制限の内容をより長く、より詳細に説明します。 ビデオ制限リストをフィルターする場合、見出しおよび説明フィールドの内容が検索フィルターに含まれます。 編集時の再生制限にのみ有効です。
インターバル 開始	制限するビデオシーケンスの開始日時を調整します。
インターバル 終了	制限するビデオシーケンスの終了日時を調整します。
カメラを追加	クリックし、制限に追加するカメラをさらに選択します。 編集時の再生制限にのみ有効です。
すべて解除	クリックし、すべてのカメラの制限を解除します。 編集時の再生制限にのみ有効です。

ビデオ制限ステータスのメッセージ

メッ セー ジ	説明および結果	シナリオおよびソリューション
制限 の作 成 / 解除 / 更新 に成 功	すべて成功しました。 結果： ビデオ制限が作成、更新、または解除されました。	
制限 の作 成 / 解除 / 更新 に成 功	ビデオ制限の作成、更新、または解除が完全に成功しなかった場合、メッセージが表示され、プログレスバーは黄色になります。 [詳細] をクリックして、エラー内容を確認します。 結果： ビデオ制限は作成、更新、解除されましたが、選択したカメラおよび/またはそれらの関連デバイスの一部が含まれていません。一部のデバイスにはまだ制限が適用されている可能性があります。	シナリオ： ビデオ制限に含まれているデバイスでレコーディングサーバーの一部がオフライン。 解決策： レコーディングサーバーがオンラインになるまで待ちます。 シナリオ： ユーザーがログインした後、システム管理者が当該ユーザーのビデオ制限のユーザー権限を変更したXProtect Smart Client。 解決策： システム管理者にお問い合わせください。
制限 の作 成 / 解除 / 更新 に成 功	ビデオ制限の作成、更新、または解除に失敗した場合は、メッセージが表示され、プログレスバーは赤で表示されます。 [詳細] をクリックして、エラー内容を確認します。 結果： ビデオ制限が作成、更新、または解除されていません。	シナリオ： ビデオ制限に含まれているデバイスでレコーディングサーバーがすべてオフライン。 解決策： レコーディングサーバーがオンラインになるまで待ちます。 シナリオ： マネジメントサーバーがオフライン。 解決策： マネジメントサーバーがオンラインになるまで待ちます。

FAQ

FAQ：アラーム

アラームのデスクトップ通知が表示されていますが、応答する前に消えてしまいます。どうすればアラームを再度表示できますか？

アラームマネージャタブに移動し、アラームリスト内でアラームを探してください。アラームが見つからない場合は、フィルターで除外されている可能性があります。フィルター設定を変更してみてください。



アラームではなくイベントが表示されるようアラームリストが構成されている場合は、**セットアップ**ボタンをクリックします。左側の**プロパティペイン**の**データソース**リストで**アラーム**を選択し、再び**設定**をクリックします。

FAQ：ブックマーク

ブックマークが付いたインシデントを検索するには？

検索タブに移動して時間帯を設定し、インシデントを録画している可能性のあるカメラを選択してから、**検索対象>ブックマーク**をクリックします。

特定のブックマークが見つかりません。なぜですか？

ブックマークを検索できない原因はいくつか考えられます：

- ブックマークを閲覧するユーザー権限がありません。
- ブックマークは、ブックマークを削除する権限があるユーザーにより削除されました。
- ブックマークしたビデオがデータベースにもう存在しない

検索結果にブックマークを付けることはできますか？

可能。検索を実行して検索結果のリストが返された後、これらの検索結果にブックマークを付けられます。[200 ページの検索結果のブックマーク](#)をご参照ください。

FAQ：通知

新しいアラームがXProtectVMSシステムで発生しても、デスクトップ通知を受け取れないのはなぜでしょうか？

アラームのデスクトップ通知は、システム管理者がXProtect Management Clientで有効にする必要があります。これを行わないと、どの通知も受け取れません。

アラームのデスクトップ通知が表示されていますが、応答する前に消えてしまいます。どうすればアラームを再度表示できますか？

アラームマネージャタブに移動し、アラームリスト内でアラームを探してください。アラームが見つからない場合は、フィルターで除外されている可能性があります。フィルター設定を変更してみてください。



アラームではなくイベントが表示されるようアラームリストが構成されている場合は、**セットアップ**ボタンをクリックします。左側の [**プロパティ**] ペインの [**データソース**] リストで [**アラーム**] を選択し、再度 [**セットアップ**] をクリックします。

数秒の間に複数のアラームが生じた場合、デスクトップ通知が複数表示されるのですか？

デスクトップ通知は画面に15秒間は表示され続けます。しかしながら、数秒の間に複数のアラームが連続して生じた場合でも、1件のデスクトップ通知しか表示されません。デスクトップ通知をクリックすると、アラームウィンドウに最新のアラームが表示されます。前のアラームを表示するには、アラームリストに移動します。

調査および文書化インシデント

インシデントの調査

インシデントの調査

タイムラインを使用して録画済みビデオを閲覧し、主に再生モードでインシデントを調査します。録画ビデオを表示するには、興味のあるカメラからのビデオが表示されているビューを見つけなくてはなりません。ビューは、**ビュー**ペインで利用できます。ビューに表示されるカメラごとに異なるアクションを実行できます（スナップショットを撮る、検索を開始するなど）。101 ページの [カメラツールバー（カメラビューアイテム）](#) をご参照ください。何か目に留まるものがあれば、仮想ジョイスティックでズームインして、より詳しく見ることができます。

検索 タブで詳細な検索を行い、さらなる調査やアクション（エクスポートやブックマークなど）の起点として検索結果を使用できます。

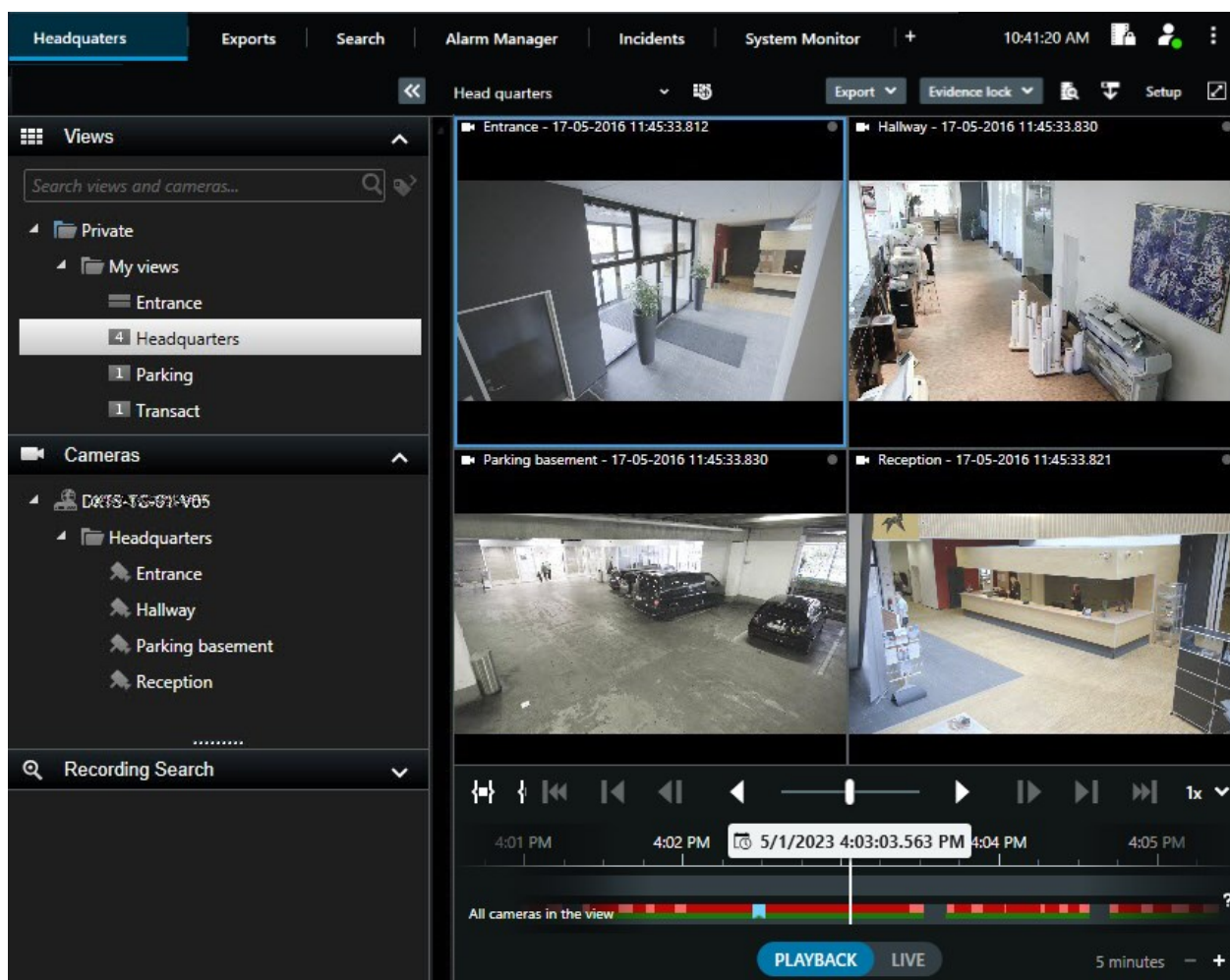
インシデントがアラームと関連付けられている場合は、**アラームマネージャ** タブを選択するか、**アラームリスト** が追加されたビューを選択します。

に [インシデント XProtect Smart Client] タブがある場合は、XProtect® Incident Manager があります。[XProtect Incident Manager 文書](#) を参照してください。XProtect Incident Manager がない、または内蔵 XProtect Smart Client 機能でインシデントを調査する場合は、このセクションで説明している機能と方法を使用してください。

録画された映像の閲覧

録画ビデオの表示方法は種々あります。

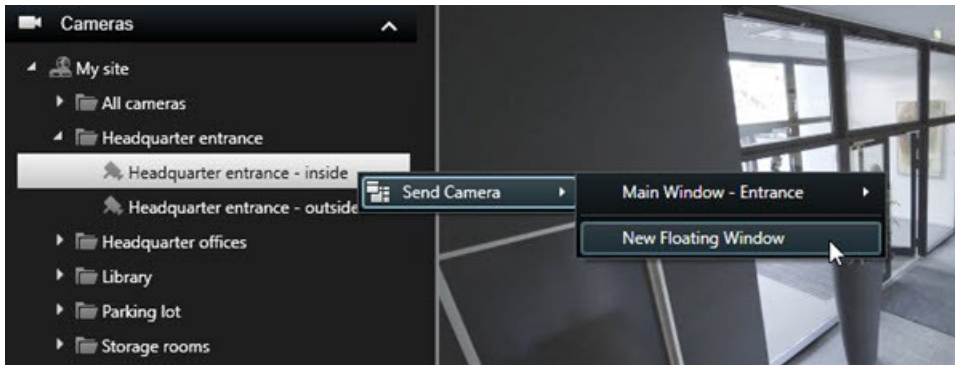
再生モード



再生モードでは、ビューにあるすべてのカメラにメインのタイムラインで表示される同時刻のレコーディングが表示されます。メインのタイムラインのコントロールと機能を使用して、レコーディングを再生、閲覧できます。

ただし、メインタイムラインの時間に関係なく、個々のカメラからレコーディングを表示して操作することもできます。**独立再生**が機能設定で有効になっていないことはありません。[376 ページの機能設定](#)もご参照ください。

カメラペインのツリーを用いてカメラにアクセスした場合、再生モードで個々のカメラを新しいウィンドウで開くことができます。



ライブモード

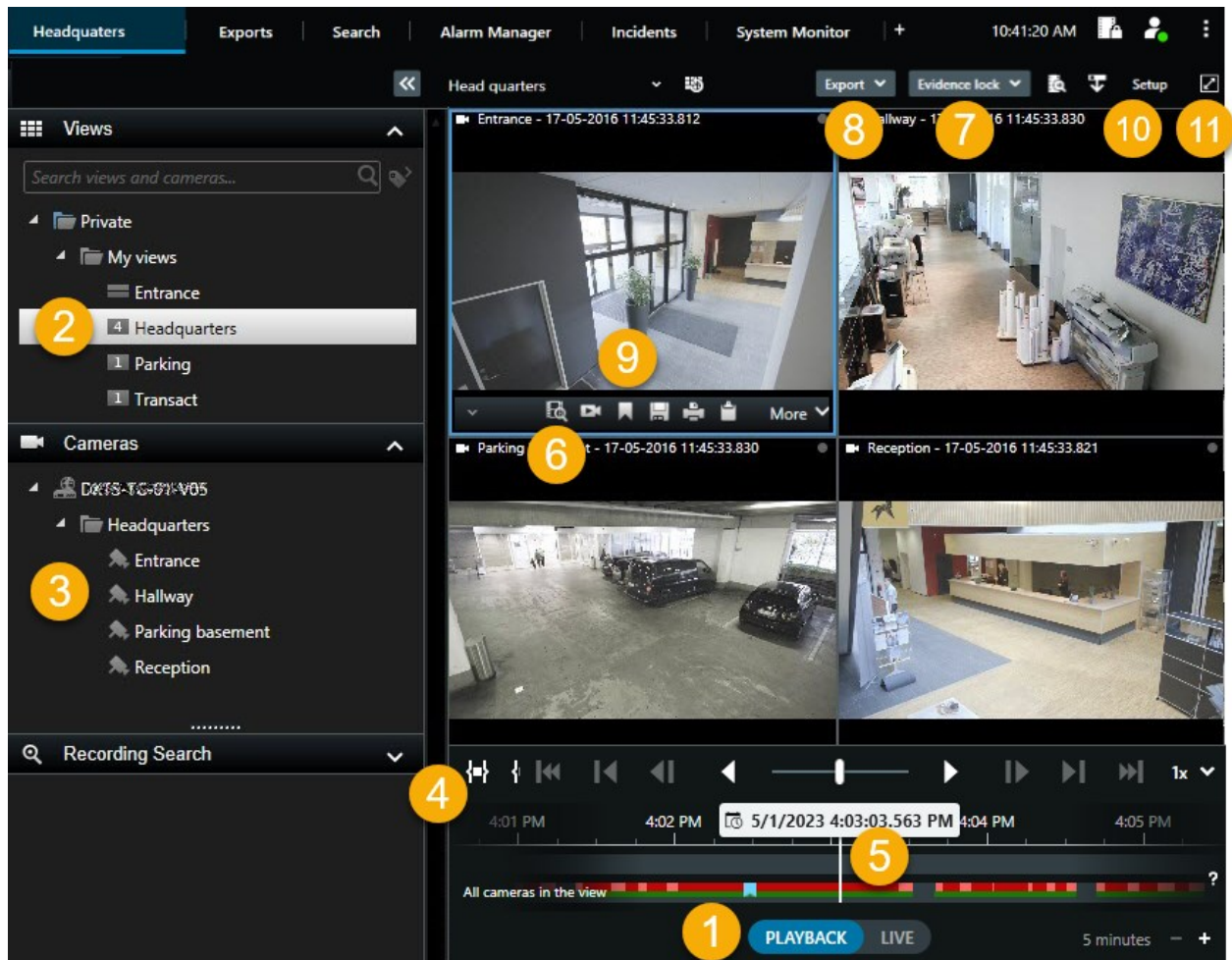
ライブモードでは、カメラ ツールバーで  ボタンをクリックすると、個々のカメラの録画ビデオを閲覧できます。新しいウィンドウが開き、録画を再生したり参照したりできます。**カメラ再生**が有効でなくてはなりません。[376 ページの機能設定](#)もご参照ください。

検索タブ

検索結果は基本的に、再生可能なビデオ シーケンスです。

- 検索結果をプレビューします。[193 ページの検索結果からビデオをプレビュー](#)も参照
- 全画面モード、またはサブウィンドウで検索結果を再生します。[192 ページのサブウィンドウで検索結果を開く](#)も参照

再生モードでのビデオの表示



番号	説明
1	再生モードで録画したビデオを表示する
2	ツリー構造でビューを選択するか、キーボードのショートカットを使用します。 106 ページのデフォルトのキーボードショートカット を参照
3	一時的に個々のカメラを変更します。 108 ページのビューを一時的に変更する をご参照ください。

番号	説明
4	ビデオをエクスポートするタイムスパンを選択します。 61 ページのタイムライン コントロール もご参照ください。
5	メインのタイムラインを使用して閲覧します。 61 ページのタイムラインからの録画の操作 をご参照ください。
6	事前に選択されたカメラを使い、新しい検索ウィンドウを開きます。 192 ページのカメラまたはビューから検索を実行 もご参照ください。
7	エビデンスロックを作成する。
8	ビデオデータをエクスポートします。 228 ページのビデオ、音声、静止画像のエクスポート もご参照ください。
9	カメラ ツールバーでさまざまなアクションを行います。 101 ページのカメラツールバー（カメラビュー アイテム） をご参照ください。
10	カメラとその他のコンテンツタイプをビューに追加するには、設定モードに入るか、終了します。
11	全画面表示モードに切り替えます。

録画したビデオをメインのタイムラインとは別に表示

個々のカメラは、タイムラインとは独立してビデオを再生できます。再生モードでは、再生は選択したメインのタイムラインとは無関係です。ライブモードでは、再生はライブビデオとは無関係です。



この機能は、1台のカメラで通常のビューアイテムにのみ使用できます。ホットスポット、画面自動切替、またはMatrixコンテンツのあるビューアイテムには利用できません。

要件

設定ウィンドウ>機能タブで、**個別再生オプション**を利用可能にしてください。

手順：

1. 録画したビデオを個別に再生するカメラの下部に、マウスのカーソルをもっていきます。表示されるツールバーで、 **個別再生**を選択します。

カメラのビューアイテムのトップバーが黄色に変わり、個別再生タイムラインが表示されます。



ライブモードでは、個別再生ボタンを選択する10秒前からビデオの再生が始まります。再生モードでは、ビデオが再生されているか一時停止されているかによって異なります。再生中の場合、個別再生はメインのタイムラインの現在時間から、現在の再生方向とは反対の方向に10秒ジャンプしてビデオを再生します。再生モードの時にビデオを一時停止した状態で個別再生を選択すると、ビデオはメインのタイムライン上の現在時刻で一時停止したままとなります。

2. 任意の操作。個別再生タイムラインをドラッグし、別の時間に録画したビデオを確認します。
3. 任意の操作。ビュー内のすべてのカメラの録画ビデオを個別再生によるビューアイテムで同じ時刻から表示するには、**再生タイムライン上で選択した時刻を使用する**ボタンをクリックします。.

この操作により、すべてのカメラが再生モードで、個別再生用に最初に選択した時刻に同期化されて表示されます。

検索結果の調査

[検索]タブで見つかったインシデントを調査する方法はいくつかあります。

- サブウィンドウで、検索結果を再生モードで開きます。[192ページのサブウィンドウで検索結果を開く](#)も参照
- 詳細ビューで検索結果を開きます。以下のいずれか1つを実行します。
 - 検索結果リストで検索結果をダブルクリックすると、全画面モードで表示できます。再びダブルクリックすると、検索結果のリストに戻ります。
 - プレビュー エリアで検索結果をプレビューする場合は、ビデオ画像の内側をダブルクリックします。検索結果が全画面モードで開きます。再度ダブルクリックすると、プレビューエリアに戻ります。

検索中

ビデオデータの検索

検索機能は主に**検索**タブで使用できますが、これらはライブおよび再生モードでのビデオ表示に組み込まれています。

ビデオの検索

検索タブでは、ビデオ録画とメタデータを検索できるほか、検索結果に基づいて（エクスポートなどによる）アクションも実行できます。

何を検索できるでしょう？

- ビデオシーケンス
- モーションのあるビデオシーケンス
- ブックマーク付きビデオ
- アラームが発生したビデオシーケンス
- イベントが発生したビデオシーケンス
- 人物が写っているビデオシーケンス
- 車両が写っているビデオ シーケンス
- 特定の場所で録画されたビデオ

要件

- 人物、車両、ロケーションに基づいた検索は、これらの検索カテゴリがシステム管理者によって有効にされている場合にしか使用できません
- 車両の検索は、システムにXProtect® LPRがインストールされている場合でも可能です。詳細については、システム管理者にお問い合わせください

検索カテゴリ**アラーム**、**イベント**、**人物**、**車両**、**ロケーション**は、次の製品のいずれかを使用している場合のみ利用できます。

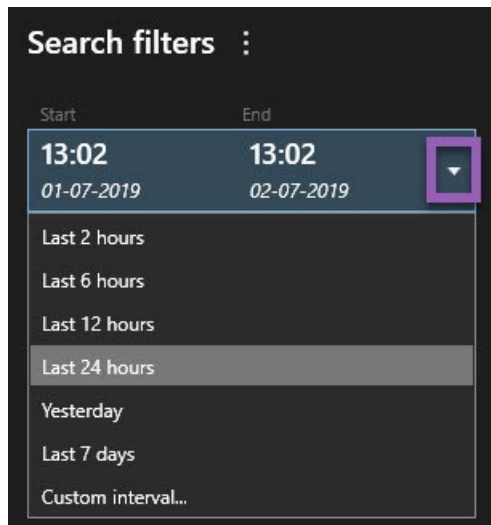


- XProtect Corporate
- XProtect Expert

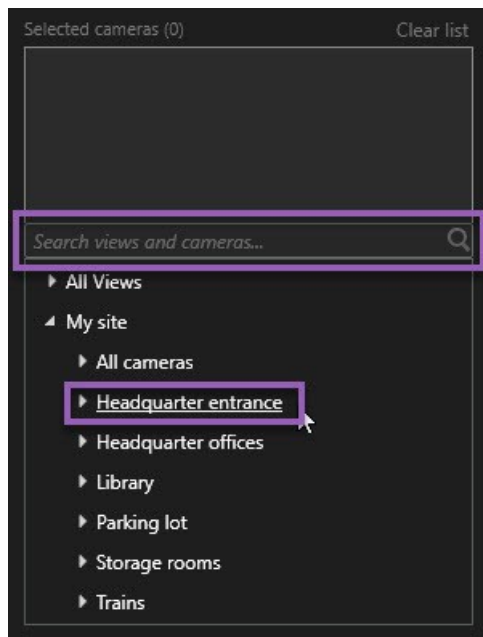
上記の製品のいずれかを使用している場合のみ、検索カテゴリを組み合わせることができます。

手順：

1. 矢印をクリックするか、事前定義されたタイムスパンを選択して、独自の**カスタムインターバル**を定義します。



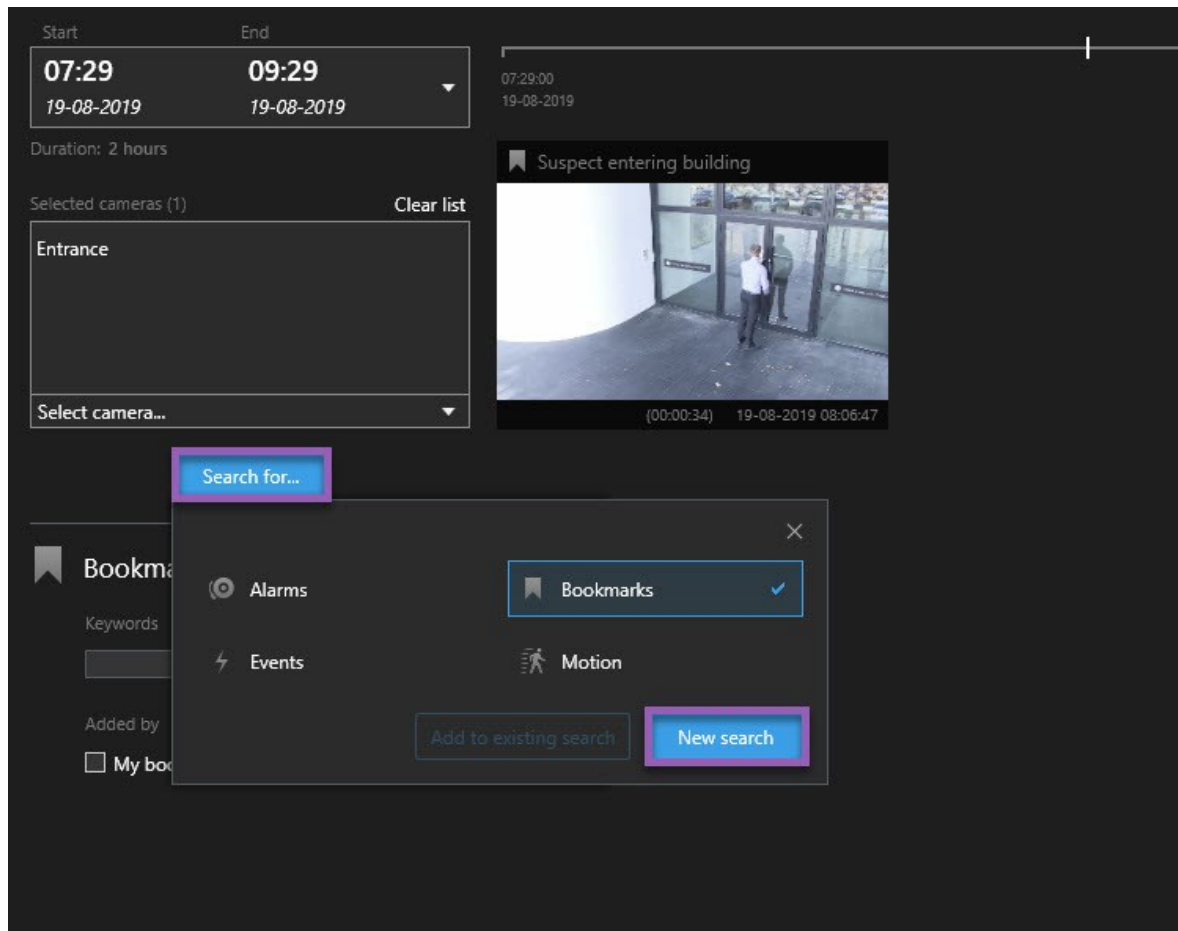
2. 選択したカメラリストで、以下のいずれかを実行してカメラを検索対象に追加します。



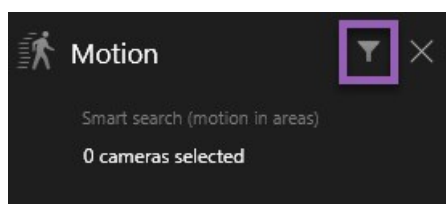
- 検索機能を使用してカメラまたはビューを探します。
- ツリー構造内のカメラを手動で選択します。ビュー内のすべてのカメラを追加するには、ビューの名前を選択します。

カメラを追加すると検索が即座に実行されます。

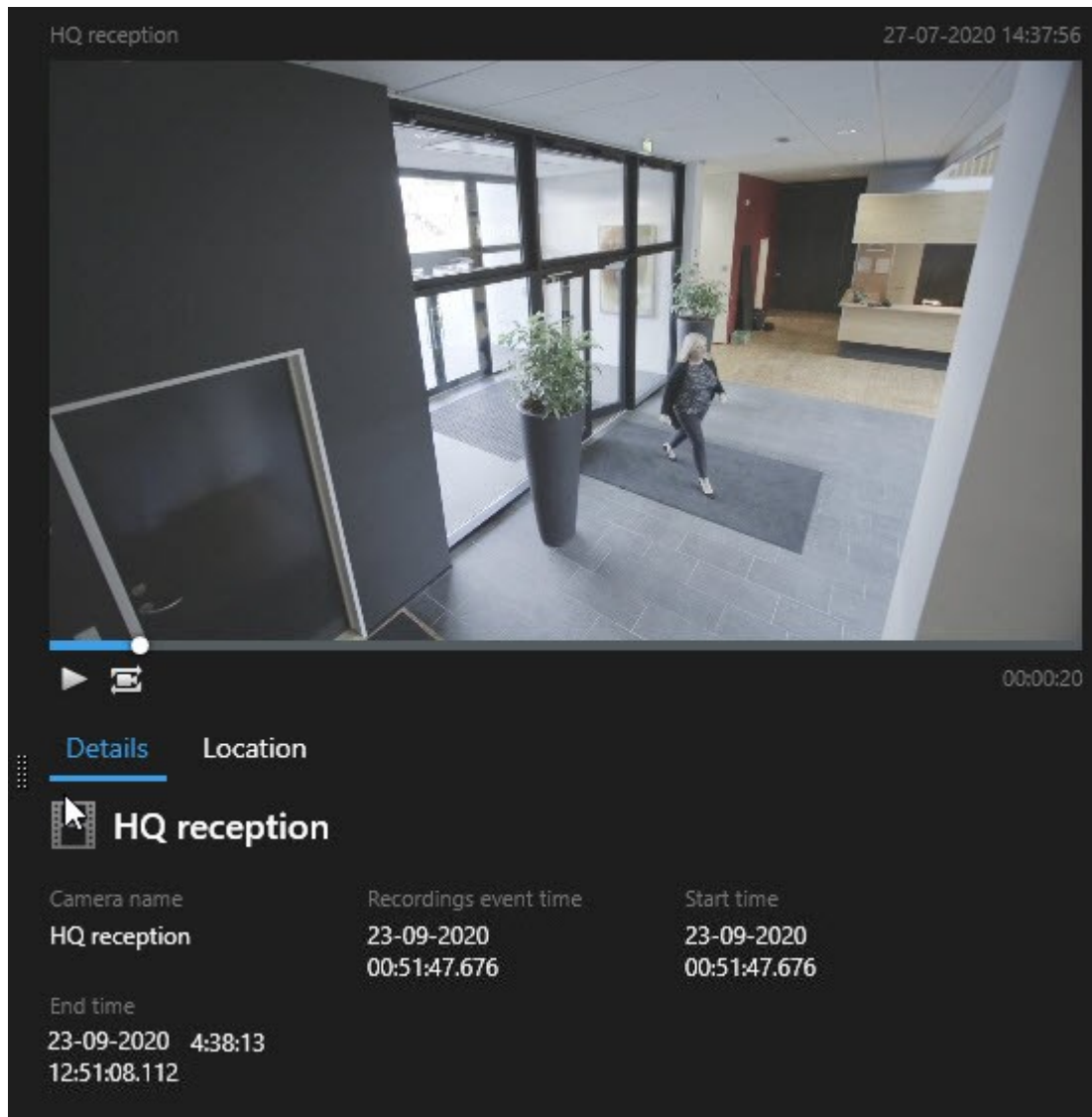
3. **検索対象**をクリックして検索カテゴリを選択します。検索カテゴリは単独で、または組み合わせて使用できます。



4. 追加した検索カテゴリごとに、検索フィルターを追加することで検索対象を絞り込むことができます。[208 ページのFAQ: 検索](#)もご参照ください。

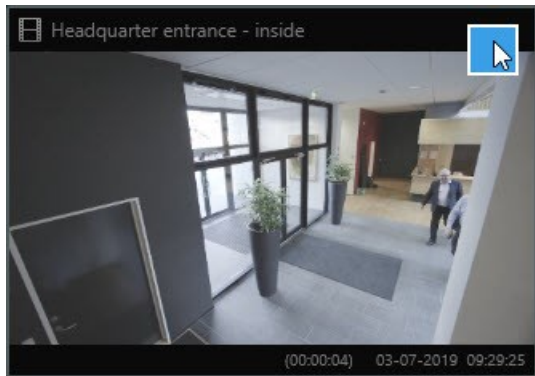


5. 検索結果のビデオのプレビューを表示するには、検索結果を選択し、プレビューエリアにある  をクリックします。



全画面表示モードでビデオシーケンスを再生するには、検索結果をダブルクリックします。

6. アクションバーを表示するには、検索結果にひとつずつカーソルを当て、表示される青いチェックボックスを選択します。



青いアクションバーが表示されます：



モーションの検索（スマートサーチ）

モーションのあるビデオ録画を検索する場合、スマートサーチフィルターを適用すると、定義したエリア内にモーションがある検索結果のみを表示することができます。

例

スマートサーチを使って、複数のカメラでモニターしている出入口に入る人のビデオを検索してみましょう。

要件

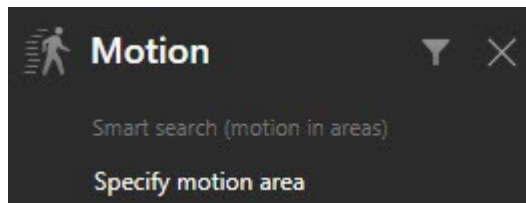
スマートサーチフィルターを使用するには、システム 管理者があなたのユーザープロフィールでスマートサーチを有効にしておく必要があります。

手順：

1. **検索**タブでタイムスパンを選択します。
2. 検索に含めるカメラを選択します。
3. **[検索対象]>[モーション]>[新規検索]**の順にクリックします。選択したタイムスパンとカメラにモーションのある録画がデータベースに存在する場合、その録画は検索結果ペインにサムネイル画像として表示されます。

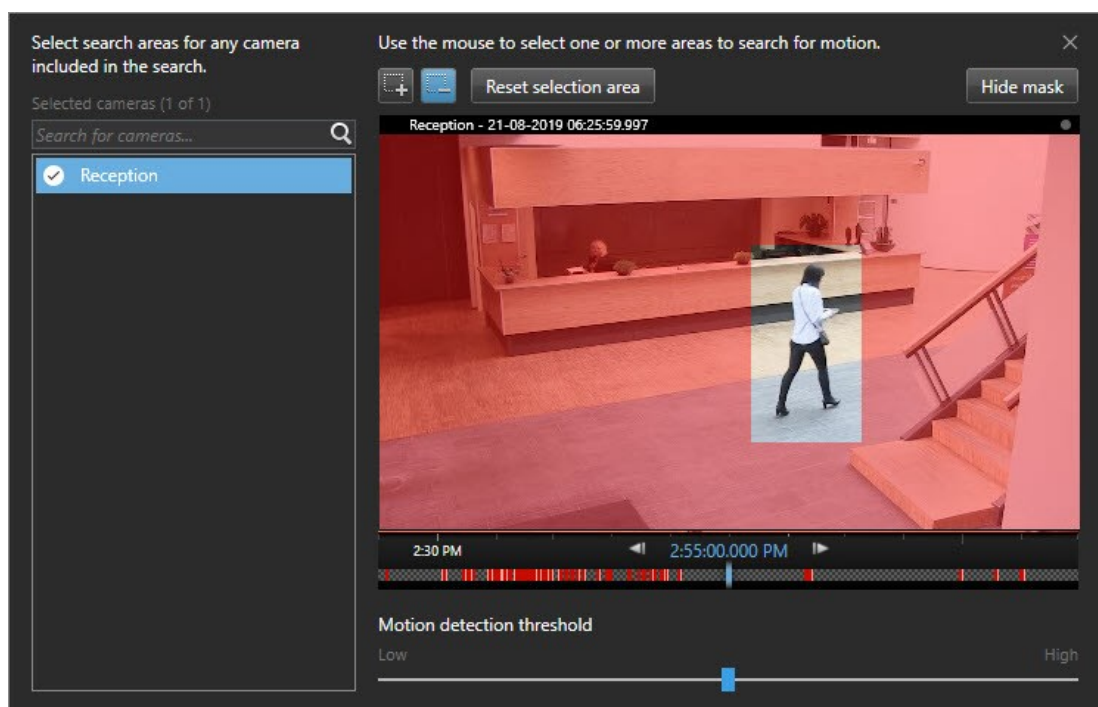
4. 選択したエリア限定でモーションを検出するには、以下を実行します。

1. モーションで0台のカメラを選択済みをクリックします。



ダイアログが表示され、選択したカメラのリストが示されます。

2. 一度に1台ずつカメラを選択し、赤いプレビューエリア内をクリック&ドラッグして少なくとも1つのエリアのマスクを解除します。システムはそのエリアのみを検索します。複数のエリアをマスク解除することができます。



モーション検知の感度はシステム管理者が個々のカメラについて Management Client で設定しています。ただし、感度はスライダーを使用して調整できます。詳細については、[184 ページのモーション検索いき値](#)をご参照ください。

3. 検索が自動的に行われます。ダイアログの外をクリックすると検索結果に戻ります。

4. アクションを実行するには、例えば検索結果をブックマークする場合は、検索結果の上にカーソルを当てて、チェックボックス ☒ を選択します。アクションバーが表示されます。



モーション検索いき値

カメラの選択エリア内のモーションを検索する際には、モーションしきい値を調整できます。モーションしきい値により、モーション検知機能の感度が決まります。

- しきい値が高いほど、モーション検出の起動に必要なモーションが多く必要になります。これにより検索結果の数が減ります
- しきい値が低いほど、モーション検出の起動に必要なモーションが少なくなります。これにより検索結果の数が増えます

ブックマークの検索

自分または他の人物によってブックマークが付けられたインシデントを検索できます（カメラの台数は無制限）。

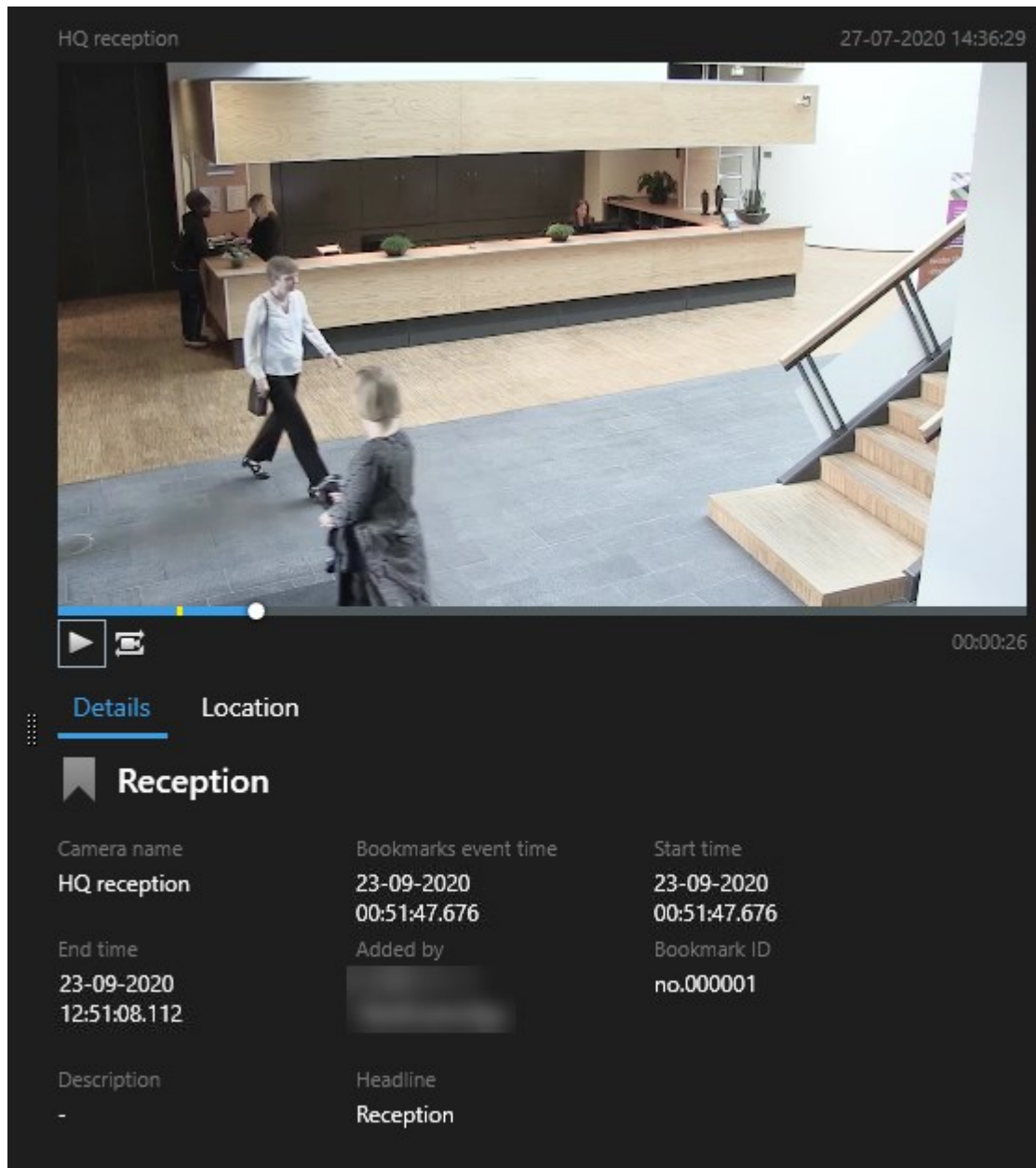
手順：

1. 検索に含めるカメラを選択します。
2. **[検索対象]** > **[ブックマーク]** > **[新規検索]** の順にクリックします。データベースにブックマークをした録画があれば、検索結果ペインにサムネイル画像が表示されます。
3. 必要に応じて、キーワードを入力して検索結果を絞り込みます。以下のキーワードを使用できます。
 - 完全な**ブックマークID**。no.000004
 - 例：site\user2
 - **見出し**または**説明**に表示される任意のテキスト



デフォルトでは、システムは**見出し**および**説明**の両方にあるキーワードを検索します。これを変更するには、**以下でキーワードを検索**を使用します。

4. ビデオシーケンスとブックマークの詳細をプレビューするには、右側のプレビューペインで検索結果を選択してビデオを再生します。



5. 全画面表示モードで録画を表示するには、検索結果をダブルクリックします。
6. その他のアクションを実行するには、例えば検索結果をブックマークする場合、検索結果の上にカーソルを当ててチェックボックス ☒ を選択します。アクションバー が表示されています。



アラームの検索

アラームに関連したビデオ録画を検索する際には、検索フィルターを適用することで、特定のアラーム（特定のオペレータに割り当てられた特定の状態にあるアラームなど）を伴う検索結果のみを表示することができます。

手順：

1. 検索に含めるカメラを選択します。
2. **[検索対象]** > **[アラーム]** > **[新規検索]** の順にクリックします。
3. 検索フィルターを適用して検索結果を絞り込みます。以下に基づいてフィルターできます。
 - **優先度**
 - **ステータス**
 - **ID** - 検索したいIDをフルで入力します
 - **所有者**
 - **サーバー** - 以下を使用している場合にのみ利用できます：Milestone Federated Architecture™



Milestone Federated Architecture™を使用している場合、**優先度**と**ステータス**フィルターは、接続されているすべてのサイトで適用されます。

イベントの検索

イベントに関連したビデオ録画を検索する際には、検索フィルターを適用することで、特定のイベント（特定のソースまたはサーバーから発生したイベントなど）を伴う検索結果のみを表示することができます。

手順：

1. 検索に含めるカメラを選択します。
2. **[検索対象]** > **[イベント]** > **[新規検索]** の順にクリックします。
3. 検索フィルターを適用して検索結果を絞り込みます。以下に基づいてフィルターできます。
 - **ソース**
 - **ID** - 検索したいIDをフルで入力します
 - **サーバー** - 以下を使用している場合にのみ利用できます：Milestone Federated Architecture™

人物の検索



この検索カテゴリと検索フィルターは、システム管理者によって有効にされている場合にしか使用できません。

人物に関連したビデオ録画を検索する際には、検索フィルターを適用することで、ある特徴を持つ人物（特定の年齢または身長の人物など）を伴う検索結果のみを表示することができます。

1. 検索に含めるカメラを選択します。
2. **[検索対象]** > **[人物]** > **[新規検索]** の順にクリックします。
3. 検索フィルターを適用して検索結果を絞り込みます。以下に基づいてフィルターできます。
 - **年齢** - 検索対象を特定の年齢層の人物に絞り込みます
 - **性別** - 検索対象を男性または女性のいずれかに絞り込みます
 - **身長** - 検索対象を特定の身長範囲の人物に絞り込みます
 - **顔** - チェックボックスを選択して、検索対象を顔が映っている人物に絞り込みます。

車両の検索

この検索カテゴリと検索フィルターは、システム管理者によって有効にされている場合にしか使用できません。



車両の検索は、システムにXProtect® LPRがインストールされている場合でも可能です。

詳細については、システム管理者にお問い合わせください

車両に関連したビデオ録画を検索する際には、検索フィルターを適用することで、特定の車両（特定の国で発行された特定のナンバープレートが付いた車両など）を伴う検索結果のみを表示することができます。

1. 検索に含めるカメラを選択します。
2. **[検索対象]** > **[車両]** > **[新規検索]** の順にクリックします。
3. 検索フィルターを適用して検索結果を絞り込みます。以下に基づいてフィルターできます。
 - **色** - 検索対象を特定の色の車両に絞り込みます
 - **ナンバープレート** - ナンバープレート番号の一部またはすべてを入力して絞り込みます
 - **国** - 検索対象を特定の国によって発行されたナンバープレートに絞り込みます



この検索フィルターは、システムにXProtect® LPRがインストールされている場合のみ使用できます。

- **車両速度** - 検索対象を特定の速度で走行している車両に絞り込みます
- **車種** - 検索対象を車種（トラックなど）に基づいて絞り込みます

- **マッチリスト** - 特定のマッチリストに含まれるナンバープレート を絞り込みます



この検索フィルターは、システムにXProtect® LPRがインストールされている場合のみ使用できます。

特定の場所で録画されたビデオを検索



この検索カテゴリと検索フィルターは、システム管理者によって有効にされている場合にしか使用できません。

特定の場所で録画されたビデオを検索する際には、検索フィルターを適用することで場所に基づいて検索結果を絞り込むことができます。

1. 検索に含めるカメラを選択します。
2. **[検索対象]** > **[ロケーション]** > **[新規検索]** の順にクリックします。
3. 検索フィルターを適用して検索結果を絞り込みます。緯度と経度、そして検索半径を指定することで、地理的座標に基づいて検索結果を絞り込むことができます。

検索結果、設定、アクション

このセクションでは、検索タイムライン、さまざまな設定、検索中に実行できることについて説明します。

検索の保存と管理に関する詳細については、[203 ページの検索の管理](#)を参照してください。

検索タブでタイムラインを検索

タイムラインを検索では、検索結果がどのように分布しているかの概要がわかります。検索結果をナビゲートすることもできます。

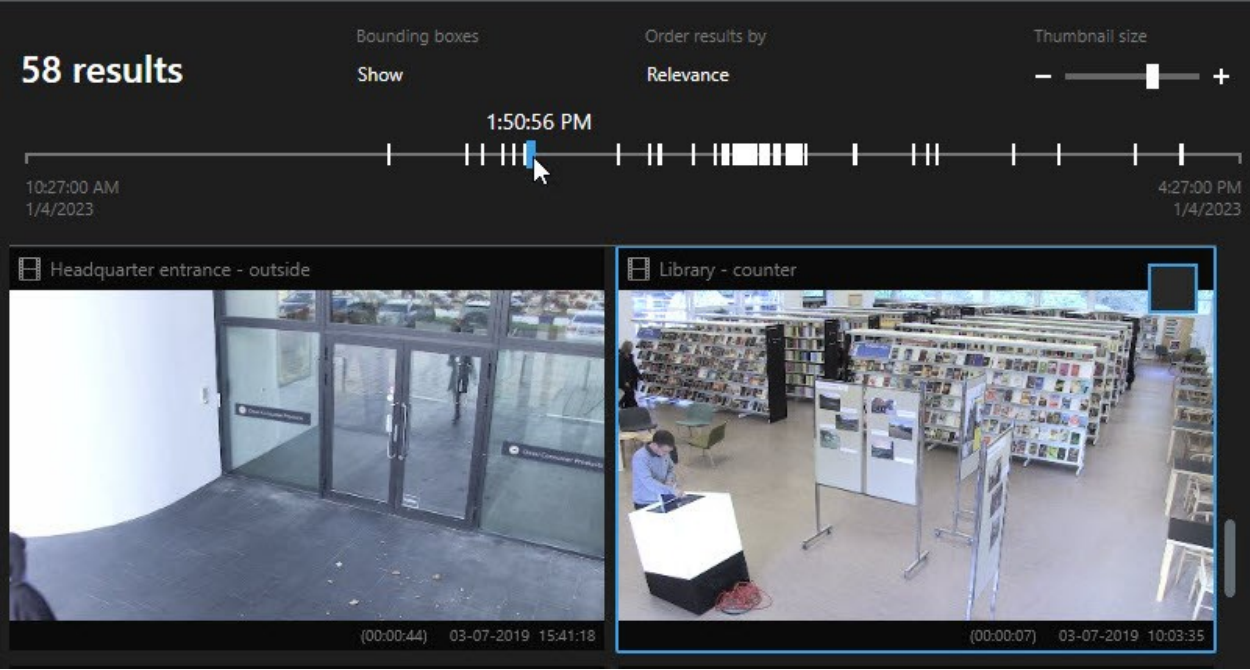
タイムラインを検索の範囲は、選択したタイムスパン、例えば、**過去6時間**などによって変わります。



白いマーカーは検索結果の場所を指しています。

それぞれのマーカーは、複数の検索結果があることを示している場合もあります。マーカーの上にカーソルを当てると、イベントやインシデントが記録された時間とカメラに関する情報が表示されます。

検索結果間を移動するには、マーカーをクリックします。マーカーが青くなり、関連する検索結果が 青い境界線で囲まれます。



選択したマーカが複数の検索結果を示している場合は、最初の検索結果にマークが付きます。



マーカが10件以上の検索結果を示している場合は、メッセージに検索結果の件数と 関連するカメラの台数が表示されます。

検索結果から利用できるアクション

検索結果に基づき、複数のアクションを利用できます。青いアクションバーでは一部のアクションを利用でき、他のアクションはプレビューエリアで使用できます。



可能なアクションは、ユーザー権限により異なる場合があります。

アクション	説明
	[エクスポート] タブ>[エクスポートリスト] に選択したシーケンスを追加します。 エクスポートリスト に追加するシーケンスはすべて、エクスポート タブでエクスポートの準備ができ

アクション	説明
	ています。228 ページのビデオ、音声、静止画像のエクスポートもご参照ください。
	検索結果に関する情報(ビデオシーケンスから取得した静止画像など)が記されたPDFレポートを作成します。
	複数の検索結果に同時にブックマークを付けます。
	複数のブックマークを同時に編集します。
	エビデンスロックをかけることで、関連デバイスに存在するビデオシーケンスとデータ（音声など）が削除されないようにします。
	複数の検索結果をサブウィンドウで開きます。ここでは、ビデオのライブまたは再生モードでの表示、エクスポート、エビデンスロックの作成、Interconnectで接続されたVMSシステムに属するデバイスとカメラからの録画取得ができます。
	検索結果の複数のスナップショットを同時に撮ります。
	ビデオのプレビュー中、現在の時刻を個別再生タイムラインに転送できます。これは、たとえばインシデントが起きた時に、再生モードで関連するカメラを見る際に便利です。

MIP関連のアクション

サードパーティ製ソフトウェアに関連するその他のアクションが可能な場合があります。MIP SDKは、こうした他のアクションを追加するときに使います。

マージされた検索結果

複数の検索カテゴリを使用しており、検索結果が重複することがある場合は、ひとつにまとめられます。複数の検索結果になることもあります。これは、異なる検索条件が同じタイムスパン内の同じカメラからのビデオと一致する場合に発生します。基本的には同じビデオ シーケンスであるさまざまな検索結果を返す代わりに、XProtect Smart Clientは、カメラメイヤイベント時間、検索カテゴリといったあらゆる詳細が含まれた検索結果をひとつ返します。

例：

メモリー・レーン15の車両を見つける

過去2時間にメモリー・レーン15に駐車していたトラックのような車両を見つけたいとします。検索を構成するには：

1. 適正なエリアに配置されたカメラ10台を選択します。
2. **期間**を**過去2時間**に設定します。
3. **[車両]**の検索カテゴリを追加し、**[トラック]**でフィルタリングします。
4. **[場所]**の検索カテゴリを追加し、アドレスおよび検索範囲の地理的な座標でフィルタリングします。
5. **[すべての条件に一致]**チェックボックスを選択します。



詳細については、[187 ページの車両の検索](#)または[188 ページの特定の場所で録画されたビデオを検索](#)をご参照ください。

ブックマークされたアラームを見つける

2日前、XProtect VMSシステムでアラームが鳴りました。アラームを容易に見つけられるようにするため、ブックマークを付けました。再びブックマークを見つけてエクスポートしたいとします。検索を構成するには：

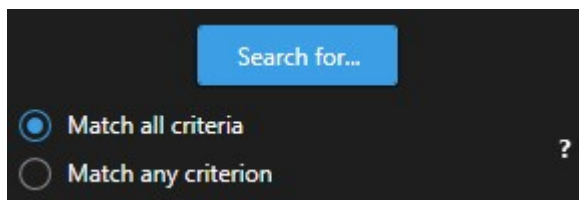
1. どのカメラがインシデントを録画していたのか覚えている場合は、そのカメラを選択します。覚えていなければ、可能なカメラの範囲を選択します。
2. **[期間]**を**[過去24時間]**に設定するか、**カスタム間隔**を指定します。
3. **[ブックマーク]**と**[アラーム]**の検索カテゴリを追加します。
4. **[すべての条件に一致]**チェックボックスを選択します。



詳細については、[184 ページのブックマークの検索](#)または[186 ページのアラームの検索](#)をご参照ください。

検索条件の一部またはすべてに一致

XProtect CorporateまたはXProtect Expertを使用している場合は、同じ検索で複数の検索カテゴリを使用できます。検索を設定する際、検索カテゴリの一部またはすべてに一致する必要があるかどうかを指定します。



すべての基準を満たすと、検索結果は少なくなります。より正確な結果が出ます。さらに、検索結果が重複すると、より少ない結果にまとめられます。[190 ページのマージされた検索結果](#)もご参照ください。

一部の基準を満たすと、数は多くなりますが、正確さの低い検索結果が出ます。



通常、アクション バーで利用できるアクションは、マージされた検索結果では使用できない可能性があります。これは、実行しようとしているアクションを検索カテゴリのいずれかで使用できない場合に発生します。も参照[209 ページの検索結果を選択した後、青いアクション バーで特定のアクションを利用できなくなることがあります。](#)

カメラまたはビューから検索を実行

1つまたは複数のビデオストリーム内で何か具体的なものを検索する場合は、単一のカメラまたはビュー全体からのカメラを対象に検索を開始できます。検索ワークスペースが新しいフローティングウィンドウで開きます。

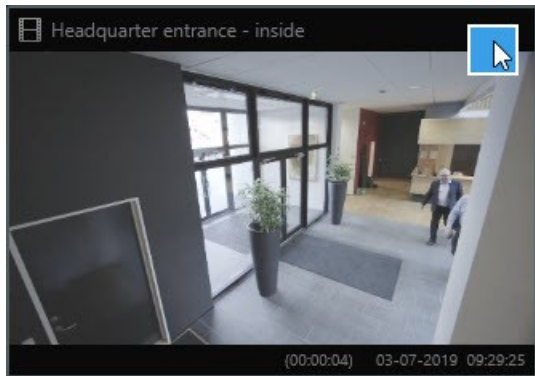
手順：

1. ライブまたは再生モードに切り替えます。
2. 単一のカメラで検索するには:
 1. 表示アイテムの上にカーソルを置きます。カメラツールバーが表示されます。
 2.  をクリックします。**[検索]**ウィンドウが開き、表示アイテム内のカメラにおいて録画ビデオの検索を開始できます。
3. ビュー内のすべてのカメラで検索するには:
 1. 適切なビューが開かれていることを確認します。
 2. ビュー上部にある  をクリックします。**[検索]**ウィンドウが開き、ビュー内のカメラにおいて録画ビデオの検索を開始できます。
 3. 何を探しているかに応じて、時間帯、検索カテゴリ、フィルターなどを修正します。詳細については、[177 ページのビデオデータの検索](#)をご参照ください。

サブウィンドウで検索結果を開く

新しいウィンドウで検索結果を開くことができます。このウィンドウは再生モードで開き、メインのタイムラインを使用してインシデントを調査し、ビデオのエクスポートなど他のアクションの実行を可能にします。

1. 検索結果にカーソルを当てて、表示される青いチェックボックスを選択します。



2. 青いアクションバーが表示されます：



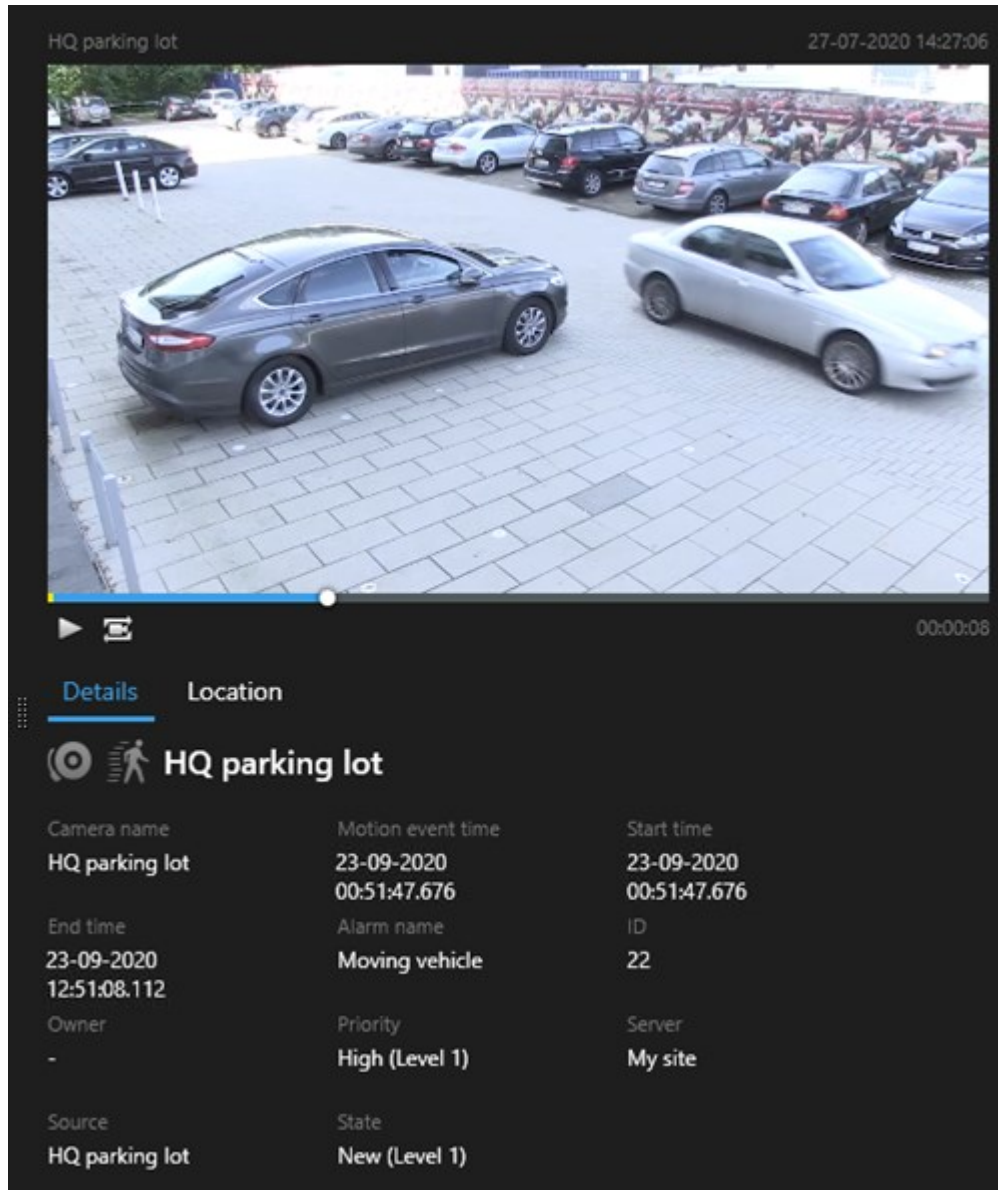
3.  をクリックすると、再生モードで検索結果が新しいフローティングウィンドウに表示されます。
4. ウィンドウを別のモニターに移動するには、ウィンドウをクリック&ドラッグし、適切な場所で放します。

検索結果からビデオをプレビュー

探しているビデオシーケンスが見つかったかどうかは、クイックプレビューを実行することで確認できます。

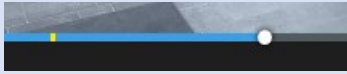
手順：

1. **[検索]**タブで検索を実行し、検索結果を選択します。プレビューエリアに、関連するビデオシーケンスの静止画像が表示されます。

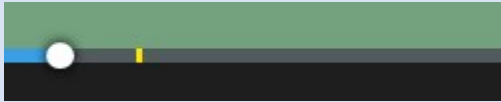


2.  をクリックしてビデオを再生します。
3. ビデオシーケンスのプレビューを全画面表示モードで表示するには、個々の検索結果をダブルクリックします。再度ダブルクリックすると検索結果に戻ります。
4. ズームイン／アウトするには、マウスホイールでスクロールします。クリック＆ドラッグで特定のエリアをズームすることも可能です。

タイムラインを検索の黄色いマーカーはイベント時間を示します。マーカーの上にマウスを動かすと、イベント時間が表示されます。



検索結果が組み合わせられると、複数のマーカーが同じタイムラインを検索に表示されます。



これは、[モーション]と[車両]で検索し、検索結果が両方の基準に一致する場合などに発生します。この例では、ひとつのマーカーがモーションの開始時間を示しています。他のマーカーは、車両が車両として識別された時間を示します。

検索中にバウンディングボックスを表示/非表示にする

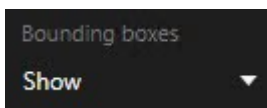
検索中にバウンディングボックスを使用すると、（モーション検出などにもとづいて）オブジェクトを特定しやすくなります。境界ボックスはオン またはオフに切り替えることができます。



バウンディングボックスはたいてい、検索結果のサムネイル画像に表示されます。ただし、VMS システムがメタデータを検索するよう設定されている場合、検索結果のビデオをプレビューするとバウンディングボックスも表示されます。

手順：

1. [検索]タブに移動し、検索を実行します。
2. バウンディングボックスの右上で、次のことができます：
 - **表示**を選択すると、バウンディングボックスが表示されます。
 - **非表示**を選択すると、バウンディングボックスが非表示になります。



並べ替えオプション

検索結果は以下の基準で並べ替えることができます。

名前	説明
関連性	この並べ替えオプションは、以下の製品のひとつを使用している場合にのみ利用できます。 • XProtect Corporate • XProtect Expert 関連性は、検索の設定方法に応じて異なることを意味します。 • 選択された検索カテゴリがない、またはひとつ - イベント時間が最新の検索結果が最初に表示されます • 選択された複数の検索カテゴリ／すべての条件に一致 - 一致する検索カテゴリが最も多い検索結果が最初に表示されます。2つの検索結果に同じ数の一致検索カテゴリが含まれている場合は、イベント時間が最新の検索結果が最初に表示されます。 • 選択された複数の検索カテゴリ／すべての条件に一致 - イベント回数が最も多い検索結果が最初に表示されます。2つの検索結果に同じ数のイベント回数が含まれている場合は、イベント時間が最新の検索結果が最初に表示されます。
最新のイベント時間	最初に最も直近のイベント時間の検索結果が表示されます。
一番古いイベント時間	最初に最も古いイベント時間の検索結果が表示されます。
最新の開始時刻	最初に最も直近の開始時刻の検索結果が表示されます。
一番古い開始時刻	最初に最も古い開始時刻の検索結果が表示されます。

検索中にカメラの位置を特定する

VMSシステムがスマートマップを使用するよう設定されている場合は、ビデオや関連データの検索中にスマートマップのプレビューでカメラの位置を表示できます。

要件

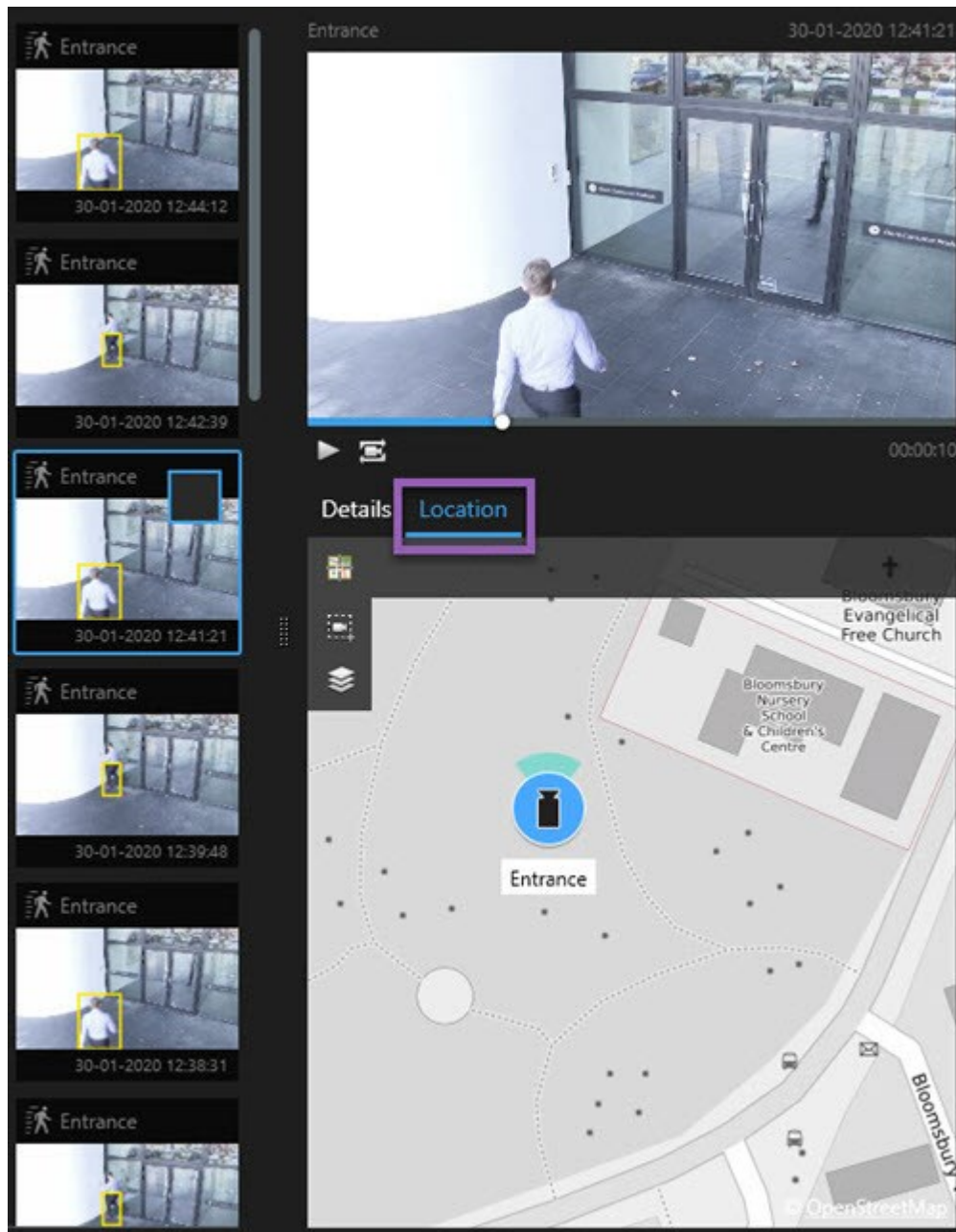
- 以下のいずれかのXProtect製品を使用している：
 - XProtect Corporate
 - XProtect Expert



- カメラが地理情報と併せて配置されている。詳細については、システム管理者にお問い合わせください。

手順：

1. 関心のある検索結果を選択します。



2. プレビューエリアで **場所** を選択します。カメラが地理情報に応じて表示されます。
3. 周囲の概観を把握するには、マウスのスクロールホイールでズームアウトするか、カメラがPTZカメラの場合はパンします。
4. カメラに戻るには  **再度中心に戻る** をクリックします。

カメラアイコン

本トピックで取り上げるアイコンの一部は「**検索**」タブの「**場所**」領域にしか表示されない一方、赤で示されたアイコンはアラームに関連付けられており、スマートマップが含まれるビューにも表示されます。どのアイコンが表示されるかは状況に応じて異なります。

以下のテーブルにおいて：

- 灰色の背景は、カメラが選択されていないことを示しています
- 青い背景は、カメラが選択されていることを示しています

アイコン	タブ/モード	説明
 	「 検索 」タブ	カメラがどの検索結果にも関連付けられていません。
 	「 検索 」タブ	カメラが関連付けられている検索結果が選択されました。
 	ライブモード、再生モード、検索タブ	これはソースカメラ（アラームをトリガーしたカメラ）です。
	ライブモード、再生モード、検索タブ	これは関連カメラ（選択したソースカメラ（アラームを起動したカメラ）に関連付けられているカメラ）です。 このアイコンは、ソースカメラの選択後にのみ表示されます。
	ライブモード、再生モード、検索タブ	これは、ソースカメラと関連カメラの両方を指します。このカメラは： • アラームを起動したカメラである • 選択したソースカメラ（アラームを起動したカメラ）に関連付けられている このアイコンは、ソースカメラの選択後にのみ表示されます。



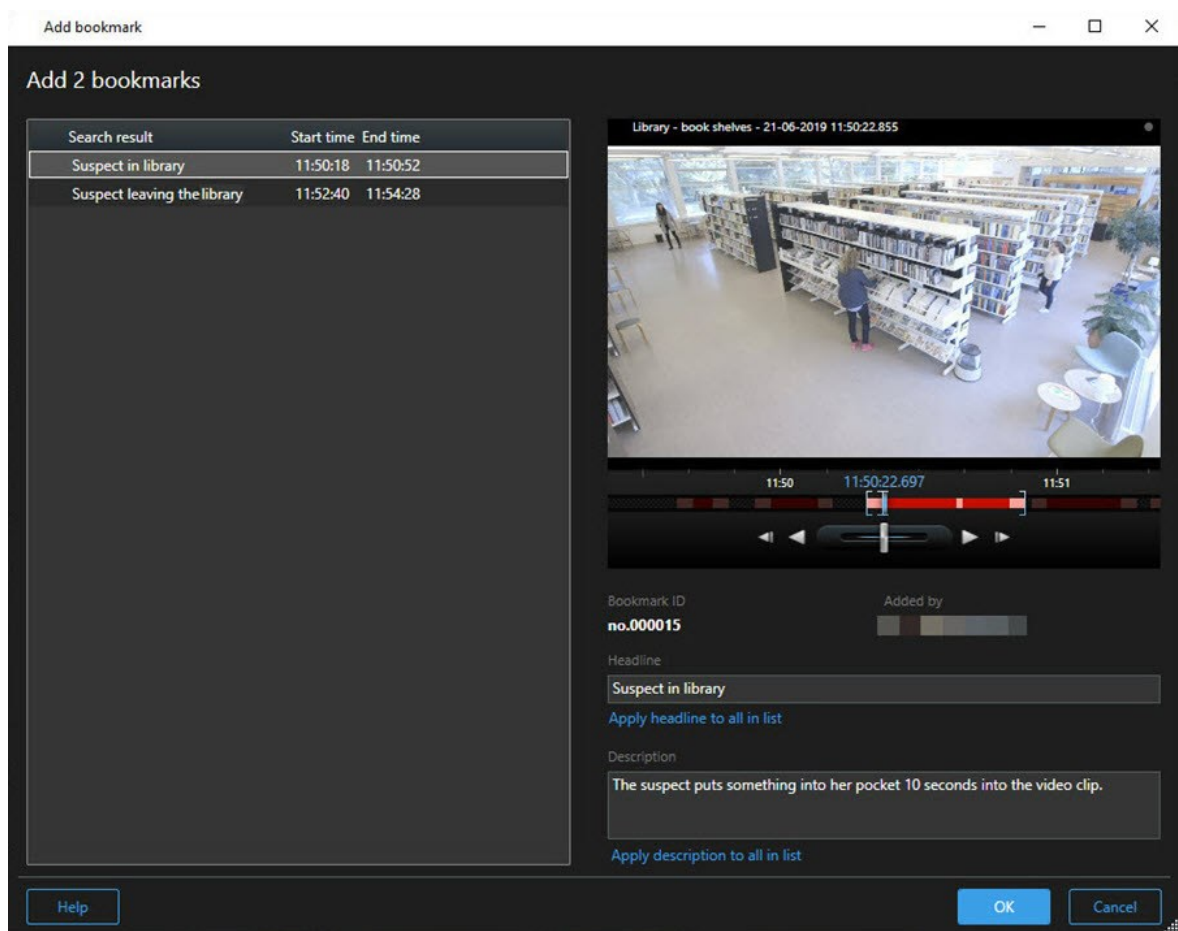
ソースカメラと関連カメラは、アラーム定義の一部としてXProtect Management Clientで定義されます。

検索結果のブックマーク

検索して見つけたインシデントを文書化したり共有するために、複数の検索結果を一度にブックマークすることができます。インシデントをブックマークすると、自分や他のオペレータが後でインシデントを検索できます。

手順：

1. ブックマークしたい検索結果それぞれについて、カーソルを当ててブルーのチェックボックス  を選択します。
2. ブルーのアクションバーで  をクリックします。ウィンドウが表示されます。図は、2件の検索結果が選択された状態を示しています。



3. 検索結果を一つひとつ選択して詳細をブックマークに追加し、次のステップに従います:

1. デフォルトのタイムスパンを変更するには、タイムラインを検索のハンドルを新しい位置までドラッグします。



2. ヘッドラインと、例えばインシデントの説明も入力します。
3. すべてのブックマークに同じヘッドラインや説明を適用したい場合は、次をクリックします:

- リスト内の全アイテムに見出しを適用する
- リストのすべてに説明を適用

4. [OK]をクリックしてブックマークを保存します。進捗バーで、ブックマークがいつできるかが分かります。



XProtect Smart Wallがシステムで設定済みの場合は、[Smart Wallに表示] をクリックして、Smart Wallのモニターにブックマークを送信します。

検索結果のブックマークを編集する

システムでブックマークの詳細(タイムスパンやヘッドライン、説明など)を編集することができます。複数のブックマークを同時に編集することもできます。

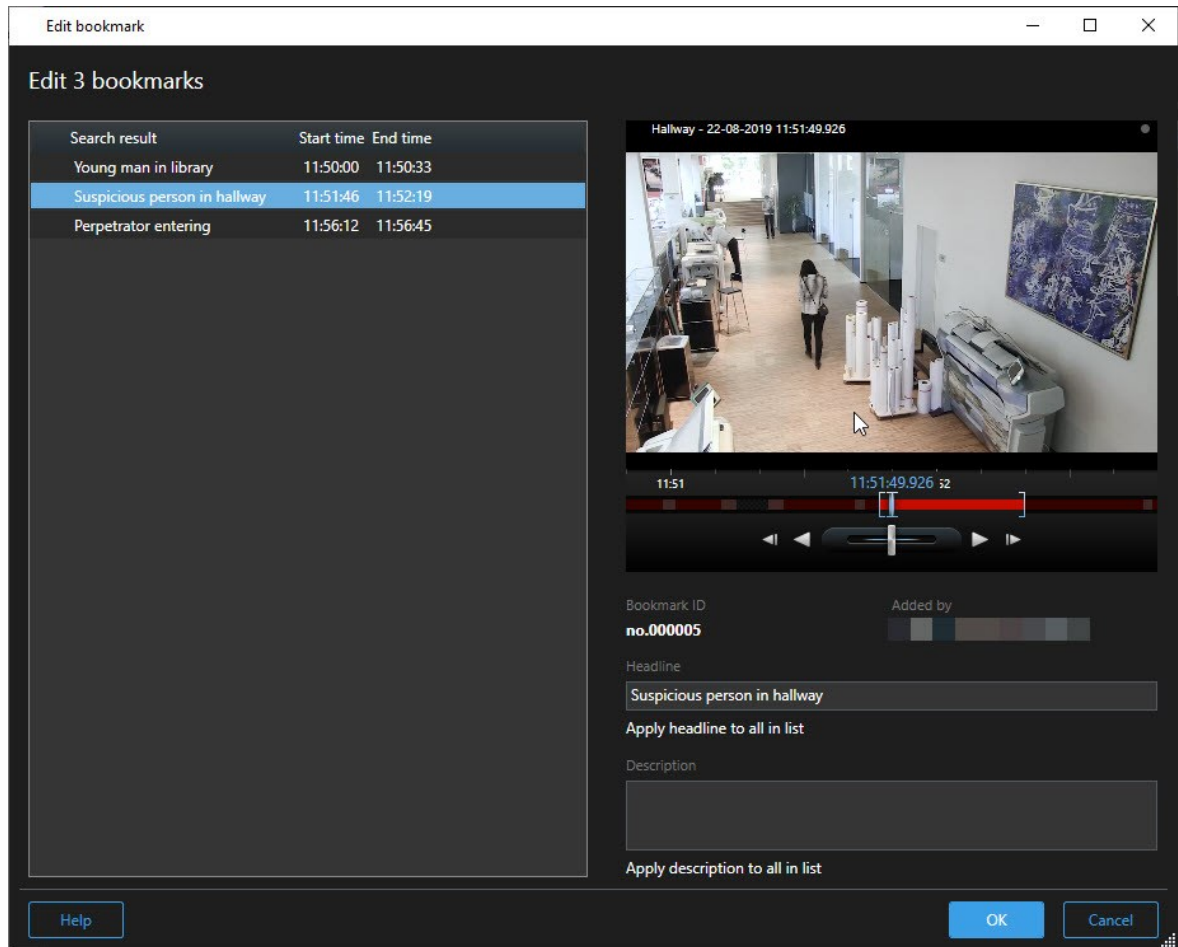
要件

ブックマークを編集するには、ユーザー権限が必要です。これは、システム管理者が[役割]>[全体のセキュリティ]のManagement Clientで行ったものです。

手順:

1. [検索]タブで、編集したいブックマークを見つけます。検索を実行するときは、必ず[検索対象]>[ブックマーク]の順で選択します。
2. 編集したいブックマークにそれぞれカーソルを当てて、青いチェックボックス  を選択します。

3. ブルーのアクションバーで  をクリックします。ウィンドウが表示されます。



4. 検索結果を一つひとつ選択し、詳細(タイムスパンやヘッドライン、説明など)を編集することができます。
5. **[OK]** をクリックして変更を保存します。慎重バーで、変更の保存がいつ完了するか分かります。



XProtect Smart Wallがシステムに設定済みの場合は、**[Smart Wallで表示]** をクリックしてビデオウォールをブックマークに送信します。

検索結果のスナップショットを撮る

複数のスナップショットを一度に撮れば、検索結果から静止画像を保存して共有することができます。

手順：

1. 検索を実行したら、検索結果にひとつずつカーソルを当て、 チェックボックスを選択します。
2. 青いアクションバーで、 をクリックして[スナップショットの作成]を選択します。進捗バーで、スナップショットがいつできるかが分かります。
3. コンピュータ上のスナップショットの場所を特定するには、[設定]ダイアログ>[アプリケーション]>[スナップショットへのパス]で指定された場所へと移動します。

検索時間をメインタイムラインに転送

検索タブで検索結果をプレビューする際、メインタイムラインの時刻とタイムラインを検索の時刻を同期できます。これは例えば、インシデントを見つけたとき、同じ時間に他のカメラで何が起きていたかを調べたい場合に便利です。

1. [検索]タブで検索結果を選択します。
2. プレビューエリアで、 をクリックして、タイムラインを検索の現在の時刻をメインのタイムラインに転送します。引き続き検索タブが表示されます。



3. 他の関連するカメラをチェックするには、再生モードに切り替え、閲覧したいカメラを含むビューを選択します。メインのタイムラインは今検索結果と同期しています。

検索の管理



この機能は、特定のXProtect VMSシステムでのみ使用できます。詳細については、製品比較チャートを参照してください。

<https://www.milestonesys.com/products/software/xprotect-comparison/>

検索条件を保存すれば、後で同じ条件で検索を行ったり、他のオペレータと共有したりできます。ユーザー権限によっては、個人情報でない限り、他者が作成した検索条件にもアクセスして使用することが可能です。検索条件が保存されれば、以下が可能です：

- 名前と説明を変更する、ならびに検索をプライベートまたはパブリックに設定する
- 検索条件の設定内容を修正する(カメラの追加/削除や検索カテゴリの調整など)
- 古くなった検索条件を削除する

検索条件の保存

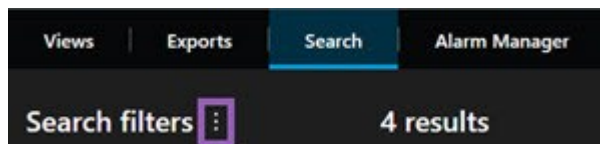
検索条件を保存すれば、後で同じ条件で検索を行ったり、他のオペレータと共有したりできます。

要件

VMSシステムの他のユーザーも使用できるように新しい検索条件を保存するには、**で、自身の役割に対して** パブリック検索を作成するXProtect Management Clientのユーザー権限が有効になっていなければなりません。

手順：

1. **[検索]**タブで検索条件を設定します。[177 ページのビデオデータの検索](#)をご参照ください。
2. **[検索フィルター]**の右側に ある  をクリックします。



- 表示されるリストで、**[名前を付けて保存]**をクリックします。ウィンドウが表示されます。

- この検索条件を探すうえで役に立つ名前を付け、可能であれば説明も加えます。これで、後でキーワードを用いて検索条件を探す際に、検索条件に**[名前]**と**[説明]**の両方のフィールドが表示されます。
- 検索が自分だけにしか表示されないよう設定するには、**[非公開検索]**チェックボックスをオンにします。
- [保存]**をクリックします。検索条件の保存状況が進捗バーに示されます。



保存した検索条件の概要を取得するには、をクリックしてから**[開いて検索を管理]**をクリックします。

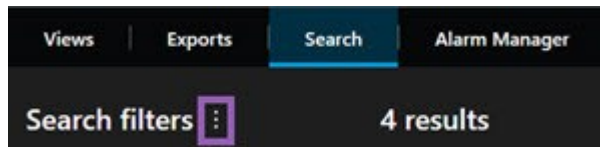
保存した検索条件を探して開く

要件

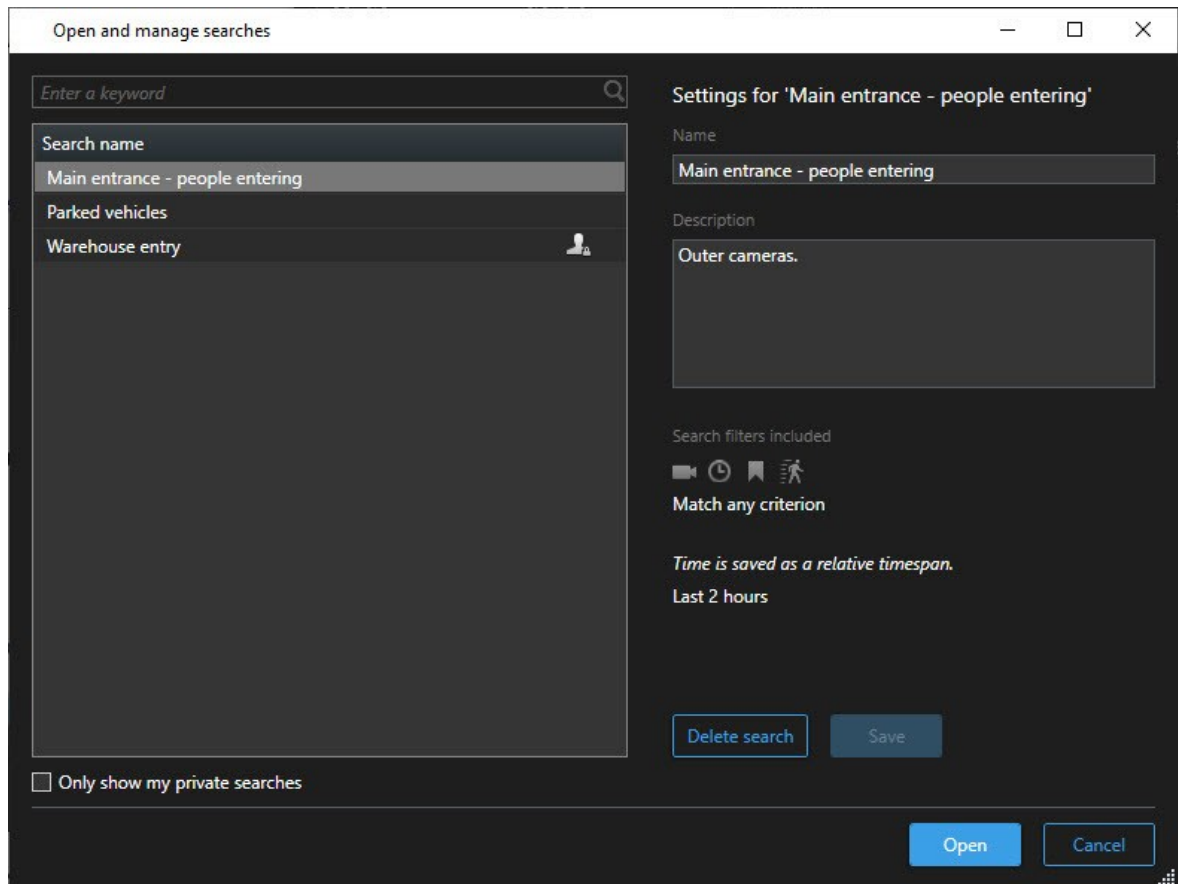
パブリックサーチを検索して開くには、**で、自身の役割に対して** パブリックサーチを読み取るXProtect Management Clientのユーザー権限 が有効になっていなければなりません。

手順：

1. [検索]タブで、[検索フィルター]の右側にあるをクリックします。



2. 表示されるリストで、[開いて検索を管理]をクリックします。ウィンドウが表示されます。



3. 開きたい検索条件を探し、ダブルクリックするか[開く]をクリックして開きます。検索が即座に実行されます。



リストされる検索条件の数が多い場合は、キーワードを使用して検索できます。この検索条件には、[名前]フィールドと[説明]フィールドの両方が含まれています。

4. 検索条件を修正できます(カメラを追加するなど)。>[保存]をクリックして変更を保存します。

保存した検索条件の編集または削除



この機能は、特定のXProtect VMSシステムでのみ使用できます。詳細については、製品比較チャートを参照してください。

<https://www.milestonesys.com/products/software/xprotect-comparison/>

保存した検索条件の詳細を変更したり、検索条件の設定内容(検索カテゴリなど)を変更したりできます。

古くなった検索条件は削除できます。

要件

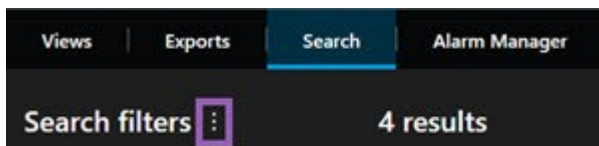
XProtect Management Clientでは、自身の役割に対して 以下のユーザー権限が有効になっています：

- パブリックサーチを検索して開くには、**パブリックサーチを読み取る**ユーザー権限が有効になっていなければなりません
- パブリックサーチを編集するには、**パブリックサーチを編集する**ユーザー権限が有効になっていなければなりません
- パブリックサーチを削除するには、**パブリックサーチを削除する**権限が有効になっていなければなりません

手順：

保存した検索条件の詳細を編集

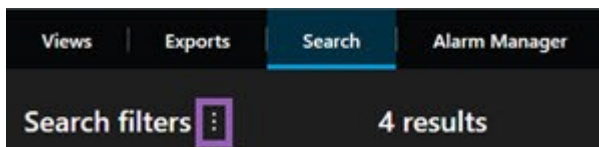
1. [検索]タブで、[検索フィルター]の右側にある  をクリックします。



2. 表示されるリストで、**[開いて検索を管理]** をクリックします。ウィンドウが表示されます。
3. 変更したい検索条件を探して選択します。
4. (検索条件の名前を入力するなど) 変更を適宜加え、**[保存]** をクリックします。

検索条件の構成を変更

1. [検索]タブで、[検索フィルター]の右側にある  をクリックします。



2. 表示されるリストで、**[開いて検索を管理]** をクリックします。ウィンドウが表示されます。

- 開きたい検索条件を探し、ダブルクリックするか[開く]をクリックして開きます。検索が即座に実行されます。



リストされる検索条件の数が多い場合は検索機能を使用します。

- カメラを追加するなどして、検索を修正したら、 > [保存]をクリックします。

保存した検索条件を削除

- 上記に従って [検索条件を開いて管理] ウィンドウを開きます。
- 削除したい検索条件を探して選択します。
- [検索を削除]をクリックします。

FAQ: 検索

個々のカメラから検索を開始することはできますか？

可能。ライブまたは再生モードで特定のカメラを閲覧している際に、カメラを新しい**検索**ウィンドウに送ることができます。検索を開始するには、カメラツールバーのをクリックします。

ビューにあるすべてのカメラから検索を開始することはできますか？

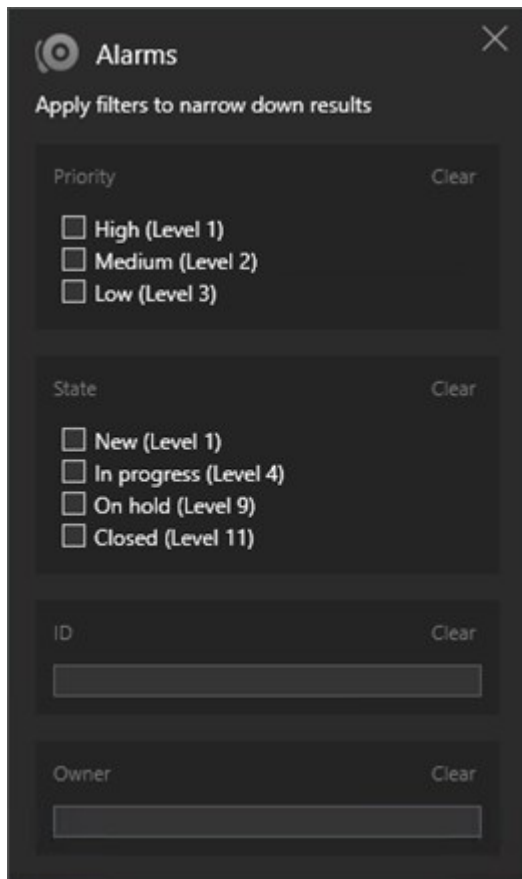
可能。ライブまたは再生モードでビュー内のカメラを閲覧している際に、これらのカメラを新しい**検索**ウィンドウに送ることができます。検索を開始するには、ビューの上にあるをクリックします。

検索を行っていますが、しばらく待ってもXProtect Smart Clientはまだ検索しているようです。なぜですか？

期間に広範なタイムスパンが含まれている場合 (週間など)、または多くのカメラを選択している場合は、検索結果が数千件にのぼり、XProtect Smart Clientが検索結果をすべて見つけるのに時間がかかる可能性があります。

Milestoneでは、検索結果を絞り込むには検索を微調整するようお勧めしています。

検索においてフィルターはどのように機能しますか？



[優先度]と[状態]の両方など、複数のフィルターを適用すると、これらのフィルターにすべて適合する結果が抽出されます。

1つのフィルター内で複数の値を選択した場合(優先度フィルター内で高、中、低の値を選択した場合など)、これらのいずれか1つの値と一致する結果が抽出されます。

一部のサムネイル画像がグレー表示されているのはなぜですか？

検索結果リストでグレー表示されているサムネイル画像は、起動された時点でカメラに利用できる録画が現在存在しないことを意味しています。これには、レコーディングサーバーがダウンしているなど、複数の原因が考えられます。

必要なアクションをアクション バーで利用できないのはなぜですか？

検索結果を選択した後、青いアクション バーで特定のアクションを利用できなくなることがあります。



これは、複数のカテゴリに同時に一致する検索結果を選択している場合に発生します。実行しようとしているアクションは、これらの検索カテゴリのいずれもサポートしません。

例：[ブックマーク]と[モーション]で検索すると、検索結果のひとつにモーションとブックマークが両方とも含まれていました。このような場合は、ブックマークの編集や削除が不可能になります。



このセクションで説明されているシナリオは、XProtect VMSシステムに統合されているサードパーティ ソフトウェアに関わるアクションにも該当する可能性があります。

必要なアクションが、検索結果の一部にのみ該当するのはなぜですか？

複数の検索結果で青いアクション バーのアクションのいずれかを使用しようとする、ツールチップが表示され、そのアクションは検索結果のサブセットにのみ適用される可能性があることを通知します。

✕ 10 results selected



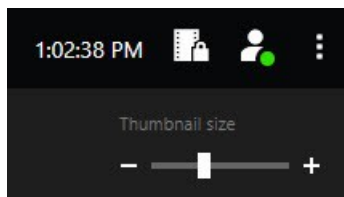
これは、選択した検索結果のひとつ以上が、実行しようとしているアクションによってサポートされていない場合に発生します。



このセクションで説明されているシナリオは、XProtect VMSシステムに統合されているサードパーティ ソフトウェアに関わるアクションにも該当する可能性があります。

検索結果に表示されるサムネイル画像が小さすぎます。どうすれば大きくできますか？

サムネイルのサイズは、画像の右側にあるスライダーをドラッグすることで拡大できます。



新しい検索条件を保存しようとしています。[プライベートサーチ] チェックボックスが無効になっているのはなぜでしょうか？

[プライベートサーチ] チェックボックスが事前選択されたままグレー表示になっている場合は、[パブリックサーチの作成] を行う許可がないことを表しています。検索条件は、ご自身が利用できるものしか保存できません。

検索条件を検索または開こうとしています。[自身のプライベートサーチのみ表示] チェックボックスが無効になっているのはなぜでしょうか？

[検索条件を開く] または [検索条件の管理] ウィンドウで、[自身のプライベートサーチのみ表示] チェックボックスが事前選択されたままグレー表示になっている場合は、[パブリックサーチの読み取り] を行う許可がないことを表しています。ご自身のプライベートサーチしか表示できません。

検索条件を変更しましたが、変更を保存できません。なぜでしょうか？

既存の検索条件の構成を変更した後（カメラの追加など）、[保存] ボタンが無効になっている場合、[パブリックサーチの編集] を行う許可がないことを表しています。また、名前や説明といった検索条件の詳細を変更することもできません。

なぜ検索条件を削除できないのでしょうか？

「**検索条件の管理**」ウィンドウで「**削除**」ボタンが無効になっている場合、「**パブリックサーチの削除**」を行う許可がないことを表しています。

スマート検索に加えられた変更とは？

シーケンスエクスプローラータブが廃止され、スマートサーチは**検索**タブに移動しました。スマート検索機能を使用するには、「**モーション**」を選択し、最後に領域のマスクを解除します。[182 ページのモーションの検索（スマートサーチ）](#) もご参照ください。

開始時刻とイベント時刻の違いは何ですか？

検索タブでビデオ録音/録画を検索すると、それぞれの検索結果には開始時刻、終了時刻、イベント時間が表示されます。開始時刻と終了時刻は、それぞれイベントの開始と終了を表しています。イベント時刻は、ビデオシーケンスにおける最も重要な部分、または注目すべき部分を指します。たとえばモーションを探している場合、イベント時刻とはモーションが開始した時点となります。あるいはオブジェクトを識別する際には、イベント時刻は最も信頼性の高い識別が行われた時点となります。

現在ブックマークを検索しています。検索によって、開始/終了時刻が検索期間内にないブックマークが見つかることはありますか？

可能。重なっている時間が存在する限り、ブックマークは検索されます。以下に例を示します。検索期間として今日の1:00～3:00 pmと設定した場合、開始時刻が今日の11:00 am、終了時刻が今日の2:00 pmのブックマークであれば検索の対象となります。

「相対的な時間帯」とは何ですか？

既定の時間帯（**過去6時間**など）が選択された検索条件を保存する際には、時間帯に相対性があることが伝えられます。つまり、「**過去6時間**」とは現在の時刻に相対したものです。そのため、どの時点で検索を行おうと、常に「**過去6時間**」に該当する検索結果が返されます。

トラブルシューティング：検索

エラーメッセージと警告

レポートを作成できません

1件または複数の検索結果にもとづいて監視レポートを作成しようと試みましたが、レポートを作成できませんでした。これには、いくつかの理由が考えられます：

- 同じ場所に同じ名前のレポートがすでに作成されており、現在そのレポートが開かれている。この問題を解決するには、レポートを閉じてから再試行してください。
- レポート先にレポートを保存するためのユーザー権限がありません。この問題を解決するには、「**レポートの作成**」ウィンドウで別のパスを指定してください。

特定のデータソースが利用できないため、この検索を開くことができません

検索を開けない理由として、いくつかの原因が考えられます：

- 検索を作成した人物が、あなたが利用できない1つまたは複数の検索カテゴリを使用していた。この問題を解決するには、新しい検索を作成してください。
- 開こうとしている検索において、現在使用中のXProtect Smart Clientのバージョンでは利用できない検索カテゴリが使用されている。この問題を解決するには、XProtect Smart Clientの新しいバージョンをダウンロードしてください。
- 現在利用できない検索カテゴリに追加ライセンスが必要な可能性がある。システム管理者にご連絡ください。

このデバイスはまだスマートマップに配置されていません

検索結果が選択されていますが、関連デバイスがプレビューエリアのスマートマップに表示されていません。デバイスが位置情報と併せて配置されていないためです。この問題を解決するには、以下のいずれかの処理を行ってください。

- スマートマップに移動してデバイスを追加します。[341ページのスマートマップにデバイスを追加する](#)を参照
- XProtectManagementClientでデバイスプロパティの地理座標を指定するようにシステム管理者に要求してください。

エッジストレージとMilestone Interconnectの録音の操作

エッジストレージ およびMilestone Interconnectからの録画

エッジストレージを備えたカメラには、以下の2種類あります。

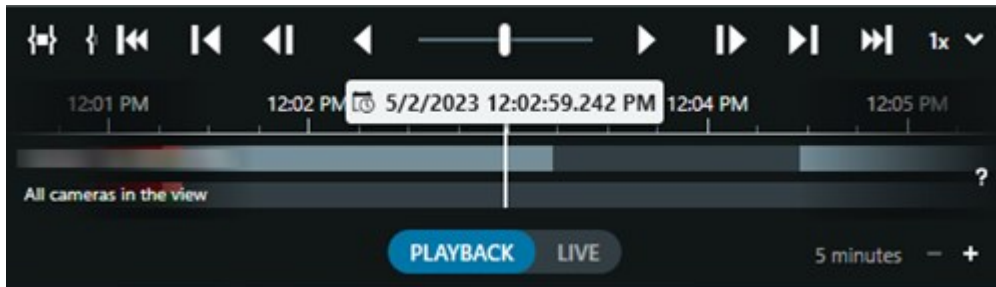
- 録画保存用のメモリーカード付きのカメラ。
- 別のXProtectVMSインストールの一部で、MilestoneInterconnect™からアクセスできる、相互接続されたカメラ。

必要なユーザー権限がある場合は、エッジストレージのあるカメラから録画を手動で取得できます。録画の取得は、XProtectVMS管理者によって定義されたルールによっても自動的に行われます。また、Milestone InterconnectVMS管理者マニュアルのXProtect設定セクションも参照してください。

メインタイムラインとエッジ取得

エッジストレージを備えたカメラを選択した場合、タイムライン追跡のライトグレーとミディアムグレーは、エッジストレージ上の録画がローカルのレコーディングサーバーに取得するかどうかを示します。

- ライトグレーで凡例が **不明** となっているものは、録画が取得されていないことを示します。取得を試す前は、エッジストレージから取得する録画があるかどうかは確認できません。
- ミディアムグレーで凡例が **データ要求中** となっているものは、取得処理中であることを示しています。



録画を取得すると、タイムライン追跡はユーザーの他のすべての録画と同じ色になります。60 ページの色の凡例をご参照ください。

録画を手動で取得する

手動で録画を取得して、レコーディングサーバーに保存できます。通常、調査したいインシデントが発生したとき、および/または録画を長期間保存する必要がある場合にこれを行います。

1. エッジストレージのあるカメラを選択します。
2. メインのタイムラインで、[タイムラインに開始・終了時刻を設定]  を選択し、関連する録画の開始・終了時刻を選択します。
3. 右上隅のワークスペースツールバーで、データ  を取得する を選択します。
4. 必要に応じて、録画を取得するカメラをさらに選択します。
5. **取得を開始する**を選択します。

上部の通知エリアでは、取得ジョブの進捗状況を表示したり、それを停止したりできます。

すべてのエッジ取得ジョブを表示する

ルール、自分、または他のオペレータによって開始されたすべての実行中および最近の取得ジョブを、右上隅の**設定およびその他の**メニューで表示するには、**サーバージョブ**を選択します。取得ジョブのステータスを表示し、必要に応じて進行中のジョブを停止できます。

ブックマークとエビデンスロックの適用

ブックマーク



この機能は、特定のXProtect VMSシステムでのみ使用できます。詳細については、製品比較チャートを参照してください。

<https://www.milestonesys.com/products/software/xprotect-comparison/>

ブックマークを使用すると、関連するビデオシーケンスをシステムの他のユーザーと素早く検索または共有できます。詳細なブックマークは、作成後のブックマークを簡単に見つけることができます。詳細を有効にするには、[284 ページの詳細なブックマークを有効にする](#)を参照してください。

ブックマークの追加

ライブまたは録画されたビデオのビデオシーケンスにブックマークを追加できます。シーケンスをブックマークすると、そのブックマークはIDと作成したユーザーに関する情報と一緒に保存されます。ブックマークには題名と説明を付けることができます。ブックマークは検索可能なので、オペレータは後ほど容易に見つけられます。

ブックマークしたビデオシーケンスは以下の方法で検索および編集できます。

- 検索タブの検索機能。
- 再生モードのメインタイムライン。



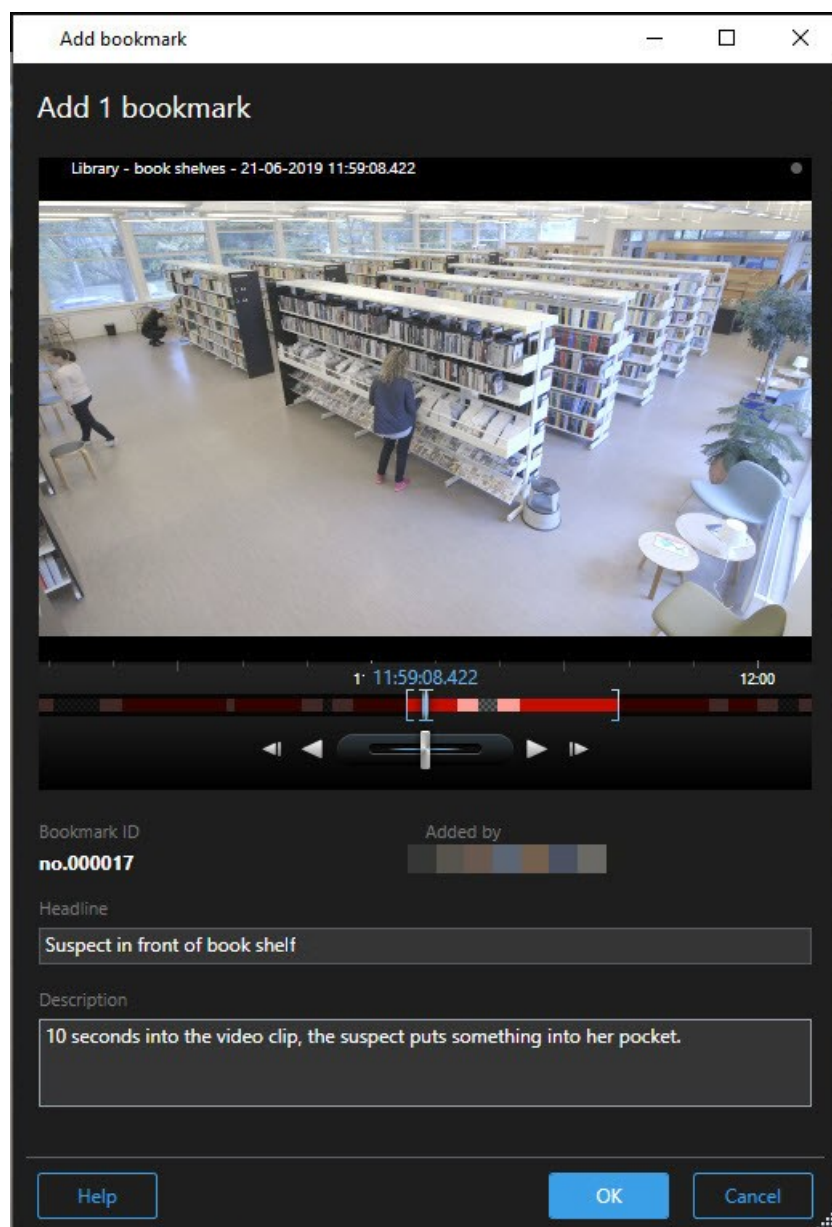
ブックマークを追加、あるいは表示する機能は、ユーザーの権限に依存します。

ブックマークウィンドウ

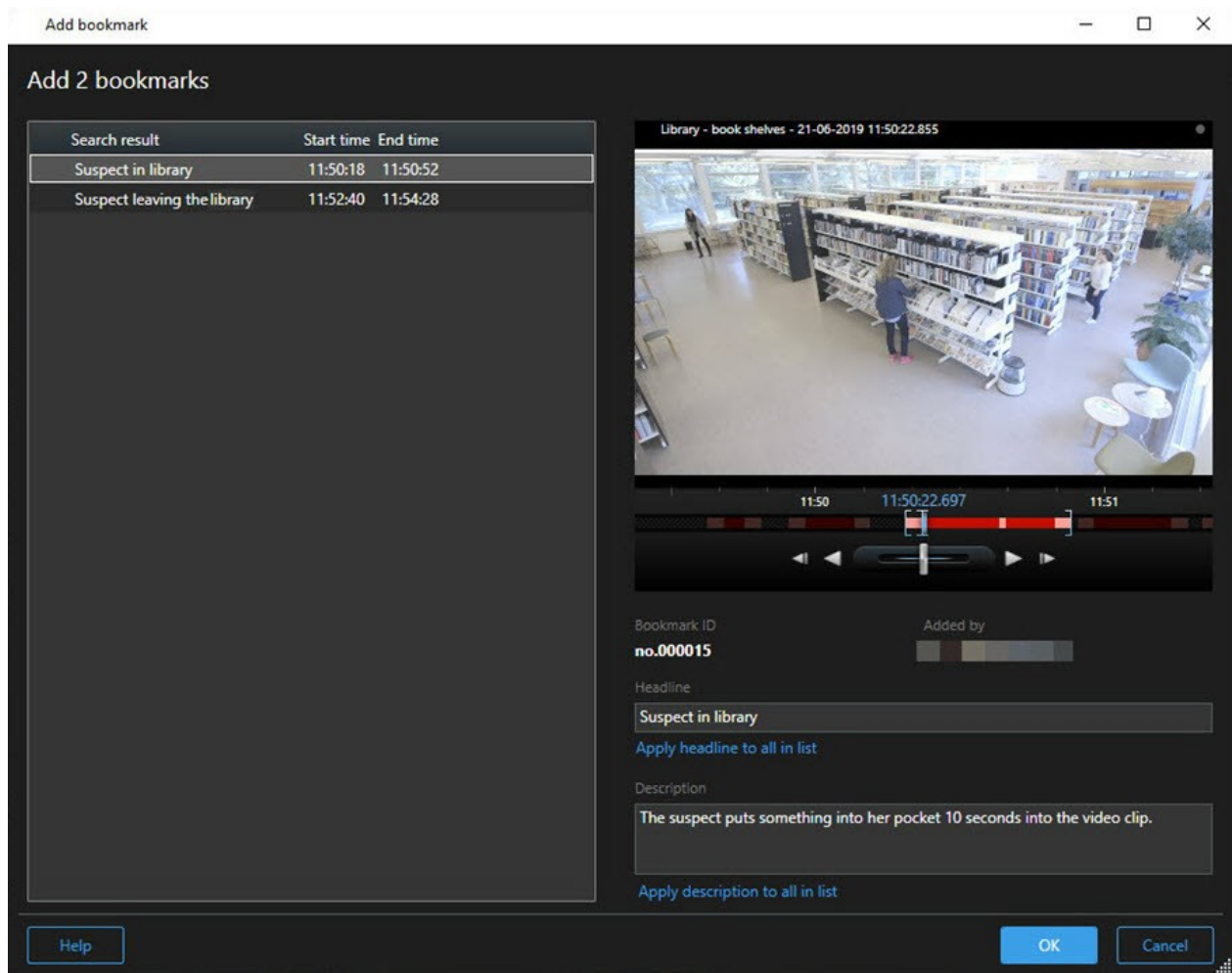
ブックマーク ウィンドウは、詳細なブックマークを有効にする場合にのみ表示されます。[284 ページの詳細なブックマークを有効にする](#)をご参照ください。

ブックマークウィンドウのレイアウトは、XProtect Smart Client のどこにいるか、追加するブックマークが1つなのか複数なのかによっても変わります。以下をクリックするとウィンドウの画像が表示されます。

単一のブックマーク



複数のブックマーク



ブックマークウィンドウのフィールド。

名前	説明
ブックマークID	ブックマークに自動的に割り当てられる数字。
追加者	ブックマークを作成した人物。
タイムラインをブックマーク	時間選択ブラケットは、ブックマークしたシーケンスの開始時刻と終了時刻を示します。開始・終了時刻を変更するにはブラケットをドラッグしてください。

名前	説明
	
見出し	題名は50文字以内で指定してください。
リスト内の全アイテムに見出しを適用する	 複数のブックマークの作成時にしか表示されません。 すべてのブックマークに同じヘッドラインを使用するには、テキストをクリックします。
説明	説明を指定できます。
リストのすべてに説明を適用	 複数のブックマークの作成時にしか表示されません。 すべてのブックマークに同じ説明を使用するには、テキストをクリックします。

ブックマークを追加または編集する

ブックマークをライブおよび録画したビデオに追加することができます。詳細なブックマークを有効にしている場合は、ブックマーク名と説明を指定できます。タイムスパンを調整することもできます。後でブックマークの詳細を検索し編集することができます。

要件：

詳細なブックマークを有効にする必要があります。詳細については、[284 ページの詳細なブックマークを有効にする](#)をご参照ください。

手順：

1. ビューで使用するカメラを選択します。
2. ブックマークのアイコン  をクリックします。詳細を有効にすると、**ブックマーク**ウィンドウが表示され、インシデントの詳細な説明を追加することができます。

3. ブックマークの名前を入力します。
4. ブックマークするシーケンスのデフォルトの長さは、監視システムサーバーで決定しますが、開始・終了時刻ブラケットをドラッグして変更することもできます。
5. (オプション) インシデントについて説明します。
6. [OK] をクリックします。



ブックマークを後で検索/編集するには、**検索**タブに移動してブックマークを検索します。
[184 ページのブックマークの検索](#)をご参照ください。

ブックマークを削除

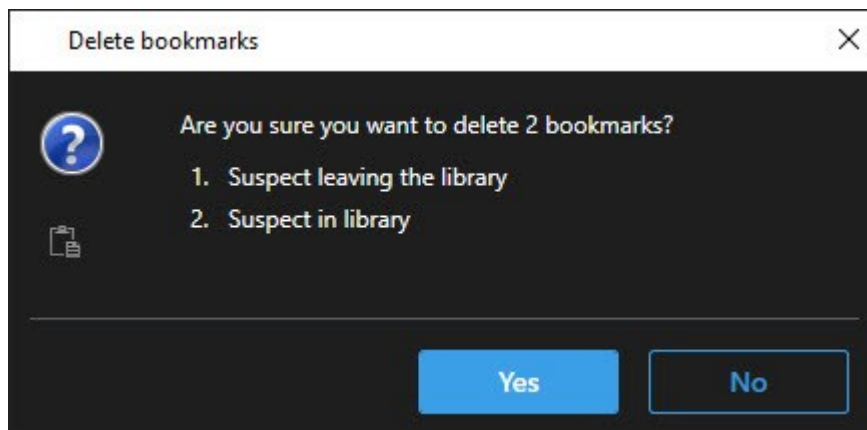
自分または他の人が作成したブックマークを削除できます。ブックマークは削除されるとデータベースからも取り除かれ、それ以後は検索できなくなります。

要件

ブックマークを削除するにはユーザー権限が必要です。このユーザー権限は、システム管理者によって制御されます。

手順：

1. **検索**タブで、削除したいブックマークを探します。
2. 検索結果でそれぞれのブックマークにカーソルを当てて、青いチェックボックス  を選択します。
3. 青いアクションバーで  をクリックし、**ブックマークを削除**を選択します。ウィンドウが表示されます。



4. はいをクリックしてブックマークを削除します。



システムによっては、特定のブックマークを削除できないよう制限がかけられている場合もあります。その場合は通知が表示されます。

ブックマークされたビデオの検索またはエクスポート

ブックマークを作成すると、[検索] タブに再びブックマークが表示されます。カメラ1で6時間以内にブックマークに追加したインシデントを検索したいと仮定します。この場合、期間を [直近6時間] に設定し、カメラ1を選択し、[ブックマーク] の検索条件を選択します。184 ページのブックマークの検索もご参照ください。

ブックマークされたビデオをエクスポートすることができます。189 ページの検索結果から利用できるアクションもご参照ください。

FAQ：ブックマーク

ブックマークが付いたインシデントを検索するには？

検索タブに移動して時間帯を設定し、インシデントを録画している可能性のあるカメラを選択してから、**検索対象>ブックマーク**をクリックします。

特定のブックマークが見つかりません。なぜですか？

ブックマークを検索できない原因はいくつか考えられます：

- ブックマークを閲覧するユーザー権限がありません。
- ブックマークは、ブックマークを削除する権限があるユーザーにより削除されました。
- ブックマークしたビデオがデータベースにもう存在しない

検索結果にブックマークを付けることはできますか？

可能。検索を実行して検索結果のリストが返された後、これらの検索結果にブックマークを付けられます。200 ページの検索結果のブックマークをご参照ください。

エビデンスビデオのロック

エビデンスロックを追加、編集、削除することができますが、エビデンスロックをエクスポートしてビデオを再生することもできます。

エビデンスロック

エビデンスロック機能を使用すると、例えば調査や試行を行っているときに、ビデオシーケンスが削除されるのを防ぐことができます。この保護は、選択したカメラに関係するデバイスからの音声やその他のデータをカバーします。

エビデンスロックがかけられると、システムで定めた保存期間が経過してもデータが自動的に削除されなくなります。



ユーザー権限により、エビデンスロックを作成、表示、編集、削除できる場合があります。

エビデンスロックの作成

エビデンスロックを作成することで、ビデオ録画と関連データが削除されるのを防ぐことができます。

再生モードでエビデンスロックを作成する

1. メインのタイムラインで、**タイムラインに開始・終了時間を設定**または**カレンダーに開始・終了時間を設定**を選択します。



2. 削除から保護したいビデオシーケンスの開始時間および終了時間を選択します。
3. 関連デバイスから送られた、保護したいビデオシーケンスとデータが保存されているカメラを選択します。
4. 右上で、**[エビデンスロック] > [作成]** をクリックします。ウィンドウが表示されます。

5. エビデンスロックに見出しを付け、任意で説明も添えます。
6. 残りのフィールドについては、[224 ページのエビデンスロック設定](#)を参照してください。

7. **作成**をクリックします。エビデンスロックの作成後、**詳細**をクリックすると、この操作の成否を確認できます。[226 ページのエビデンスロックのステータスメッセージ](#)をご参照ください。

検索タブでエビデンスロックを作成する

1. 検索結果リストで、削除されないように保護したいビデオシーケンスを選択します。アクションバーが表示されます。関連デバイスに保存されているデータも保護されます。

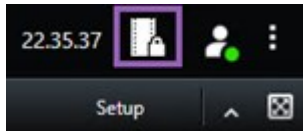


2.   **エビデンスロックの作成**の順にクリックします。ウィンドウが開き、選択した検索結果に関連しているカメラがリストされます。

3. エビデンスロックに見出しを付け、任意で説明も添えます。
4. タイムスパンは選択した検索結果をすべてカバーしています。タイムスパンを変更するには、**インターバル開始**と**インターバル終了**フィールドを使用します。
5. 残りのフィールドについては、[224 ページのエビデンスロック設定](#)を参照してください。
6. **作成**をクリックします。ウィンドウが開き、エビデンスロックの進捗状況が示されます。**[詳細]**をクリックして、成否を確認します。[226 ページのエビデンスロックのステータスメッセージ](#)をご参照ください。

エビデンスロックの表示

1. 再生モードに切り替えます。
2. 右上にあるワークスペースツールバーで、**エビデンスロック**をクリックして、**ビュー**を選択します。
3. 再生モードではなくライブモードのままにしたい場合は、グローバルツールバーの**エビデンスロック**を選択します。



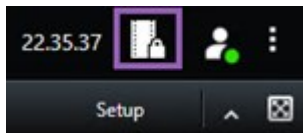
ユーザー権限があるデバイスの既存のエビデンスロックのリストが表示されます。

4. ヘッドラインと説明に含まれるテキストの検索、該当する列の並べ替え、フィルターオプションを用いた対象エビデンスロックの容易な検索が可能です。
5. エビデンスロックを選択し、**詳細**をクリックして、エビデンスロックに含まれるカメラやその他の情報を表示します。

エビデンスロックを編集する

エビデンスロックは、ユーザー権限に応じて編集できます。たとえば、タイムインターバル、カメラ、エビデンスロックの持続時間などの編集です。

1. 再生モードに切り替えます。
2. 右上で**エビデンスロック**をクリックし、**ビュー**を選択するか、グローバルツールバーで**エビデンスロック**を選択します。

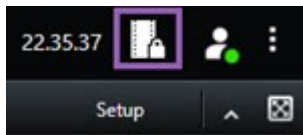


3. エビデンスロックを選択し、**詳細**をクリックします。ウィンドウが表示されます。
4. エビデンスロックのインターバルを短くするか長くするには、**エビデンスロックインターバル開始**および**エビデンスロックインターバル終了**フィールドを使用します。
5. エビデンスロックの有効時間を変更するには、**エビデンスロックを保持**リストで値を選択します。
6. 完了したら、**更新**をクリックします。
7. 更新が成功すると、ウィンドウが表示されます。**[詳細]**をクリックして、成否を確認します。[226 ページのエビデンスロックのステータスメッセージ](#)もご参照ください。

エビデンスロックのあるビデオを再生する

ビデオが保護されているか否かに関わらず、いつでも再生モードでビデオを再生できます。特定のエビデンスロックに含まれているビデオシーケンスを再生したい場合は、次の操作を実行してください。

1. 再生モードに切り替えます。
2. 右上で、**エビデンスロック**をクリックし、**ビュー**を選択します。
3. 再生モードではなくライブモードのままにしたい場合は、グローバルツールバーの**エビデンスロック**を選択します。



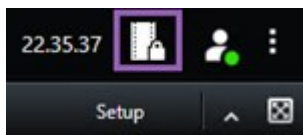
ユーザー権限があるデバイスの既存のエビデンスロックのリストが表示されます。

4. エビデンスロックを選択し、**[再生]**をクリックします。新しいウィンドウが開き、エビデンスロックのすべてのカメラがあるビューが表示されます。
5. いずれかのタイムラインコントロールを使って、特定の時間へ移動するか、単に**順方向再生**をクリックします。

ロックされたエビデンスビデオのエクスポート

エビデンスロックをエクスポートする場合には、カメラに関連するデバイスからのデータもエクスポートに含まれます。

1. 再生モードに切り替えます。
2. 右上にあるワークスペースツールバーで、**エビデンスロック**をクリックして、**ビュー**を選択します。
3. 再生モードではなくライブモードのままにしたい場合は、グローバルツールバーの**エビデンスロック**を選択します。



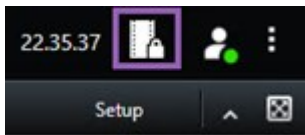
ユーザー権限があるデバイスの既存のエビデンスロックのリストが表示されます。

4. エビデンスロックを選択して、**[エクスポートリストに追加]**をクリックします。
5. エクスポートプロセスを続行します。[231 ページのエクスポート設定の調整](#)と[232 ページのエクスポートを作成](#)をご参照ください。

エビデンスロックを削除する

エビデンスロックを削除すると、ビデオシーケンスを削除するのではなく、その保護を削除することになります。ビデオシーケンスがシステムのデフォルトの保存期間より古くなると、システムはこれをユーザーに通知します。ユーザーはエビデンスロックの保持を選択することで、保護解除後にシステムによって自動的に削除されるのを防ぐことができます。

1. 再生モードに切り替えます。
2. 右上で、**エビデンスロック**をクリックし、**ビュー**を選択します。
3. 再生モードではなくライブモードのままにしたい場合は、グローバルツールバーの**エビデンスロック**を選択します。



ユーザー権限があるデバイスの既存のエビデンスロックのリストが表示されます。

4. 1つ以上のエビデンスロックを選択し、**削除**をクリックします。
5. 削除が成功すると、ウィンドウが表示されます。**[詳細]**をクリックして、成否を確認します。[226 ページのエビデンスロックのステータスメッセージ](#)もご参照ください。

エビデンスロック設定

名前	説明
見出し	エビデンスロックの見出しです。
説明	エビデンスロックの説明です。
インターバル開始	保護したいビデオシーケンスの開始日時を調整します。
インターバル終了	保護したいビデオシーケンスの終了日時を調整します。
以下の期間エビデンス ロックを維持	エビデンスロックを保護しておく期間を指定します。 ユーザー権限に応じて、時間、日、週、月、年、期間指定なし、ユーザー指定のオプションがあります。 ユーザー定義を選択する場合、カレンダーボタンをクリックして、日付を選択してから、時刻を手動で調整します。 完了すると、エビデンスロックの有効期限が終了する日時が表示されます。
カメラを選択	クリックすると、エビデンスロックにさらに含めるカメラを選択できます。

名前	説明
再生ビデオ制限を作成	エビデンスロックを作成しているのと同じビデオシーケンスに再生ビデオ制限を作成します。 ビデオ制限はエビデンスロックと接続しておらず、手動で編集、メンテナンス、削除をしなければなりません。
削除/すべて削除	クリックすると、エビデンスロックから選択したカメラを1つ削除するか、すべてのカメラを削除できます。

エビデンスロックフィルター

名前	説明
ロックインターバル	保護されるインターバルの開始時間に基づいて、エビデンスロックをフィルターします。使用できるオプションは、本日、昨日、直近7日間、すべて、です。
作成日	作成日に基づいて、エビデンスロックをフィルターします。使用できるオプションは、本日、昨日、直近7日間、すべて、カスタムインターバルです。カスタムインターバルを選択する場合、カレンダーで開始と終了の日付を選択します。
有効期限	有効期限に基づいて、エビデンスロックをフィルターします。使用できるオプションは、本日、明日、7日間、すべて、カスタムインターバルです。カスタムインターバルを選択する場合、カレンダーで開始と終了の日付を選択します。
ユーザー	すべてのユーザーが作成したエビデンスロック、または自分が作成したエビデンスロックのみをフィルターできます。
カメラ	すべてのカメラからのデータのあるエビデンスロックをフィルターするか、エビデンスロックに含める必要があるカメラを1つ以上選択します。

エビデンスロックのステータスメッセージ

メッ セー ジ	説明および結果	シナリオおよびソ リューション
成功	すべて成功しました。 結果： エビデンスロックは作成済み/更新済み/削除済みです。	
部分 的に 成功	エビデンスロックの作成、更新、削除が完全に成功したわけではない場合、部分的に成功というメッセージが表示され、プログレスバーは黄色になります。[詳細] をクリックして、エラー内容を確認します。 結果： エビデンスロックは作成/更新/削除されましたが、選択したカメラおよび/またはそれらに関連するデバイスの一部が含まれていません。 また、原因としてレコーディングサーバーがオフラインになっていることも考えられます。このような状況では、エビデンスロックの設定は済んでいますが、実際のビデオにはまだ適用されていません。この場合、エビデンスロックはレコーディングサーバーが利用可能になった時点でビデオに適用されます。ロックが適用されたかどうかは、ロックのサイズを見ると確認できます。サイズが表示されると、ロックが適用されたことを意味します。	シナリオ： デバイスがエビデンスロックに含まれているレコーディングサーバーの一部がオフラインです。 解決策： レコーディングサーバーがオンラインになるまで待ちます。 シナリオ： 1つ以上のデバイスで、2020 R2以降にアップグレードされていないレコーディングサーバーに録画が保存されています。 解決策： レコーディングサーバーをバージョン2020 R2以降にアップグレードしてください。 シナリオ： あなたがXProtect Smart Clientにログインし

メ ッ セ ー ジ	説明および結果	シナリオおよびソ リ ュ ー シ ョ ン
		た後、システム管理者がエビデンスロックのユーザー権限を変更しました。 解決策：システム管理者にお問い合わせください。
失敗しました	エビデンスロックの作成、更新、削除が成功しなかった場合は失敗メッセージが表示され、プログレスバーは赤になります。[詳細] をクリックして、エラー内容を確認します。 結果： エビデンスロックが作成/更新/削除されていません。	シナリオ： デバイスがエビデンスロックに含まれているレコーディングサーバーがすべてオフライン。 解決策： レコーディングサーバーがオンラインになるまで待機します。 シナリオ： マネジメントサーバーがオフライン。 解決策： マネジメントサーバーがオンラインになるまで待機します シナリオ： エビデンスロックの1つまたは複数のデバイスに対するユーザー権限がない。 解決策： システム管理者にお問い合わせください。

メッセージ	説明および結果	シナリオおよびソリューション
		シナリオ：1つ以上のデバイスで、2020 R2以降にアップグレードされていないレコーディングサーバーに録画が保存されている。 解決策：レコーディングサーバーをバージョン2020 R2以降にアップグレードしてください。

エクスポート

エビデンスビデオのエクスポート

発生したインシデントを文書化する必要がある場合、例えば法的エビデンスを提出する場合などに、XProtect Smart Client からビデオシーケンスをエクスポートすることができます。エビデンスビデオが改ざんされていないことを証明する必要がある場合は、XProtect形式でエクスポートできます。この形式を使用すると、エクスポートされたビデオの信頼性を検証するデジタル署名の背後にあるエビデンスを「ロック」できます。

ビデオ、音声、静止画像のエクスポート

ビデオおよび関連する音声をさまざまな形式でエクスポートします。VMS システムによっては、静止画像や利用できるその他の種類のデータもエクスポートできます。

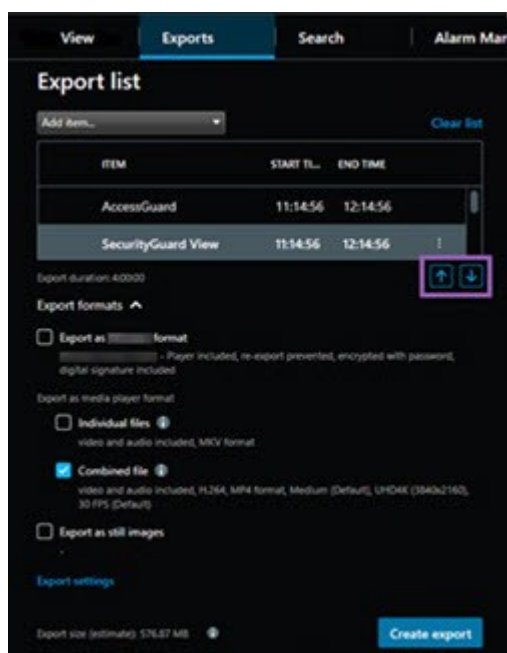
エクスポート形式

XProtect Smart Clientでは、次の1つまたは複数の形式でエクスポートできます。

フォーマット	説明
XProtect フォー マット	エクスポートに XProtect Smart Client – Player を含めるには、XProtect フォーマットを使用します。XProtect Smart Client – Player は、このフォーマットを再生できる唯一のメディアプレイヤーです。エクスポートされたエビデンスが改ざんされていないことを確認できるようにするには、 [エクスポート設定] > [XProtect形式] > [デジタル署名を含める] を選択します。この操作により、XProtect Smart Client – Player で [署名の検証] ボタンが利用できるようになります。
メディア プレー ヤーの フォー マット	XProtectの知識を必要とせず、ほとんどのメディアプレーヤーで再生できる形式を使用します。この形式を再生するのに必要なのは、インストールされているメディアプレーヤーのみです。
静止画像	選択した期間のフレームごとに静止画像ファイルをエクスポートします。

[メディアプレーヤー形式としてエクスポート] オプションを使用してビデオシーケンスをエクスポートする場合、次の2つの形式でエクスポートすることができます。

- エクスポートリストに追加したビデオシーケンスごとにファイルをエクスポートする**個別ファイル**形式。
- エクスポートリストに追加したすべてのビデオシーケンスを、並べた順序に従って1つのファイルにエクスポートする**結合されたファイル**形式。エクスポートを開始する前に追加したビデオシーケンスを並べ替えるには、矢印を使用してエクスポートリスト内のファイルを並べ替えます。



エクスポートリストにビデオシーケンスを追加

エクスポートを作成する前に、**エクスポートリスト**にビデオシーケンスを追加する必要があります。XProtect Smart Clientでは、複数の場所からファイルを追加できます。

1. **[エクスポート]** タブの**[エクスポートリスト]**で、**[アイテムを追加]**を選択してビデオシーケンスを追加します。
2. **[検索]** タブで、エクスポートする検索結果ごとに青いチェックボックス  をオンにし、青いアクションバーの**[エクスポートリストに追加]**を選択します。すべての検索結果を選択するには、1つの検索結果を選択して

Ctrl+Aを押します。表示される青いアクションバーで、**[エクスポートリストに追加]**  を選択します。

3. **[表示]** タブの **[再生]** モードでは、**エクスポートリスト** にビデオシーケンスを追加するための 2 つのオプションがあります。

オプション1：

1. タイムラインで、**[タイムラインに開始・終了時刻を設定]**  を選択し、エクスポートするシーケンスの開始・終了時刻を選択します。
2. エクスポートに含めたいアイテムごとに、関連のあるチェックボックス  を選択します。すべての検索結果を同時にエクスポートするには、右上のワークスペースツールバーにある **[すべてを選択]** ボタン  を選択します。
3. **[エクスポート]** > **[エクスポート]** を選択し、選択したビデオシーケンスを **エクスポートリスト** に追加します。この操作により、**[エクスポート]** タブが自動的に表示されます。または、**[エクスポート]** > **[エクスポートリストに追加]** を選択して、選択したビデオシーケンスを **エクスポートリスト** に追加します。再生モードのままで、エクスポートリストにさらにシーケンスを追加できます。

オプション2：

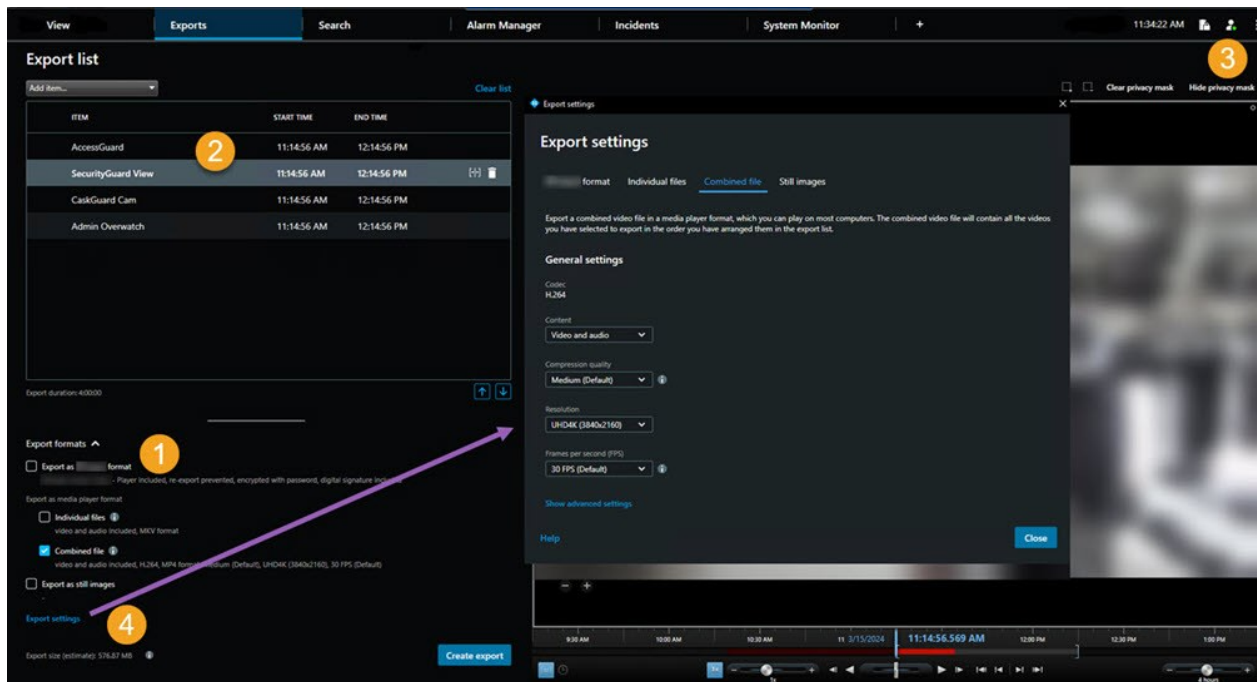
1. **エビデンスロックリスト** で、既存のエビデンスロックを選択します。
2. **[エクスポートリストに追加]** を選択して、エビデンスロック含む選択したビデオシーケンスを **エクスポートリスト** に追加して再生モードのままにするか、**[エビデンスロック]** > **[ビュー]** > **[エビデンスロックリスト]** を選択します。



エクスポートリスト に含まれる同じカメラから複数のビデオシーケンスをエクスポートするには、シーケンスを選択し、カメラ分割アイコン  をクリックします。

エクスポート設定の調整

[エクスポート] タブ > **[エクスポートリスト]** で 1 つ以上のビデオシーケンスを追加した場合、1 つ以上のエクスポート形式を選択する必要があります。[228 ページのエクスポート形式](#)をご参照ください。オプションで、エクスポート設定を調整できます。[239 ページのエクスポート設定](#)をご参照ください。



エクスポートリストで、1つ以上のエクスポート形式を選択します。[228 ページのエクスポート形式](#)をご参照ください。

エクスポートリストの各ビデオシーケンスの開始時間と終了時間を変更できます。

ビデオの複数の領域をカバーするため、ビデオシーケンスにプライバシーマスクを追加できます。[234 ページのエクスポート中にプライバシーマスクを録画に追加](#)もご参照ください。

各形式のエクスポート設定を変更できます。[239 ページのエクスポート設定](#)をご参照ください。



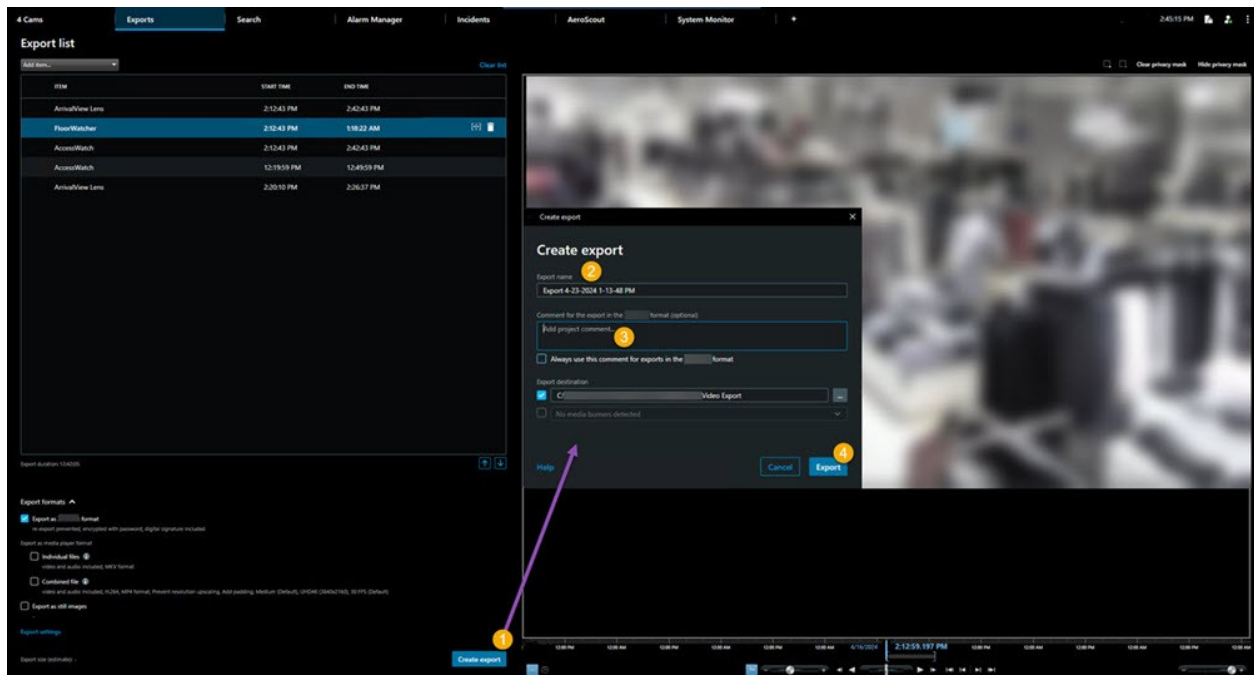
エクスポートの継続時間およびカメラの数は、エクスポートが完了するまでの時間に影響します。

エクスポートを作成

エクスポートタブ>エクスポートリストに1つ以上のシーケンスを追加すると、エクスポートを作成できるようになります。



ビデオデータをエクスポートする権限がない可能性があります。



1. [エクスポート作成] ボタンを選択します。[エクスポートを作成] ウィンドウが開きます。
2. **エクスポート名**フィールドには、自動作成されたエクスポート名が表示されます。名前は変更できます。
3. **エクスポート先**フィールドで、エクスポート先のパスを指定します。作成したエクスポートは、ここで選択したフォルダーに保存されます。
4. [エクスポート] を選択して、エビデンスをエクスポートします。
5. **エクスポート先**として指定したフォルダーにエクスポートが作成、保存されます。[235 ページのエクスポートされたビデオの表示](#)もご参照ください。

エクスポートが完了する前に停止するには、[キャンセル] を選択し、表示されたウィンドウで [キャンセル] をクリックして確定します。[エクスポートリストの復元] を選択すると、キャンセルした後もエクスポートリストをいつでも復元できます。同様に、エクスポートの失敗または成功後にエクスポートリストを復元することもできます。エクスポートリストを復元すると、順番は元のエクスポートリストと同じになり、ビデオシーケンスを並べ替える必要はありません。

統合されたファイルのエクスポートを開始し、ファイルが統合される前にエクスポートリスト内のビデオシーケンスを1つでも削除または名前変更すると、そのビデオシーケンスは最終的なエクスポートファイルには含まれません。エクスポート結果ウィンドウで、**完了 (エラーあり)**、**失敗**、または**一部失敗**として表示されます。新規エクスポートを作成する必要があります。

これで、ビデオを安全に保存、共有する準備が整いました。エクスポートデータの取り扱いについて詳しくは、GDPR プライバシーガイドおよび [MilestoneVMS オペレータ向け GDPR e ラーニング](#)をご参照ください。

エクスポート中にプライバシーマスクを録画に追加

ビデオをエクスポートするときには、プライバシーマスクを追加して、選択した領域を見えなくすることができます。エクスポートされたビデオが再生された場合、プライバシーマスクが追加された領域は塗りつぶされたブロックとして表示されます。



ここで追加するプライバシーマスクは、**エクスポートリスト**で選択したカメラからの現在のエクスポートのすべてのビデオシーケンスに適用されます。プライバシーマスクをあるビデオシーケンスから解除した場合、そのカメラのその他すべてのビデオシーケンスからも自動的に解除されます。エクスポートには、システム管理者が特定のカメラに事前に設定しているプライバシーマスクがすでに含まれている場合があります。[119 ページのプライバシーマスク](#)もご参照ください。

1. **エクスポート** タブ>**エクスポートリスト**で、プライバシーマスクを追加したいカメラを選択します。
2. プライバシーマスクを追加したいそれぞれのエリアについて、 ボタンをクリックし、そのエリアにポインターをドラッグします。
3. プライバシーマスクの一部を解除するには、 ボタンをクリックし、プライバシーマスクを解除したいエリアにポインターをドラッグします。解除したい位置ごとにこのステップを繰り返します。



プライバシーマスクを一時的に非表示にするには、**プライバシーマスクを非表示** ボタンを長押しします。

4. **OK** をクリックして**エクスポート** タブに戻ります。



プレビュー画像には表示されないセルを持つグリッドがあります。選択するエリアにセルの一部が含まれている場合、セル全体にプライバシーマスクが追加されます。その結果、想定よりも若干多くの画像にプライバシーマスクが追加されることがあります。



プライバシーマスクが含まれるビデオをエクスポートすると、特にXProtect形式でエクスポートする場合には、通常よりもエクスポートプロセスにかなりの時間がかかり、エクスポートファイルの容量が多くなる可能性があります。

ストーリーボード

ストーリーボード機能は、1つのカメラから、または複数のカメラからのビデオシーケンスと一緒に1つの結合フローに貼り付けるのに役立ちます。イベントのシーケンス、ストーリーボードを内部調査や法廷でのエビデンスとして使用することができます。

関連性のないシーケンスをすべてスキップしたり、必要のないビデオの長いシーケンスを見て、時間を無駄にすることを避けられます。また、関連性のあるビデオが含まれていないシーケンスの保存でストレージを無駄にすることも回避できます。

ストーリーボードのエクスポート

ビデオ シーケンスを単一の結合フローに貼り付けてストーリーボードを作成し、エクスポートできます。

1. 再生モードで、まずストーリーボードに追加したいアイテムが含まれているビューを開きます。
2. タイムラインで  をクリックします。
3. ストーリーボードの開始時間と終了時間を選択します。
4. ビューで追加するアイテムごとに、該当するチェックボックス  を選択し、**[エクスポート] > [エクスポートリストに追加]** をクリックします。

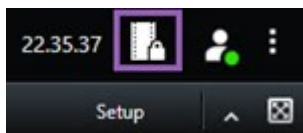
ストーリーボードに必要なアイテムをすべて追加するまで、手順1〜4を繰り返します。

5. エクスポートプロセスを続行します。[231 ページのエクスポート設定の調整](#)とを参照して[232 ページのエクスポートを作成](#)ください。

ロックされたエビデンスビデオのエクスポート

エビデンスロックをエクスポートする場合には、カメラに関連するデバイスからのデータもエクスポートに含まれます。

1. 再生モードに切り替えます。
2. 右上にあるワークスペースツールバーで、**エビデンスロック**をクリックして、**ビュー**を選択します。
3. 再生モードではなくライブモードのままにしたい場合は、グローバルツールバーの**エビデンスロック**を選択します。



ユーザー権限があるデバイスの既存のエビデンスロックのリストが表示されます。

4. エビデンスロックを選択して、**[エクスポートリストに追加]** をクリックします。
5. エクスポートプロセスを続行します。[231 ページのエクスポート設定の調整](#)と[232 ページのエクスポートを作成](#)をご参照ください。

エクスポートされたビデオの表示

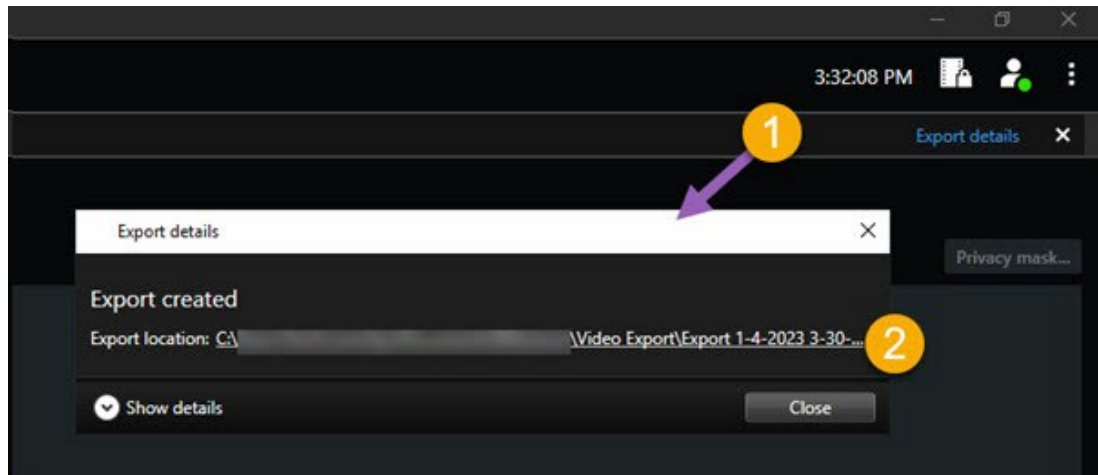
[エクスポートを作成] ウィンドウと **[エクスポート先]** フィールドで指定したフォルダーにエクスポートが作成され、保存されます。

1. 作成した直後にエクスポートされたビデオを表示するには、以下を実行します。

1. XProtect Smart Clientの右上で、**エクスポートの詳細**を選択します。

[**エクスポートの詳細**] ウィンドウ > [**エクスポートの場所**] フィールドで、出力フォルダーの場所がリンクで示されます。

2. リンクをクリックして出力フォルダーを開き、エクスポートされたファイルにアクセスします。



2. 過去のある時点のビデオをエクスポートした場合

1. エクスポートを保存するフォルダーにアクセスします。デフォルトの場所は、**C:\Users\[ユーザー名]\Documents\Milestone\Video Export**です。[**エクスポートを作成**] ウィンドウ > [**エクスポート先**] フィールドでフォルダーの場所を確認できます。[これは、常に同じエクスポート先を使用している場合にのみ動作します。]
2. 出力形式に応じて、該当するフォルダーを開き、ビデオファイルまたは静止画像をダブルクリックします。形式が**XProtect形式**の場合、.exe拡張子のついたSmart Client – Playerファイルをダブルクリックします。

監視レポートの印刷または作成

必要に応じて、監視カメラがとらえた静止画像をもとに監視レポートをその場で印刷するか、コンピュータに保存可能な監査レポートを作成できます。

[158 ページのアラームレポートを印刷する](#)と[159 ページのアラームの統計を取得する](#)もご参照ください。

単一カメラから監視レポートを印刷

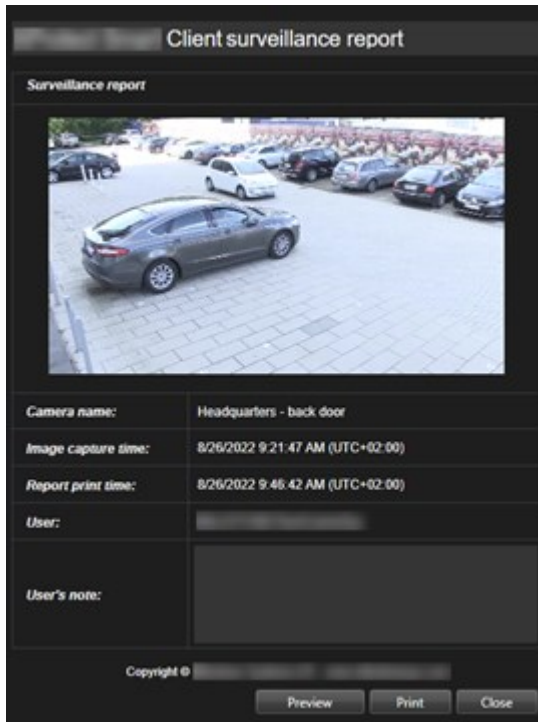
ライブカメラまたは録画ビデオからは、単一の静止画像と関連情報を印刷できます。追加したメモも印刷されます。

1. 記録した静止画像を印刷するには、再生モードに移動します。
2. ライブ静止画像を印刷するには、ライブモードに移動します。
3. 確認したいカメラが含まれるビューを開きます。

- 表示アイテムの上にカーソルを置きます。カメラツールバーが表示されます。



-  アイコンをクリックします。ウィンドウが表示されます。



- 必要に応じてメモを追加します。
- 印刷**をクリックします。Windowsの**印刷**ダイアログが表示されます。
- 必要に応じて、印刷設定を変更してから印刷します。それ以外の場合は、そのまま**印刷**をクリックします。



組織でアラーム処理機能が使用されている場合は、アラームに関する情報も印刷できます。
[151 ページのアラーム](#)もご参照ください。

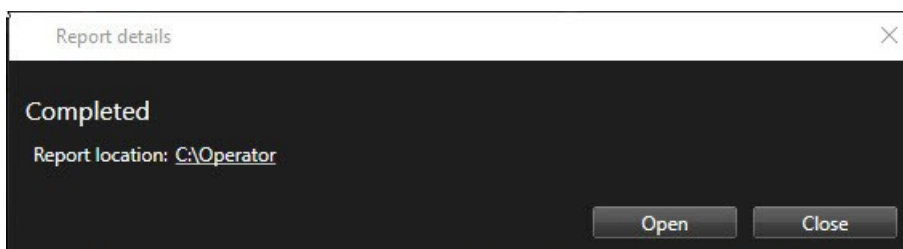
検索結果からレポートを作成

検索結果をもとに、イベントまたはインシデントに関する情報（静止画像、イベント発生時刻、カメラに関する情報、メモなど）が含まれる監視レポートを作成することができます。レポートはPDFファイルとして保存されます。

1. **[検索]**タブに移動し、検索を実行します。
2. レポートに含めたいそれぞれの検索結果にカーソルを当て、青いチェックボックスを選択します。
3. ブルーのアクションバーでをクリックします。ウィンドウが表示されます。
4. デフォルトのレポート名を、意味のある名前に変更します。レポートにおいては、名前はページの見出しとして表示されます。
5. レポートの保存先フォルダーを変更するには、**レポート先**セクションでをクリックし、別のフォルダーを選択します。
6. オプションで、**レポートメモ**フィールドにメモを入力します。
7. **作成**をクリックします。レポートが生成されるとプログレスバーが表示されます。



8. レポートが生成されると、プログレスバーから**詳細**を選択します。
9. **開く**を選択してレポートを開くか、リンクをクリックしてレポートの保存先フォルダーを開きます。



レポートのレイアウトを変更するには、**設定**ダイアログを開いて**詳細**をクリックし、**PDFレポートのフォーマット**リストで別の値を選択します。

画像をクリップボードにコピー

選択したカメラから1つの静止画像をコピーできます。コピーした画像は、ワープロソフトや電子メールクライアントなど、他のアプリケーションに（ビットマップ画像として）貼り付けることができます。1台のカメラからコピーできる画像は一度に1つだけです。

- カメラのツールバーで、**クリップボードにコピーする**ボタンをクリックして画像をコピーします



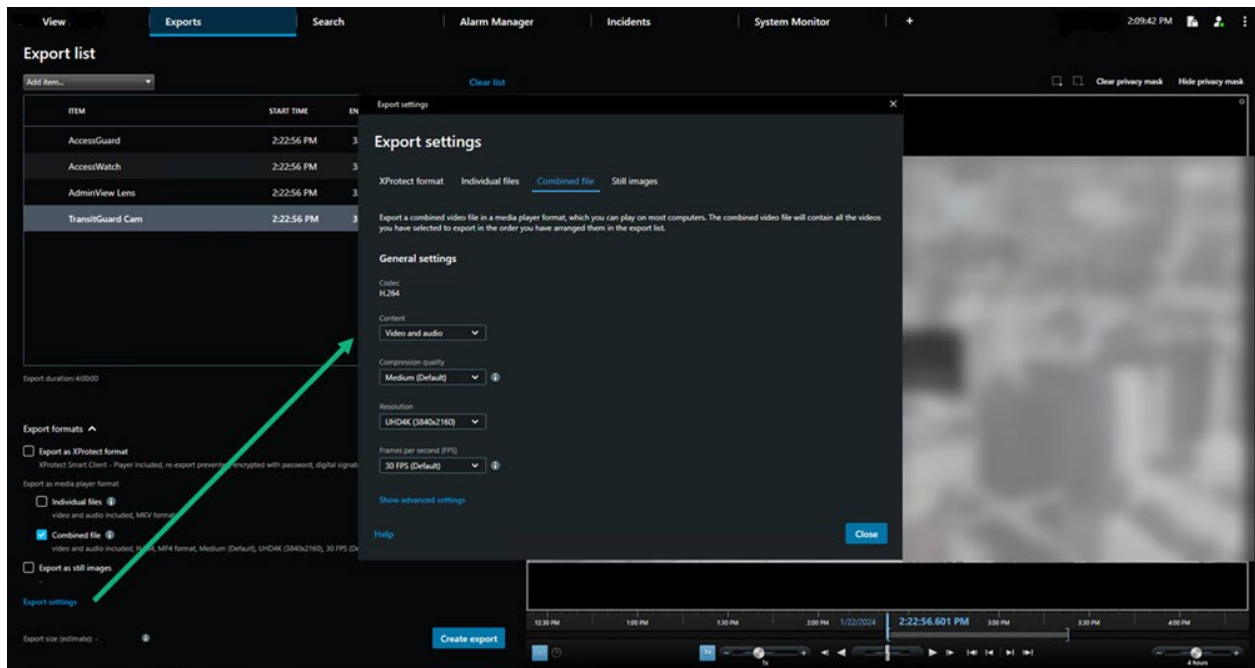
任意のアプリケーションに画像をペースト（CTRL+V）できます。

エクスポート設定

[エクスポート]タブでは、エクスポートに使用する形式を選択できます。

- [239 ページのXProtectフォーマットの設定](#)
- [241 ページのメディアプレーヤー形式の設定 - 個別ファイル](#)
- [244 ページの静止画像の設定](#)

各形式の**エクスポート設定**を変更できます。



利用できるエクスポート形式とエクスポート設定はシステム管理者によって指定されています。



セキュリティ上の理由により、デフォルトではXProtect形式のみ利用できる設定になっています。他のエクスポート形式を有効にするには、システム管理者にお問い合わせください。

エクスポート設定が保存されます。これらの設定は、次にエクスポートするときには使用できます。設定が使用できない場合は、その設定へのアクセス権限がありません。

XProtectフォーマットの設定

WindowsコンピュータのXProtectでのみ開くことができるエクスポートを作成するには、XProtect Smart Client – Player形式を選択します。



XProtectの2020 R1以降のバージョンで作成されたエクスポートを開くには、XProtect Smart Clientの2020 R1以降のバージョンを使用する必要があります。

名前	説明
含める XProtect Smart Client – Player	エクスポートされたデータのあるXProtect Smart Client – Playerアプリケーションを含めます。エクスポートされたデータは、XProtect Smart Client – Playerを使用してのみ再生できます。
再エクスポートしない	受信者がデータをどのような形式でも再エクスポートできないようにして、データが改ざんされないようにします。
パスワードで暗号化	暗号化標準AES-256を使用してエクスポートを暗号化します。 [エクスポート]>[エクスポートを作成] を選択すると、8文字以上のパスワードの入力が求められます。 エクスポートされたデータを開くまたは表示するため、エクスポート受信者はパスワードを入力する必要があります。
デジタル署名を含める	エクスポートしたデータベースにデジタル署名を含めます。監視システムの設定によって、ビデオや音声にすでに署名が含まれていることがあります。この場合は、これらの署名はエクスポート中に検証され、検証が成功するとエクスポートに含まれます。検証に異常があると、そのエクスポートも完了しません。エクスポートされたファイルを開くと、受領者はXProtect Smart Client – Playerで署名を確認できます。  デジタル署名を含めない場合、サーバーからの署名もエクスポートも含まれず、ビデオや音声は改ざんされていてもエクスポートが成功することになります。 エクスポート プロセス中、デジタル署名は2つの異なる状況で除外できます。 プライバシー マスクのあるエリアでは、レコーディング サーバーのデジタル署名がエクスポートから削除されます。

名前	説明
	エクスポートしているデータが現在の日時と非常に近い場合、シーケンス全体でレコーディングサーバーの電子署名が含まれない可能性があります。この場合、電子署名はエクスポートの一部にのみ追加されます。 エクスポートプロセスは完了しますが、署名を確認すると、レコーディングサーバーの電子署名が削除されているか、部分的にOKになっていることが分かります。
コメント	[エクスポートにコメントを追加する] ウィンドウを開きます。このウィンドウでは、個別のカメラやエクスポートプロジェクト全体にコメントを追加できます。

メディアプレーヤー形式の設定 - 個別ファイル

標準のビデオまたはオーディオシーケンスを個別のファイルとしてエクスポートし、受信者が標準のメディアプレーヤーがインストールされているコンピュータで再生できるようにするには、メディアプレーヤー形式の**個別ファイル**を選択します。コンピュータには、エクスポートで使用するコーデックもインストールしておく必要があります。

エクスポートの容量を可能な限り抑えるには、Media Player形式のMKVを選択してください。有効化できない場合は、システム管理者までお問い合わせください。

名前	説明
コンテンツのエクスポート	ビデオのみ、音声のみ、またはビデオと音声の両方をエクスポートします。
エクスポート形式	AVI形式またはMKV形式でビデオをエクスポートします。
コーデック	コーデックの選択は、AVIファイルの画質とサイズに影響します。 コーデックは変更できますが、変更する正当な理由がない限り、デフォルトのコーデック設定を維持するようお勧めします。

名前	説明
	 使用するコーデックは、エクスポートしたビデオを再生するコンピューターと類似のコーデックである必要があります。
タイムスタンプを含める	VMSシステムからの日時をエクスポートされた画像に追加します。タイムスタンプは、エクスポートされるビデオの最上部に表示されます。
フレームレートの低減	エクスポートのフレームレートを下げます。画像は1枚おきになりますが、まだリアルタイムで再生できます。
ビデオのテキスト	ビデオのテキスト ウィンドウが開き、AVIファイルのプリテキストとポストテキストを作成できます。これらのテキストは、そのエクスポートですべてのカメラに追加され、ビデオの前（ プリスライド ）または後（ ポストスライド ）に静止画像として表示されます。



MKV形式：JPEGまたはMPEG-4/H.264/H.265形式で記録されたビデオでプライバシーマスキングを使用していない場合、エクスポートで記録されたビデオにトランスコーディングは行われません。録画されたビデオは元の品質に保たれます。対照的に、プライバシーマスクを使用した場合、または他のコーデックを使用してビデオを録画した場合、録画されたビデオはエクスポートでJPEGにトランスコードされます。

メディアプレーヤー形式の設定 - 統合されたファイル

さまざまなカメラからの複数のビデオまたはオーディオシーケンスを1つのファイルにまとめてエクスポートし、受信者が標準のメディアプレーヤーがインストールされているコンピュータで再生できるようにするには、メディアプレーヤー形式の**統合されたファイル**を選択します。

名前	説明
一般設定	
コンテンツのエクスポート	ビデオのみ、音声のみ、またはビデオと音声の両方をエクスポートします。
エクスポート形式	MKV形式またはMP4形式でビデオをエクスポートします。
圧縮品質	圧縮品質の設定は、ファイルサイズに影響します。エンコーダーに適用する圧縮品質が高いほど、ファイルサイズは大きくなります。
解像度	選択したオプションによって、出力ファイルの最大解像度が決まります。複数のビデオシーケンスが1つのビデオファイルに統合されると、それぞれのカメラ解像度とアスペクト比によって、再生中に解像度を変更されますが、選択した解像度よりも低い解像度にしか変更されません。
秒当りのフレーム	フレーム数/秒（FPS）は、1 秒間に表示されるフレーム数を示します。フレーム数が多いほどファイルサイズは大きくなります。
詳細設定	
解像度設定	出力解像度をコントロールし、モバイルデバイスとの互換性を高めるには、以下のオプションを使用できます。 アップスケーリングを防止：低解像度のカメラのビデオが拡大されて粗く表示されるのを防ぐには、このオプションを選択して、出力解像度を元のサイズ以上に上げないようにします。 パディングを追加：異なるカメラのビデオシーケンスを1つのファイルに統合すると、再生時の解像度が変わることがあります。一部のメディアプレーヤーでは、このオプションはサポートされていません。このオプションはビデオの周囲にパディングを追加し、ビデオ全体を通して解像度が同じになるようにするものです。

静止画像の設定

各ビデオシーケンスの各フレームの静止画像をエクスポートするには、静止画像形式を選択してください。画像はJPEG形式です。

名前	説明
タイムスタンプを含める	VMSシステムからエクスポートされた画像に日付と時刻を追加します。タイムスタンプは、エクスポートされた画像の最上部に表示されます。

エクスポートタブで設定する

名前	説明
エクスポートリスト	たとえばビデオシーケンスなど、エクスポートで選択したアイテムをリストします。 アイテムごとに、開始時刻または終了時刻をクリックしてタイムスパンを変更できます。新しい日時を選択した後、[移動]をクリックします。プレビューエリアの下にあるハンドルをドラッグしてタイムスパンを変更することもできます。 アイテムをクリックして、プレビューエリアでシーケンスのプレビューを確認します。 横にある削除アイコンをクリックして、エクスポートリストからアイテムを削除することができます。1つのアイテムを2つに分割したい場合は、プレビュー エリアで分割アイコンをクリックします。
アイテムを追加	アイテムの追加ボタンを使用して、エクスポートに含めたい別のアイテムを選択します。
すべて解除	[エクスポートリスト]をクリアするには、[すべて削除] ボタンを使用してください。

名前	説明
エクスポート名	プログラムが自動的にローカルの日付と時間を使って入力しますが、名前を変更することができます。
エクスポート先	パス - パスを指定する際、指定するフォルダーは既存のものでも構いません。既に存在していない場合は、自動的に作成されます。 このフィールドではパスがすでに入力されている可能性があります。 メディア バーナー - エクスポートに送りたいバーナーを指定できます。この方法により、エクスポートを作成し、一度に光学メディアに直接書き込まれるようにします。
プライバシーマスク	クリックすると、ビデオにプライバシー マスクを追加できます。無地のブラックで選択された領域を、プライバシーマスクがカバーします。 ここで追加したプライバシーマスクは、現行のエクスポート、および選択されたビデオにのみ適応されます。エクスポートは、システム管理者によってプライバシーマスクが設定されたビデオをすでに含んでいる可能性があります。詳細については、119 ページのプライバシーマスクをご参照ください。

XProtectフォーマットでエクスポートされたデータベースの修復

XProtectフォーマットのエクスポートしたデータベースが破損している場合は、XProtect Smart Client – Playerで開くことで修復できます。

1. エクスポート済みビデオを含むフォルダーを開き、SmartClient-Player.exe ファイルを実行します。
2. エクスポート済みビデオがパスワードで保護されている場合はパスワードを入力します。
3. **[接続]** を選択します。
4. 右上の **[セットアップ]** ボタンを選択します。

5. [概要]ペインを展開し、[データベースを開く]を選択します。



XProtect Smart Client – Playerを使用してライブデータベースまたはライブアーカイブを開かないでください。録画のインデックス作成にダメージを与える可能性があります、その結果、録画が利用できなくなります。

6. 関連するエクスポートされたデータベースを含むフォルダーを選択します。ビデオをエクスポートしたデータベースのデフォルトフォルダは、C:\Users\[ユーザー名]\Documents\Milestone\Video Export\[エクスポート名]\Client Files\Data\Mediadata\[デバイス名]です。エクスポートされたデータベースを選択すると、**カメラ**、**マイク**、または**スピーカー**フィールドの横にデバイス名が表示されます。



システムがカメラを識別できない場合、例えば、アーカイブされたレコーディングを開くと、デバイス名は**不明**になり、3種類のデバイスはすべて、エクスポートされたデータベースファイル名が割り当てられた**不明**のデバイスとして(存在しない場合であっても)追加されます。デバイスが存在しない場合、フィールドには**N/A**と表示されます。

7. 開こうとしているエクスポートされたデータベースが壊れている場合、ウィザードで修復できます。

FAQ：エクスポート

音声もエクスポートできますか？

MediaPlayer形式およびXProtect形式でエクスポートする際、お使いの監視システムがこの操作をサポートしている場合、エクスポートに録音した音声を含めることができます。選択した監視システムに接続している場合のみ、XProtect形式でのエクスポートが可能です。静止画像形式でエクスポートする場合、音声を含めることはできません。



ブックマークしたシーケンスをエクスポートする場合、エクスポートには何が含まれますか？

指定した開始時間と終了時間の間の、ブックマークしたシーケンス全体（[214 ページのブックマークの追加](#) 参照）が含まれます。

エクスポートにローカルのビデオクリップファイルを含めることはできますか？

いいえ。含めることができるのはVMSシステムに接続されたカメラまたはその他のデバイスからのシーケンスのみです。

シーケンスをエクスポートする場合、エクスポートには何が含まれますか？

シーケンスの最初の画像からシーケンスの最後の画像まで、シーケンス全体が含まれます。

エビデンスロックのあるシーケンスをエクスポートする場合、エクスポートには何が含まれますか？

削除から保護されているすべてのデータが含まれます。選択した間隔の最初の画像から最後の画像まで、すべてのカメラとカメラに関連するデバイスのデータです。

魚眼レンズ記録をエクスポートできますか？

はい。監視システムが魚眼レンズカメラ（例：360° のパノラマ画像を録画できる特殊カメラ）をサポートしている場合は可能です。

エクスポートのファイルサイズを小さくするために できることはありますか？

エクスポートファイルのサイズを小さくするためにエクスポートファイルを圧縮することはできません。エクスポートの容量を可能な限り抑えるには、Media Player形式のMKV を選択してください。有効化できない場合は、システム管理者までお問い合わせください。

エクスポートパスを指定できないのはなぜですか？

通常、ユーザーは独自のパスを指定できますが、特定のタイプの監視システムに接続している場合は、監視システムサーバーがエクスポートパス設定を管理する可能性があり、ユーザーは独自のパスを指定できません。[29 ページの組織の XProtect 製品と拡張機能](#)をご参照ください。

エクスポートしたビデオから、デジタル署名が削除されているのはなぜですか？

以下の2つのシナリオで、エクスポートプロセス中にデジタル署名が削除されます。

- プライバシーマスクのある領域がある場合、レコーディングサーバーのデジタル署名はエクスポートで削除されます。
- エクスポートしているデータが現在の日時と非常に近い場合、シーケンス全体でレコーディングサーバーの電子署名が含まれない可能性があります。

エクスポートプロセスを完了しますが、署名を検証すると、レコーディングサーバーのデジタル署名が削除されていたり、一部だけが追加されていたりすることがわかります。

改ざんや悪意のあるユーザーから、エクスポートするエビデンスを保護できますか？

可能。XProtect形式でエクスポートすると、エクスポートしたエビデンスをパスワードで保護したり、エクスポートした要素にデジタル署名を追加することができます。また、受取った人が再エクスポートしないようにすることもできます。[239 ページのXProtectフォーマットの設定](#)をご参照ください。

トラブルシューティング：エクスポート中

1つ以上のデータベース ファイルが、サポートされていない暗号化アルゴリズムを使用している

この警告が表示されると、現在のXProtect VMSシステムはAES-256を使用して、FIPS 140-2セキュリティ基準に準拠するよう、エクスポートされたビデオデータを暗号化します。しかしながら、エクスポートの作成に使用されたシステムは、異なる標準暗号方式を使用しています。

この問題を解決するには：以下のいずれかを行ってください。

- XProtect Smart Clientのアップグレードされたバージョンを使用してビデオ データを再度エクスポートします。このバージョンは、現在使用しているバージョンよりも新しくなくてはなりません。
- Milestoneでは、常にXProtect Smart Clientの最新バージョンを使用するよう推奨していますが、オフラインモードでXProtect Smart Clientの旧バージョンを使用してエクスポートを開くこともできます。
- FIPSモードが無効になっているコンピュータでエクスポートを開きます。<https://docs.microsoft.com/en-us/windows/security/threat-protection/fips-140-validation#using-windows-in-a-fips-140-2-approved-mode-of-operation>も参照



Milestoneでは、データをパスワードで保護するようお勧めしています。この操作を行うには、**エクスポートの設定**ウィンドウ>**XProtect形式**で**パスワードで暗号化**のチェックボックスを選択します。

このプロジェクトの整合性を検証できませんでした...

ビデオのエクスポートにTampering keyは含まれていません。Tampering keyが削除されたか、MIP SDK 2020 R2以前のバージョンに基づくスタンドアロン型のサードパーティアプリケーションを使用してビデオのエクスポートが作成されました。Tampering keyがない場合、ビデオ プロジェクト ファイルの認証を確認する方法はありません。

この問題を解決するには、以下のいずれか、または複数を行ってください。

- 新しいビデオ エクスポートをリクエストし、Tampering keyが含まれていることを確認してください。
- MIP SDK 2020 R3以降に基づくサードパーティのアプリケーションを使用してビデオ データを再度エクスポートする

システムの健全性を監視

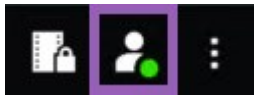
サーバー接続を確認しています

サーバー接続のステータスをチェック

例えば、古いセキュリティモデル (HTTP) または最新のセキュリティモデル (HTTPS) のどちらを使用しているかを確認するために、サーバー接続のステータスを確認できます。

Milestone Federated Architectureで複数のサイトが接続されている場合は、接続されているサイトもチェックできます。Milestone Federated Architectureにより、関連するが物理的に分離されたXProtectVMSシステムを接続できます。たとえば、このような設定は、店舗のチェーンなどに適しています。

1. グローバルツールバーで**ユーザープロフィール**ボタンを選択します。



2. **ログイン情報**を選択し、接続のステータスをチェックします。ステータスは**セキュア - 接続済み**、**非セキュア - 接続済み**、または**接続なし**のいずれかの可能性があります。



XProtect Smart Client が古いセキュリティモデル (HTTP) を使用する XProtect VMS システムまたはフェデレーテッドサイトに接続している場合、**安全でない**という情報メッセージがグローバルツールバーの左側に表示されます。

XProtect Smart Client のシステムを監視

システムの監視

システムモニタータブでは、サーバー、接続しているデバイス、XProtect Smart Clientを実行しているコンピュータの現在のステータス概要を確認できます。

詳細については、[55 ページのデフォルトのタブ](#)をご参照ください。

クライアントリソースのモニター

解像度、フレームレート、コーデックとともに、カメラの台数がXProtect Smart Clientを実行しているPCの負荷となります。**CPU**、**RAM**、**NVIDIA GPU**リソースにおける現行の負荷を確認するには、以下を実行します。

1. **システムモニター**タブをクリック&ドラッグし、サブウィンドウにアンドックします。
2. **このコンピュータ**を選択します。
3. 現在のビューの負荷をモニターするには、**ビュー**を選択します。



クライアントPCが、追加のNVIDIAディスプレイアダプタをインストールしている場合は、それらのGPUにおける負荷も可視化されます。



もし負荷が高すぎる場合は、複数のNVIDIAディスプレイアダプタをインストールして、GPUリソースをPCに追加します。Milestoneは、NVIDIAディスプレイアダプタのスケーラブルリンクインターフェイス（SLI）構成の使用を推奨していません。

Milestone Federated Architectureのある [システムモニター] タブ

Milestone Federated Architecture™を実行している場合、**システムモニター**タブは2つの部分に分割されます。

- 一方のペインにフェデレーテッドアーキテクチャを表す階層ツリー構造が表示されます。
- もう一方のペインは、選択したサーバー向けの関連するシステムデータが表示される、ブラウザベースのエリアです。

サイトペインで任意のサーバーをクリックすると、システムデータが表示されます。

タブから離れるか、システムからログアウトして戻ると、**システムモニター**タブは、フェデレーテッドアーキテクチャで選択されたサーバーを記憶し、そのサーバーからのシステムデータを引き続き表示します。

システムモニタータブを独立したウィンドウにドラッグして、複数のサーバーをモニターできます。

ビューの作成

ビューの作成

プライベートビューと共有ビュー

ビューには、共有ビューとプライベートビューがあります。

- 共有ビュー: 複数のユーザーが利用できます。通常はシステム管理者またはスーパーバイザーによって作成されます。
- プライベートビュー: 作成したユーザーのみが利用できます。

設定モードに切り替える権限がある場合は、プライベートビューを作成できます。プライベートビューは**プライベート**フォルダーに保存され、XProtect Smart Clientにログインすることで任意のコンピューターから利用できます。

[ビュー] ペインには以下が含まれます：

- **[プライベート]** フォルダー：ログインするとどのコンピューターからでもアクセスできるプライベートビューが含まれます。これには、すべてのカメラからのビデオを含む自動で生成されたデフォルトのビューが含まれる場合があります。
- **共有** フォルダー：共有ビューを含むビューグループが含まれます。保護されているフォルダーにはパドロックアイコンがついており、通常のユーザーには変更できません。

ビューの作成

ビューの作成には、通常は次の順序で行われる一連の手順を踏みます：

1. 新しいグループの下に新しいビューを保存したい場合は、まずグループを先に作成します。[252 ページのビューグループの作成](#)をご参照ください。
2. ビューそのものを作成します。[252 ページのビューの作成](#)をご参照ください。



既存のビューをコピーし調整する方が新しいものを作るより早いかどうか、検討してください。[253 ページのビューまたはビューグループをコピーします](#)。をご参照ください。

3. コンテンツをビューに追加します。[252 ページのコンテンツをビューに追加](#)をご参照ください。
4. (オプション) ショートカット番号をビューに割り当て、ユーザーがビューを素早く切り替えられるようにします。[254 ページのビューへショートカット番号を割り当てる](#)をご参照ください。

5. (オプション) オーバーレイボタンをビューの様々なカメラビューアイテムに追加して、ユーザーがビューから直接アクションをトリガーできるようにします。258 ページのカメラビューアイテムにオーバーレイボタンを追加するをご参照ください。

コンテンツをビューに追加

カメラやマップからのビデオなど、さまざまなタイプのコンテンツをビューに追加できます。コンテンツタイプの完全なリストは、31 ページのビューアイテムのコンテンツでご覧ください。

ユーザーグループのために共有ビューを作成する場合、次のことを確認してください。

- ユーザーがコンテンツを見るのに必要な権限を持っていること。
- ユーザーがこの機能をサポートするXProtect Smart Clientと同じバージョン、またはそれ以降のバージョンを持っていること。

ビューグループの作成

これらをグループにまとめて整理することで、ビューをより簡単に見つけたり、管理したりすることができます。システム管理者がすでにいくつかのグループを設定していることもあります。通常は既存のビューグループ内に自分自身のグループを作ることができます。

1. ワークスペースツールバーで、**セットアップ**を選択します。
2. [ビュー]ペインで、グループを追加したい[プライベート]ビューグループまたは共有ビューグループを選びます。
3. [ビュー] ペインの下部で、**[新しいグループの作成]**  を選択します。
4. グループに名前を付けます。
5. もう一度**[設定]**を選択して設定モードを終了し、変更を保存します。

これで、新しいグループ内でビューを作成できるようになりました。

ビューの作成

異なるレイアウトとコンテンツを組み合わせた新しいビューを作成するには：

1. ワークスペースツールバーで、**セットアップ**を選択します。
2. [ビュー] ペイン内で、ビューを追加したいビューグループを選択します。
3. [ビュー] ペインの下部で、**[新しいビューの作成]**  を選択します。

4. ビューアイテムのレイアウトや数を選択します。



5. ビューに名前を付けます。
6. もう一度 **[設定]** を選択して設定モードを終了し、変更を保存します。



システム管理者がXProtectVMSシステムのカメラのプロパティやユーザー権限を変更する場合、お客様は1 つ以上のビューを再度作成する必要がある場合があります。

検索を通して一時的なビューを作成する

カメラの検索により一時的なビューを簡単に作成することができます。

1. **[ビュー]** タブで、**[ビューおよびカメラの検索]** フィールドを使ってカメラを検索します。

さらに、検索フィールドの横の  を選択すると、一般的な検索キーワードを使用できます。

2. 検索結果からビューを選択します。
3. 1つまたは複数のカメラを選択し（複数のカメラを選択するには **Ctrl** または **Shift** キーを使います）、**Enter** キーを押して一時的なビューを作成します。

ビューを保存したい場合は、ワークスペースのツールバーで **[セットアップ]** を選択します。

ビューまたはビューグループをコピーします。

ビューまたはグループとそのすべてのビューをコピーし、それらを **[ビュー]** ペインの別の場所に貼り付けます。

権限がある場合は、プライベートビューを共有ビューグループにコピーし、より多くのユーザーがそれを使えるようにすることができます。

1. ワークスペースツールバーで、**セットアップ** を選択します。
2. コピーしたいビューまたはグループを選択します。
3. **[ビュー]** ペインの下部で、**[コピー]**  を選ぶか、**Ctrl+C** を押します。

4. ビューを貼り付ける場所へ移動して、**[貼り付け]**  を選択するか、もしくは**Ctrl+V**を押します。
5. コピーされたビューまたはグループの名前を変更するには、名前を右クリックして**[名前の変更]**  を選択します。

ビューへショートカット番号を割り当てる

ビューにショートカット番号を割り当て、ビューの切り替えを素早くできるようにします。[106 ページのデフォルトのキーボードショートカット](#)をご参照ください。

1. ショートカット番号を割り当てたいビューを選択します。
2. ワークスペースツールバーで、**セットアップ**を選択します。
3. **[ビュー]**ペインの下部にある**[ショートカット]**フィールドに、ショートカット番号を入力し、**[設定]**を押します。

ビューの名前の前の括弧の中にショートカット番号が表示されます。

4. もう一度**[設定]**を選択して設定モードを終了し、変更を保存します。

ビューアイテムにビデオを追加

ビューにカメラを追加する

カメラからのビデオを表示するには、まずはカメラをビューに追加する必要があります。

1. ワークスペースツールバーで、**セットアップ**を選択します。
2. ビューを選択します。
3. **[システム概要]** ペインで、サーバー  を選択し、フォルダーを展開して関連するカメラを探します。



サーバーに赤いアイコンが付いている場合は利用できず、そのカメラはリストに表示されません。

4. カメラを選択しそれをビューアイテムにドラッグするか、フォルダーを選択して、その中にあるすべてのカメラをビューに追加します。



共有ビューの権限を確認する：ユーザーがお客様の共有ビューにあるカメラからビデオを見る権限を持っているか確認してください。不明な点は、システム管理者にお問い合わせください。

5. **[プロパティ]** ペインで、カメラのプロパティを指定します（ライブストリームやPTZモードなど）。[264 ページのカメラ設定（プロパティペイン）](#)をご参照ください。
6. もう一度 **[設定]** を選択して設定モードを終了し、変更を保存します。

ビューアイテムでビデオの寸法を定義する

ビデオの元の寸法を維持するか、ビューアイテムに合わせて拡大するかを選択できます。

1. ワークスペースツールバーで、**セットアップ**を選択します。
2. 調整したいビデオストリームが含まれたビューとカメラビューアイテムを選択します。
3. **[プロパティ]** ペインで、**[画像のアスペクト比を維持]** オプションを選択します。
 - 選択するともとのビデオの寸法が維持されます。このオプションでは、ビデオ周辺のスペースが黒くなる場合があります。
 - クリアすると、ビデオがビューアイテムに合わせて拡大されます。このオプションでは、ビューアイテムいっぱいにビデオが表示されますが、ビデオが歪む可能性があります。



すべてのカメラ、ホットスポット、画面自動切替ビューアイテムに同じ設定を適用するには、1つのビューアイテムの設定を定義し、**プロパティペインですべてに適用**を選択します。

4. もう一度 **[設定]** を選択して設定モードを終了し、変更を保存します。

カメラタイトルバーとインジケータを表示／非表示にする

カメラタイトルバーとビデオジケーターにより、有益なステータス情報（録画ステータスなど）が提供されますが、これらを非表示にするとビデオのためのスペースを空けることができます。

1. ワークスペースツールバーで、**セットアップ**を選択します。
2. 関連するビューとカメラビューアイテムを選択します。
3. **[プロパティ]** ペインの**[表示設定]** と**[デフォルトの表示設定の使用]**で、**[タイトルバーの表示]**を選択するか、選択解除します。



すべてのカメラ、ホットスポット、画面自動切替ビューアイテムに同じ設定を適用するには、1つのビューアイテムの設定を定義し、**プロパティペインですべてに適用**を選択します。

4. もう一度 **[設定]** を選択して設定モードを終了し、変更を保存します。



タイトルバーを表示しないを選択した場合は、モーションやイベントの視覚的インジケータは表示されません。代わりに、音声による通知を使用できます。

92 ページの[ライブビデオのステータスを表示する](#)もご参照ください。

重要なオブジェクトの周囲にバウンディングボックスを表示する

オブジェクトの位置を識別して XProtect VMS にメタデータを送信できるカメラまたは統合システムがある場合、XProtect VMS はビデオ内のオブジェクトの周囲に境界ボックスと呼ばれる視覚的なインジケータを配置できます。

境界ボックスは、組織や企業にとって重要なオブジェクトの場所を監視するのに役立ちます。

1. ワークスペースツールバーで、**セットアップ**を選択します。
2. 関連するビューとカメラビューアイテムを選択します。
3. **[プロパティ]** ペインの**表示設定**で、**[バウンディングボックスレイヤーを表示する]**を選択します。
4. **[バウンディングボックスプロバイダー]**を選択して、メタデータデバイスを有効化します。プロバイダーが 1 つしかない時は、自動的にそれが選択されます。
5. もう一度**[設定]**を選択して設定モードを終了し、変更を保存します。

バウンディングボックスは次の時にも表示されます：

- XProtect 形式でビデオをエクスポートします。[239 ページのエクスポート設定](#)をご参照ください。
- 静止画像を印刷します。[236 ページの監視レポートの印刷または作成](#)をご参照ください。

バウンディングボックスが表示されない場合は、[107 ページのトラブルシューティング：ビデオやバウンディングボックスがない](#)を参照してください。

ライブビデオからジッタを取り除く

ライブビデオはマイナーな帯域幅やネットワークの問題で、ジッタが発生することがたまにあります。ジッタは人が歩いているときにビデオが途切れるなど、不規則な動きとして現れます。ライブビデオをスムーズなものにするため、XProtect Smart Client にライブビデオを表示する前にわずかなバッファリングを加えることができます。このバッファリングによりわずかな遅れが生じるものの、ビデオはよりスムーズに表示されます。

重要事項

- **応答の遅延：**ジョイスティック操作のために即座に応答する必要がある場合は、遅延が顕著になるため、ビデオバッファリングをパン/チルト/ズーム（PTZ）カメラに使用するのは避けてください。
- **メモリ使用率：**ビデオバッファリングを使用するとメモリの使用量が増える場合があるため、できるだけ低く抑えてください。

ジッタを取り除くには：

1. ワークスペースツールバーで、**セットアップ**を選択します。
2. スムーズにしたいライブビデオストリームが含まれたビューとカメラビューアイテムを選択します。
3. **[プロパティ]** ペインの**[ビデオバッファリング]** で：
 - **[デフォルトのビデオバッファリングを使用]** を選択し、システム管理者によって設定されたバッファリングを使用します。372 ページの**アプリケーション設定** もご参照ください。
 - **[デフォルトのビデオバッファリングを使用]** を解除し、**[ビデオバッファリング]** リストを展開し、**[無し]** から**[最大 (2秒)]** の範囲でバッファリングを選択します。



すべてのカメラ、ホットスポット、画面自動切替ビューアイテムに同じ設定を適用するには、1つのビューアイテムの設定を定義し、**プロパティ** ペインで**すべてに適用**を選択します。

4. **ビデオバッファリング** が**[プロパティ]** ペインで見つからない場合は、**[設定その他]** メニューで**[設定]** を選択し、**[機能]** タブで、**[セットアップ]** > **[ビデオバッファリングの編集]** を**[利用可能]** に設定します。376 ページの**機能設定** もご参照ください。
5. もう一度**[設定]** を選択して設定モードを終了し、変更を保存します。

カメラビューアイテムにカメラコマンドを追加

オーバーレイボタン

カメラに補助コマンドがある場合は、オーバーレイボタンをビデオを表示しているカメラビューアイテムに追加することで、ライブモードでコマンドに直接アクセスできるようになります。オーバーレイボタンを追加すると、スピーカーの有効化、イベントのトリガー、PTZカメラの移動といったタスクを実行できます。

- **権限**：補助コマンドを実行する権限がない場合でも、補助コマンド用のオーバーレイボタンを追加することができます。適切な権限を持ったユーザーはこれらのボタンを使用することができます。設定モードでは、使用権限のないオーバーレイボタンは淡色表示され、ライブモードでは表示されません。
- **文書**：カメラの付属文書を参照して、どの補助コマンドが使用可能か確認してください。

オーバーレイボタンは、ライブモードでマウスを個々のカメラビューアイテムに合わせて動かすと表示されます。



カメラビューアイテムにオーバーレイボタンを追加する

オーバーレイボタンをカメラビューアイテムに追加して、スピーカーの有効化、イベントのトリガー、ビューから直接PTZカメラを動かす、といったタスクを実行できます。

オーバーレイボタンは、ライブモードでマウスを個々のカメラビューアイテムに合わせて動かすと表示されます。

オーバーレイボタンは必要なだけ追加できます。

1. オーバーレイボタンを追加したいビューを選択します。
2. ワークスペースツールバーで、**セットアップ**を選択します。
3. **[オーバーレイボタン]** ペインでコマンドを選択し、カメラビューアイテムにドラッグします。
4. オーバーレイボタンを配置し、サイズを調整します。



5. オーバーレイボタンのテキストを変更するには、ボタンをダブルクリックしてから、チェックボックス  を選択して変更を保存するか、 を選択して変更を破棄します。
6. もう一度 **[設定]** を選択して設定モードを終了し、変更を保存します。

カメラは交換するが、その設定は維持する

ビューでカメラを交換しても、そのビューアイテムの設定は維持することができます。

1. ワークスペースツールバーで、**セットアップ**を選択します。
2. **[ビュー]** ペインで、交換するビューとカメラビューアイテムを選択します。
3. **[プロパティ]** ペインで、**[カメラ名]** フィールドの横にある楕円形のボタンを選択します。
4. 新しいカメラを選択します。
5. もう一度 **[設定]** を選択して設定モードを終了し、変更を保存します。

画面自動切替をビューに追加する

画面自動切替ビューアイテムによりカメラグループ内の各カメラからのライブビデオを順番に表示されます。このためお客様が監視するエリアで何が起こっているかを把握できます。

1. ビューを選択します。
2. ワークスペースツールバーで、**セットアップ**を選択します。
3. **[システム概要]** ペインで、**[画像自動切替]** アイテムをビューアイテムにドラッグします。
4. **[画面自動切]** ウィンドウの**[カメラ]**のところで、各カメラをダブルクリックして画面自動切替に追加します。
5. **[選択されたカメラ]** リストで、シーケンスを定義するためにカメラを配置します。
6. 画面自動切替のカメラの表示継続時間を入力します。すべてのカメラ、またはそれぞれのカメラに対し値を指定することができます。
7. (オプション) 画面自動切替の設定を**[プロパティ]** ペインの**[画像自動切替の設定]** で調整できます。



[プロパティ] ペインの**[ライブストリーム]** 設定は、画像自動切替にあるすべてのカメラに適用されます。

8. もう一度**[設定]**を選択して設定モードを終了し、変更を保存します。

ビューにホットスポットを追加する

高解像度でビデオフィードを表示するホットスポットビューアイテムにより、ユーザーは細部をより明確に見ることができ、それと同時にリモート接続の帯域幅を節約することもできます。

以下の2種類のホットスポットがあります。

- グローバルホットスポット：選択したカメラを、メインウィンドウにある場合でも、セカンダリディスプレイにある場合でも表示します
- ローカルホットスポット：ローカルディスプレイ内で選択したカメラを表示します。



1+7ビューの大きなビューアイテムなど、ホットスポットを最大のビューアイテムに追加することをお勧めします。

1. ビューを選択します。
2. ワークスペースツールバーで、**セットアップ**を選択します。
3. **[システム概要]** ペインで、**[ホットスポット]** アイテムを関連するビューアイテムにドラッグします。
4. (オプション)**[プロパティ]** ペインで、ホットスポットのプロパティを修正します。
5. もう一度**[設定]**を選択して設定モードを終了し、変更を保存します。

ビューにMatrixのコンテンツを追加する

Matrixビューアイテムにより、ユーザーはお互いにライブビデオフィードを共有してインシデントに対する認識や連携を高めることができます。システム管理者が定義したルールで、特定のインシデントが発生した際に、Matrixコンテンツの共有をトリガーすることもできます。

Matrixビューアイテムは必要なだけビューに追加できるため、同時に複数のビューアイテムでMatrix共有ビデオを見ることができます。最初に追加するMatrixビューアイテムがプライマリで、2つ目がセカンダリ、というように順番が付けられ、これによりビデオがどのように表示されるかが決定されます。この順位は、設定モードで変更できます。

1. ビューを選択します。
2. ワークスペースツールバーで、**セットアップ**を選択します。
3. **[システム概要]** ペインで、**Matrix**アイテムを必要なビューアイテムにドラッグします。Matrixアイコン が表示されます。
4. **[プロパティ]** ペインでMatrixプロパティを決定します。
 - **Windowインデックス**：複数のMatrixビューアイテムがある場合は、プライマリMatrixビューアイテム、セカンダリビューアイテムなどを選択します。プライマリビューアイテムには最新のMatrixトリガービデオが、セカンダリにはその前のビデオ、というように表示されます
 - **接続設定**：プライマリMatrixビューアイテムを選択して、MatrixトリガービデオをXProtectVMSサーバーからXProtect Smart Clientビューに転送するための**TCPポート**（デフォルト12345）と**パスワード**を指定します。ビューの中のすべてのMatrixビューアイテムはこの設定を引継ぎます。お客様の組織で使用するポート番号またはパスワードについては、システム管理者にお問い合わせください。
5. もう一度**[設定]**を選択して設定モードを終了し、変更を保存します。

PTZクリックモードを変更する

PTZクリックモードは、マウスでどのようにPTZカメラを動かすかを決定するものです。カメラビューアイテムのためのデフォルトのPTZクリックモードを好みに合わせて設定できます。

- ワークスペースツールバーで、**セットアップ**を選択します。
- PTZカメラを備えたビューとカメラビューアイテムを選択します。
- [**プロパティ**] ペインで、[**PTZクリックモード**] リストを展開し、選択します。
 - デフォルトの使用**：システム管理者が定義したPTZクリックモードを使用する際に選択します。ユーザーはこの設定を変更できません。
 - クリックして中央へ**：ドアから窓へ、というように固定されたオブジェクトに頻繁にパンする場合は、これを選択します。
 - 仮想ジョイスティック**：移動しているオブジェクトを頻繁に追跡する場合はこれを選択します。



すべてのカメラ、ホットスポット、画面自動切替ビューアイテムに同じ設定を適用するには、1つのビューアイテムの設定を定義し、**プロパティ**ペインで**すべてに適用**を選択します。

- もう一度 [**設定**] を選択して設定モードを終了し、変更を保存します。

音声通知を再生

音で通知

カメラビューアイテムの音声通知を有効化すると、ユーザーが積極的にライブビデオを見ていない時でも、モーション検知やイベントトリガーなど特別な注意が必要な場合に警告を受け取ることができます。これらの通知は現在オープンな、表示されているビューでのみ有効です。

お客様、およびシステム管理者は次の場合に音声通知を再生するよう設定することができます。

- モーションが感知されました。
- イベントが発生した場合。



XProtect Smart Clientは、選択済みで、オープンな、表示されているビューからのサウンド通知のみを再生します。ウィンドウを最小化しカメラビューアイテムを最大化した場合、非表示のビューアイテムから音声通知を受信することはありません。

モーションに関する音声通知を再生する

常にライブビデオを積極的に見ているわけではない場合、XProtect Smart Clientを設定し、ビデオでモーションが検知された際にシンプルな音声通知が再生されるようにすることができます。

1. ワークスペースツールバーで、**セットアップ**を選択します。
2. 音声通知を有効化したいビューとカメラビューアイテムを選択します。
3. [プロパティ]ペインの[**モーション検知で音を鳴らす**]リストで、次を選択します。

- **常にオフ**：モーション検知の音声通知を無効化します。
- **常にオン**：モーションが検知された際に音声通知を再生します。



音声通知の頻度は、システム管理者によって設定されたモーション検知の感度に依存します。



すべてのカメラ、ホットスポット、画面自動切替ビューアイテムに同じ設定を適用するには、1つのビューアイテムの設定を定義し、**プロパティペインですべてに適用**を選択します。

4. もう一度[**設定**]を選択して設定モードを終了し、変更を保存します。

イベント発時に音声通知を再生する

カメラに関連する特定のイベントが発生したときにサウンド通知を再生するようにXProtectSmartClientを設定できます。

前提条件：

システム管理者はXProtectVMSシステムサーバーでイベントに関連する通知を設定する必要があります。

1. ワークスペースツールバーで、**セットアップ**を選択します。
2. 音声通知を有効化したいビューとビューアイテムを選択します。
3. [プロパティ]ペインの[**モーション検出で音を鳴らす**]リストで、次を選択します。

- **常にオフ**：イベントに関連する音声通知を無効化します。
- **常にオン**：イベントが検知されるたびに音声通知を再生します。



すべてのカメラ、ホットスポット、画面自動切替ビューアイテムに同じ設定を適用するには、1つのビューアイテムの設定を定義し、**プロパティペインですべてに適用**を選択します。

4. もう一度[**設定**]を選択して設定モードを終了し、変更を保存します。

帯域幅、CPU、GPUの使用率の向上

帯域幅、CPU、GPUの使用率の改善

XProtectVMSシステムとXProtect Smart Clientインストールの全体的なパフォーマンスを向上させるための最適な方法は、システム管理者が複数のストリームを送るようカメラを設定し、XProtectVMSシステムがアダプティブストリーミングを使用するように設定することです。

次の情報は、ビューを作成する際、XProtect Smart Clientにおけるネットワークの帯域幅、CPU、GPUの使用状況を改善するその他の方法を説明しています。

固定されたライブストリームを選択する

システム管理者が複数のストリームを送るようカメラを設定した場合、帯域幅の使用量が少ないライブストリームを選択することができます。

1. ワークスペースツールバーで、**セットアップ**を選択します。
2. **[ビュー]** ペインで、交換するビューとカメラビューアイテムを選択します。
3. **[プロパティ]** ペインで、**[ライブストリーム]** リストを展開し、希望するライブストリームオプションを選択します。



XProtectVMSがアダプティブストリーミングを使用している場合は、**[デフォルト]** を選択します。



すべてのカメラ、ホットスポット、画面自動切替ビューアイテムに同じ設定を適用するには、1つのビューアイテムの設定を定義し、**プロパティ** ペインで**すべてに適用**を選択します。

4. もう一度**[設定]**を選択して設定モードを終了し、変更を保存します。

モーションのあるライブストリームのみを更新する

ネットワークの帯域幅とCPUの使用を削減するために、XProtect Smart Clientを設定して、モーションが検知された場合にのみカメラビューアイテムを更新することができます。モーションがない場合は、最後に検知されたモーションの静止画像がグレーのオーバーレイで**モーションなし**というメッセージと共に表示されます。

この設定により、システム管理者によって設定されたモーション検知の感度に応じて、コンピューターのCPU使用が大幅に削減されます。

1. ワークスペースツールバーで、**セットアップ**を選択します。
2. モーションがあった場合にのみ更新するビューとカメラビューアイテムを選択します。
3. **[プロパティ]** ペインで、**[モーションで更新]**を選択します。



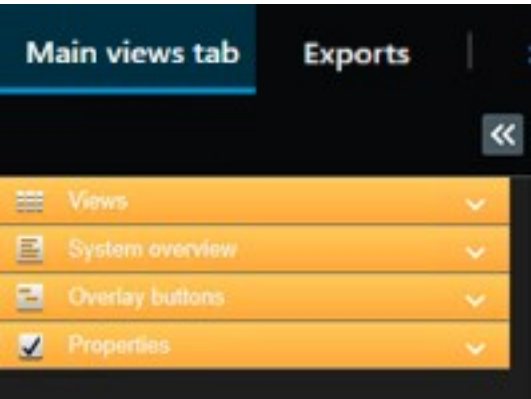
すべてのカメラ、ホットスポット、画面自動切替ビューアイテムに同じ設定を適用するには、1つのビューアイテムの設定を定義し、**プロパティペインですべてに適用**を選択します。

4. もう一度 **[設定]** を選択して設定モードを終了し、変更を保存します。

カメラ設定（プロパティペイン）

カメラビューアイテムで、ビデオをどのように表示するかを微調整、パンの調節、マウスやジョイスティックを使ったズーム、モーション検知の音声通知を設定できます。

これらの設定をカスタマイズするには、**[セットアップ]** モードの**[プロパティ]** ペインで、選択したカメラのプロパティを確認し編集します。



設定	説明
カメラ名の横にある楕円型ボタン	258 ページのカメラは交換するが、その設定は維持する
ライブストリーム	263 ページの固定されたライブストリームを選択する
PTZクリックモー	260 ページのPTZクリックモードを変更する

設定	説明
ド	
縦横比を維持	255 ページのビューアイテムでビデオの寸法を定義する
モーションで更新	263 ページのモーションのあるライブストリームのみを更新する
モーション検知で音を鳴らす	261 ページのモーションに関する音声通知を再生する
イベントで音を鳴らす	262 ページのイベント発時に音声通知を再生する
表示設定	255 ページのカメラタイトルバーとインジケーターを表示／非表示にする 256 ページの重要なオブジェクトの周囲にバウンディングボックスを表示する
ビデオバッファリング	256 ページのライブビデオからジッタを取り除く
すべてに適用	1つのカメラビューアイテムのために選択したプロパティをビュー内のすべてのカメラビューアイテムに素早く適用するために選択します。

ビューアイテムに他のコンテンツを追加

ビューにアラームリストを追加する

オペレーターが素早くインシデントに集中し応答できるようにするため、1つのビューアイテムに優先順位付けされたアラームリストを追加し、別のビューアイテムにアラームプレビューを追加することができます。

通常、アラームリストとアラームプレビューは同じビューに配置されます：

- アラームリストはいくつかのフィルターオプションでアラームに優先順位を付け表示します。
- アラームプレビューは選択したアラームに関連するビデオを表示します。

1. ビューを選択します。
2. ワークスペースツールバーで、**セットアップ**を選択します。
3. **システム概要**ペインで**アラーム**を展開し、**アラームリスト**を表示アイテムまでドラッグします。
4. **[アラームプレビュー]** を異なるビューアイテムにドラッグします。
5. もう一度**[設定]**を選択して設定モードを終了し、変更を保存します。

ビューにスマートマップを追加する

XProtectVMSに追加されたすべてのカメラやセキュリティデバイスのロケーションを含め、あるエリアのバーチャルマップを作成した場合、このスマートマップをビューに追加して状況認識を高めることができます。

1. ビューを選択します。
2. ワークスペースツールバーで、**セットアップ**を選択します。
3. **[システム概要]** ペインで、既存の**[スマートマップ]** アイテムをビューのビューアイテムにドラッグします。
4. もう一度**[設定]**を選択して設定モードを終了し、変更を保存します。

Smart Mapをビューに追加する。

XProtectVMSに追加されたすべてのカメラやセキュリティデバイスのロケーションを含め、あるエリアのバーチャルマップを作成した場合、このマップをビューに追加して状況認識を高めることができます。

1. ビューを選択します。
2. ワークスペースツールバーで、**セットアップ**を選択します。
3. **[システム概要]** ペインで、**[マップ]** アイテムをビューのビューアイテムにドラッグします。
4. **[新規マップを作成]** または **[既存のマップを使用]** のいずれかを選択します。三角記号がマップ名の横に付いている場合は、マップに1つ以上のサブマップがある可能性があることを示します。サブマップも追加されます。
5. **[新しいマップの作成]** を選択した場合、**[名前]** フィールドにマップの名前を入力します。
6. **[ブラウズ]** を選択して、マップとして使用したい画像ファイルを見つけ、選択します。
7. もう一度**[設定]**を選択して設定モードを終了し、変更を保存します。

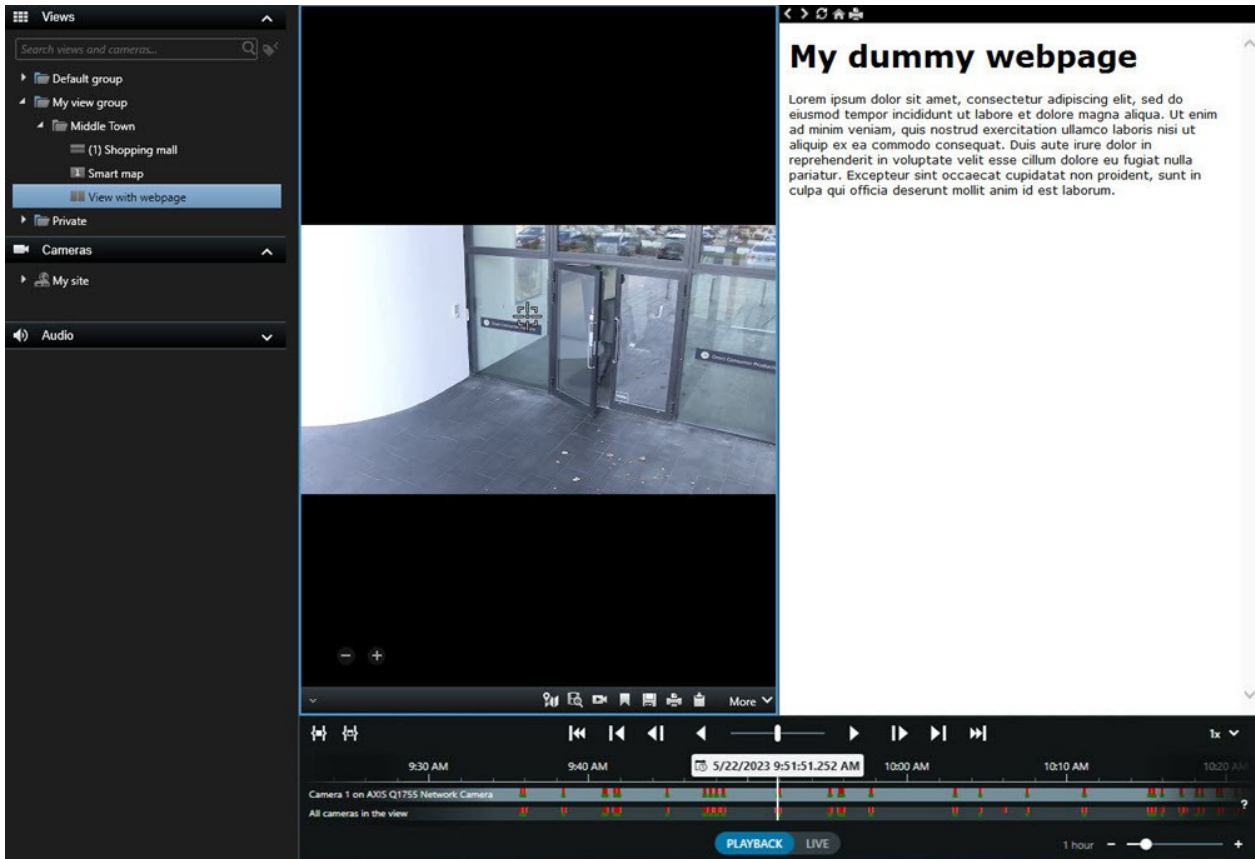


ビューにマップビューアイテムが含まれている場合、ホットスポットビューアイテムもあると、ユーザーはマップ上の異なるカメラを素早く選択し、ホットスポットにあるビデオを表示することができます。

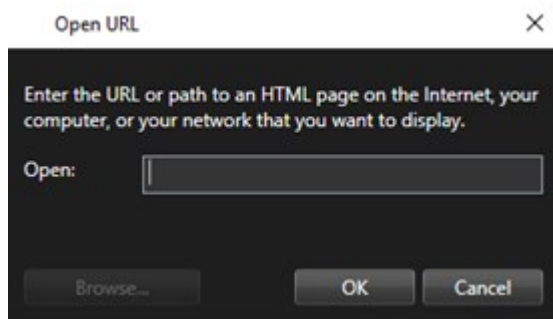
ビューにウェブページを追加する

ビューに、カメラからのビデオや他のコンテンツに加えて、オンラインインストラクションや企業のウェブページなどのウェブページを埋め込むことができます。

サポートされている形式はHTML、PHP、ASPです。



1. ビューを選択します。
2. ワークスペースツールバーで、**セットアップ**を選択します。
3. **[システム概要]** ペインで **[HTMLページ]** アイテムを選択し、ビューアイテムのいずれかにドラッグします。



4. WebページのWebアドレスを入力します。

5. **[プロパティ]** ペインを展開し、ウェブページの**プロパティ**を検証し、必要に応じて変更します。[268 ページのWebページのプロパティ](#)をご参照ください。
6. もう一度**[設定]**を選択して設定モードを終了し、変更を保存します。

Webページのプロパティ

プロパティ	説明
表示モード：標準	HTTPまたはHTTPSを使用しているウェブサーバーにあるウェブページのMicrosoft Edgeを使用します。
表示モード：互換モード	次のウェブページにはInternet Explorerを使用してください： - ローカルな場所にあるもの（コンピューター、ネットワーク、またはFTPサーバー） - HTTPとHTTPS以外のネットワーク プロトコルを使用しているもの - インタラクティブになるよう意図されたスクリプトが含まれているXProtect Smart Client - HTMLの古いバージョンを使用している
スケーリング	Webページのスケーリングを選択します。  このオプションは表示モードが[互換性]に設定されている場合にのみ使用できます。
ツールバーを隠す	ナビゲーションツールバー  を非表示にするために選択します。

トラブルシューティング：ビューにウェブページを追加する

これらのシナリオは、ウェブページをビューアイテムに追加したときに発生する可能性があります。

Webページをビューに追加すると、スクリプト エラーが発生します

そのWebページは、Webページの表示で使用されるブラウザーにサポートされていないスクリプト使っています。ウェブページの**プロパティ**で**[表示モード]**を変更すると、この問題が解決する場合があります。

Webページが含まれているビューを読み込むと、スクリプト エラーが発生します

そのWebページは、Webページの表示で使用するブラウザーにサポートされていないスクリプト使っています。ウェブページのプロパティで[表示モード]を変更すると、この問題が解決する場合があります。

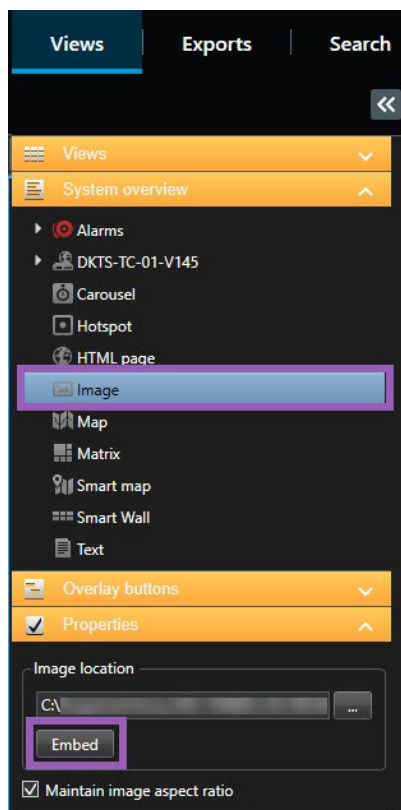
スクリプトを使用して、ナビゲーションボタンやクリック可能な画像をHTMLページに追加しましたが、HTMLページが思い通りに機能しません。以下を検討してください。

- [表示モード]は[互換性]に設定されていますか？スクリプトをサポートできるのは、[互換性]だけです。
- HTMLコードで正しい構文を使用しましたか？
- HTMLスクリプトがXProtectManagementClientまたは**Client.exe.config**ファイルで有効になっていますか？
- 対象となるオーディエンスは、特定のカメラ、ビュー、機能、またはXProtect Smart Client内のタブにアクセスするためのユーザー権限を持っていますか？

ビューに画像を追加する

不審人物のスナップショットや非常口が記載されたマップなど、静止画像をビューに追加することができます。

1. ビューを選択します。
2. ワークスペースツールバーで、**セットアップ**を選択します。
3. **システム概要**ペインで、**画像**アイテムをビューアイテムにドラッグします。



4. 関連する画像ファイルを見つけ選択します。
5. **[プロパティ]** ペインで、**[埋め込む]** を選択します。これでファイルはシステム内に保存されます。
6. もう一度 **[設定]** を選択して設定モードを終了し、変更を保存します。

ビューにテキストを追加する

ビュー内のビューアイテムにテキストコンテンツを追加することができます。たとえば、メッセージまたは運用手順をオペレータに送信したり、セキュリティ担当者の作業スケジュールを投稿することもできます。文字数の制限は1,000字です。

1. ビューを選択します。
2. ワークスペースツールバーで、**セットアップ**を選択します。
3. **[システム概要]** ペインで関連するビューアイテムのテキストを表示したい場所まで **[テキスト]** エlementをドラッグし、テキストを入力します。
4. もう一度 **[設定]** を選択して設定モードを終了し、変更を保存します。

ビューを保存した後にテキストを変更する場合は、もう一度**[セットアップ]**を選択し、**[プロパティ]**にある**[テキストの編集]**を選択します。



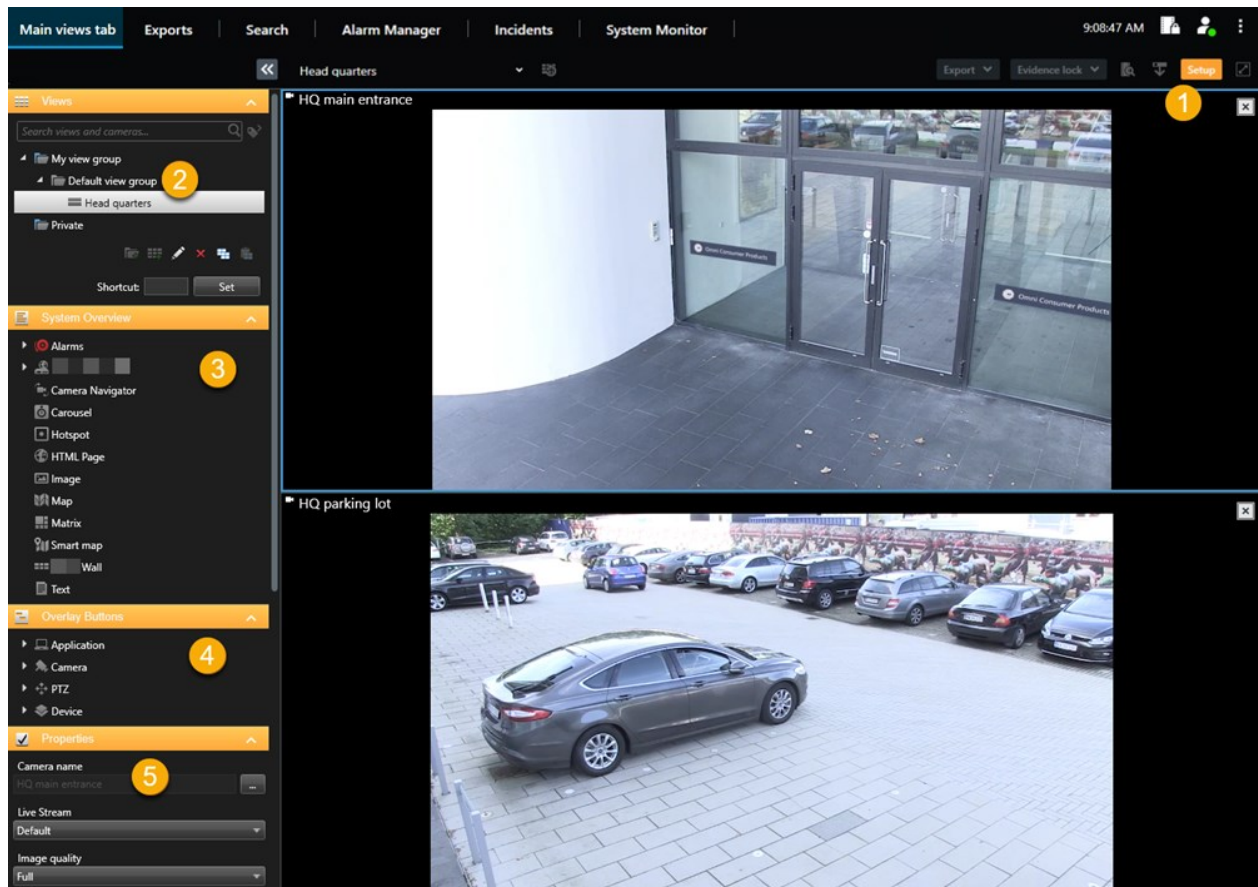
Microsoft WordやMicrosoft Excelなどの製品から表を挿入することはできますが、表に変更を加えることはできません。

すべてのユーザーの機能を設定する

セットアップモード

セットアップモード

セットアップモードでは、デバイスと他のタイプのコンテンツ向けにビューを作成できます。また、オーバーレイボタンを追加し、カメラや他のタイプのデバイスのプロパティを設定できます。



番号	名前	説明
1	設定	セットアップモードに入ると、ユーザー インターフェイスの一部がハイライトされます。

番号	名前	説明
2	ビュー	ビューと、ビューのグループを作成します。 251 ページのビューの作成 をご参照ください。
3	システム概要	カメラと他のタイプのデバイスおよびコンテンツをビューに追加します。 252 ページのコンテンツをビューに追加 をご参照ください。
4	オーバーレイボタン	補助コマンドを起動するため、オーバーレイ ボタンをカメラに追加します。 257 ページのオーバーレイボタン をご参照ください。
5	プロパティ	カメラのプロパティを設定します。 264 ページのカメラ設定（プロパティペイン） をご参照ください。

アダプティブストリーミングの有効化

アダプティブストリーミングの利点と要件

アダプティブストリーミングはXProtect Smart Clientを実行しているコンピュータのデコーディング能力とパフォーマンスを向上させます。これは同じビューで複数のライブビデオストリーミングを視聴する場合に便利です。

アダプティブストリーミングを活用するには、カメラに解像度の異なる複数のストリームを設定する必要があります。これでXProtect Smart Clientにより、表示アイテムによって要求された解像度に最も近い解像度が自動的に選択されます。その結果、XProtect Smart Clientによって不必要に解像度が高いデフォルトのストリームをスケールダウンする必要がなくなります。これによりCPUとGPUのデコードリソースへの負荷が軽減し、ネットワークの負荷が軽減されます。

ビデオの画質を維持するため、最も近い解像度は（可能であれば）ビューアイテムによって要求された解像度と同じかそれ以上のものと定義されます。これはストリームのアップスケーリングを避けるためです。下記の表には、XProtect Smart Clientからの表示アイテムの要求にもとづいて、アダプティブストリーミングにおいてどのビデオストリームが選択されるのかが示されています。

表示アイテムによって要求される解像度	利用可能なビデオストリームの中で最も近いもの	
636 x 477	ビデオストリーム1	640 x 480 (VGA)
644 x 483	ビデオストリーム2	1280 x 720 (WXGA-H)
1920 x 1080	ビデオストリーム3	1920 x 1080 (FHD)
1920 x 1440	ビデオストリーム4	3840 x 2160 (4K UHD-1)



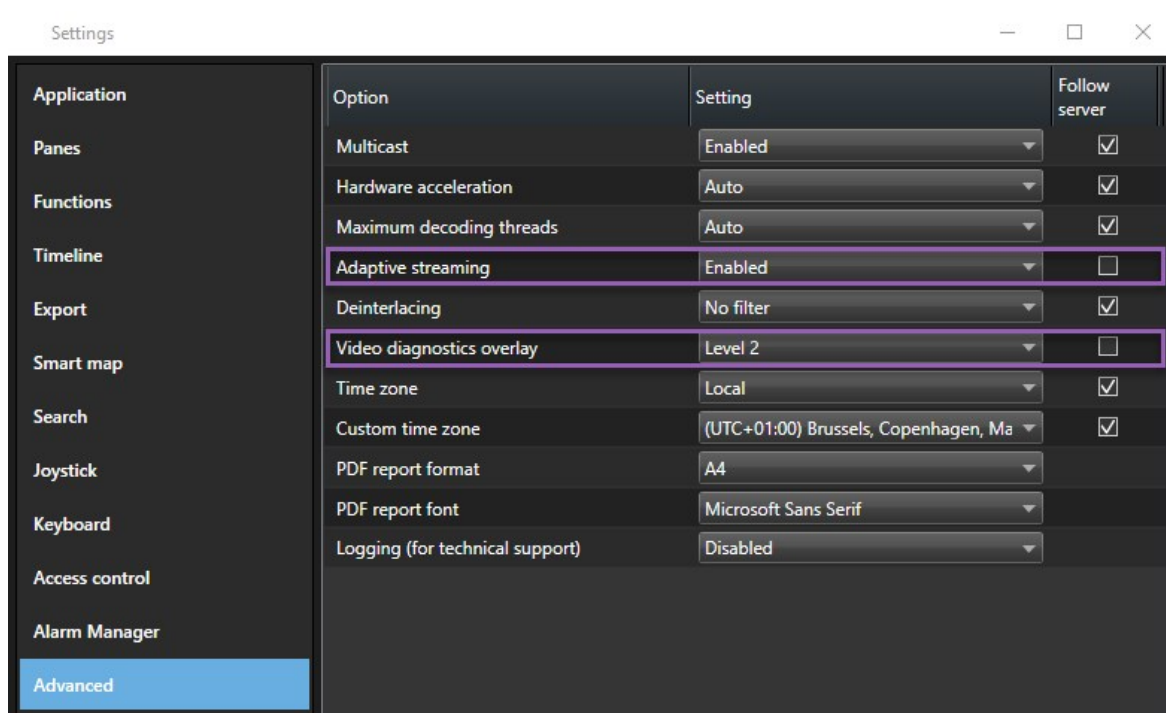
ズーム中は、常に最高解像度のライブビデオストリームが要求されます。

帯域幅の使用はたいいてい、要求したストリームの解像度が下げられるのに併せて減少します。帯域幅の使用は、定義したストリーム構成の他の設定にも依存します。

アダプティブストリーミングを有効にする

アダプティブストリーミングを有効にして、XProtect Smart Clientを実行しているコンピューターのパフォーマンスを向上させます。

1. [設定とその他]のメニューから、[設定]を選択します。
2. [詳細設定] タブで、[アダプティブストリーミング]を選択します。
3. アダプティブストリーミングには2つの設定があります。**無効**と**有効**です。
有効を選択します。



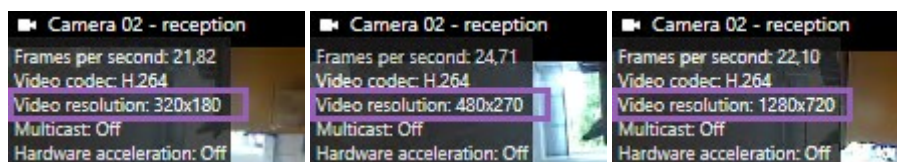
4. **ビデオ診断オーバーレイ**に進みます。
5. ストリームの現在のビデオ解像度を可視化するには、**レベル2**を選択します。



この設定はすべての表示アイテムに適用されます。**非表示**がデフォルトの設定です。

6. これでビデオ診断オーバーレイが**有効**になるはずです。

ビューウィンドウのサイズを小から大に、そして大から小に変更して、**ビデオ解像度**の値が変化するか確認します。



値が変化しない場合は、可能であれば、アダプティブストリーミングを有効にできるよう、カメラで利用可能なライブビデオストリームの監視を続行します。

利用可能なビデオストリームの確認

アダプティブストリーミングを活用するためには、カメラ設定で解像度の異なる2つ以上のストリームを設定する必要があります。



アダプティブストリーミングでサポートされている唯一のビデオ解像度形式は、**width x height**です。720p、mode2、VGAといったカメラからのビデオ解像度形式はサポートされていません。

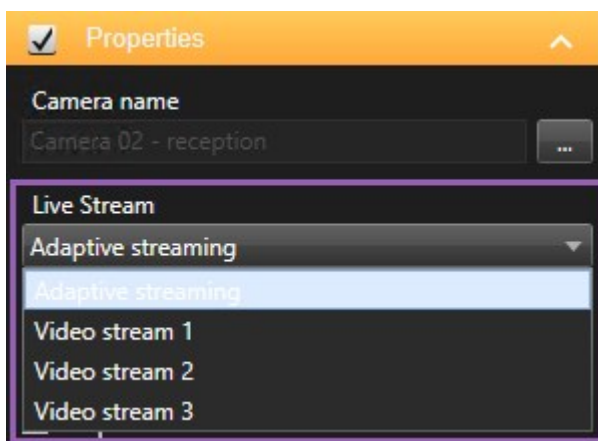


すべてのカメラがマルチストリーミングに対応しているわけではありません。

マルチストリーミングにより、サーバーでデバイスごとに複数のストリームを設定できます。複数のストリームが設定されてアダプティブストリーミングが有効になれば、**アダプティブストリーミング**または利用可能な他のストリームのいずれかひとつを選択できます。

ビューで**アダプティブストリーミング**が設定されていることを確認するには：

1. **設定**をクリックしてビューを設定します。
2. **プロパティ**で**ライブストリーム**ドロップダウンリストをクリックすると、利用可能なライブビデオストリームのリストが表示されます。
3. 2つ以上のライブビデオストリームが利用できるかどうか確認してから、**アダプティブストリーミング**を選択します。

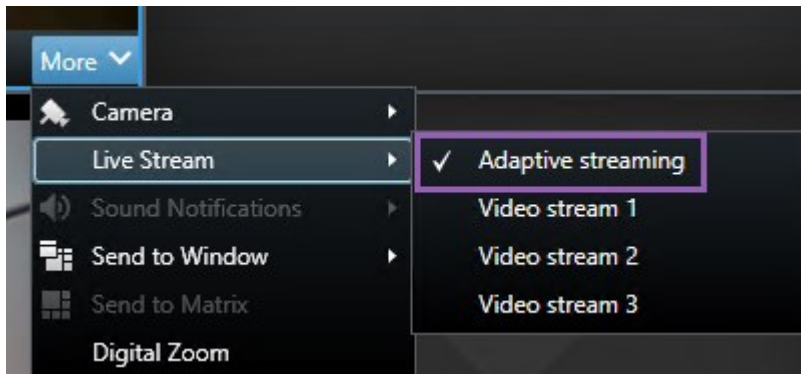


1つのライブビデオストリームしか利用できない場合は、XProtect Management Clientでカメラにライブビデオストリームを追加します。

4. **設定**をクリックしてビュー設定を閉じます。

ライブ表示アイテムで**アダプティブストリーミング**が選択されていることを確認するには：

1. **詳細**ドロップダウンリストをクリックします。
2. **ライブストリーム**を選択すると、利用可能なライブビデオストリームのリストが表示されます。
3. 2つ以上のライブビデオストリームが利用できるかどうか確認してから、**アダプティブストリーミング**を選択します。



ハードウェアアクセラレーションの有効化

ハードウェアアクセラレーションの利点と要件

ハードウェアアクセラレーションはXProtect Smart Clientを使用しているコンピュータのデコーディングの能力、およびパフォーマンスを向上させます。主に、高フレームレートおよび高解像度のビデオストリームを、複数閲覧する場合に便利です。



XProtect Smart Clientは、Intel®およびNVIDIA® GPUを使用したハードウェア アクセラレーションによるデコーディングに対応しています。Milestoneは、NVIDIAディスプレイアダプタのスケラブルリンクインターフェイス（SLI）構成の使用を推奨していません。

ハードウェアアクセラレーションは、オペレーティングシステムMicrosoft® Windows® 10（ビルド1809）、Windows® Server 2016、またはそれ以降のバージョンでのみ使用できます。

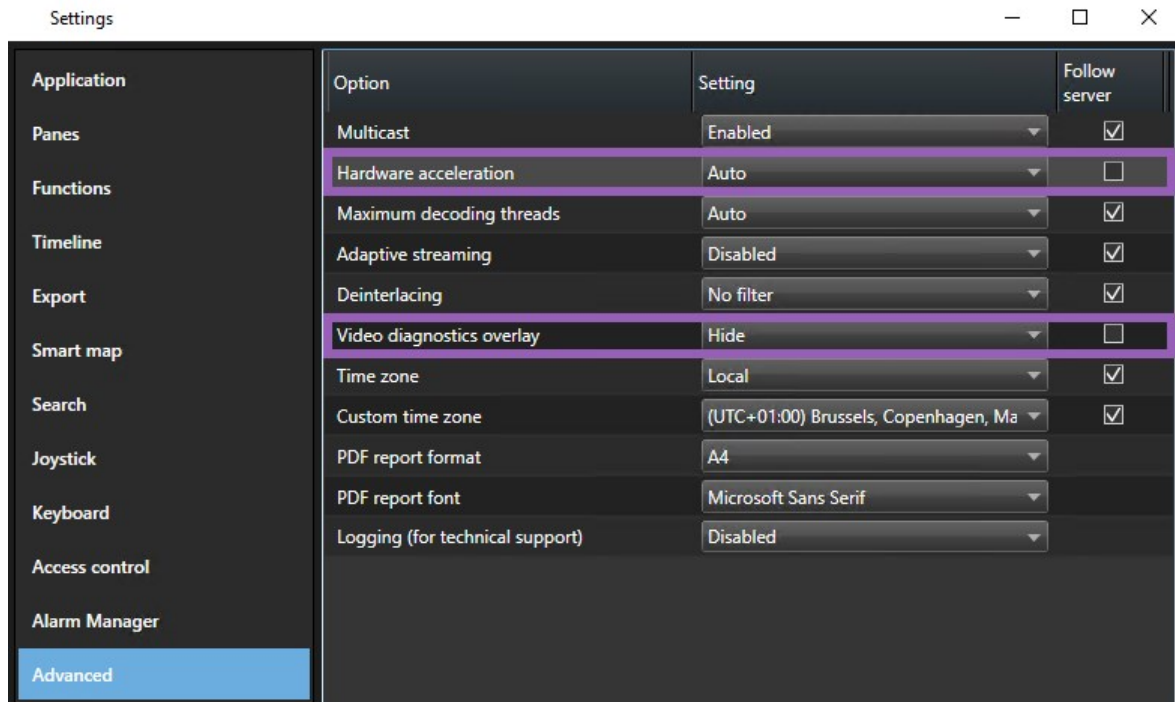


非仮想環境のみがサポートされています。

ハードウェアアクセラレーション設定をチェックします

1. [設定]>[詳細]>[ハードウェアアクセラレーション] の順に移動します。
2. ハードウェアアクセラレーション用に2つの設定があります：**自動**および**オフ**。

デフォルトの設定**自動**を選択します。

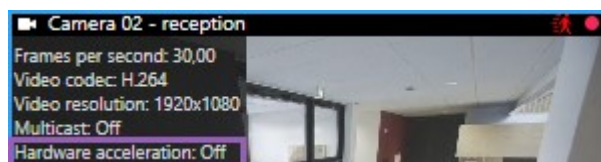


3. ビデオ診断オーバーレイに進みます。
4. ハードウェアアクセラレーションに使われたGPUリソースを含む、ストリームの現状を閲覧するには、**レベル2**を選択します。



この設定はすべての表示アイテムに適用されます。**非表示**がデフォルトの設定です。

ハードウェアアクセラレーションのための、ビデオ診断オーバーレイステイタスは以下のいずれかです：**Intel**、**NVIDIA**または**Off**。



ステータスが**【オフ】**の場合は、可能であればハードウェアアクセラレーションを有効にできるようコンピュータの調整し、すべてのハードウェアアクセラレーションリソースが活用されていることを確認してく

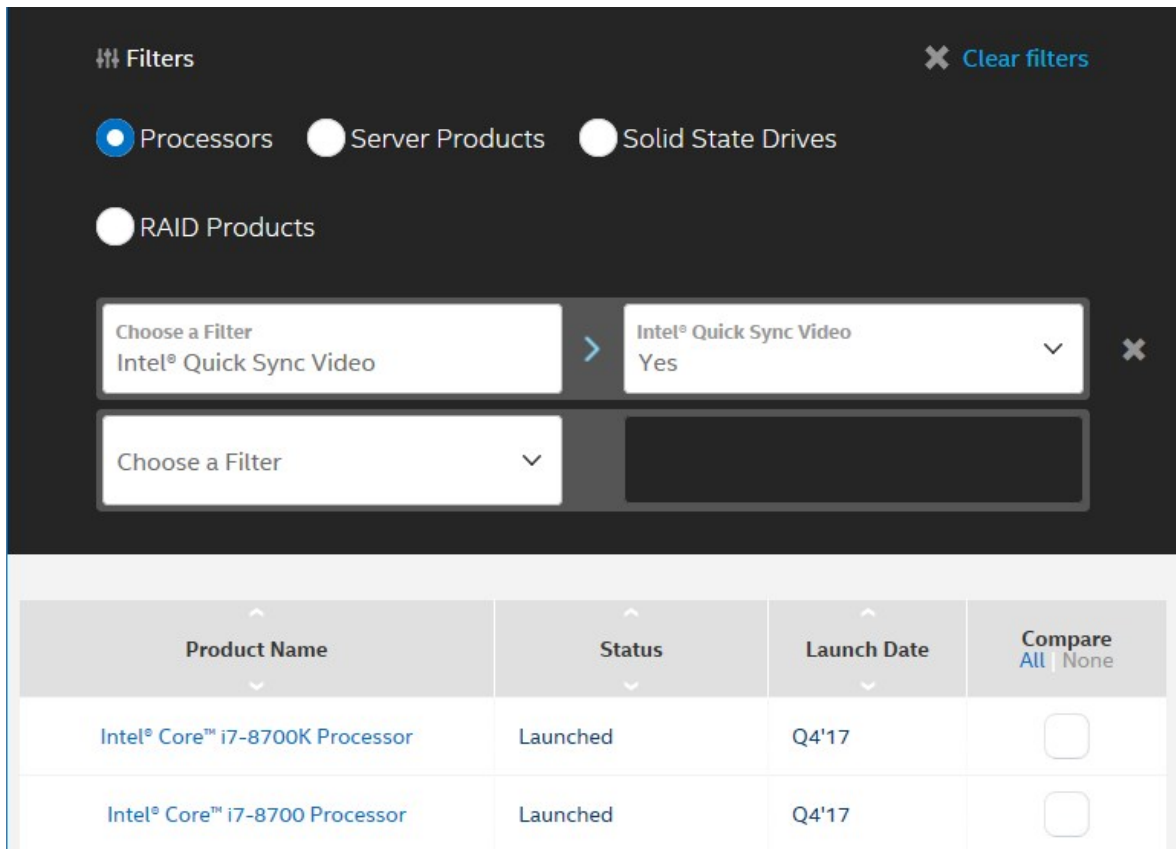
ださい。

5. [システムモニター] を使用して、現在のXProtect Smart Clientデコーディングパフォーマンスを確認します。249 ページのクライアントリソースのモニターをご参照ください。

CPU Quick Syncのサポート確認

プロセッサがIntel Quick Sync Videoをサポートしているか確認するために：

1. IntelのWebサイト
(https://ark.intel.com/content/www/us/en/ark/search/featurefilter.html?productType=873&0_QuickSyncVideo=True)にアクセスします。
2. メニューで、**プロセッサ**そして**Intel Quick Sync Video**フィルターが**はい**に設定します。
3. CPUをリストで見つけます。

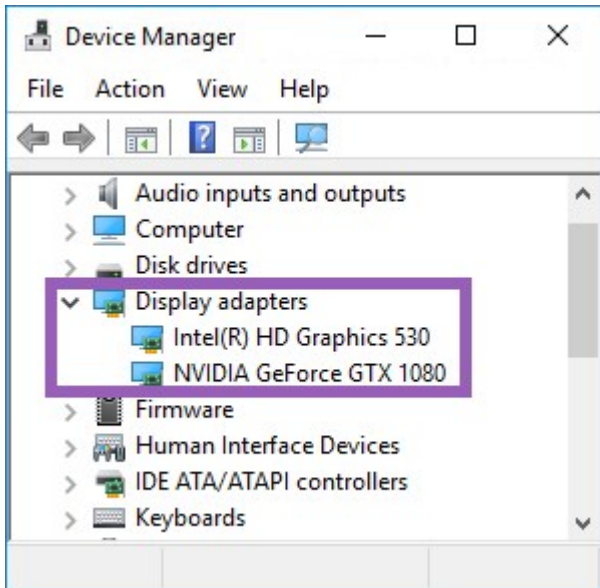


The screenshot shows the Intel Ark website's filter interface. Under the 'Processors' category, the 'Intel Quick Sync Video' filter is set to 'Yes'. Below the filters, a table lists processors with their status and launch dates.

Product Name	Status	Launch Date	Compare All None
Intel® Core™ i7-8700K Processor	Launched	Q4'17	☐
Intel® Core™ i7-8700 Processor	Launched	Q4'17	☐

デバイスマネージャの確認

IntelまたはNVIDIAディスプレイアダプターが、Windowsデバイスマネージャーにて表示されていることを確認してください。



ディスプレイを使用可能な任意のディスプレイアダプタに接続します。コンピュータ上でより強力なディスプレイアダプターが可能な場合、通常NVIDIA あるいは AMD®, のディスプレイをこのアダプターがデコーディングとレンダリングを補助するハードウェアに関連づけされている全てのGPUリソースへアクセスできるようにしてください。



すべてのNVIDIAディスプレイがハードウェアアクセラレーションをサポートしているわけではありません。279 ページのNVIDIAハードウェアアクセラレーションを確認します。をご参照ください。

Intelディスプレイアダプターが存在しない場合、BIOSでIntelディスプレイアダプターを有効にします。280 ページのBIOSでIntel ディスプレイ アダプタを有効にするをご参照ください。

NVIDIAハードウェアアクセラレーションを確認します。

NVIDIA 製品の演算能力は、さまざまです。



NVIDIA GPUを使用するハードウェア アクセラレーションによるデコーディングでは、バージョン 6.x (Pascal) 以降が必要です。

お使いのNVIDIA製品の演算能力は、NVIDIAのウェブサイト (<https://developer.nvidia.com/cuda-gpus/>) で確認できます。

BIOSでIntel ディスプレイ アダプタを有効にする

例えば、NVIDIAまたはAMDなど、ご使用のコンピュータに別のディスプレイアダプタカードが搭載されている場合は、ボード上のIntelディスプレイアダプタが無効になっていることがあり、その場合は有効にする必要があります。

Intelディスプレイアダプタは、CPUの一部としてマザーボード上に配置されています。有効化するためには、コンピュータのBIOSで、グラフィックス、CPUまたはディスプレイの設定をご覧ください。関連設定を見つけるには、ベンダーのマザーボードマニュアルが役立つこともあります。



設定を変更してもボード上のIntelディスプレイアダプタが有効化されない場合は、ディスプレイアダプタカードを別のスロットに移動し、マザーボードへのディスプレイの接続をお試しください。これによってボード上のディスプレイアダプタが有効になる場合があります。

ビデオドライバを更新します

お使いのすべてのディスプレイアダプタのためのドライバのバージョンがIntel、あるいはNVIDIAが提供している最新のバージョンに更新されていることを確認してください。



PCベンダーの提供するドライババージョンが古く、Intel Quick Sync Videoをサポートしていない可能性があります。

ドライバの更新方法は次の2つです。手動でダウンロードしてインストールするか、ドライバアップデートユーティリティを使用します。

Intel

手動でのダウンロードとインストール：

1. Intelダウンロードウェブサイト (<https://downloadcenter.intel.com/>) にアクセスします。
2. 一体型のディスプレイアダプタの名前を入力します。
3. ドライバを手動でダウンロードし、インストールします。

Intelコンポーネントおよびドライバの自動検出と更新：

1. インテルドライバーおよびサポートアシスタント (https://www.intel.com/p/en_us/support/detect/) をダウンロードします。
2. ドライバのための自動サーチに対し、アシスタントを実行します。
3. グラフィックスのドライバの更新を選択します。

NVIDIA

オプション1：NVIDIA製品のためのドライバを手動で見つけます。

1. NVIDIAダウンロードドライバーWebサイト (<https://www.nvidia.com/Download/index.aspx/>) にアクセスします。
2. お使いの製品の名前、およびオペレーティングシステムを入力します。
3. ドライバを手動でダウンロードし、インストールします。

オプション2：NVIDIA製品のためのドライバを自動で見つけます。

1. NVIDIAダウンロードドライバーWebサイト (<https://www.nvidia.com/Download/index.aspx/>) にアクセスします。
2. **グラフィックドライバー**を選択します。
3. お使いのシステムがスキャンされます。
4. ドライバをダウンロードおよびアップデートします。

モジュール設定の確認

システムでサポートしているのが、1つのメモリチャネルである場合は、最低2つのチャネルでメモリモジュールが正しいDIMMスロットに挿入されていることを確認することで、システムパフォーマンスを上げることができる場合があります。正しいDIMMスロットを見つけるにはマザーボードのマニュアルを参照してください。

例：

メモリチャネルがつあるシステムで、メモリの合計量が8GBあるときは、2 x 4GBのメモリモジュール構成を使用し、ときに最高のパフォーマンスを得ることができます。

カメラビューを新規フローティングウィンドウに送る。

アラームとイベントを構成

アラームおよびアラーム設定

アラームをビューに追加する

以下のアイテムをビューに追加すると、優先されるアラームのリストを共有して、オペレータがアラーム関連のインシデントに焦点を当てて対応できるようにすることが可能です。通常、以下の両方を同じビューに追加します。

- **アラームリスト**には、アラームの優先リストが表示され、複数のフィルタリングオプションが含まれています。
- **アラームプレビュー**では、**アラームリスト**で選択されているアラームのビデオをプレビューできます。



以下の手順を行うには、2つ以上のビューアイテムでビューレイアウトが必要です。

手順：

1. ビューペインで、**アラームリスト**と**アラームプレビュー**を追加したいビューを選択します。
2. ワークスペースツールバーで、**セットアップ**を選択します。
3. **システム概要**ペインで**アラーム**を展開し、**アラームリスト**を表示アイテムまでドラッグします。
4. **アラームプレビュー**を異なる表示アイテムにドラッグします。
5. もう一度**設定**を選択して設定モードを終了し、変更を保存します。

アラームリストの設定

設定モードで、ナビゲーションツリーでアラームまたはイベントをサーバー別にグループ化して表示するかどうか、また同時にいくつかのアラームやイベントをリストで表示するかを選択できます。ここで、アラームリストにアラームやイベントを表示するかどうかを指定することもできます。

名前	説明
ナビゲーションツリーを表示	選択すると、アラームリストの左側にナビゲーションツリーを表示します。ナビゲーションツリーでは、異なる状態のアラームでサーバーとフィルター別にグループ化されたアラームまたはイベントを表示できます。
フェッチする最大行数	取得してアラームリストに表示する最大行数を制御します。デフォルトで、アラームリストには一度に最高100のアラームまたはイベントが表示されます。これにより反応時間が向上します。より多数のアラームまたはイベントの取得と表示には時間がかかるためです。アラームまたはイベントが100以上ある場合は、以下のボタンをクリックすると次の100件のアラームを表示して取得できます。 1-100 > このフィールドでは、最大行数を設定できます（1～999）。
データソース	アラームリストで、アラームやイベントのリストを表示するかどうかを選択します。 イベントリストには、モーション検知やアーカイブ障害などのシステムやユーザーが生成するイベントは表示されません。

アラームプレビューの設定

アラームまたはビデオに関連付けられたビデオがある場合は、**アラームリスト**で特定のアラームを選択すると、選択されたアラームまたはイベントの録画済みビデオがアラームプレビューに表示されます。アラームに複数のカメラが関連付けられている場合、あるいは複数のアラームを選択した場合、複数のプレビューが表示されます。アラームに関連付けられているビデオがない場合は、アラームプレビューは灰色で表示されます。アラームプレビューのプロパティは、設定モードで変更できます。

名前	説明
同じカメラを表示	選択すると、アラームプレビューに同じカメラを複数回表示します。アラームプレビューは、アラームリストで選択されているものを反映します。複数のアラームまたはイベントを選択することが可能であるため、選択したアラームまたはイベントが同じカメラに関連付けられている場合は、同じカメラからのビデオがアラームプレビューに何回も表示されることがあります。
イベントソースカメラを表示	選択すると、監視システムサーバーでアラームまたはイベントが設定されたカメラからのビデオ（ある場合）を表示します。  このフィールドをクリアすることは、お勧めいたしません。
関連するカメラを表示	選択すると、アラームプレビューに関連するカメラからのビデオを表示します。1つのアラームまたはイベントにつき最大16台の関連カメラからの関連ビデオを表示することが可能です。XProtect Smart Clientでは、関連するカメラの数を指定できません。数はアラームによって異なり、監視システム設定の一部として指定されます。
オーバーレイを表示	移動しているオブジェクトの経路を追跡する線などのオーバーレイ情報を表示できるプラグインとアラームプレビューを使用している場合のみ該当します。これは、XProtect Smart Clientのデフォルト機能ではありません。

ブックマークを構成

詳細なブックマーク



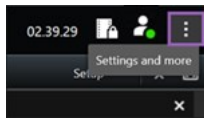
この機能は、特定のXProtect VMSシステムでのみ使用できます。詳細については、製品比較チャートを参照してください。

<https://www.milestonesys.com/products/software/xprotect-comparison/>

詳細なブックマークを有効にする

ブックマークを効率的に管理および検索するために、ブックマークに名前と説明を付けたり、ブックマークのデフォルトの期間を変更できる設定を有効にすることができます。

1. グローバルツールバーで **[設定とその他]** 、次に **[設定]** を選択します .



2. **機能** タブを選択します。
3. ライブビデオの詳細なブックマークを有効にするには、**ライブモード**で**ブックマーク**機能がある行を見つけ、設定を **[ブックマークの詳細を追加]** に変更します。
4. 録画ビデオの詳細なブックマークを有効にするには、**ライブモード**で**ブックマーク**機能がある行を見つけ、設定を **[ブックマークの詳細を追加]** に変更します。
5. **[閉じる]** をクリックして変更を保存します。

パトロール設定の設定

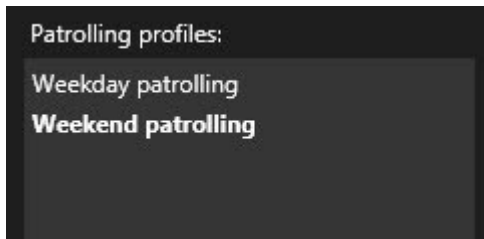
パトロールプロファイル

監視システムによっては、パトロール設定を作成、編集、削除できます。[29 ページの組織の XProtect 製品と拡張機能](#)をご参照ください。

パトロールプロファイルを追加する

パトロールプロファイルを追加した場合は、自分と他のユーザーはPTZメニューで新しいパトロールプロファイルを確認できます。

1. ビューで、該当するPTZカメラを選択し、新しいパトロールプロファイルを追加します。
2. カメラツールバーで、PTZアイコン  をクリックし、PTZメニューを開きます。
3. **パトロールプロファイルの管理**をクリックすると、ダイアログボックスが表示されます。
4. 次の手順に従い、**OK**をクリックして**パトロールプロファイルの管理**ウィンドウを閉じます。
5. **パトロールプロファイル**で  をクリックし、新しいパトロールプロファイルを追加します。
6. プロファイル名を入力し、**Enter**キーを押します。この名前は後からいつでも変更できます。



新しいパトロールプロファイルが**パトロールプロファイル**リストに追加されます。これで、位置とパトロールプロファイルの他の設定を指定できます。

パトロールプロファイルの削除

既存のプロファイルを削除するには、プロファイルを選択し、 をクリックします。

パトロールプロファイルを編集する

パトロールプロファイルで位置を指定する

1. パトロールプロファイルを選択します：

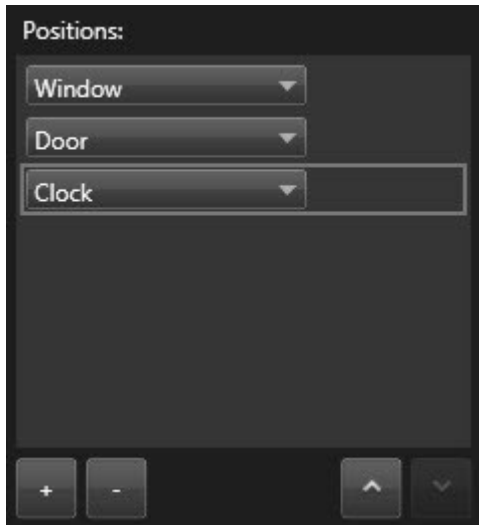


2. **位置**リストの下で  をクリックし、PTZ プリセットを追加します。

PTZプリセットはシステム管理者が定義します。ユーザー権限がある場合は、**[PTZプリセットの管理]**を選択すればPTZプリセットを定義できます。[113ページのPTZカメラのプリセット位置を定義する](#)をご参照ください。

3. リストでPTZプリセットを選択します。

4. パトロールプロファイルですべての必要な位置を選択するまで、プリセットを追加し続けます。



5. 上下矢印を使用して、リスト内でPTZプリセット位置を移動します。

カメラはリストの最上位のPTZプリセット位置を、カメラがパトロールプロファイルに従ってパトロールを行うときの最初の停止位置として使用します。上から2番目の位置のPTZプリセット位置は、2番目の停止位置というようになっています。

各位置での時間の指定

パトロール時に、PTZカメラはパトロールプロファイルで指定された各位置にデフォルトで5秒間とどまります。

秒数を変更するには、以下を実行します。

1. **パトロール設定**リストでパトロール設定を選択します。
2. **位置**リストで時間を変更するPTZプリセット位置を選択します。



3. **位置時間（秒）**フィールドに任意の時間を入力します。
4. 必要に応じて、他のプリセットでも繰り返します。

終了位置の指定

パトロールが終了するときにカメラを特定の位置に移動するように指定できます。この場合は、パトロールプロファイルで終了位置を選択します。

1. **パトロール設定**リストでパトロール設定を選択します。
2. **終了時に移動**で、ドロップダウンリストから終了位置としてプリセットのいずれかを選択します。



任意のカメラのPTZプリセットを終了位置として指定できます。パトロールプロファイルで使用するプリセットに制限はありません。終了位置を指定せず、デフォルトの設定をそのまま使用することもできます。**終了位置がありません。**

地理的概要の作成

スマートマップの作成

スマートマップ機能を利用する前に、XProtect Smart Clientでいくつかの設定タスクを完了する必要があります。スマートマップは、ビューに追加されている場合にのみ表示できます。

[288 ページのスマートマップをビューに追加](#)もご参照ください。詳細については、[124 ページのスマートマップ](#)をご参照ください。

マップとスマートマップの違い

XProtectSmartClientは、監視システムを視覚化し、インシデントに迅速に対応する上で役立つマップ機能を備えています。

- **マップ**：この種類のマップは地理参照を含まない静止画像に基づいています。カメラ、マイク、レコーディングサーバーなどのデバイスを追加できます。マップから監視システムを直接操作できるアラーム、イベント、および入退室管理などの機能も追加できます。デバイスおよび機能の要素をマップ上に手動で配置する必要があります。詳細については、[137 ページのマップ](#)をご参照ください。
- **スマートマップ**：このタイプのマップでは地理情報システムを使用して、実世界の地理を正確に反映します。これらの高度な機能により、複数のロケーションにあるカメラのオーバービューがより正確なものになります。

以下も可能です。

- Bing MapsおよびGoogle Mapsサービスを使用する（XProtect® CorporateおよびXProtect Expertでのみ利用可能）。
- 地理的背景としてMilestone Map Serviceを使用する。
- 地理的背景としてOpenStreetMapマッププロジェクトを使用する。
- コンピュータ支援設計（CAD）図面、シェイプファイル、および画像をオーバーレイとして追加する（CADファイルはXProtect® Corporateおよび XProtect Expertでのみ使用できます。）



マップとスマートマップの間には互換性はありません。マップを使用している場合は、スマートマップとして画像ファイルを使用できますが、再度デバイスを追加する必要があります。デバイス内のマップをスマートマップに転送することはできませんが、スマートマップをマップにリンクすることはできます。詳細については、[308 ページのスマートマップ上のリンクの追加、削除および編集](#)をご参照ください。

スマートマップをビューに追加

デフォルトではベーシックな世界地図が表示されます。スマートマップを追加した場合、地理的背景を変更できます。

スマートマップを追加するには、それをビューに追加する必要があります。

1. ライブまたは再生モードで、スマートマップに追加したいビューを選択します。
2. ワークスペースツールバーで、**セットアップ**を選択します。
3. **システム概要**ペインを展開し、**スマートマップ**アイテムをビュー内の適切な位置にドラッグします。
4. もう一度**設定**を選択して設定モードを終了し、変更を保存します。

これで地理的な背景を変更できます。

スマートマップの地理的背景を変更する

デフォルトで、スマートマップをビューに追加すると、基本的な世界地図が表示されます。スマートマップをビューに追加すると、さまざまな地理的背景を選択できるようになります。スマートマップを使用している各ユーザーが次回そのビューを開くと、新しい背景が表示されます。

要件

Bing MapsおよびGoogle Mapsの地理的背景はXProtect® CorporateとXProtect Expertでのみ利用できます。システム管理者は、それらをXProtect Management Clientで利用できるようにする必要があります。

背景を変えるには、次のことをする必要があります。

1. スマートマップを含むビューを選択します。
2. ツールバーで、 **レイヤーとカスタムオーバーレイを表示または非表示にする**をクリックします。
3. **地理的背景**で、背景と表示したい詳細情報を選択します。例えば、地形に関する情報を表示したい場合は、**地形**を選択します。道路を表示したい場合は、**道路**を選択します。

地理的背景

スマートマップの地理的背景として以下のサービスを利用できます。

- Bing マップ
- Google マップ
- Milestone Map Service
- OpenStreetMap

地理的背景を選択後、デバイス（カメラなど）とカスタムオーバーレイ（シェープファイルなど）を追加できます。詳細については、[295 ページのカスタムオーバーレイ](#)をご参照ください。

地理的背景の種類

ビューにスマートマップを追加すると、以下の地理的背景のいずれかを使用できます。

- **基本的な世界地図**：XProtect Smart Clientで提供されるデフォルトの地理的背景を使用します。このマップは一般的な参照として使用することを意図しており、国境や都市、その他の詳細などの機能は含まれていません。ただし、他の地理的背景と同様、地理参照データは含まれています。
- **Bing Maps**：Bing Mapsに接続します。
- **Google Maps**：Google Mapsに接続します。



Bing MapsとGoogle Mapsは、XProtect® CorporateおよびXProtect Expertでのみ利用できます。どちらのサービスもインターネットアクセスが必要です。

- **Milestone Map Service** - 無料のマッププロバイダーに接続します。Milestone Map Service を有効にすると、追加の設定は不要です。

[Milestone Map Serviceを有効にする](#)を参照

- **OpenStreetMap** - 次に接続します：
 - 選択したコマーシャルタイルサーバー
 - ユーザー、オンライン、またはローカルのタイルサーバー

[OpenStreetMapタイルサーバーの変更](#)を参照

- **なし** - このオプションを選択すると、地理的背景が非表示になります。地理参照データは残る点に留意してください。[293 ページのスマートマップのレイヤー](#)も参照

デフォルトで、Bing MapsとGoogle Mapsは衛星画像を表示します。画像は、航空画像や地形表示などに変更して、他の情報を表示することもできます。

有効にするMilestone Map Service

Milestone Map Serviceは、Milestone Systemsのタイルサーバーに接続できるオンラインサービスです。このタイルサーバーは無料の市販マップサービスを使用しています。

スマートマップでMilestone Map Serviceを有効にすると、スマートマップは地理的背景としてMilestone Map Serviceを使用します。

要件

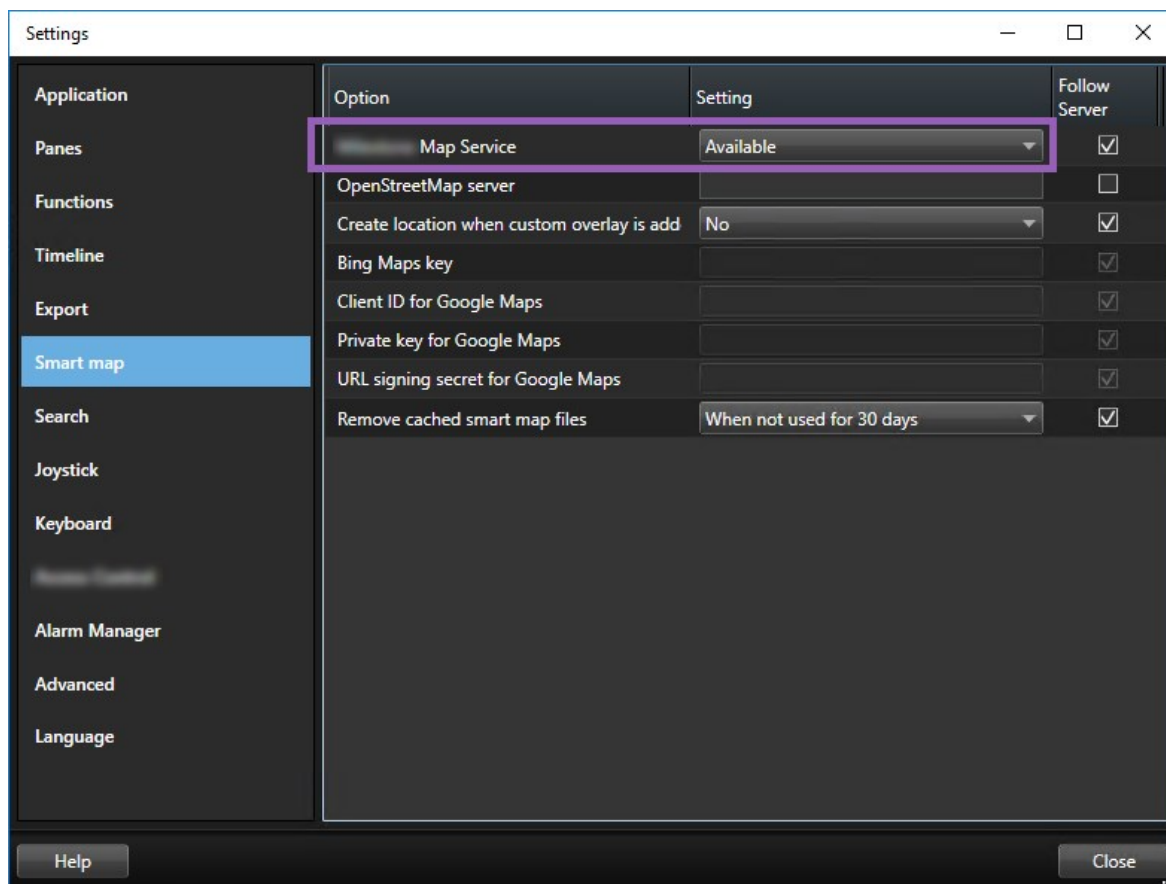
Milestone Map Serviceフィールドがグレーで表示されている場合、このサービスを有効/無効に設定するために必要なユーザー権限が付与されていません。この機能をXProtect Management Clientで有効にしたい場合は、システム管理者に連絡してください。



Milestone Map Serviceではインターネットへのアクセスが必要です。

手順：

1. グローバルツールバーで [設定とその他] 、次に [設定] を選択します .



2. 左側のセクションで**スマートマップ**をクリックします。
3. **Milestone Map Service**フィールドで、**利用可能**を選択します。
4. [閉じる] をクリックします。次回スマートマップを読み込むと、地理的背景としてMilestone Map Serviceが使用されます。

OpenStreetMapタイルサーバー

スマートマップの地理的背景としてOpenStreetMapを使用する場合は、タイルサーバーを指定する必要があります。所属組織に空港や港といった地域の独自の地図がある場合などはローカルタイルサーバーを指定できます。また、コマーシャルタイルサーバーを使用することも可能です。



ローカルタイルサーバーを使用する場合、インターネットアクセスは不要です。

タイルサーバーのアドレスは以下の2つの方法で指定できます。

- XProtect Management Clientでは、タイルサーバーのアドレスをSmart Clientプロファイルで設定します。このサーバーアドレスは、Smart Clientプロファイルに割り当てられているすべてのXProtect Smart Clientユーザーに適用されます
- XProtect Smart Clientでは、タイルサーバーのアドレスを**設定**ダイアログで設定します。サーバーアドレスは、そのインストールにのみ適用されます。

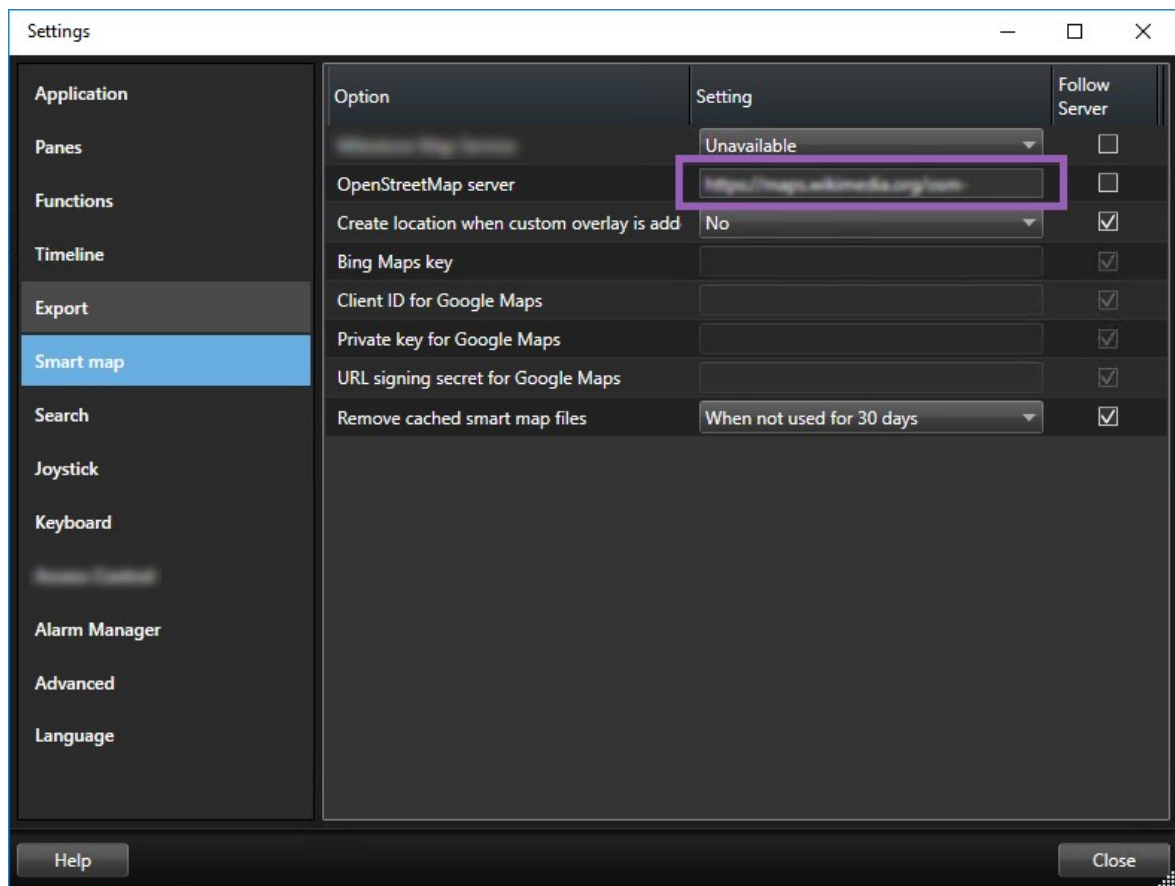
OpenStreetMapタイルサーバーの変更

要件

サーバー側の指定タイルサーバーに編集ロックがかかっている場合、このフィールドはグレー表示となり、サーバーアドレスの変更は不可能になります。この機能をXProtect Management Clientで有効にしたい場合は、システム管理者に連絡してください。

手順：

1. グローバルツールバーで**[設定とその他]** 、次に**[設定]** を選択します。



2. 左側のセクションで**スマートマップ**をクリックします。

3. **OpenStreetMapサーバー**フィールドで以下のいずれかを実行します。
- サーバーアドレスを入力します。フィールドがグレー表示になっている場合は、サーバー側でロックされています
 - サーバー側の指定サーバーを使用するには、**サーバーに従う**チェックボックスを選択します
4. **[閉じる]**をクリックします。次回スマートマップを読み込むと、指定したOpenStreetMapサーバーが使用されます。



サーバーアドレスが指定されていない場合や、サーバーアドレスが無効な場合は、OpenStreetMapを地理的背景として使用することはできません。

スマートマップでレイヤーを表示または非表示する

表示したいものに応じて、スマートマップ上のレイヤーをオン/オフにできます。

スマートマップのレイヤー

スマートマップには複数のレイヤーがあります。各レイヤーには異なる要素が含まれています。

スマートマップレイヤー上の要素は非表示にすることができます。この機能を使用すると、特定のエレメントにフォーカスしたり、スマートマップ上の表示を簡素化したりすることができます。

レイヤー	要素
システム要素	カメラとその他のデバイス。リンクとロケーション。
カスタムオーバーレイ	ビットマップ画像、CAD図面、およびシェープファイル。
地理的背景	基本的な世界地図または以下のサービスのいずれか: • Bing マップ • Google マップ • Milestone Map Service • OpenStreetMap



Bing MapsとGoogle Mapsは、システム管理者がXProtect Management Clientで有効にしている場合に限り、地理的背景として使用できます。詳細については、[288 ページの地理的背景](#)をご参照ください。

レイヤーの順番

それぞれ同じタイプのシステム要素はすべて、同一レイヤーにあります。例えば、カメラはすべて、同じレイヤーにあります。カメラレイヤーを非表示すると、すべてのカメラが非表示になります。上から順に、システムエレメントのレイヤーは、次の順に配列されています：ロケーション、カメラ、リンク、地理的背景。この順番を変更することはできません。

地理的背景は、スマートマップ内で常に一番下のレイヤーに位置しています。異なる地理的背景の間を切り替えることはできますが、一度に1つの地理的背景しか選択することはできません。

カスタムオーバーレイは、個別のレイヤーとして追加され、スマートマップに追加された順に積み重ねられます。順番を変更するには、マップのデフォルト設定を構成します。

例

都市計画では、それぞれの市境を示すシェープファイルと市内の全ての主要道路を含むシェープファイルがあります。この計画では、レイヤーの順番を変更することにより、道路が市境の上に表示されるようにすることができます。こうすることにより、市内のどこにカメラがあるかを把握することができ、また、ズームインして特定のカメラが配置されている番地を表示することができます。

スマートマップ上のレイヤーを表示または非表示にする

地理的背景を含め、スマートマップ上のレイヤーを表示または非表示にすることができます。これは、たとえば、スマートマップ上の特定の要素に焦点を当てたい場合や、スマートマップに表示される内容を簡素化したい場合に便利です。

1. スマートマップを選択します。
2. ツールバーで、 **レイヤーとカスタムオーバーレイを表示または非表示にする**をクリックします。
3. **システム要素とカスタムオーバーレイ**レイヤーを表示または非表示にするには、チェックボックスを選択又は選択解除します。



システムエレメントレイヤーを非表示にすると、レイヤーを再度表示するまですべてのマイクがミュートされます。手動で消音にしたマイクは消音のままになります。

4. **地理的背景**レイヤーを非表示にするには、**なし**を選択します。

地理的背景レイヤーが非表示になっている場合でも、地理参照はスマート マップに適用されます。



地理的背景が非表示の場合であっても、例えば、空間参照が含まれる新しいシェープファイルを追加した場合、その空間参照を用いてファイルがマップ上に配置されます。

スマートマップのデフォルト設定を指定する

ビューにスマートマップを追加して、オーバーレイ、カメラ、リンクが追加された後、カスタムオーバーレイのデフォルト設定を指定できます。カスタムオーバーレイを削除してクリーンアップすることもできます。

手順：

1. **設定**をクリックします。
2.  **デフォルト設定の管理**をクリックします。
3. 以下のいずれかを実行します。
 - オーバーレイを表示または非表示にするには、チェックボックスを選択または選択解除します
 - 並べ替えを行うには、オーバーレイ前部のドラッグハンドルを使い、オーバーレイをリスト内の新しい位置にドラッグします。レイヤーはリスト内で上から順に並べられます。
 - オーバーレイを削除するには、ポインターをカスタムオーバーレイ上に移動し、**削除**をクリックします。
4. **[保存]**をクリックします。

カスタムオーバーレイの追加、削除および編集

カスタムオーバーレイ

XProtect Smart Clientではスマートマップ上のカスタムオーバーレイとして、次の種類のファイルを追加することができます。

- **シェープファイル** - 点、線、多角形などの地理空間ベクトルデータ、および壁、道路などマップ上のオブジェクトを表す属性、または川や湖などの地理的特徴を含むことができます。例えば、ズームイン時とズームアウト時に拡大縮小がしやすく、CAD図面またはビットマップ画像よりもファイルのサイズが小さいので、都市計画事務所や管理事務所などは、よくシェープファイルを利用します。
- **CAD** - コンピュータ支援設計（CAD）図面は、シェープファイルのように、座標系や空間参照を使って正確な地理コンテキストを提供することができるので、スマートマップのオーバーレイとして便利です。例えば、あるロケーションの詳細な航空地図または道路地図を使うことができます。
- **画像** - 建物の間取り図などの画像ファイルがある場合、スマートマップ上のオーバーレイとして追加することができます。次のタイプの画像ファイルを使用できます：PNG、BMP、GIF、JPG、JPEG、PHG、TIF、TIFF



カスタムオーバーレイを見やすくするために、他のタイプのレイヤーを一時的に非表示にすることができます。[293 ページのスマートマップのレイヤー](#)をご参照ください。

カスタムオーバーレイおよびロケーション

[131 ページのスマートマップ上でカスタムオーバーレイへ移動する](#)で説明されているように、スマートマップにすでに追加したカスタムオーバーレイへすばやくジャンプできます。ただし、カスタムオーバーレイとロケーションの接続は、設定で確立できます。つまり新しいカスタムオーバーレイを追加した場合はいつでも、XProtect Smart Client はマップ上の全く同じスポットにあるオーバーレイと同じ名前のロケーションを作成します。これで、カスタムオーバーレイのロケーションが、**ロケーションを選択**リストで使用可能になります。



オーバーレイとロケーションは、リンクしていません。例えば、オーバーレイを変更せずに、ロケーションの名前を変更したり削除することができ、またその逆もできます。



この機能を有効にするには、[297 ページのカスタムオーバーレイへロケーションを追加する \(スマートマップ\)](#) を参照してください。

スマートマップにカスタムオーバーレイを追加する

カスタムオーバーレイを追加することにより、スマートマップの詳細レベルを上げます。カスタムオーバーレイを追加すると、XProtect Smart Client は、そのオーバーレイと同じ名前のロケーションを作成します。

手順：

1. スマートマップを含むビューを選択し、**[設定]** をクリックします。

2.  **カスタムオーバーレイを追加** をクリックします。

- 追加するオーバーレイが地理参照されている場合、スマートマップの任意のロケーションをクリックします。XProtectSmartClientは、地理参照情報を使って、オーバーレイを正しい地理的位置に配置します。さらに、スマートマップは、デフォルトのズームレベルでオーバーレイを中心に位置させます。
- 追加するオーバーレイが地理参照されていない場合、地図上の要素を追加したい位置に移動し、スマートマップ上の点をクリックします。



オーバーレイを追加する前に、マップ上の希望するロケーションにズームインしておくことをお勧めします。そうすることにより、オーバーレイを正確に位置させやすくなります。

3. オーバーレイの名前を入力します。

4. 選択したファイルの種類に応じて：

- **画像** - 画像ファイルを選択し、**OK** をクリックします。
- **シェープファイル** - SHPファイルを選択します。PRJファイルがある場合は、**OK** をクリックするだけで、XProtectSmartClientは画像ファイルを見つけることができます。PRJがない場合、追加後に、手動でオーバーレイの位置を変更することができます。塗りつぶしや色付きの線を適用することもできます。色を追加することにより、スマートマップ上のシェープファイルをより目立たせることができます。
- **CAD** - DWGファイルを選択します。PRJがある場合、**OK** をクリックします。PRJファイルがない場合で、地理参照を使ってスマートマップ上にファイルを位置させたい場合、空間参照系識別子（SRID）を入力し、**OK** をクリックします。PRJファイルまたはSRIDがない場合、追加後に、手動でオーバーレイの位置を変更することができます。



オーバーレイの種類の詳細については、[295 ページのカスタムオーバーレイ](#)を参照してください。

カスタムオーバーレイへロケーションを追加する（スマートマップ）

場所が自動的にスマートマップのカスタムオーバーレイに追加されるようXProtect Smart Clientを構成できます。これにより、**ロケーションを選択** リストからカスタムオーバーレイに移動できるようになります。

手順：

1. グローバルツールバーで **[設定とその他]** 、次に **[設定]** を選択します .
2. **スマートマップ** タブへ移動します。
3. **カスタムオーバーレイ追加時にロケーションを作成** リストで、**はい** を選択します。
4. ダイアログを閉じると変更が保存されます。



詳細については、[296 ページのカスタムオーバーレイおよびロケーション](#)をご参照ください。

スマートマップ上のカスタムオーバーレイを削除する

1. スマートマップを含むビューを選択し、**[設定]** をクリックします。
2. ツールバーで、 **デフォルトの設定を管理する** をクリックします。
3. ポインターをカスタムオーバーレイ上に移動し、**削除** をクリックします。
4. **保存** をクリックすると、カスタムオーバーレイが削除されます。
5. オプション：カスタムオーバーレイ用のロケーションが作成されていた場合、これも削除してください。詳細については、[309 ページのスマートマップ上のロケーションの追加、削除および編集](#)をご参照ください。

シェープファイル上のエリアをより見やすくする（スマートマップ）

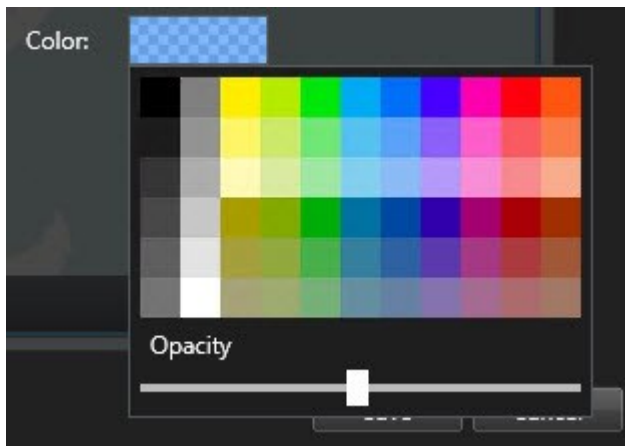


このトピックは多角形とシェープファイルを使用する場合のみ該当します。

スマートマップで近接した多角形から構成されるシェープファイルを使用したい場合は、お互いの多角形を個々に識別しなければならない場合があります。これを行うには、シェープファイルに対して選んだ色の不透明度を減少させます。多角形の枠線が目立つようになります。

手順：

1. [296 ページのスマートマップにカスタムオーバーレイを追加する](#)で説明されている手順に従います。
2. 色を選択する際には、希望の透明度になるまで**不透明度**スライダーを左にドラッグします。



3. **[保存]** をクリックします。

カスタムオーバーレイの位置、サイズ、または配置の調整をする

オーバーレイは、マップ上の別の位置に移動したり、拡大または縮小、回転させることができます。例えば、オーバーレイが地理参照されていない場合や、オーバーレイが地理参照されているのに何らかの理由で地理的背景ときれいに揃わない場合に便利です。

手順：

1. スマートマップを含むビューを選択し、**[設定]** をクリックします。
2. オーバーレイを右クリックし、**位置を編集**を選択します。
3. オーバーレイをサイズ変更または回転するには：
 - 次に角のハンドルをクリックしてドラッグします。
 - オーバーレイを特定のポイント周辺で回転するには、ピボットポイントをマップ上で動かします。次に角のハンドルをクリックしてドラッグします。



4. マップ上のオーバーレイを移動させる場合、オーバーレイをクリックしてドラッグします。
5. 変更を保存するには、**保存**をクリックします。

スマートマップ上のデバイスの追加、削除、編集

デバイスの実際の位置を、スマートマップに追加することができます。カメラを追加することにより、監視システムの概要を把握でき、異常事態への対応も早めることができます。例えば、発生中の事件について容疑者を追跡したい場合、マップ上のカメラをクリックして映像を確認することができます。

スマートマップにカメラを追加した後は、カメラアイコンの視界を調整することにより、実際のカメラの視界を反映させることができます。こうすることにより、特定地域を監視しているカメラを探しやすくなります。さらに、アイコンを選択してマップ上にカメラを表示することにより、マップ上のカメラの種類を特定しやすくなります。

スマートマップでは以下のタイプのデバイスを使用できます。

- カメラ
- 入力デバイス
- 出力デバイス
- マイク

スマートマップにデバイスを追加する

XProtect Management Clientでシステム管理者がデバイスの地理座標を指定した場合、デバイスを追加すると、自動的にスマートマップ上に配置されます。そうならない場合は、自分でデバイスを正確な地理的位置に配置しなければなりません。



システム管理者がデバイスの地理座標を指定した場合、XProtect Smart Clientユーザーは簡単にスマートマップ上でデバイスを見つけることができます。XProtect Smart Clientユーザーがこれを利用できるようにしたい場合は、システム管理者にお問い合わせください。

1. スマートマップを含むビューを選択し、**設定**をクリックします。

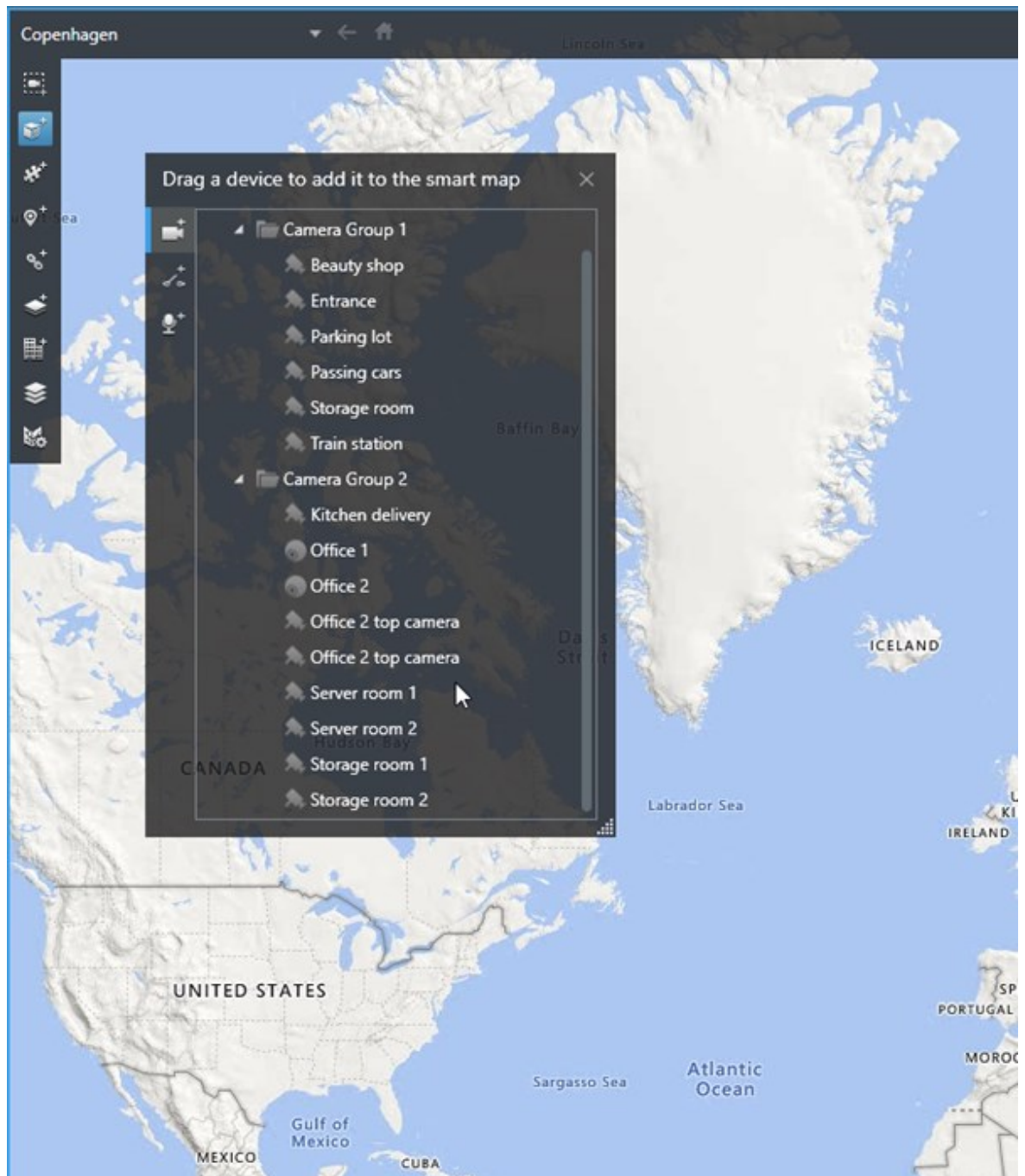
2. 個別のデバイスまたはデバイスのグループを追加するには：



デバイスを追加する前に、マップ上の場所にズームインしておくことをお勧めします。この機能を使うと、デバイスに地理座標が無い場合でも正確にそのデバイスを配置することができます。

- **システム概要**ウィンドウを展開して個別のデバイスまたはデバイスのグループを探し、スマートマップ上の表示させたい点までドラッグします。後からデバイスをドラッグして位置を変更することができます。
- スマートマップのツールバーで  **デバイスを追加**を選択し、デバイスのタイプを選択します。
 - 例：カメラの場合は、 **カメラを追加**を選択し、カメラを選択します。

- デバイスをスマートマップにドラッグします。



3. 変更を保存するには、[設定] をクリックして設定モードを解除します。

カメラの視野および方向を変更する

カメラがスマートマップに追加されると、カメラアイコンを調節することで視野および方向を変更できます。



マップでズームアウトする場合視界が表示されるまでズームインしなければならない場合があります。

1. 使用したいスマートマップが含まれているビューを選択します。
2. カメラアイコンを編集するには、**設定**をクリックします。
3. カメラアイコンをクリックします。

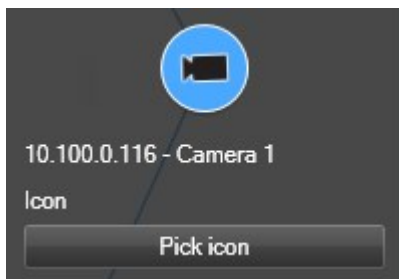


4. 回転ハンドルを使って、カメラを正しい方向に向けます。
5. 視野の幅、長さ、角度を調整するには、視野の先端にあるハンドルをクリック & ドラッグします。
6. 変更を保存するには、**[設定]** をクリックして設定モードを解除します。

デバイスアイコンを選択または変更する

使用しているデバイスの種類に一致するデバイスアイコンを選択できます。

1. 使用したいスマートマップが含まれているビューを選択します。
2. **設定**をクリックし、マップ上でデバイスアイコンをダブルクリックします。



3. **選択アイコン**をクリックし、デバイスのアイコンを選択します。
4. **設定**を再度クリックして変更を保存します。

デバイス情報を表示または非表示にする

スマートマップ上ではデバイスに関する情報を表示または非表示にすることができます。これは、マップ上のコンテンツを増やしたり減らしたりしたい場合などに便利です。

1. 使用したいスマートマップが含まれているビューを選択します。
2.  **レイヤーとカスタムオーバーレイを表示または非表示にする**をクリックします。
3. 情報を表示または非表示するには、チェックボックスを選択または選択解除します。

スマートマップからデバイスを削除する

不要なデバイス（物理的に除去されたデバイスや誤って追加されたデバイスなど）は削除できます。デバイスを削除すると、そのデバイスの位置情報（地理座標など）はVMS システムから削除されます。

要件

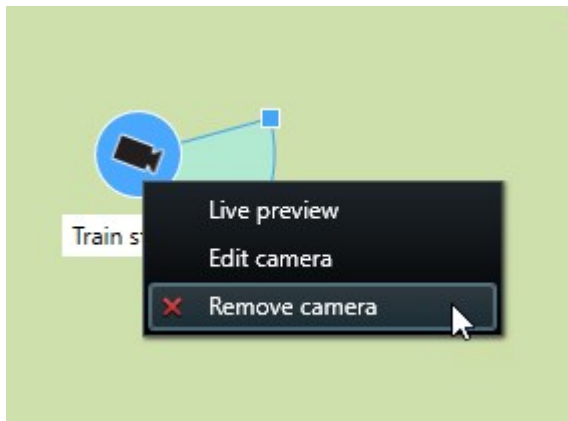
以下のためのユーザー権限は、XProtect Management Clientで有効にする必要があります。

- スマートマップの編集
- デバイスの編集

手順：

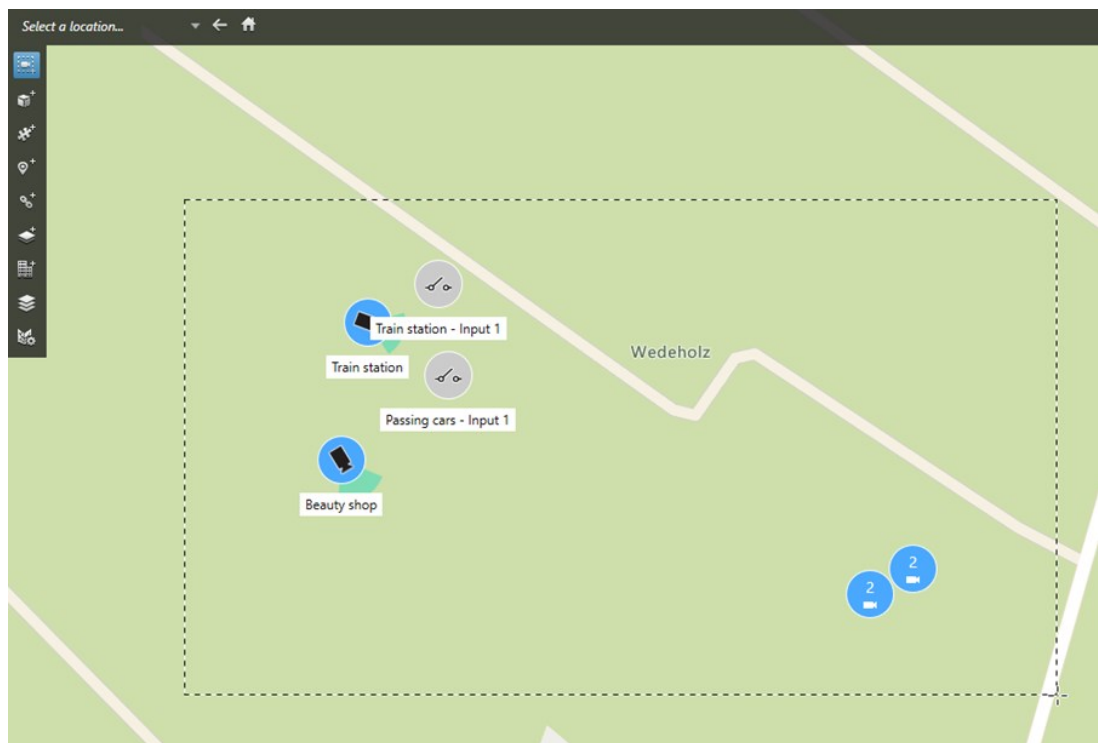
1. 削除したいデバイスまで移動します。
2. ワークスペースツールバーで、**セットアップ**を選択します。
3. 単一のデバイスを削除するには、そのデバイスを右クリックして**削除**をクリックします。

例：カメラの場合は、**カメラを削除**をクリックします。



4. 複数のカメラを削除するには：

1. スマートマップのツールバーで、 **複数のカメラを選択**をクリックします。



2. クリックしてドラッグし、複数のカメラを選択します。他のタイプのデバイス（入力デバイスなど）は選択肢に含まれていません。
 3. 右クリックして**カメラを削除**を選択します。
5. カメラではない複数のデバイスを削除するには：
1. スマートマップ上で、Ctrlを長押しします。
 2. Ctrlを押している間に、削除したいデバイスをクリックします。
 3. 選択したデバイスの1つを右クリックし、削除を選択します。
6. もう一度**【設定】**を選択して設定モードを終了し、変更を保存します。



単一のデバイスを選択し、キーボードの**DELETE**を押して単一のデバイスを削除することもできます。

スマートマップ上のリンクの追加、削除および編集

スマートマップ上のリンク

スマートマップ上のロケーションに移動したり、XProtect Smart Clientの静的マップに移動するリンクを追加したりできます。これにより、迅速にロケーションにアクセスしたり、別のビューに変更することなく別のタイプのマップを表示したりすることができます。他のスマートマップへはリンクできません。詳細については、[287 ページのマップとスマートマップの違い](#)をご参照ください。

リンクでは次のように場所とマップが表示されます。

- ロケーションへのリンクでは、現在のビュー内のロケーションが表示されます。以前表示したロケーションに戻るには、スマートマップのツールバーにある  **戻る** をクリックします
- マップへのリンクでは、サブウィンドウにマップが表示されます。これにより、両方のタイプのマップに同時にアクセスすることができます。サブウィンドウでは、マップを表示して操作できますが、カメラの追加などの変更を行うことはできません。



リンクを色分けしたり、マップ上でより見やすくする必要がある場合は、リンクの色を指定できます。デフォルトでは、スマートマップのロケーションへのリンクは青で、従来のマップへのリンクは赤になっています。他の色を使用する場合は、リンクのタイプごとに同じ色を使用することをお勧めします。同じ色を使用することで、レイヤーを使用してマップ上のアイテムをフィルターするなどの場合にリンクの区別がよりつきやすくなります。

スマートマップのロケーションまたはマップへリンクを追加する

これにより、すばやくロケーションにアクセスしたり、別のビューに変更することなく別の種類のマップを表示することができます。

手順：

- スマートマップを含むビューを選択し、**[設定]** をクリックします。
- リンクを追加するマップ上のポイントに移動します。
- マップツールバーで、 **[リンクを追加]** をクリックして、リンクしたいマップ上のポイントをクリックします。
- スマートマップのロケーションまたはマップにリンクするかどうかを指定し、**追加** をクリックします。

5. リンクの名前を入力します。



表示スタイルとして**アイコンとテキスト**を選択した場合は、スマートマップ上のリンクのタイトルを表示できます。通常、名前によりリンク先が示されます。

6. **宛先**フィールドでリンク先のマップまたはロケーションを選択します。
7. **表示スタイル**フィールドでは、名前とリンクアイコンを表示するか、マップ上のリンクアイコンのみを表示するかを指定します。
8. オプション：リンクの色を指定するには、**色**をクリックします。

スマートマップ上のリンクを編集または削除する

スマートマップにリンクが追加されると、編集や削除することができます。

手順：

1. ワークスペースツールバーで、**セットアップ**を選択します。
2. リンクを編集するには、リンクを右クリックして、**[リンクを編集]**を選択します。
3. リンクを削除するには、以下のいずれか1つを実行します。
 - リンクを右クリックして**リンクを削除**を選択します。
 - リンクを選択し、キーボードの**DELETE**キーを押します。

スマートマップ上のロケーションの追加、削除および編集

スマートマップ上のロケーション

関心のあるスマートマップ上のポイントにロケーションを作成することができます。例えば、本社や出張所のロケーションを作成することができます。ロケーションは環境の全体像を示すだけでなく、スマートマップのナビゲーションにも役立ちます。



設定によってはカスタムオーバーレイを追加する場合、XProtect Smart Clientがオーバーレイと同じ名前のロケーションを追加することがあります。このことにより、例えば、ズームアウト時に、スマートマップ上のオーバーレイに移動しやすくなります。ただし、オーバーレイとロケーションは、リンクしていません。例えば、オーバーレイを変更せずに、ロケーションの名前を変更したり削除することができ、またその逆もできます。詳細については、[295 ページのカスタムオーバーレイの追加、削除および編集](#)をご参照ください。

スマートマップのホームロケーション

ホームロケーションはそれを設定したビューアイテムに対して特有のものです。異なるビューアイテムに、異なるホームロケーションを設定できます。ビューアイテムにホームロケーションが指定されていない場合、ビューアイテムは、使用している背景の種類に関わらず、全世界を表示します。これは、ホームロケーションを削除した場合も同様です。

スマートマップで作業している間は、 **ホーム**をクリックするとホームロケーションに戻ります。これは、ビューでスマートマップのリセットするのと同様です。ビューアイテムの設定をデフォルトに戻すと、システムにより、閲覧したロケーションの履歴は削除されます。



新しいホームロケーションを選択した場合、ビューアイテムを使用する全員が影響を受けます。誰かが別のロケーションをホームとして設定していた場合、その人の設定を変更することになります。

スマートマップにロケーションを追加する

関心のある場所の履歴を残すために、スマートマップ上ですばやく検索できるロケーションを追加することができます。

手順：

1. スマートマップを含むビューを選択し、**[設定]**をクリックします。
2. 必要な場合は、スマートマップ上でロケーションを追加したいポイントを、パンまたはズームインします。
3. ツールバーで、 **場所を追加**をクリックし、スマートマップ上のポイントをクリックします。
4. そのロケーションに名前を付けて、必要に応じて以下の詳細を追加します。
 - 誰かがスマートマップ上で該当場所に行った際に適用されるズームレベルを指定する
 - ロケーションアイコン用の色を選択します。ロケーションの色分けは、例えば、ロケーションのタイプを見分ける際に便利です。これは、ロケーションの機能やタイプ、または優先度を示す基準となります。
 - オプション：その場所をホームロケーションにします。スマートマップはこのロケーションが中心となり、 **ホーム**をクリックすると、デフォルトのズームレベル設定を適用します

スマートマップ上のロケーションを追加、編集または削除する

スマートマップにロケーションが追加されると、例えば、ホームロケーションの削除のような、ロケーションの削除や設定の編集ができます。

手順：

1. ワークスペースツールバーで、**セットアップ**を選択します。
2. ロケーションを編集するには、該当するロケーションを右クリックして**ロケーションを編集**を選択します。
3. ロケーションを削除するには、以下のいずれか1つを実行します。
 - ロケーションを右クリックして、**ロケーションを削除**を選択します。
 - ロケーションを選択し、キーボードの**DELETE**を押します。

ロケーション同士のリンク

例えば、異なるロケーション同士の一連のリンクを作成することにより、巡回経路を作成することができます。ロケーションAからロケーションBへのリンクを作成し、ロケーションBからロケーションCへのリンクを作成する、といった具合にリンクを作成していきます。詳細については、[308 ページのスマートマップ上のリンクの追加、削除および編集](#)をご参照ください。

スマートマップへの建物の追加、削除および編集

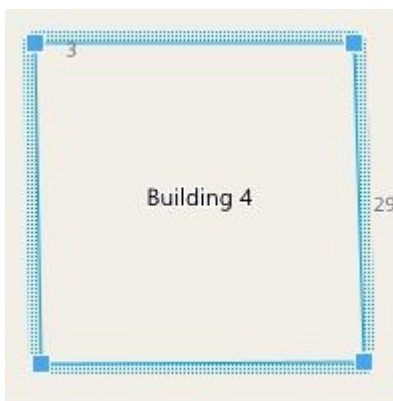
スマートマップ上の建物

スマートマップ上の建物は4つの端のあるポリゴンとして描写されます。一度追加されると、建物の実際の形状と位置に合うよう、面積、アングル、サイズを調整することができます。

もし建物に複数の階がある場合、まず階を追加し、そしてそれぞれの階に対してカメラを追加します。これにより、各階にカメラをナビゲートできます。

建物のインテリアを描写しやすくするために、各階に平面図をカスタムオーバーレイとして追加することが可能です。詳細については、[316 ページの平面図を階に追加（スマートマップ）](#)をご参照ください。

建物は、**Building 4**といったように自動的に名前が振り分けられます。Milestoneは名前を変更することを推奨します。これにより、他の建物と区別しやすくなります。



スマートマップに建物を追加する

建物の内観を解説する目的でイメージやシェープファイルを使用する代わりに、建物のアウトラインを追加することができます。後から、建物の実際の形状と位置に合うよう、面積、アングル、サイズを調整することができます。

要件

スマートマップの編集は、お使いのXProtect Management ClientにおけるSmart Clientプロファイルで有効でなければなりません。

手順：

1. ワークスペースツールバーで、**セットアップ**を選択します。
2. スマートマップ上で建物を配置したい場所に移動します。
3.  をクリックし、スマートマップ上で関連する位置にカーソルを合わせます。
4. もう一度クリックします。スマートマップに長方形が追加されます。ズームアウトすると、ズームレベルが自動的に引き上げられます。
5. 必要な場合は、コーナーハンドルを用い、実際の建物の形状と位置を調整してください。
6. もう一度 **[設定]** を選択して設定モードを終了し、変更を保存します。

スマートマップ上の建物を編集する

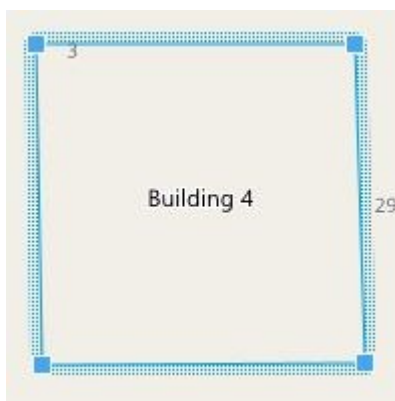
一度建物がスマートマップ上に追加されると、建物の名前の変更、位置、サイズ、面積、アングルの調整が可能になります。さらに、階の追加、削除、並べ替えが可能になります。

要件

スマートマップの編集は、お使いのXProtect Management ClientにおけるSmart Clientプロファイルで有効でなければなりません。

手順：

1. スマートマップ上で建物まで移動します。必要な場合、ズームインします。
2. ワークスペースツールバーで、**セットアップ**を選択します。
3. 建物内の任意の場所をクリックします。青の枠線は建物を編集できることを示します。



4. 建物の名前を変更するには、右側のペインの一番上でをクリックします。名前を変更し、をクリックします。キャンセルするには**Esc**を押します。
5. 角の調整には、新しい位置までクリック&ドラッグします。
6. 階を追加または削除するには、[314 ページの建物の階を追加または削除する](#)を参照してください。
7. もう一度**[設定]**を選択して設定モードを終了し、変更を保存します。

スマートマップ上の建物を削除する

建物が不要になった場合は、削除できます。次回、誰かがXProtect Smart Clientにログインまたは再読み込みすると、削除された建物が消えます。

要件

スマートマップの編集は、お使いのXProtect Management ClientにおけるSmart Clientプロファイルで有効でなければなりません。

手順：

1. スマートマップを開きます。
2. ワークスペースツールバーで、**セットアップ**を選択します。
3. 以下のいずれか1つを実行します。
 - 建物を右クリックし、**[削除]**を選択します
 - 建物を選択し、キーボードの**DELETE**キーを押します



建物を削除する別の方法： **デフォルト設定の管理**で、**建物**セクションまで下にスクロールし、建物の上にカーソルを置いた状態で**削除**をクリックしてから**保存**をクリックします。

建物の階とデバイスの管理（スマートマップ）

建物のデバイスと階

建物にデバイスを追加すると、階が指定されていない限り、デバイスはデフォルトの階に関連付けられます。その他の場合、デバイスは1番目のレベルに関連付けられます。ただし、この関連付けを変更し、デバイスをその他の階、あるいは一度に複数の階と関連付けることも可能です。

追加情報

- 階が選択されていなければ、すべての階でデバイスを表示できます。
- すでに配置されているデバイスの上に建物を追加すると、デフォルトで、デバイスはすべての階に関連付けられます。

- すでに配置されているデバイスが含まれるように建物の境界線を拡大すると、デバイスは選択されている階にのみ関連付けられます。



デバイスをカメラを含まないように建物の境界線を調整すると、デバイスは建物と関連付けられなくなります。

建物の平面図とデバイス

建物のすべての階におけるインテリアの描写をしやすくするために、各階に平面図をカスタムオーバーレイとして追加することが可能です。平面図があれば、デバイスの正確な配置が容易になります。詳細については、[316 ページの平面図を階に追加（スマートマップ）](#)をご参照ください。

配置したデバイスが関連付けられるのは階であり、カスタムオーバーレイではありません。デバイスとカスタムオーバーレイを含む建物内の階を削除すると、デバイスは地理的位置にはとどまりますが、階との関連付けはなくなります。ただし、カスタムオーバーレイは階と一緒に削除されます。

階を並べ替えた場合、デバイスとカスタムオーバーレイは両方とも、その階にとどまります。デバイスはそれぞれの地理的位置を維持します。

建物の階を追加または削除する

スマートマップに建物を追加したあと、階数を追加することができます。一番はじめの階はナンバー**1**として関連付けられ、次は**2**、その後も順に続きます。最終的には、それぞれの階の名前を変更し、並べ替えることができます。

要件

スマートマップの編集は、お使いのXProtect Management ClientにおけるSmart Clientプロファイルで有効でなければなりません。

手順：

1. スマートマップ上で建物まで移動します。必要な場合、ズームインします。
2. 建物を選択します。右側にペインが表示されます。
3. **[設定]** ボタンをクリックして設定モードに移ります。

4. **階を追加**  **Add level** をクリックします。

5. 階の名前を編集するには、以下を実行します

1. 点線  をクリックし、**名前を変更**を選択します。
2. 新しい名前を入力します。

6. 階を削除するには、点線  をクリックし、**削除**を選択します。この階のデバイ

ス是个々の地理的位置にとどまりますが、階との関連付けはなくなります。

7. **設定**をクリックし、設定モードを終了します。

建物内の階の並べ替え（スマートマップ）

要件

スマートマップの編集は、お使いのXProtect Management ClientにおけるSmart Clientプロファイルで有効でなければなりません。

手順：

1. スマートマップ上で建物まで移動します。必要な場合、ズームインします。
2. 建物を選択します。右側に建物の階を示すペインが表示されます。
3. ワークスペースツールバーで、**セットアップ**を選択します。

4. 点線で囲まれたエリア  を正しい位置にクリック&ドラッグします。関連付けのあるデバイスとカスタムオーバーレイは、同じ階にとどまります。
5. もう一度 **[設定]** を選択して設定モードを終了し、変更を保存します。

建物のデフォルトの階を設定する（スマートマップ）

もし、例えば地下など、建物内の特定の階が他の階より関連性が強い場合、その階をデフォルトの階として設定することが可能です。スマートマップを開き、建物に移動すると、自動的にデフォルトの階が選択されます。

もし建物からカーソルを離してまた戻った場合、XProtect Smart Clientは、その離れた階まで戻ります。

要件

スマートマップの編集は、お使いのXProtect Management ClientにおけるSmart Clientプロファイルで有効でなければなりません。

手順：

1. スマートマップ上で建物まで移動します。必要な場合、ズームインします。
2. 建物を選択します。右側に建物の階を示すペインが表示されます。デフォルトの階はハイライトで表示されます。

3. **[設定]** をクリックして設定モードに移ります。アスタリスク  に留意してください。それは、どこが現在のデフォルトの階かを示すものです。

4. デフォルトの階として設定したい階で、点線  をクリックします。
5. **デフォルトとして設定**を選択します。
6. もう一度 **[設定]** を選択して設定モードを終了し、変更を保存します。

平面図を階に追加（スマートマップ）

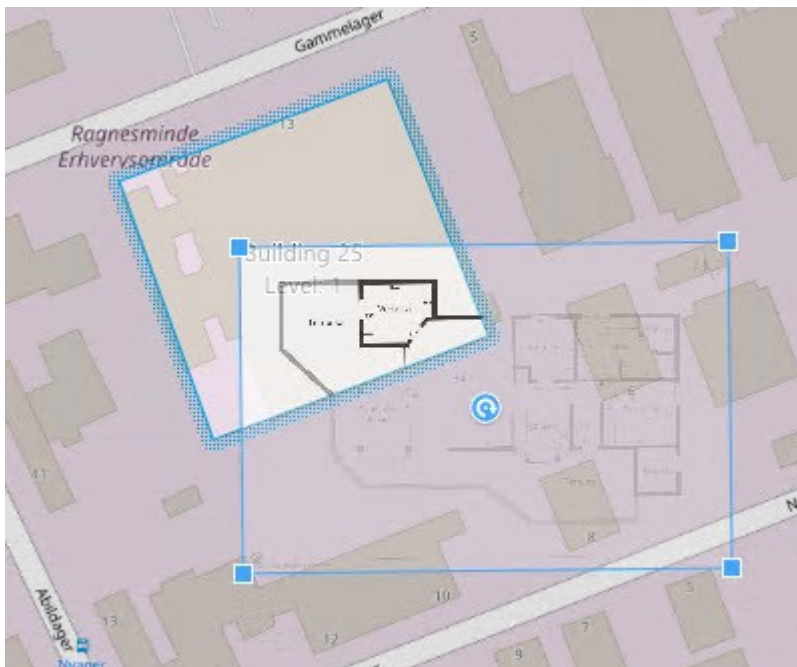
カスタムオーバーレイの追加が可能です。例えば、平面図イメージを建物の階に追加することで、建物内のその階のインテリアを描写するのに役立ちます。階をナビゲートするにおいて、関連付けられた平面図が自動的に表示されます。

要件

スマートマップの編集は、お使いのXProtect Management ClientにおけるSmart Clientプロファイルで有効でなければなりません。

手順：

1. スマートマップ上で建物まで移動します。必要な場合、ズームインします。
2. 建物を選択します。右側に建物の階を示すペインが表示されます。
3. ワークスペースツールバーで、**セットアップ**を選択します。
4. カスタムオーバーレイを追加したい階を選択します。
5. 左上コーナーで、 **カスタムオーバーレイを追加**をクリックし、その後建物のアウトライン内をクリックします。ウィンドウが表示されます。
6. カスタムオーバーレイのタイプを選択します。詳細については、[295 ページのカスタムオーバーレイ](#)をご参照ください。
7. コンピュータ上でファイルが保存されている場所を選択し、**続行**をクリックします。カスタムオーバーレイは青のアウトラインで表示されます。



8. それを建物のアウトラインまでドラッグし、ピボットポイントとコーナーハンドルを用いてカスタムオー

バーレイを回転、および位置を変更します。

9. 上部のバーで、**保存**をクリックします
10. もう一度**【設定】**を選択して設定モードを終了し、変更を保存します。

平面図の削除（スマートマップ）

建物内の階上の平面図が変更された場合は、その平面図を描写するカスタムオーバーレイを置き換えなければならない可能性があります。Milestoneは、新しい平面図を追加する前に以前の平面図を削除するよう推奨しています。

要件

スマートマップの編集は、お使いのXProtect Management ClientにおけるSmart Clientプロファイルで有効でなければなりません。

手順：

1. スマートマップ上で建物まで移動します。必要な場合、ズームインします。
2. 建物を選択します。右側に建物の階を示すペインが表示されます。
3. ワークスペースツールバーで、**セットアップ**を選択します。
4. カスタムオーバーレイがある階を選択します。
5. カスタムオーバーレイ上のどこかを右クリックし、**カスタムオーバーレイを削除**を選択します。
6. もう一度**【設定】**を選択して設定モードを終了し、変更を保存します。



平面図の位置やサイズを変更するには、カスタムオーバーレイを右クリックし、**位置を編集**を選択します。これで、カスタムオーバーレイの移動、回転、そしてサイズの変更が可能になりました。

建物にデバイスを追加する（スマートマップ）

建物を作成して階を追加した後、デバイスを建物に追加できます。デフォルトの階を指定すると、デバイスはその階に紐付けられます。その他の場合、デバイスは1番目のレベルに関連付けられます。階は変更が可能で、建物内のどの階にでもデバイスを関連付けることができます。

要件

スマートマップの編集は、お使いのXProtect Management ClientにおけるSmart Clientプロファイルで有効でなければなりません。

手順：

1. スマートマップ上で建物まで移動します。必要に応じてズームインします。
2. ワークスペースツールバーで、**セットアップ**を選択します。
3. デバイスを追加するには、このアイコンをクリックします。

例：カメラの場合は、 **[カメラを追加]** をクリックします。

4. デバイスを配置する場所を再度クリックします。ウィンドウが表示されます。
5. デバイスを選択して、**OK**をクリックします。追加する各デバイスに対し、ステップ3～5を繰り返します。
6. デバイスを単一または複数の階と関連付けるには、デバイスを右クリックし、必要な階を選択します。
7. もう一度 **[設定]** を選択して設定モードを終了し、変更を保存します。



階を選択しなかった場合は、すべての階でデバイスが表示されます。

マップの作成

マップをビューに追加

既存のマップをビューに追加するか、新しいマップを作成することができます。

1. ワークスペースツールバーで、**セットアップ**を選択します。
2. **[システム概要]** ペインで、**[マップ]** アイテムをビュー内の特定の位置にドラッグします。ウィンドウが表示されます。
3. **[新規マップを作成]** または **[既存のマップを使用]** のいずれかを選択します。三角記号がマップ名の横に付いている場合は、マップに1つ以上のサブマップがある可能性があることを示します。含まれるサブマップと要素も追加されます。
4. **[名前]** フィールドにマップの名前を入力します。名前はその位置のタイトルバーに表示されます。



[名前] フィールドを空欄にし、**[ブラウズ]** をクリックすると、**[名前]** フィールドに選択した画像ファイルの名前が表示されます。

5. **[ブラウズ]** をクリックして、マップとして使用したい画像ファイルを参照します。
6. **開く** をクリックして、画像ファイルを選択します。
7. **[OK]** をクリックします。
8. もう一度 **[設定]** を選択して設定モードを終了し、変更を保存します。



Milestone Federated Architectureをサポートしている監視システムに接続している場合、追加できるのはログインしている監視システムサーバーからのマップだけであることを注意してください。

マップ設定

セットアップモードで、**プロパティ**ペインを使用して、各マップに対するさまざまな設定を調整できます。

名前	説明
ホームマップ	選択しているマップビューの基本に設定するマップを表示します。このフィールドは読み取り専用ですが、選択ボタン  をクリックすると、 マップを設定する ウィンドウが開いて、マップを変更できます。
マップの 名前 変更	マップ名を編集します。
バック グラ ウンド の変 更	マップを変更しますが、マップ上のエレメントの位置の互いの相対関係を保持します。
アイ コン サイ ズ	アイコンサイズ ドロップダウンリストでは、マップに追加する新しいエレメントのサイズを、 極小 から 特大 まで選択できます。アイコンの角にあるサイズ変更ハンドルを引っ張ると、マップにあるアイコンのサイズを変更できます。
名前 を表 示	名前 チェックボックスでは、新しいエレメントを追加するときに、エレメントの名前を表示するかどうかを有効、または、無効にできます。

名前	説明
	 マップにエレメントを追加しているがエレメント名が表示されない場合は、必要なエレメントを右クリックし、名前を選択します。エレメント名を表示しない場合は、名前を右クリックし、テキストの削除を選択します。アイコンサイズドロップダウンリストでは、マップに追加する新しいエレメントのサイズを、極小から特大まで選択できます。アイコンの角にあるサイズ変更ハンドルを引っ張ると、マップにあるアイコンのサイズを変更できます。
パンとズームを許可	選択すると、ライブモードでマップのパンとズームが可能になります。
マップを自動最大化	選択すると、XProtect Smart Clientタイムアウトに定義されている秒数の間、が使用されないと、ライブモードでマップが自動的に画面全体に最大化されます。タイムアウトの最長秒数は99,999秒です。
マウスオーバー時	選択すると、マウスをカメラの上へ移動させたときに、ライブビデオのプレビューを表示します。
デフォルトの表示設定を使用する	選択すると、プレビューウィンドウが他のビューと同じように表示されるように定義します。このチェックボックスをオフにすると、プレビューのタイトルバーおよびライブインジケータの設定を定義できます。 タイトルバー：選択すると、カメラの名前がタイトルバーに表示されます。 ライブインジケータ：選択すると、ライブビデオのインジケータが表示され、画像が更新されると緑色に点滅します。92 ページのライブビデオのステータスを表示するをご参照ください。ライブインジケータを選択できるのは、タイトルバーも選択している場合のみです。
ス	選択すると、マップに追加されたエレメントのステータスが図示されます。 143 ページのマップにス

名前	説明
テータス可視化	テータスの詳細情報を表示する をご参照ください。
詳細ステータスサポートを有効化	オンになっている場合、ライブモードおよび再生モードでカメラとサーバーの詳細ステータスを表示できます。
アラームのマップの自動変更	選択すると、アラームが関連しているカメラのマップを表示するためにアラームを選択するときに、プレビューのマップを自動的に変更できます。
上に重ねた場合のみ表示	カメラ、ビューゾーン、または、プリセットの上にマウスを動かしたときにのみ、カメラビューゾーンとPTZプリセットを表示するように選択します。この設定は、ビューゾーンが重複していたり、複数のプリセットがあるマップ上に複数のカメラがある場合に便利です。デフォルトでは、ビューゾーンとプリセットを表示します。

マップツールボックスの中のツール

マップのツールボックスは、マップを設定するための複数のツールで構成されています。**カメラ、サーバー、マイク、スピーカー、イベント**、または**出力**のいずれかを選択すると、カメラ、サーバー、マイク、スピーカー、イベント、出力をそれぞれ一覧表示した**エレメントの選択**が表示され、エレメントをマップに配置できます。

マップの右クリックメニュー

セットアップタブでマップまたはマップの要素を右クリックして、ショートカットメニューにアクセスできます。

マップの背景を変更する

マップを更新するが、その中のすべての情報を保持する必要がある場合は、マップの背景だけを交換できます(マップの編集に必要な権限がある場合)。これにより、新しいマップで、カメラや他の要素を同じ相対位置に保持できます。マップを右クリックするか、**プロパティ**ペインで、**マップの背景を変更する**を選択します。

マップの削除

ビューのマップを右クリックして、**マップを削除**を選択します。これにより、カメラ、マイク、スピーカーなどの追加された要素を含むマップ全体が削除されます。マップはビューからのみ削除されます。画像ファイルは監視システムにまだ存在しており、新しいマップを作成するために使用できます。

マップは**マップ概要**からも削除できます。

マップの要素の追加と削除

1. セットアップモードで、マップを右クリックして、**ツールボックス**を選択します。
2. ツールボックスで、必要な要素アイコンをクリックすると、**要素の選択**ウィンドウが開きます。
3. 必要要素を素早く見つけるために、フィルターを使用します。検索条件を入力すると、検索条件に合わせて、表示される要素の一覧が絞られます。
4. エlementを選択し、マップにドラッグします。
5. エlementを削除するには、必要のない要素(カメラ、ホットゾーン、サーバー、イベント、出力、マイク、またはスピーカー)を右クリックして、**[要素] を削除**を選択します。
6. エlementを移動させるには、要素をクリックして、マップ上の新しい位置にドラッグします。
7. エlementの方向を変えるには、要素を選択し、要素のサイズ変更ハンドル1つの上へマウスを移動させます。マウスポインタの形が、曲がった矢印に変わったら、要素をクリックしてドラッグし、新しい位置へ回転させます。





ツールボックスの選択ツールを使用して、エレメントを選択し、マップで移動させるか、マップをパンします。



マップが、マップ上のエレメントが見えにくい色になっている場合は、テキストボックスを作成して、マップに対比して見やすい色で塗りつぶします。マップに必要なエレメントを追加し、それをテキストボックスにドラッグします。



ホットゾーンをマップに追加

1. セットアップモードで、マップを右クリックして**ツールボックス**を選択します（[321 ページのマップツールボックスの中のツール](#)を参照）。
2. ツールボックスで、**ホットゾーン**ツールを選択します。



3. マウスポインタをマップに移動します。マウスポインタがホットゾーンアイコンとして表示され、ホットゾーンの描画ができることを示す小さな白い十字が表示されます。



ホットゾーンを描画するには、ホットゾーンの描画を開始するマップをクリックします。アンカーと呼ばれる大きな青い点によって、開始点がマップに表示されます：



ホットゾーンの描画ツールで作成できるのは、直線のみです。

4. ホットゾーンの境界線を曲線にする場合は、短い直線を多数使用します。ホットゾーンの開始点をクリックして、ホットゾーンの描画を完了します。これでホットゾーンの外形が点線で描かれて、サブマップがホットゾーンに添付されていないことを示します。



ホットゾーンの輪郭は、ホットゾーンアンカーを引っぱることで変更できます。

5. サブマップをホットゾーンに追加するには、点線で描かれたホットゾーンをダブルクリックして、**マップ設定**ウィンドウに追加します。

カラーツールを使用してホットゾーンの色を変更できます。異なる色をホットゾーンに使用することで、隣接するホットゾーンを区別できます。



Milestone Federated Architectureをサポートする監視システムに接続している場合（[29 ページの組織の XProtect 製品と拡張機能](#)を参照）、単一のマップ上で最大20のホットゾーンが他の監視システムサーバーからのマップを示すこともできます。ログインしているサーバーに属するマップに対するホットゾーンには、このような制限はありません。

マップの要素の外観の変更

マップ上のテキスト、背景、ホットゾーンなどの色を変えて、マップ要素を互いに区別することができます。

1. **セットアップ**モードで、マップを右クリックして、**ツールボックス**を選択します。
2. 変更する要素を選択します。
3. ツールボックスで、色塗りつぶしツール  を選択します。これにより、**色の選択**ウィンドウが開きます。



カラーピッカーツール  を使用してマップから既存の色を使用します。

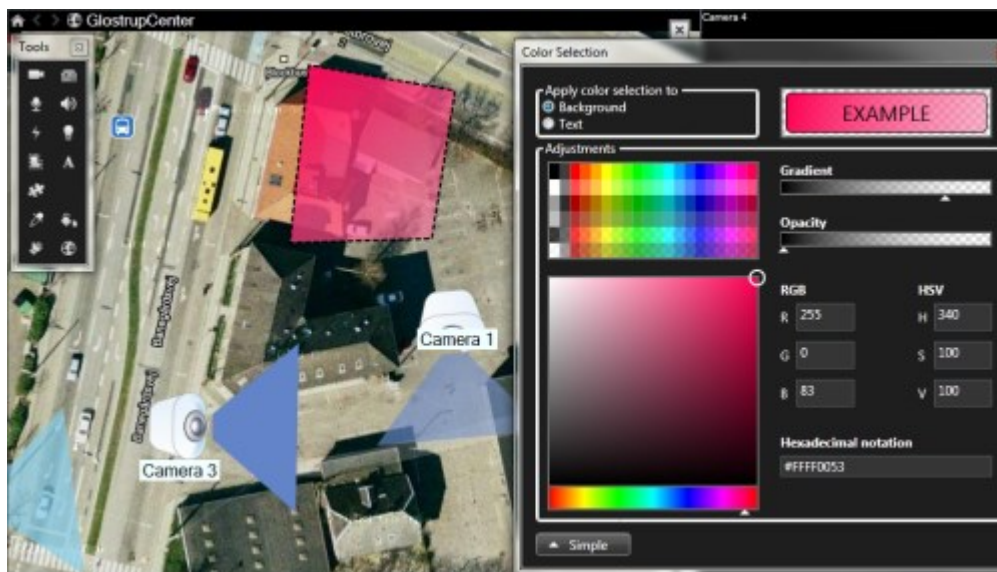
4. テキスト要素にのみ適用されます：色の変更をテキストまたは背景に適用するかを選択します。カラーパレットから色を選択します。
5. 選択した色のプレビューが[EXAMPLE]ボックスに表示されます。
6. マップ要素をクリックし、新しい色で塗りつぶします。

階調の調整

階調スライダーを使用して、要素の色を左から右にどのように薄めるかを調整します。

右端にスライダーをドラッグすると、要素の右側がフェードがかかり薄くなります。左端にスライダーをドラッグすると、要素の色はほとんどフェードがかかりません。

階調スライダーを必要なレベルにドラッグし、マップ要素をクリックして、色と階調を適用します。

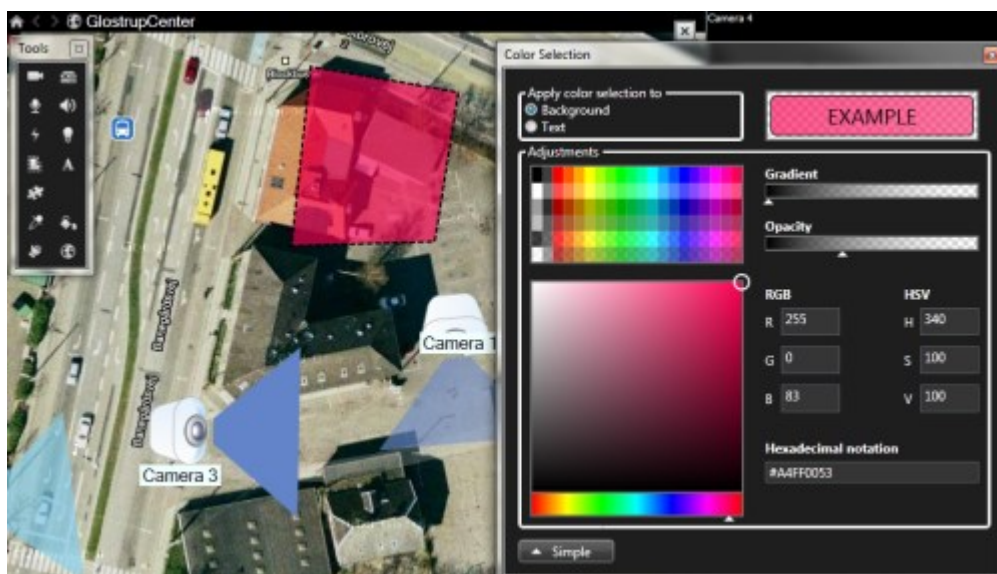


不透明度の調整

不透明度スライダーを使用して、塗りつぶし色の透明度を調整します。

不透明度スライダーを右端にドラッグすると、色が完全に透明になり、不透明度スライダーを左端にドラッグすると色が完全に不透明になります。

不透明度スライダーを必要なレベルにドラッグし、マップエレメントをクリックして、色と不透明度を適用します。



詳細な色変更

マップエレメントは、任意の色で塗りつぶすことができます。色の選択ウィンドウの詳細ボタンをクリックして、色の詳細選択オプションにアクセスします。以下のいずれか1つを実行します。

- 色スライドを使用して、主な色合いを選択し、色彩円をドラッグして必要な色調を選択します。
- **16進表記**フィールドに16進数の色コードを入力します。

マップ上でのラベルの編集と回転

マップのすべてのエレメントには、識別用のラベルが付けられています。

マップ上に多数のエレメントがある場合、すべてのラベルに十分な場所を確保することが難しい場合があります。デバイス名を編集するには、ラベルを選択し、デバイスの新しい(短い)名前を入力します。



ラベルの名前を変更すると、マップ上のラベルのみが変更され、システムのカメラまたはエレメントの名前は変わりません。

また、ラベルを回転して、ラベルが重複しないようにすることもできます。マップのラベルを回転するには、以下の操作を実行します。

- ラベルを選択し、サイズ変更ハンドルのいずれかの上にマウスを置きます。マウスポインタの形が、曲がった矢印に変わったら、ラベルをクリックしてドラッグし、新しい位置へ回転させます



マップのスペースを無駄にしないもう1つの方法として、ビューゾーンとPTZプリセットを重ねた場合にのみ表示するよう選択することができます ([319 ページのマップ設定](#)を参照)。

マップのテキストを追加/編集

テキストはマップの任意の場所に挿入できます。たとえば、メンテナンスについてユーザーに情報を提供する場合など。

1. セットアップモードで、マップを右クリックして、**ツールボックス**を選択します。
2. ツールボックスで、テキストツールを選択します。



3. **フォントの選択**ウィンドウで、テキスト設定を編集します。



テキスト設定はいつでも編集できます。必要なテキストボックスをクリックし、ツールボックスからテキストツールを選択して、選択したテキストボックスのテキスト設定を変更します。

4. マップ上のテキストを挿入する場所をクリックします。
5. テキストを入力します。キーボードの**ENTER**を押すと、テキストボックスが下方に拡張します



色塗りつぶしツールを使用して、テキストの色と背景を変更することができます。



テキストボックスは移動させることができます。選択ツールを選択し、マップ上のテキストボックスをつかみ、テキストボックスを移動させます。

スマートマップの作成

スマートマップ機能を利用する前に、XProtect Smart Clientでいくつかの設定タスクを完了する必要があります。スマートマップは、ビューに追加されている場合にのみ表示できます。

[328 ページのスマートマップをビューに追加](#)もご参照ください。詳細については、[124 ページのスマートマップ](#)をご参照ください。

マップとスマートマップの違い

XProtectSmartClientは、監視システムを視覚化し、インシデントに迅速に対応する上で役立つマップ機能を備えています。

- **マップ**：この種類のマップは地理参照を含まない静止画像に基づいています。カメラ、マイク、レコーディングサーバーなどのデバイスを追加できます。マップから監視システムを直接操作できるアラーム、イベント、および入退室管理などの機能も追加できます。デバイスおよび機能の要素をマップ上に手動で配置する必要があります。詳細については、[137 ページのマップ](#)をご参照ください。
- **スマートマップ**：このタイプのマップでは地理情報システムを使用して、実世界の地理を正確に反映します。これらの高度な機能により、複数のロケーションにあるカメラのオーバービューがより正確なものになります。

以下も可能です。

- Bing MapsおよびGoogle Mapsサービスを使用する（XProtect® CorporateおよびXProtect Expertでのみ利用可能）。
- 地理的背景としてMilestone Map Serviceを使用する。
- 地理的背景としてOpenStreetMapマッププロジェクトを使用する。
- コンピュータ支援設計（CAD）図面、シェイプファイル、および画像をオーバーレイとして追加する（CADファイルはXProtect® Corporateおよび XProtect Expertでのみ使用できます。）



マップとスマートマップの間には互換性はありません。マップを使用している場合は、スマートマップとして画像ファイルを使用できますが、再度デバイスを追加する必要があります。デバイス内のマップをスマートマップに転送することはできませんが、スマートマップをマップにリンクすることはできます。詳細については、[348 ページのスマートマップ上のリンクの追加、削除および編集](#)をご参照ください。

スマートマップをビューに追加

デフォルトではベーシックな世界地図が表示されます。スマートマップを追加した場合、地理的背景を変更できます。

スマートマップを追加するには、それをビューに追加する必要があります。

1. ライブまたは再生モードで、スマートマップに追加したいビューを選択します。
2. ワークスペースツールバーで、**セットアップ**を選択します。
3. **システム概要**ペインを展開し、**スマートマップ**アイテムをビュー内の適切な位置にドラッグします。
4. もう一度**設定**を選択して設定モードを終了し、変更を保存します。

これで地理的な背景を変更できます。

スマートマップの地理的背景を変更する

デフォルトで、スマートマップをビューに追加すると、基本的な世界地図が表示されます。スマートマップをビューに追加すると、さまざまな地理的背景を選択できるようになります。スマートマップを使用している各ユーザーが次回そのビューを開くと、新しい背景が表示されます。

要件

Bing MapsおよびGoogle Mapsの地理的背景はXProtect® CorporateとXProtect Expertでのみ利用できます。システム管理者は、それらをXProtect Management Clientで利用できるようにする必要があります。

背景を変えるには、次のことをする必要があります。

1. スマートマップを含むビューを選択します。
2. ツールバーで、 **レイヤーとカスタムオーバーレイを表示または非表示にする**をクリックします。
3. **地理的背景**で、背景と表示したい詳細情報を選択します。例えば、地形に関する情報を表示したい場合は、**地形**を選択します。道路を表示したい場合は、**道路**を選択します。

地理的背景

スマートマップの地理的背景として以下のサービスを利用できます。

- Bing マップ
- Google マップ
- Milestone Map Service
- OpenStreetMap

地理的背景を選択後、デバイス（カメラなど）とカスタムオーバーレイ（シェープファイルなど）を追加できます。詳細については、[335 ページのカスタムオーバーレイ](#)をご参照ください。

地理的背景の種類

ビューにスマートマップを追加すると、以下の地理的背景のいずれかを使用できます。

- **基本的な世界地図**：XProtect Smart Clientで提供されるデフォルトの地理的背景を使用します。このマップは一般的な参照として使用することを意図しており、国境や都市、その他の詳細などの機能は含まれていません。ただし、他の地理的背景と同様、地理参照データは含まれています。
- **Bing Maps**：Bing Mapsに接続します。
- **Google Maps**：Google Mapsに接続します。



Bing MapsとGoogle Mapsは、XProtect® CorporateおよびXProtect Expertでのみ利用できます。どちらのサービスもインターネットアクセスが必要です。

- **Milestone Map Service** - 無料のマッププロバイダーに接続します。Milestone Map Service を有効にすると、追加の設定は不要です。

[Milestone Map Serviceを有効にする](#)を参照

- **OpenStreetMap** - 次に接続します：
 - 選択したコマーシャルタイルサーバー
 - ユーザー、オンライン、またはローカルのタイルサーバー

[OpenStreetMapタイルサーバーの変更](#)を参照

- **なし** - このオプションを選択すると、地理的背景が非表示になります。地理参照データは残る点に留意してください。[333 ページのスマートマップのレイヤー](#)も参照

デフォルトで、Bing MapsとGoogle Mapsは衛星画像を表示します。画像は、航空画像や地形表示などに変更して、他の情報を表示することもできます。

有効にするMilestone Map Service

Milestone Map Serviceは、Milestone Systemsのタイルサーバーに接続できるオンラインサービスです。このタイルサーバーは無料の市販マップサービスを使用しています。

スマートマップでMilestone Map Serviceを有効にすると、スマートマップは地理的背景としてMilestone Map Serviceを使用します。

要件

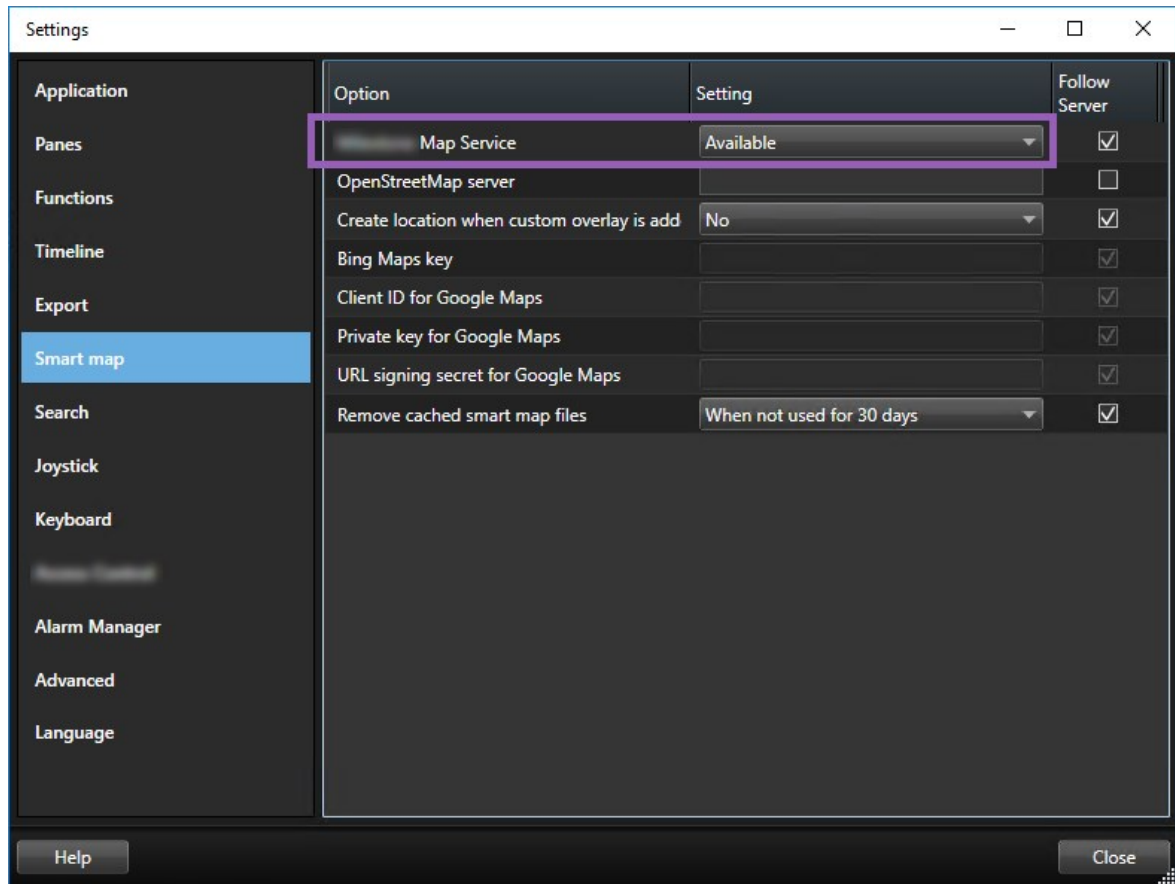
Milestone Map Serviceフィールドがグレーで表示されている場合、このサービスを有効/無効に設定するために必要なユーザー権限が付与されていません。この機能をXProtect Management Clientで有効にしたい場合は、システム管理者に連絡してください。



Milestone Map Serviceではインターネットへのアクセスが必要です。

手順：

1. グローバルツールバーで [設定とその他] 、次に [設定] を選択します .



2. 左側のセクションで**スマートマップ**をクリックします。
3. **Milestone Map Service**フィールドで、**利用可能**を選択します。
4. [閉じる] をクリックします。次回スマートマップを読み込むと、地理的背景としてMilestone Map Serviceが使用されます。

OpenStreetMapタイルサーバー

スマートマップの地理的背景としてOpenStreetMapを使用する場合は、タイルサーバーを指定する必要があります。所属組織に空港や港といった地域の独自の地図がある場合などはローカルタイルサーバーを指定できます。また、コマーシャルタイルサーバーを使用することも可能です。



ローカルタイルサーバーを使用する場合、インターネットアクセスは不要です。

タイルサーバーのアドレスは以下の2つの方法で指定できます。

- XProtect Management Clientでは、タイルサーバーのアドレスをSmart Clientプロファイルで設定します。このサーバーアドレスは、Smart Clientプロファイルに割り当てられているすべてのXProtect Smart Clientユーザーに適用されます
- XProtect Smart Clientでは、タイルサーバーのアドレスを**設定**ダイアログで設定します。サーバーアドレスは、そのインストールにのみ適用されます。

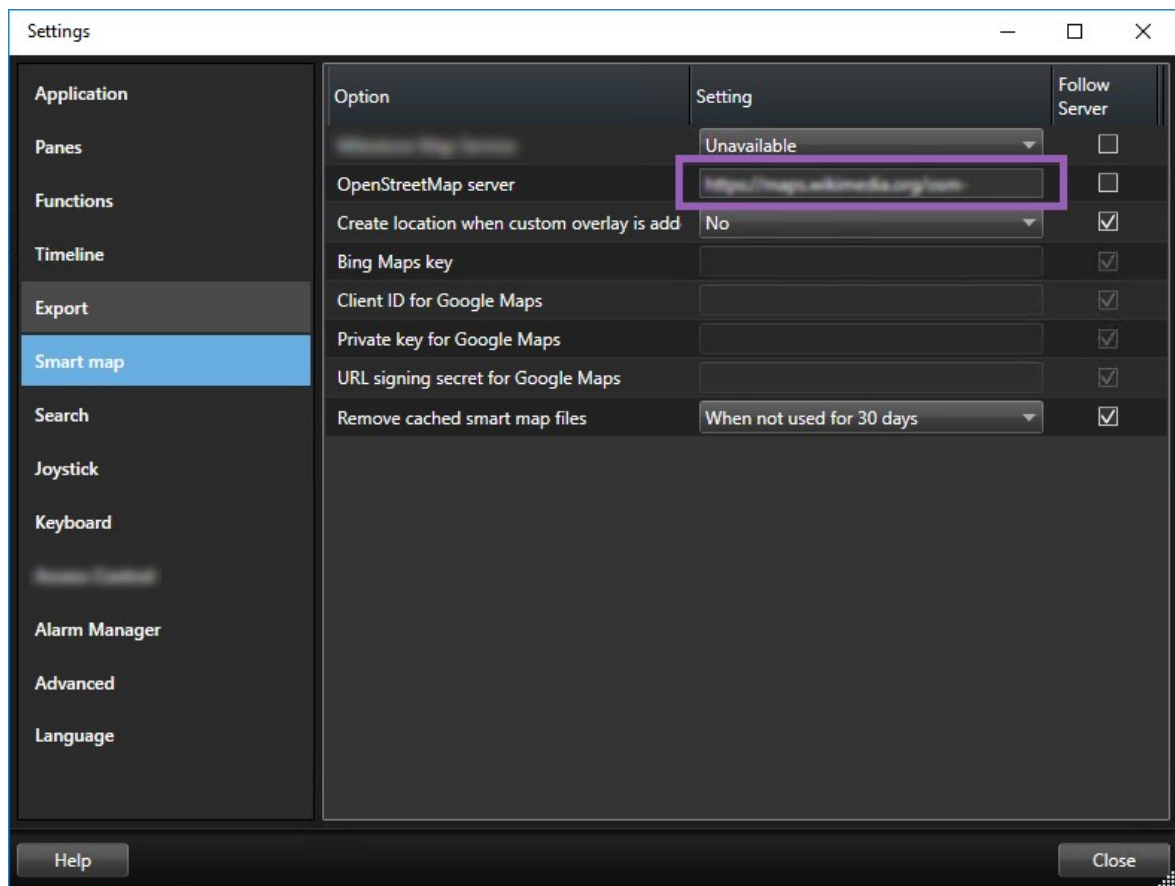
OpenStreetMapタイルサーバーの変更

要件

サーバー側の指定タイルサーバーに編集ロックがかかっている場合、このフィールドはグレー表示となり、サーバーアドレスの変更は不可能になります。この機能をXProtect Management Clientで有効にしたい場合は、システム管理者に連絡してください。

手順：

1. グローバルツールバーで**[設定とその他]** 、次に**[設定]**  を選択します。



2. 左側のセクションで**スマートマップ**をクリックします。

3. **OpenStreetMap**サーバーフィールドで以下のいずれかを実行します。
- サーバーアドレスを入力します。フィールドがグレー表示になっている場合は、サーバー側でロックされています
 - サーバー側の指定サーバーを使用するには、**サーバーに従う**チェックボックスを選択します
4. **[閉じる]**をクリックします。次回スマートマップを読み込むと、指定したOpenStreetMapサーバーが使用されます。



サーバーアドレスが指定されていない場合や、サーバーアドレスが無効な場合は、OpenStreetMapを地理的背景として使用することはできません。

スマートマップでレイヤーを表示または非表示する

表示したいものに応じて、スマートマップ上のレイヤーをオン/オフにできます。

スマートマップのレイヤー

スマートマップには複数のレイヤーがあります。各レイヤーには異なる要素が含まれています。

スマートマップレイヤー上の要素は非表示にすることができます。この機能を使用すると、特定のエレメントにフォーカスしたり、スマートマップ上の表示を簡素化したりすることができます。

レイヤー	要素
システム要素	カメラとその他のデバイス。リンクとロケーション。
カスタムオーバーレイ	ビットマップ画像、CAD図面、およびシェープファイル。
地理的背景	基本的な世界地図または以下のサービスのいずれか: • Bing マップ • Google マップ • Milestone Map Service • OpenStreetMap



Bing MapsとGoogle Mapsは、システム管理者がXProtect Management Clientで有効にしている場合に限り、地理的背景として使用できます。詳細については、[328 ページの地理的背景](#)をご参照ください。

レイヤーの順番

それぞれ同じタイプのシステム要素はすべて、同一レイヤーにあります。例えば、カメラはすべて、同じレイヤーにあります。カメラレイヤーを非表示すると、すべてのカメラが非表示になります。上から順に、システムエレメントのレイヤーは、次の順に配列されています：ロケーション、カメラ、リンク、地理的背景。この順番を変更することはできません。

地理的背景は、スマートマップ内で常に一番下のレイヤーに位置しています。異なる地理的背景の間を切り替えることはできますが、一度に1つの地理的背景しか選択することはできません。

カスタムオーバーレイは、個別のレイヤーとして追加され、スマートマップに追加された順に積み重ねられます。順番を変更するには、マップのデフォルト設定を構成します。

例

都市計画では、それぞれの市境を示すシェープファイルと市内の全ての主要道路を含むシェープファイルがあります。この計画では、レイヤーの順番を変更することにより、道路が市境の上に表示されるようにすることができます。こうすることにより、市内のどこにカメラがあるかを把握することができ、また、ズームインして特定のカメラが配置されている番地を表示することができます。

スマートマップ上のレイヤーを表示または非表示にする

地理的背景を含め、スマートマップ上のレイヤーを表示または非表示にすることができます。これは、たとえば、スマートマップ上の特定の要素に焦点を当てたい場合や、スマートマップに表示される内容を簡素化したい場合に便利です。

1. スマートマップを選択します。
2. ツールバーで、 **レイヤーとカスタムオーバーレイを表示または非表示にする**をクリックします。
3. **システム要素**と**カスタムオーバーレイ**レイヤーを表示または非表示にするには、チェックボックスを選択又は選択解除します。



システムエレメントレイヤーを非表示にすると、レイヤーを再度表示するまですべてのマイクがミュートされます。手動で消音にしたマイクは消音のままになります。

4. **地理的背景**レイヤーを非表示にするには、**なし**を選択します。

地理的背景レイヤーが非表示になっている場合でも、地理参照はスマート マップに適用されます。



地理的背景が非表示の場合であっても、例えば、空間参照が含まれる新しいシェープファイルを追加した場合、その空間参照を用いてファイルがマップ上に配置されます。

スマートマップのデフォルト設定を指定する

ビューにスマートマップを追加して、オーバーレイ、カメラ、リンクが追加された後、カスタムオーバーレイのデフォルト設定を指定できます。カスタムオーバーレイを削除してクリーンアップすることもできます。

手順：

1. **設定**をクリックします。
2.  **デフォルト設定の管理**をクリックします。
3. 以下のいずれかを実行します。
 - オーバーレイを表示または非表示にするには、チェックボックスを選択または選択解除します
 - 並べ替えを行うには、オーバーレイ前部のドラッグハンドルを使い、オーバーレイをリスト内の新しい位置にドラッグします。レイヤーはリスト内で上から順に並べられます。
 - オーバーレイを削除するには、ポインターをカスタムオーバーレイ上に移動し、**削除**をクリックします。
4. **[保存]**をクリックします。

カスタムオーバーレイの追加、削除および編集

カスタムオーバーレイ

XProtect Smart Clientではスマートマップ上のカスタムオーバーレイとして、次の種類のファイルを追加することができます。

- **シェープファイル** - 点、線、多角形などの地理空間ベクトルデータ、および壁、道路などマップ上のオブジェクトを表す属性、または川や湖などの地理的特徴を含むことができます。例えば、ズームイン時とズームアウト時に拡大縮小がしやすく、CAD図面またはビットマップ画像よりもファイルのサイズが小さいので、都市計画事務所や管理事務所などは、よくシェープファイルを利用します。
- **CAD** - コンピュータ支援設計（CAD）図面は、シェープファイルのように、座標系や空間参照を使って正確な地理コンテキストを提供することができるので、スマートマップのオーバーレイとして便利です。例えば、あるロケーションの詳細な航空地図または道路地図を使うことができます。
- **画像** - 建物の間取り図などの画像ファイルがある場合、スマートマップ上のオーバーレイとして追加することができます。次のタイプの画像ファイルを使用できます：PNG、BMP、GIF、JPG、JPEG、PHG、TIF、TIFF



カスタムオーバーレイを見やすくするために、他のタイプのレイヤーを一時的に非表示にすることができます。333 ページのスマートマップのレイヤーをご参照ください。

カスタムオーバーレイおよびロケーション

131 ページのスマートマップ上でカスタムオーバーレイへ移動するで説明されているように、スマートマップにすでに追加したカスタムオーバーレイへすばやくジャンプできます。ただし、カスタムオーバーレイとロケーションの接続は、設定で確立できます。つまり新しいカスタムオーバーレイを追加した場合はいつでも、XProtect Smart Client はマップ上の全く同じスポットにあるオーバーレイと同じ名前のロケーションを作成します。これで、カスタムオーバーレイのロケーションが、**ロケーションを選択**リストで使用可能になります。



オーバーレイとロケーションは、リンクしていません。例えば、オーバーレイを変更せずに、ロケーションの名前を変更したり削除することができ、またその逆もできます。



この機能を有効にするには、337 ページのカスタムオーバーレイへロケーションを追加する（スマートマップ）を参照してください。

スマートマップにカスタムオーバーレイを追加する

カスタムオーバーレイを追加することにより、スマートマップの詳細レベルを上げます。カスタムオーバーレイを追加すると、XProtect Smart Client は、そのオーバーレイと同じ名前のロケーションを作成します。

手順：

1. スマートマップを含むビューを選択し、**[設定]** をクリックします。

2.  **カスタムオーバーレイを追加** をクリックします。

- 追加するオーバーレイが地理参照されている場合、スマートマップの任意のロケーションをクリックします。XProtectSmartClientは、地理参照情報を使って、オーバーレイを正しい地理的位置に配置します。さらに、スマートマップは、デフォルトのズームレベルでオーバーレイを中心に位置させます。
- 追加するオーバーレイが地理参照されていない場合、地図上の要素を追加したい位置に移動し、スマートマップ上の点をクリックします。



オーバーレイを追加する前に、マップ上の希望するロケーションにズームインしておくことをお勧めします。そうすることにより、オーバーレイを正確に位置させやすくなります。

3. オーバーレイの名前を入力します。

4. 選択したファイルの種類に応じて：

- **画像** - 画像ファイルを選択し、**OK** をクリックします。
- **シェープファイル** - SHPファイルを選択します。PRJファイルがある場合は、**OK** をクリックするだけで、XProtectSmartClientは画像ファイルを見つけることができます。PRJがない場合、追加後に、手動でオーバーレイの位置を変更することができます。塗りつぶしや色付きの線を適用することもできます。色を追加することにより、スマートマップ上のシェープファイルをより目立たせることができます。
- **CAD** - DWGファイルを選択します。PRJがある場合、**OK** をクリックします。PRJファイルがない場合で、地理参照を使ってスマートマップ上にファイルを位置させたい場合、空間参照系識別子（SRID）を入力し、**OK** をクリックします。PRJファイルまたはSRIDがない場合、追加後に、手動でオーバーレイの位置を変更することができます。



オーバーレイの種類の詳細については、[335 ページのカスタムオーバーレイ](#)を参照してください。

カスタムオーバーレイへロケーションを追加する（スマートマップ）

場所が自動的にスマートマップのカスタムオーバーレイに追加されるようXProtect Smart Clientを構成できます。これにより、**ロケーションを選択** リストからカスタムオーバーレイに移動できるようになります。

手順：

1. グローバルツールバーで **[設定とその他]** 、次に **[設定]** を選択します .
2. **スマートマップ** タブへ移動します。
3. **カスタムオーバーレイ追加時にロケーションを作成** リストで、**はい** を選択します。
4. ダイアログを閉じると変更が保存されます。



詳細については、[336 ページのカスタムオーバーレイおよびロケーション](#)をご参照ください。

スマートマップ上のカスタムオーバーレイを削除する

1. スマートマップを含むビューを選択し、**[設定]** をクリックします。
2. ツールバーで、 **デフォルトの設定を管理する** をクリックします。
3. ポインターをカスタムオーバーレイ上に移動し、**削除** をクリックします。
4. **保存** をクリックすると、カスタムオーバーレイが削除されます。
5. オプション：カスタムオーバーレイ用のロケーションが作成されていた場合、これも削除してください。詳細については、[349 ページのスマートマップ上のロケーションの追加、削除および編集](#)をご参照ください。

シェープファイル上のエリアをより見やすくする（スマートマップ）

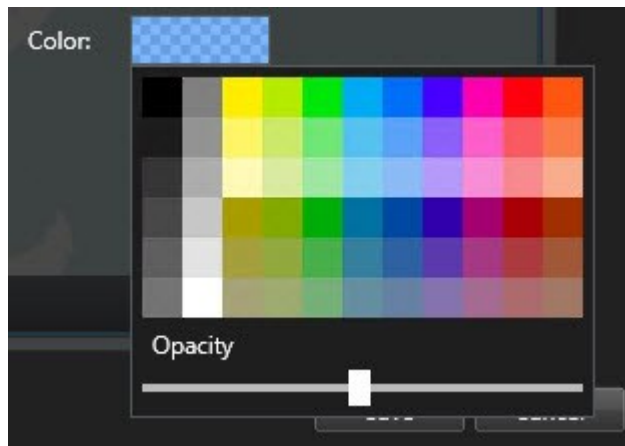


このトピックは多角形とシェープファイルを使用する場合のみ該当します。

スマートマップで近接した多角形から構成されるシェープファイルを使用したい場合は、お互いの多角形を個々に識別しなければならない場合があります。これを行うには、シェープファイルに対して選んだ色の不透明度を減少させます。多角形の枠線が目立つようになります。

手順：

1. [336 ページのスマートマップにカスタムオーバーレイを追加する](#)で説明されている手順に従います。
2. 色を選択する際には、希望の透明度になるまで**不透明度**スライダーを左にドラッグします。



3. **[保存]** をクリックします。

カスタムオーバーレイの位置、サイズ、または配置の調整をする

オーバーレイは、マップ上の別の位置に移動したり、拡大または縮小、回転させることができます。例えば、オーバーレイが地理参照されていない場合や、オーバーレイが地理参照されているのに何らかの理由で地理的背景ときれいに揃わない場合に便利です。

手順：

1. スマートマップを含むビューを選択し、**[設定]** をクリックします。
2. オーバーレイを右クリックし、**位置を編集**を選択します。
3. オーバーレイをサイズ変更または回転するには：
 - 次に角のハンドルをクリックしてドラッグします。
 - オーバーレイを特定のポイント周辺で回転するには、ピボットポイントをマップ上で動かします。次に角のハンドルをクリックしてドラッグします。



4. マップ上のオーバーレイを移動させる場合、オーバーレイをクリックしてドラッグします。
5. 変更を保存するには、**保存**をクリックします。

スマートマップ上のデバイスの追加、削除、編集

デバイスの実際の位置を、スマートマップに追加することができます。カメラを追加することにより、監視システムの概要を把握でき、異常事態への対応も早めることができます。例えば、発生中の事件について容疑者を追跡したい場合、マップ上のカメラをクリックして映像を確認することができます。

スマートマップにカメラを追加した後は、カメラアイコンの視界を調整することにより、実際のカメラの視界を反映させることができます。こうすることにより、特定地域を監視しているカメラを探しやすくなります。さらに、アイコンを選択してマップ上にカメラを表示することにより、マップ上のカメラの種類を特定しやすくなります。

スマートマップでは以下のタイプのデバイスを使用できます。

- カメラ
- 入力デバイス
- 出力デバイス
- マイク

スマートマップにデバイスを追加する

XProtect Management Clientでシステム管理者がデバイスの地理座標を指定した場合、デバイスを追加すると、自動的にスマートマップ上に配置されます。そうならない場合は、自分でデバイスを正確な地理的位置に配置しなければなりません。



システム管理者がデバイスの地理座標を指定した場合、XProtect Smart Clientユーザーは簡単にスマートマップ上でデバイスを見つけることができます。XProtect Smart Clientユーザーがこれを利用できるようにしたい場合は、システム管理者にお問い合わせください。

1. スマートマップを含むビューを選択し、**設定**をクリックします。

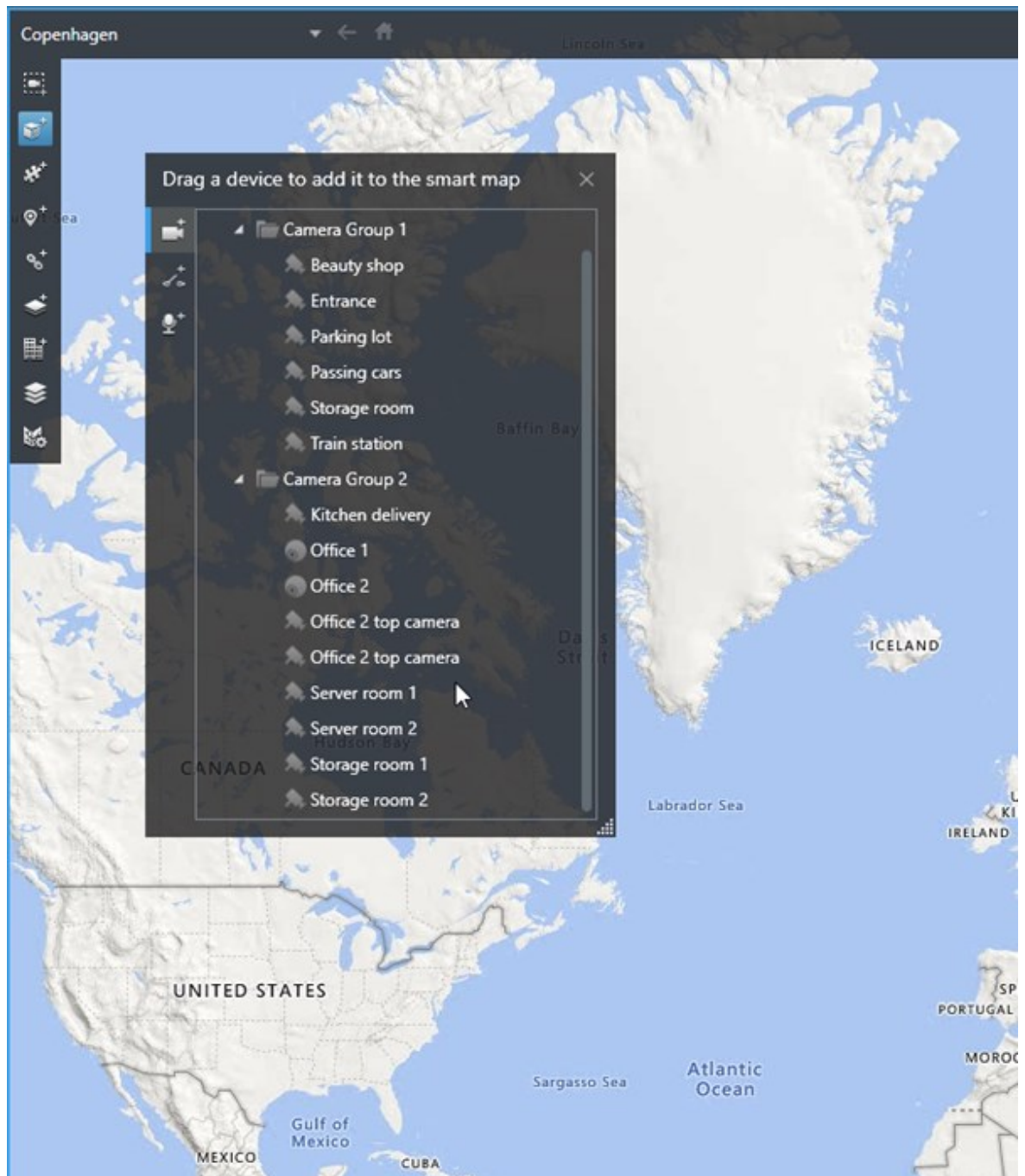
2. 個別のデバイスまたはデバイスのグループを追加するには：



デバイスを追加する前に、マップ上の場所にズームインしておくことをお勧めします。この機能を使うと、デバイスに地理座標が無い場合でも正確にそのデバイスを配置することができます。

- **システム概要**ウィンドウを展開して個別のデバイスまたはデバイスのグループを探し、スマートマップ上の表示させたい点までドラッグします。後からデバイスをドラッグして位置を変更することができます。
- スマートマップのツールバーで  **デバイスを追加**を選択し、デバイスのタイプを選択します。
 - 例：カメラの場合は、 **カメラを追加**を選択し、カメラを選択します。

- デバイスをスマートマップにドラッグします。



3. 変更を保存するには、[設定] をクリックして設定モードを解除します。

カメラの視野および方向を変更する

カメラがスマートマップに追加されると、カメラアイコンを調節することで視野および方向を変更できます。



マップでズームアウトする場合視界が表示されるまでズームインしなければならない場合があります。

1. 使用したいスマートマップが含まれているビューを選択します。
2. カメラアイコンを編集するには、**設定**をクリックします。
3. カメラアイコンをクリックします。

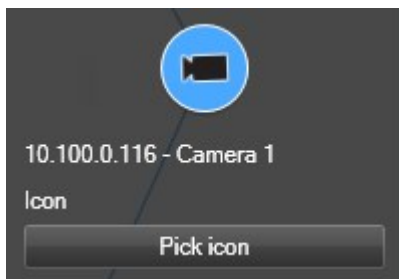


4. 回転ハンドルを使って、カメラを正しい方向に向けます。
5. 視野の幅、長さ、角度を調整するには、視野の先端にあるハンドルをクリック&ドラッグします。
6. 変更を保存するには、**[設定]**をクリックして設定モードを解除します。

デバイスアイコンを選択または変更する

使用しているデバイスの種類に一致するデバイスアイコンを選択できます。

1. 使用したいスマートマップが含まれているビューを選択します。
2. **設定**をクリックし、マップ上でデバイスアイコンをダブルクリックします。



3. **選択アイコン**をクリックし、デバイスのアイコンを選択します。
4. **設定**を再度クリックして変更を保存します。

デバイス情報を表示または非表示にする

スマートマップ上ではデバイスに関する情報を表示または非表示にすることができます。これは、マップ上のコンテンツを増やしたり減らしたりしたい場合などに便利です。

1. 使用したいスマートマップが含まれているビューを選択します。
2.  **レイヤーとカスタムオーバーレイを表示または非表示にする**をクリックします。
3. 情報を表示または非表示するには、チェックボックスを選択または選択解除します。

スマートマップからデバイスを削除する

不要なデバイス（物理的に除去されたデバイスや誤って追加されたデバイスなど）は削除できます。デバイスを削除すると、そのデバイスの位置情報（地理座標など）はVMS システムから削除されます。

要件

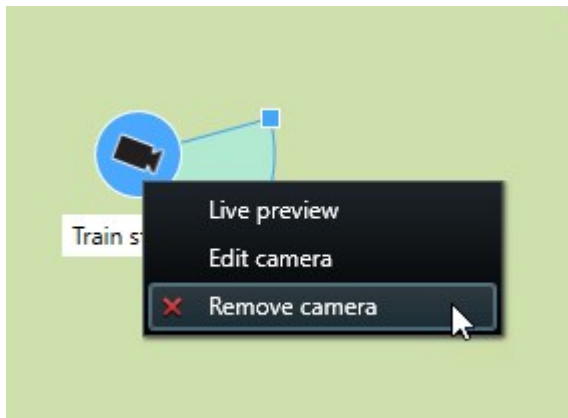
以下のためのユーザー権限は、XProtect Management Clientで有効にする必要があります。

- スマートマップの編集
- デバイスの編集

手順：

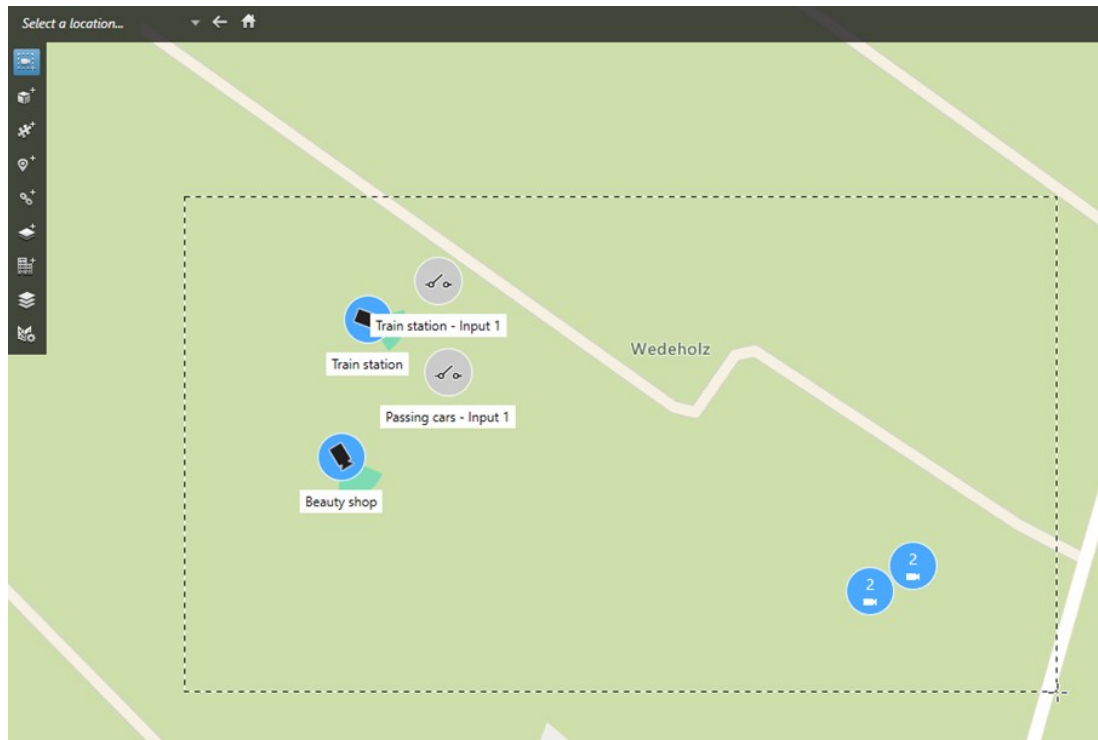
1. 削除したいデバイスまで移動します。
2. ワークスペースツールバーで、**セットアップ**を選択します。
3. 単一のデバイスを削除するには、そのデバイスを右クリックして**削除**をクリックします。

例：カメラの場合は、**カメラを削除**をクリックします。



4. 複数のカメラを削除するには：

1. スマートマップのツールバーで、 **複数のカメラを選択**をクリックします。



2. クリックしてドラッグし、複数のカメラを選択します。他のタイプのデバイス（入力デバイスなど）は選択肢に含まれていません。
 3. 右クリックして**カメラを削除**を選択します。
5. カメラではない複数のデバイスを削除するには：
1. スマートマップ上で、Ctrlを長押しします。
 2. Ctrlを押している間に、削除したいデバイスをクリックします。
 3. 選択したデバイスの1つを右クリックし、削除を選択します。
6. もう一度**【設定】**を選択して設定モードを終了し、変更を保存します。



単一のデバイスを選択し、キーボードの**DELETE**を押して単一のデバイスを削除することもできます。

スマートマップ上のリンクの追加、削除および編集

スマートマップ上のリンク

スマートマップ上のロケーションに移動したり、XProtect Smart Clientの静的マップに移動するリンクを追加したりできます。これにより、迅速にロケーションにアクセスしたり、別のビューに変更することなく別のタイプのマップを表示したりすることができます。他のスマートマップへはリンクできません。詳細については、[327 ページのマップとスマートマップの違い](#)をご参照ください。

リンクでは次のように場所とマップが表示されます。

- ロケーションへのリンクでは、現在のビュー内のロケーションが表示されます。以前表示したロケーションに戻るには、スマートマップのツールバーにある  **戻る** をクリックします
- マップへのリンクでは、サブウィンドウにマップが表示されます。これにより、両方のタイプのマップに同時にアクセスすることができます。サブウィンドウでは、マップを表示して操作できますが、カメラの追加などの変更を行うことはできません。



リンクを色分けしたり、マップ上でより見やすくする必要がある場合は、リンクの色を指定できます。デフォルトでは、スマートマップのロケーションへのリンクは青で、従来のマップへのリンクは赤になっています。他の色を使用する場合は、リンクのタイプごとに同じ色を使用することをお勧めします。同じ色を使用することで、レイヤーを使用してマップ上のアイテムをフィルターするなどの場合にリンクの区別がよりつきやすくなります。

スマートマップのロケーションまたはマップへリンクを追加する

これにより、すばやくロケーションにアクセスしたり、別のビューに変更することなく別の種類のマップを表示することができます。

手順：

- スマートマップを含むビューを選択し、**[設定]** をクリックします。
- リンクを追加するマップ上のポイントに移動します。
- マップツールバーで、 **[リンクを追加]** をクリックして、リンクしたいマップ上のポイントをクリックします。
- スマートマップのロケーションまたはマップにリンクするかどうかを指定し、**追加** をクリックします。

5. リンクの名前を入力します。



表示スタイルとして**アイコンとテキスト**を選択した場合は、スマートマップ上のリンクのタイトルを表示できます。通常、名前によりリンク先が示されます。

6. **宛先**フィールドでリンク先のマップまたはロケーションを選択します。
7. **表示スタイル**フィールドでは、名前とリンクアイコンを表示するか、マップ上のリンクアイコンのみを表示するかを指定します。
8. オプション：リンクの色を指定するには、**色**をクリックします。

スマートマップ上のリンクを編集または削除する

スマートマップにリンクが追加されると、編集や削除することができます。

手順：

1. ワークスペースツールバーで、**セットアップ**を選択します。
2. リンクを編集するには、リンクを右クリックして、**[リンクを編集]**を選択します。
3. リンクを削除するには、以下のいずれか1つを実行します。
 - リンクを右クリックして**リンクを削除**を選択します。
 - リンクを選択し、キーボードの**DELETE**キーを押します。

スマートマップ上のロケーションの追加、削除および編集

スマートマップ上のロケーション

関心のあるスマートマップ上のポイントにロケーションを作成することができます。例えば、本社や出張所のロケーションを作成することができます。ロケーションは環境の全体像を示すだけでなく、スマートマップのナビゲーションにも役立ちます。



設定によってはカスタムオーバーレイを追加する場合、XProtect Smart Clientがオーバーレイと同じ名前のロケーションを追加することがあります。このことにより、例えば、ズームアウト時に、スマートマップ上のオーバーレイに移動しやすくなります。ただし、オーバーレイとロケーションは、リンクしていません。例えば、オーバーレイを変更せずに、ロケーションの名前を変更したり削除することができ、またその逆もできます。詳細については、[335 ページのカスタムオーバーレイの追加、削除および編集](#)をご参照ください。

スマートマップのホームロケーション

ホームロケーションはそれを設定したビューアイテムに対して特有のものです。異なるビューアイテムに、異なるホームロケーションを設定できます。ビューアイテムにホームロケーションが指定されていない場合、ビューアイテムは、使用している背景の種類に関わらず、全世界を表示します。これは、ホームロケーションを削除した場合も同様です。

スマートマップで作業している間は、 **ホーム**をクリックするとホームロケーションに戻ります。これは、ビューでスマートマップのリセットするのと同様です。ビューアイテムの設定をデフォルトに戻すと、システムにより、閲覧したロケーションの履歴は削除されます。



新しいホームロケーションを選択した場合、ビューアイテムを使用する全員が影響を受けます。誰かが別のロケーションをホームとして設定していた場合、その人の設定を変更することになります。

スマートマップにロケーションを追加する

関心のある場所の履歴を残すために、スマートマップ上ですばやく検索できるロケーションを追加することができます。

手順：

1. スマートマップを含むビューを選択し、**[設定]**をクリックします。
2. 必要な場合は、スマートマップ上でロケーションを追加したいポイントを、パンまたはズームインします。
3. ツールバーで、 **場所を追加**をクリックし、スマートマップ上のポイントをクリックします。
4. そのロケーションに名前を付けて、必要に応じて以下の詳細を追加します。
 - 誰かがスマートマップ上で該当場所に行った際に適用されるズームレベルを指定する
 - ロケーションアイコン用の色を選択します。ロケーションの色分けは、例えば、ロケーションのタイプを見分ける際に便利です。これは、ロケーションの機能やタイプ、または優先度を示す基準となります。
 - オプション：その場所をホームロケーションにします。スマートマップはこのロケーションが中心となり、 **ホーム**をクリックすると、デフォルトのズームレベル設定を適用します

スマートマップ上のロケーションを追加、編集または削除する

スマートマップにロケーションが追加されると、例えば、ホームロケーションの削除のような、ロケーションの削除や設定の編集ができます。

手順：

1. ワークスペースツールバーで、**セットアップ**を選択します。
2. ロケーションを編集するには、該当するロケーションを右クリックして**ロケーションを編集**を選択します。
3. ロケーションを削除するには、以下のいずれか1つを実行します。
 - ロケーションを右クリックして、**ロケーションを削除**を選択します。
 - ロケーションを選択し、キーボードの**DELETE**を押します。

ロケーション同士のリンク

例えば、異なるロケーション同士の一連のリンクを作成することにより、巡回経路を作成することができます。ロケーションAからロケーションBへのリンクを作成し、ロケーションBからロケーションCへのリンクを作成する、といった具合にリンクを作成していきます。詳細については、[348 ページのスマートマップ上のリンクの追加、削除および編集](#)をご参照ください。

スマートマップへの建物の追加、削除および編集

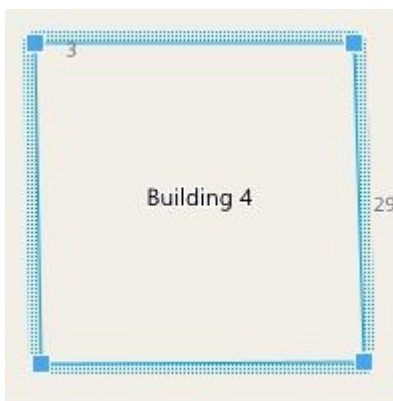
スマートマップ上の建物

スマートマップ上の建物は4つの端のあるポリゴンとして描写されます。一度追加されると、建物の実際の形状と位置に合うよう、面積、アングル、サイズを調整することができます。

もし建物に複数の階がある場合、まず階を追加し、そしてそれぞれの階に対してカメラを追加します。これにより、各階にカメラをナビゲートできます。

建物のインテリアを描写しやすくするために、各階に平面図をカスタムオーバーレイとして追加することが可能です。詳細については、[356 ページの平面図を階に追加（スマートマップ）](#)をご参照ください。

建物は、**Building 4**といったように自動的に名前が振り分けられます。Milestoneは名前を変更することを推奨します。これにより、他の建物と区別しやすくなります。



スマートマップに建物を追加する

建物の内観を解説する目的でイメージやシェープファイルを使用する代わりに、建物のアウトラインを追加することができます。後から、建物の実際の形状と位置に合うよう、面積、アングル、サイズを調整することができます。

要件

スマートマップの編集は、お使いのXProtect Management ClientにおけるSmart Clientプロファイルで有効でなければなりません。

手順：

1. ワークスペースツールバーで、**セットアップ**を選択します。
2. スマートマップ上で建物を配置したい場所に移動します。
3.  をクリックし、スマートマップ上で関連する位置にカーソルを合わせます。
4. もう一度クリックします。スマートマップに長方形が追加されます。ズームアウトすると、ズームレベルが自動的に引き上げられます。
5. 必要な場合は、コーナーハンドルを用い、実際の建物の形状と位置を調整してください。
6. もう一度 **[設定]** を選択して設定モードを終了し、変更を保存します。

スマートマップ上の建物を編集する

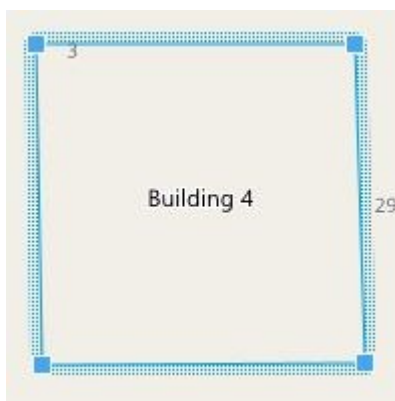
一度建物がスマートマップ上に追加されると、建物の名前の変更、位置、サイズ、面積、アングルの調整が可能になります。さらに、階の追加、削除、並べ替えが可能になります。

要件

スマートマップの編集は、お使いのXProtect Management ClientにおけるSmart Clientプロファイルで有効でなければなりません。

手順：

1. スマートマップ上で建物まで移動します。必要な場合、ズームインします。
2. ワークスペースツールバーで、**セットアップ**を選択します。
3. 建物内の任意の場所をクリックします。青の枠線は建物を編集できることを示します。



4. 建物の名前を変更するには、右側のペインの一番上でをクリックします。名前を変更し、をクリックします。キャンセルするには**Esc**を押します。
5. 角の調整には、新しい位置までクリック&ドラッグします。
6. 階を追加または削除するには、[354 ページの建物の階を追加または削除する](#)を参照してください。
7. もう一度**[設定]**を選択して設定モードを終了し、変更を保存します。

スマートマップ上の建物を削除する

建物が不要になった場合は、削除できます。次回、誰かがXProtect Smart Clientにログインまたは再読み込みすると、削除された建物が消えます。

要件

スマートマップの編集は、お使いのXProtect Management ClientにおけるSmart Clientプロファイルで有効でなければなりません。

手順：

1. スマートマップを開きます。
2. ワークスペースツールバーで、**セットアップ**を選択します。
3. 以下のいずれか1つを実行します。
 - 建物を右クリックし、**[削除]**を選択します
 - 建物を選択し、キーボードの**DELETE**キーを押します



建物を削除する別の方法： **デフォルト設定の管理**で、**建物**セクションまで下にスクロールし、建物の上にカーソルを置いた状態で**削除**をクリックしてから**保存**をクリックします。

建物の階とデバイスの管理（スマートマップ）

建物のデバイスと階

建物にデバイスを追加すると、階が指定されていない限り、デバイスはデフォルトの階に関連付けられます。その他の場合、デバイスは1番目のレベルに関連付けられます。ただし、この関連付けを変更し、デバイスをその他の階、あるいは一度に複数の階と関連付けることも可能です。

追加情報

- 階が選択されていなければ、すべての階でデバイスを表示できます。
- すでに配置されているデバイスの上に建物を追加すると、デフォルトで、デバイスはすべての階に関連付けられます。

- すでに配置されているデバイスが含まれるように建物の境界線を拡大すると、デバイスは選択されている階にのみ関連付けられます。



デバイスをカメラを含まないように建物の境界線を調整すると、デバイスは建物と関連付けられなくなります。

建物の平面図とデバイス

建物のすべての階におけるインテリアの描写をしやすくするために、各階に平面図をカスタムオーバーレイとして追加することが可能です。平面図があれば、デバイスの正確な配置が容易になります。詳細については、[356 ページの平面図を階に追加（スマートマップ）](#)をご参照ください。

配置したデバイスが関連付けられるのは階であり、カスタムオーバーレイではありません。デバイスとカスタムオーバーレイを含む建物内の階を削除すると、デバイスは地理的位置にはとどまりますが、階との関連付けはなくなります。ただし、カスタムオーバーレイは階と一緒に削除されます。

階を並べ替えた場合、デバイスとカスタムオーバーレイは両方とも、その階にとどまります。デバイスはそれぞれの地理的位置を維持します。

建物の階を追加または削除する

スマートマップに建物を追加したあと、階数を追加することができます。一番はじめの階はナンバー**1**として関連付けられ、次は**2**、その後も順に続きます。最終的には、それぞれの階の名前を変更し、並べ替えることができます。

要件

スマートマップの編集は、お使いのXProtect Management ClientにおけるSmart Clientプロファイルで有効でなければなりません。

手順：

- スマートマップ上で建物まで移動します。必要な場合、ズームインします。
- 建物を選択します。右側にペインが表示されます。
- [設定] ボタンをクリックして設定モードに移ります。

- 階を追加  クリックします。

- 階の名前を編集するには、以下を実行します

- 点線  をクリックし、**名前を変更**を選択します。
- 新しい名前を入力します。

- 階を削除するには、点線  をクリックし、**削除**を選択します。この階のデバイ

ス是个々の地理的位置にとどまりますが、階との関連付けはなくなります。

7. **設定**をクリックし、設定モードを終了します。

建物内の階の並べ替え（スマートマップ）

要件

スマートマップの編集は、お使いのXProtect Management ClientにおけるSmart Clientプロファイルで有効でなければなりません。

手順：

1. スマートマップ上で建物まで移動します。必要な場合、ズームインします。
2. 建物を選択します。右側に建物の階を示すペインが表示されます。
3. ワークスペースツールバーで、**セットアップ**を選択します。

4. 点線で囲まれたエリア  を正しい位置にクリック&ドラッグします。関連付けのあるデバイスとカスタムオーバーレイは、同じ階にとどまります。
5. もう一度 **[設定]** を選択して設定モードを終了し、変更を保存します。

建物のデフォルトの階を設定する（スマートマップ）

もし、例えば地下など、建物内の特定の階が他の階より関連性が強い場合、その階をデフォルトの階として設定することが可能です。スマートマップを開き、建物に移動すると、自動的にデフォルトの階が選択されます。

もし建物からカーソルを離してまた戻った場合、XProtect Smart Clientは、その離れた階まで戻ります。

要件

スマートマップの編集は、お使いのXProtect Management ClientにおけるSmart Clientプロファイルで有効でなければなりません。

手順：

1. スマートマップ上で建物まで移動します。必要な場合、ズームインします。
2. 建物を選択します。右側に建物の階を示すペインが表示されます。デフォルトの階はハイライトで表示されます。

3. **[設定]** をクリックして設定モードに移ります。アスタリスク  に留意してください。それは、どこが現在のデフォルトの階かを示すものです。

4. デフォルトの階として設定したい階で、点線  をクリックします。
5. **デフォルトとして設定**を選択します。
6. もう一度 **[設定]** を選択して設定モードを終了し、変更を保存します。

平面図を階に追加（スマートマップ）

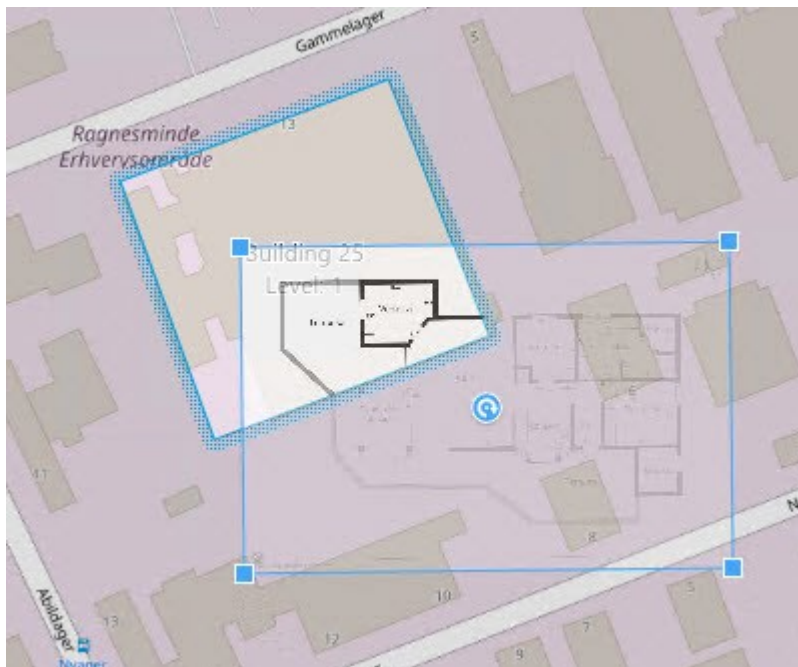
カスタムオーバーレイの追加が可能です。例えば、平面図イメージを建物の階に追加することで、建物内のその階のインテリアを描写するのに役立ちます。階をナビゲートするにおいて、関連付けられた平面図が自動的に表示されます。

要件

スマートマップの編集は、お使いのXProtect Management ClientにおけるSmart Clientプロファイルで有効でなければなりません。

手順：

1. スマートマップ上で建物まで移動します。必要な場合、ズームインします。
2. 建物を選択します。右側に建物の階を示すペインが表示されます。
3. ワークスペースツールバーで、**セットアップ**を選択します。
4. カスタムオーバーレイを追加したい階を選択します。
5. 左上コーナーで、 **カスタムオーバーレイを追加**をクリックし、その後建物のアウトライン内をクリックします。ウィンドウが表示されます。
6. カスタムオーバーレイのタイプを選択します。詳細については、[335 ページのカスタムオーバーレイ](#)をご参照ください。
7. コンピュータ上でファイルが保存されている場所を選択し、**続行**をクリックします。カスタムオーバーレイは青のアウトラインで表示されます。



8. それを建物のアウトラインまでドラッグし、ピボットポイントとコーナーハンドルを用いてカスタムオー

バーレイを回転、および位置を変更します。

9. 上部のバーで、**保存**をクリックします
10. もう一度**【設定】**を選択して設定モードを終了し、変更を保存します。

平面図の削除（スマートマップ）

建物内の階上の平面図が変更された場合は、その平面図を描写するカスタムオーバーレイを置き換えなければならない可能性があります。Milestoneは、新しい平面図を追加する前に以前の平面図を削除するよう推奨しています。

要件

スマートマップの編集は、お使いのXProtect Management ClientにおけるSmart Clientプロファイルで有効でなければなりません。

手順：

1. スマートマップ上で建物まで移動します。必要な場合、ズームインします。
2. 建物を選択します。右側に建物の階を示すペインが表示されます。
3. ワークスペースツールバーで、**セットアップ**を選択します。
4. カスタムオーバーレイがある階を選択します。
5. カスタムオーバーレイ上のどこかを右クリックし、**カスタムオーバーレイを削除**を選択します。
6. もう一度**【設定】**を選択して設定モードを終了し、変更を保存します。



平面図の位置やサイズを変更するには、カスタムオーバーレイを右クリックし、**位置を編集**を選択します。これで、カスタムオーバーレイの移動、回転、そしてサイズの変更が可能になりました。

建物にデバイスを追加する（スマートマップ）

建物を作成して階を追加した後、デバイスを建物に追加できます。デフォルトの階を指定すると、デバイスはその階に紐付けられます。その他の場合、デバイスは1番目のレベルに関連付けられます。階は変更が可能で、建物内のどの階にでもデバイスを関連付けることができます。

要件

スマートマップの編集は、お使いのXProtect Management ClientにおけるSmart Clientプロファイルで有効でなければなりません。

手順：

1. スマートマップ上で建物まで移動します。必要に応じてズームインします。
2. ワークスペースツールバーで、**セットアップ**を選択します。
3. デバイスを追加するには、このアイコンをクリックします。

例：カメラの場合は、 **[カメラを追加]** をクリックします。

4. デバイスを配置する場所を再度クリックします。ウィンドウが表示されます。
5. デバイスを選択して、**OK**をクリックします。追加する各デバイスに対し、ステップ3～5を繰り返します。
6. デバイスを単一または複数の階と関連付けるには、デバイスを右クリックし、必要な階を選択します。
7. もう一度**[設定]**を選択して設定モードを終了し、変更を保存します。



階を選択しなかった場合は、すべての階でデバイスが表示されます。

マップからスマートマップへの移行

マップからスマートマップへの移行

マップ移行ツールを使用して、数回の手順でマップ機能をスマートマップに移行することができます。マップ移行ツールを使用すると、マップ機能から既存のマップオーバーレイをスマートマップに転送できるため、手動でデバイスをスマートマップに追加する必要がありません。スマートマップは従来のマップよりも高度な機能を備えています。スマートマップは高度なマルチサイト設定でGoogle MapsやBing Mapsといったマップサービスと接続することができ、一元的な位置から複数のロケーションをモニターすることができます。

スマートマップを使用すると次のことができます。

- 既存のオフラインマップをGoogle Maps、Bing Maps、OpenStreet Map、または MilestoneMap Serviceなどのオンラインマップに接続することができます。
- お客様のMilestone XProtect VMSがMilestone Federated Architecture設定の一部である場合、XProtect Smart Clientで一つの一元化されたマップから他のロケーションのマップにアクセスできます。
- ビジュアルフィードバックを直ちに取得：アラームがトリガーされるとスマートマップ上に正確なアラームのロケーションが表示されるため、状況をすばやく評価して対応することができます。

マップ移行ツールを用いたマップからスマートマップへの移行

マップ移行ツールを使用してマップのオーバーレイとデバイスの位置を既存のマップからスマートマップへ移行します。詳細については、[358 ページのマップからスマートマップへの移行](#)をご参照ください。

マップの移行プロセスでは次のことをする必要があります。

- ビューにスマートマップを追加する。
- マップオーバーレイをスマートマップを追加する。
- マップオーバーレイをスマートマップにインポートする。
- マップからすべてのデバイスをインポートするか、マップオーバーレイのみを追加する。
- マップオーバーレイのデバイスのみを保持するか、またはマップオーバーレイの画像とデバイスの両方を保持する。

前提条件：

- Milestoneは、お客様が意図せずスマートマップ上のデバイスを移動してしまう事態を避けるために、マップ移行を開始する前に設定をバックアップすることをお薦めしています。
- 新しいスマートマップを設定するには、無料のビューアイテムを使用して少なくとも1つのビューを設定する必要があります。
- XProtect Smart Clientの設定モードにアクセスできる権限が必要です。

ビューにスマートマップを追加する

1. XProtect Smart Clientの上部リボンで設定モードに入ります。
2. **[ビュー]**ペインで**[システムオーバービュー]**に移動し、**[スマートマップ]**を見つけ、ビューヘドラッグします。

マップオーバーレイをスマートマップを追加する

1. スマートマップの左側のツールバーで、**[カスタムオーバーレイの追加またはマップのインポート]**をクリックします。
2. マップオーバーレイを追加したいスマートマップの位置にマウスカーソルを合わせ、その場所をクリックします。
3. **[カスタムオーバーレイの追加]**ウィンドウで、オプションでマップオーバーレイに名前を付け、**Maps**を選択します。
4. ドロップダウンリストの下に表示される利用可能なマップのリストで、追加するマップを選択します。その後、マップのインポートが開始されます。マップの名前を入力しなかった場合、マップオーバーレイには自動的にマップオーバーレイのファイル名と同じ名前が付与されます。

マップオーバーレイをスマートマップにインポートする

1. 表示されたウィンドウで、情報メッセージを確認します。先に進む前に、システム設定が既にバックアップされているか確認してください。
2. **[続行]**を選択して、マップオーバーレイをインポートします。
3. インポートしたマップオーバーレイを地理的に正しいコンテキストでスマートマップに配置します。

4. マップオーバーレイのサイズを変更したり回転させたりして、スマートマップの適正な位置に合うように、あるいはビルのレイアウトに合うように調整します。
5. マップオーバーレイのサイズや位置が満足できるものになった後、変更を保存します。

マップからすべてのデバイスをインポートするか、マップオーバーレイのみを追加する

1. **[デバイスのインポート]** ウィンドウ：

- マップオーバーレイのみをインポートする場合は、**[オーバーレイのみ追加]** を選択します。Windowsのデスクトップ通知によりデバイスが全く追加されていないことが確認されます。これでデバイスを追加することなく、オーバーレイをスマートマップに移行できました。
 - マップオーバーレイとマップに関連するデバイスの両方をインポートするには、**[デバイスのインポート]** を選択します。これにより、マップオーバーレイに関連するすべてのデバイスをスマートマップに追加できます。
2. このマップオーバーレイに関連したデバイスを既にインポートしていた場合は、次のメッセージが表示されます。
- 「デバイスの位置を変更しない場合は、**位置を保持**を選択してください。」
 - または、「マップオーバーレイの新しい位置を合わせるには、**位置を更新**を選択してください。」

マップオーバーレイのデバイスのみを保持する、またはマップオーバーレイの画像とデバイスの両方を保持する

このタスクは、前のステップで**[デバイスをインポート]**を選択した場合にのみ関係があります。

1. **[画像オーバーレイを保持]** ウィンドウで、**[デバイスのみを保持]** または **[画像とデバイスを保持]** を選択します。
- **[デバイスのみを保持]** を選択した場合、マップオーバーレイはスマートマップから取り除かれ、マップオーバーレイのデバイスのみがスマートマップに追加されます。
 - **[画像とデバイスを保持]** を選択した場合は、マップオーバーレイと関連するデバイスの両方がスマートマップに追加されます。

選択を終えると、Windowsデスクトップ通知によりデバイスを追加したことを確認する通知が表示されます。

各マップオーバーレイに対してこの手順を繰り返し、スマートマップに追加します。スマートマップ上の既存のデバイスをアップデートする場合など、必要に応じて、同一のマップオーバーレイをスマートマップに再度追加できます。

FAQ: マップ

マップに使用できる画像ファイルの形式とサイズは？

マップにはbmp、gif、jpg、jpeg、png、tif、tiff、およびwmpのフォーマットのファイルを使用できます。

画像ファイルサイズと解像度は、10MGおよび10メガピクセル以下にすることをお勧めします。大きな画像ファイルを使用すると、XProtect Smart Clientのパフォーマンスが低下することがあります。20MBまたは/および20メガピクセル、またはその両方以上の画像は使用できません。

マップは、グラフィックファイルのプロパティに基づき、Microsoftの標準に従って、XProtect Smart Clientに表示されます。マップが小さく表示される場合は、ズームインできます。

マップの背景を変更しても、カメラの相対位置を保つことはできますか？

可能。マップを更新するが、その中のすべての情報を保持する必要がある場合は、マップの背景だけを交換できます（マップの編集に必要な権限がある場合）。これにより、新しいマップで、カメラや他のエレメントを同じ相対位置に保持できます。マップを右クリックするか、**プロパティ**ペインで、**マップの背景を変更する**を選択します。

FAQ：スマートマップ

スマートマップからデバイスを削除することはできますか？

可能。[346 ページのスマートマップからデバイスを削除する](#)をご参照ください。

建物内の複数のレベルで同じデバイスを表示することはできますか？

はい。まず、1つのレベルにデバイスを配置してください。次に、デバイスを右クリックして**複数レベルで [デバイス] を表示**を選択し、そのデバイスを関連付けたいレベルを追加指定します。

ビルのアウトラインを円形に合わせることはできますか？

スマートマップでは、ビルのアウトラインは正方形です。コーナーハンドルでビルの形を調整して実際のビルをカバーするようMilestoneではおすすめています。

ビルの平面図に使えるファイルのタイプは何ですか？

対応するカスタムオーバーレイであれば、どれでも使用できます。

- Shapefiles
- CADの描画
- 画像

[335 ページのカスタムオーバーレイの追加、削除および編集](#)をご参照ください。

カスタムオーバーレイの最大サイズは？

カスタムオーバーレイの最大サイズは次のとおりです。

- CAD図面：100MB
- 画像：50MB
- シェープファイル：80MB



最大サイズは、**client.exe.config**ファイルで値を変更すると調整できます。システム管理者にご連絡ください。

同一のレベルに複数の平面図を追加できますか？

はい、同じレベルにいくつもの平面図を追加することができます（例：北ウィングと南ウィング1つずつ）。

建物内のデバイスがどのレベルにも関連付けられていない場合はどうなりますか？

その場合、デバイスはすべてのレベルで表示されます。

デバイスがエレベーター内にある場合などは、建物内のレベルとデバイスの関連付けを解除します。デバイスを建物に追加すると、そのデバイスは選択したレベルに自動的に関連付けられます。デバイスの関連付けを解除するには、セットアップモードでデバイスを右クリックし、**複数レベルで [デバイス] を表示**を選択して、どのレベルも選択されていないことを確認します。

平面図でビルを移動すると、平面図もそれに伴って移動しますか？

いいえ。平面図は元の地理的位置に留まり、セットアップモードだけで見えるようになります。平面図は手動で位置修正してください。

建物内でレベルを並べ替えると、デバイスはそのレベルにとどまりますか？

はい、デバイスは同じレベルのままになります。

建物を削除すると、平面図とデバイスはどうなりますか？

平面図は削除されますが、デバイスは残ります。

トラブルシューティング：スマートマップ

問題

スマートマップにデバイスが表示されていません

スマートマップにカメラやその他のデバイスが表示されていない場合、システム要素のレイヤーが非表示に設定されている可能性があります。有効にするには、[334 ページのスマートマップ上のレイヤーを表示または非表示にする](#)を参照してください。

デバイスがスマートマップに表示されません

スマートマップに1つ以上のデバイスが表示されるはずなのに表示されない場合は、デバイスが地理的な位置が定まっていない可能性があります。

この問題を解決するには次のいずれかを実行します：

- 階層表示されたデバイスのリストから、スマートマップにデバイスをドラッグしてください。このアクションは、ユーザープロファイルでデバイスの編集が有効になっている場合にのみ実行できます。
- または、XProtect Management Clientでデバイスプロパティの地理座標を指定するようシステム管理者に依頼してください

エラーメッセージと警告

マップの保存ができません。操作の一部または全部を実行できません。

XProtect Smart Clientでスマートマップに手動でデバイスを追加しようとしています。XProtect Corporate 2017 R2 インストールに対してXProtect Smart Client 2017 R1を実行していることが原因です。XProtect Smart Clientはイベントサーバーでデバイスの位置を探しますが、XProtect Corporateの2017 R2以降のバージョンではマネジメントサーバーに地域座標が保存されています。

問題を解決するには、XProtect Smart Clientを2017 R2以降のバージョンにアップグレードします。

このデバイスはまだスマートマップに配置されていません

検索結果が選択されていますが、関連デバイスがプレビューエリアのスマートマップに表示されていません。デバイスが位置情報と併せて配置されていないためです。この問題を解決するには、以下のいずれかの処理を行ってください。

- スマートマップに移動してデバイスを追加します。[341ページのスマートマップにデバイスを追加する](#)を参照
- XProtectManagementClientでデバイスプロパティの地理座標を指定するようにシステム管理者に要求してください。

ログインスクリプトの作成

ログインスクリプト

XProtect Smart Clientへログインするためのスクリプト

スクリプトを使用すると、XProtect Smart Clientでログイン手順の一部またはすべてをコントロールできます。

- **基本認証**または**Windows認証**を使用している場合、XProtect Smart Clientログインウィンドウに、あらかじめ情報が入力されたサーバーアドレスフィールドとユーザー名フィールドを表示できます。これで、ユーザーはパスワードを入力するだけでログインできます。
- **Windows認証(現行ユーザー)**を使用している場合、ユーザーの現在のWindowsログインにもとづいてXProtect Smart Clientを監視システムに自動的に接続できます。

基本的な認証または**Windows認証**に基づいてログイン手順のスクリプトを作成するには、暗号化されていない機密情報を、XProtect Smart Clientプログラム ファイルでローカルに保存されているSCSファイルに追加する必要があります。

- ホスト名
- ユーザー名
- パスワード



暗号化されていない情報を保存すると、システムのセキュリティまたはGDPRコンプライアンスに支障をきたす可能性があります。SCSファイルの情報を読み取ることができます。

- ファイルにアクセスできる任意の人物
- SCSファイル、またはユーザー名とパスワードを提供するコマンドラインで開始されたXProtect Smart Clientアプリケーションのメモリ フットプリント

Milestoneでは、**Windows認証(現在のユーザー)**を使用するようお勧めしています。**基本的な認証**または**Windows認証**を使用する必要がある場合は、SCSファイルへのアクセスを限定しなくてはなりません。

ログインのスクリプト-パラメータ

次のパラメータを使用できます：

ServerAddress

XProtect Smart Clientが接続する管理サーバーのURLを参照します。

次の例は、**サーバーアドレス**フィールドに`http://ourserver`と入力された場合のXProtect Smart Clientログインウィンドウを示しています。

```
Client.exe -ServerAddress="http://ourserver"
```

デフォルト認証タイプは**Windows認証(現行ユーザー)**です。これを変更しない限り、**AuthenticationType**パラメータ(以下のセクションで説明)を使用すると、ログインウィンドウの**ユーザー名**フィールドに現在のWindowsユーザーの名前が自動的に表示されます。

UserName

特定のユーザー名を指します。

次の例は、ダイアログのXProtect Smart Clientサーバーアドレスフィールドに`http://ourserver`、ユーザー名**フィールド**にTommyと入力されたログインウィンドウを示しています。

```
Client.exe -ServerAddress="http://ourserver" -UserName="Tommy"
```



このパラメータは、**Windows認証**および**基本認証**にのみ適用されます。どの認証方法を使用するかは、**AuthenticationType**パラメータを使って指定します。

パスワード

特定のパスワードを参照します。

次の例は、ダイアログのXProtect Smart Clientサーバーアドレスフィールドに`http://ourserver`、ユーザー名**フィールド**にTommy、パスワード**フィールド**にT0mMy5Pa55w0rDと入力されたログインウィンドウを示しています。

```
Client.exe -ServerAddress="http://ourserver" -UserName="Tommy" -  
Password="T0mMy5Pa55w0rD"
```



このパラメータは、**Windows認証**および**基本認証**にのみ適用されます。どの認証方法を使用するかは、**AuthenticationType**パラメータを使って指定します。

AuthenticationType

+XProtect Smart Clientで利用できる3つの認証方法、**Windows認証（現行ユーザー）**（起動スクリプトでは**WindowsDefault**と呼ばれる）、**Windows認証**（起動スクリプトでは**Windows**と呼ばれる）、または**基本認証**（起動スクリプトでは**Simple**と呼ばれる）のうち1つを指します。

次の例は、ダイアログのXProtect Smart Clientサーバーアドレスフィールドにhttp://ourserver、認証フィールドに基本認証、ユーザー名フィールドにTommy、パスワードフィールドにT0mMy5Pa55w0rD（アスタリスクでマスキング）と入力されたログインウィンドウを示しています。

```
Client.exe -ServerAddress="http://ourserver" -UserName="Tommy" -
Password="T0mMy5Pa55w0rD" -AuthenticationType="Simple"
```

Windows認証を使用する場合、例は次のようになります：

```
Client.exe -ServerAddress="http://ourserver" -UserName="Tommy" -
Password="T0mMy5Pa55w0rD" -AuthenticationType="Windows"
```

Windows認証（現行ユーザー）を使用している場合、**UserName**パラメータと**Password**パラメータは不要となるため、例は次のようになります。

```
Client.exe -ServerAddress="http://ourserver" -AuthenticationType="WindowsDefault"
```

スクリプト

.scsスクリプト（XProtect Smart Clientを制御するスクリプト タイプ）への完全なパスを指します。

次の例では、.scsスクリプトを使ってログインします：

```
Client.exe -Script=c:\startup.scs
```

現在のWindowsユーザーを使用してhttp://ourserverへログインする.scsは次のようになります。

```
<ScriptEngine>
```

```
<Login>
```

```
<ServerAddress>http://ourserver</ServerAddress>
```

```
<AuthenticationType>WindowsDefault</AuthenticationType>
```

```
</Login>
```

```
</ScriptEngine>
```

XProtect Smart Clientの関数呼び出しを使用して（関数呼び出しのリストを見る、を参照）、.scsスクリプトへ機能を追加できます。以下の例では、以前の例からの.scsスクリプトもXProtect Smart Clientアプリケーションを最小化するように、行を追加しています。

```
<ScriptEngine>
```

```
<Login>
```

```
<ServerAddress>http://ourserver</ServerAddress>
```

```
<AuthenticationType>WindowsDefault</AuthenticationType>
```

```
</Login>
```

```
<Script>SCS. Application.Minimize();</Script>
```

```
</ScriptEngine>
```

フォーマット

有効なパラメータフォーマットは次のとおりです：

```
{-,/,--}param{ ,=,:}((".'')value(",'))
```

例：

```
-UserName Tommy
```

```
--UserName Tommy /UserName:"Tommy" /UserName=Tommy -Password 'Tommy'
```

ナビゲーション用のHTMLページのスクリプト

スクリプトを使用すると、ビューを切り替えられるHTMLページを作成できます。HTMLページをビューに追加すると、カメラのビデオとともに表示できます。

例：HTMLページにはクリック可能な平面図を挿入できます。オペレータは平面図の一部をクリックするだけで、すぐにビューを切り替えて建物の該当部分のビデオを表示できます。

要件

- お使いのXProtectVMSシステムがSmart Clientプロファイルに対応している場合、Smart Clientにおいて、必要なXProtect Management ClientプロファイルでHTMLスクリプトを有効にする必要があります。
- お使いのXProtectVMSシステムがSmart Clientプロファイルに対応していない場合、**Client.exe.config**ファイルでHTMLスクリプトを有効にする必要があります。

XProtect Smart ClientナビゲーションにおけるHTMLページの例を以下に示します：

- ボタン付きの簡易HTMLページ
- クリック可能なイメージマップが付いた詳細HTMLページ
- HTMLページの作成とXProtect Smart Clientオペレータへの配布を伴うタスクについて概説された、管理者用のチェックリスト

ボタンを使ったHTMLページのナビゲーション例

簡単な解決策として、ナビゲーションボタンのあるHTMLページを作成する方法があります。HTMLページでは、さまざまなボタンを作成できます。この例では、2種類のボタンを作成しています。

- のビューを切り替えるボタン **XProtect Smart Client**

使用するHTML構文：

```
<input type="button" value=" Buttontext" onclick="SCS. Views.SelectView
('Viewstatus.Groupname. Viewname');">
```

ここで、**Viewstatus**はビューが共有ビューか個人ビューかを示します（HTMLページを複数のユーザーへ配信する場合は、ビューが共有である**必要があります**）。

実際のボタンの例：

```
<input type="button" value="Go to Shared Group1 View2" onclick="SCS.
Views.SelectView('Shared.Group1. View2');">
```

このボタンを使って、ユーザーは**Group1**という名前の共有グループにある**View2**というビューへ移動することができます。

ライブモードと再生モードを切り替えるボタン：ユーザーの権限によっては、モードに切り替えることができないユーザーもいることに注意してください。

ライブモードに必要なHTML構文：

```
<input type="button" value="Buttontext" onclick="SCS. Application.ShowLive
();">
```

再生モードに必要なHTML構文：

```
<input type="button" value="Buttontext" onclick="SCS. Application.ShowBrowse
();">
```



上級ユーザーの場合、XProtect Smart Clientで提供されているおよそ100種類の関数呼び出しを使って、他にも多くの種類のボタンを作成できます。

ここでは、XProtect Smart Clientで2つの共有グループを作成します。この2つのグループを**Group1**と**Group2**とします。各グループには、**View1**と**View2**という2つのビューがあります。

4つの異なるビューの間、および、ライブと再生モードの間で切り替えられるボタンが付いたHTMLページも作成しました。ブラウザで開くと、作成したHTMLページは次のようになります：



ビューとタブの間を移動するためのボタンが付いたHTMLページ

HTMLページをローカル（ここではユーザーのC:ドライブ）に保存します。HTMLページを使ってナビゲートする場合、互換性モードで開けるようにするにはHTMLページをローカルに保存する必要があります。[267 ページのビューにウェブページを追加する](#)をご参照ください。

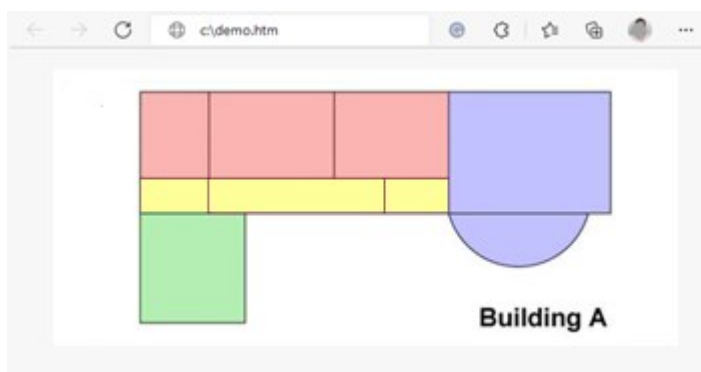
HTMLページをローカルに保存する場合、一意のパスを定義できる場所へ保存します。例えば、ユーザーのC:ドライブ内のフォルダー（例：C:\myfolder\file.htm）、ユーザーのデスクトップや**マイドキュメント**フォルダーにHTMLページを保存すると、Windowsがその場所へのパスを構築する方法が原因で正しく動作しない場合があります。

次に、必要なXProtect Smart ClientビューへHTMLページをインポートします。

画像マップ付きのHTMLページのナビゲーション例

ビューを切り替えるためのイメージマップなど、より高度なコンテンツを含むHTMLページを作成することもできます。

次の例では、前述の例で使用した2つのグループと2つのビューを使用します。ボタンを使用する代わりに、平面図の画像のあるHTMLページを作成し、その平面図に基づいてイメージマップを作成します。ブラウザで開くと、作成したHTMLページは次のようになります。



ビューをナビゲートするためのイメージマップを含むHTMLページ

この例では、平面図を4つに色分けし、それぞれのゾーンにイメージマップエリアを定義しています。ゾーンをクリックするだけで、そのゾーンのカメラが表示されたビューへ移動することができます。

たとえば、このイメージマップの赤いゾーンは、前述の例の**共有Group2のView2へ移動**ボタンに該当します。赤いゾーンをクリックすると、**Group2のView2**へ移動します。

HTMLページのインポート

ナビゲーションHTMLページをビューにインポートする操作は、基本的には他のタイプのHTMLページをXProtect Smart Clientのビューにインポートする操作と変わりません。[267 ページのビューにウェブページを追加する](#)をご参照ください。



- HTMLページは、オペレータのコンピュータにローカルで保存する必要があります
- ナビゲーションが正常に機能するよう、HTMLページを複数のビューにインポートするようお勧めします

システム管理者のためのチェックリスト

ナビゲーションHTMLページを作成してXProtect Smart Clientオペレータに配布するには、以下の手順に従います：

1. 必要なHTMLページを**作成**します。HTMLページに含まれているナビゲーションコントロールは、XProtect Smart Clientでユーザーに表示されるビューと一致している必要があります。たとえば、**View1**へ移動するボタンを動作させるには、**View1**という名前のビューがユーザーのXProtect Smart Clientインストールに含まれていなくてはなりません。HTMLページをユーザーのグループへ送信する場合は、HTMLページで使用するビューがシェアードグループになければなりません。
2. HTMLページを使用するコンピュータに、HTMLページをローカルに**保存**します。HTMLページをローカルに保存する場合、一意のパスを定義できる場所へ保存します。例えば、ユーザーのC:ドライブ内のフォルダー（例：**C:\myfolder\file.htm**）。ユーザーのデスクトップや**マイドキュメント**フォルダーにHTMLページを保存すると、Windowsがその場所へのパスを構築する方法が原因で正しく動作しない場合があります。
3. XProtect Smart Client内の該当するビューにHTMLページを**インポート**します。[267 ページのビューにウェブページを追加する](#)をご参照ください。
4. インポートされたHTMLページのナビゲーションコントロールが正しく動作するかどうか**テスト**します。



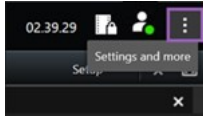
トラブルシューティングの詳細については、[268 ページのトラブルシューティング：ビューにウェブページを追加する](#)を参照してください。

ユーザーアシスタンスへのアクセス

ユーザーアシスタンスへのアクセスを有効または無効にする

システム管理者から権限を付与されている場合は、XProtect Smart Client 内のユーザーアシスタンスへの直接のアクセスを有効または無効にすることができます。

1. グローバルツールバーで **[設定とその他]** 、次に **[設定]** を選択します .



2. **[アプリケーション]** タブのヘルプリストで、以下のいずれかのオプションを選択します。
 - **[使用不可]** を選択してユーザーアシスタンスを無効化します。

F1 を押しても何も起こらなくなります。XProtect Smart Client 内のコンテキスト依存リンクと **[ヘルプ]** ボタンが非表示になります。
 - **[利用可]** を選択してユーザーアシスタントを有効にします。

F1 を押すと、XProtect Smart Client ユーザーアシスタンス内の関連するトピックが開きます。コンテキスト依存リンクと **[ヘルプ]** ボタンが使用できます。

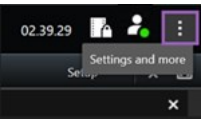
XProtect Smart Client設定の概要

XProtect Smart Client設定の概要

[設定] ウィンドウが表示されます。

設定ウィンドウによって、たとえば、言語の選択、ジョイスティックの設定、キーボードショートカットの設定などそれぞれのタブで使用する機能や要素を管理できます。

グローバルツールバーで [設定とその他] 、次に [設定] を選択します .



アプリケーション設定

アプリケーションの設定を使用すると、XProtect Smart Clientの全体的な動作や外観をカスタマイズできます。

サーバーに従う列に入力できる場合は、XProtect Smart Clientがサーバーの推奨設定に従うように指定することができます。一部の設定はサーバーによって制御されます。ユーザーが設定を上書きできるかどうかはサーバーでの設定によって決まります。

名前	説明
アプリケーションの最大化	最大化ボタンをクリックした場合のXProtect Smart ClientでのWindowsの反応を指定します。  ウィンドウを最大化した場合にWindowsのタスクバーが隠れることを防ぐため、[通常のウィンドウとして最大化] を選択します。
カメラエラーメッセージ	XProtect Smart Clientによってカメラ関連のエラーメッセージの表示方法を指定します。これらは、カメラ画像の上に重ねて、または黒い背景上に表示するか、あるいは、非表示にできます。

名前	説明
	 カメラのエラー メッセージを非表示にすると、カメラへの接続が失われたことをオペレータが見落としてしまうリスクが生じます。
サーバーエラーメッセージ	XProtect Smart Clientによってサーバー関連のメッセージテキスト表示方法を指定します。これらは、カメラ画像の上に重ねて、または黒い背景上に表示するか、あるいは、非表示にできます。
ライブビデオのメッセージが停止しました	カメラが接続されているが、カメラがライブビデオを送信していない場合に、XProtect Smart Clientがメッセージを表示するかどうかを指定します。メッセージは、カメラ画像の上に重ねて、または黒い背景上に表示するか、あるいは、非表示にできます。
カメラのタイトルバーのデフォルト	カメラのタイトルバーを表示するか、または、非表示にするかを選択します。タイトルバーには、カメラの名前が表示され、色付きのインジケータは際立ったイベント、検出されたモーションやビデオを意味します。  セットアップモードでは、カメラに対してカメラプロパティを調整することで、カメラごとにこの設定を上書きすることができます。
タイトルバーに現在の時刻を表示	タイトルバーに（XProtect Smart Clientを実行しているコンピュータの）現在の日付と時刻を表示するかどうかを指定します。
空のビュー位置に表示	ビュー内に空白のビューアイテムがある場合、何を表示するか（ロゴを選択できるようにするか、または単に黒い背景を表示するかなど）を指定します。
画面境界の表示	ビュー内でそれぞれのビューアイテムを隔てる境界線の幅を指定します。

名前	説明
デフォルトの画質	 XProtect Smart Clientで表示するデフォルトの画質の指定は、JPEGストリームを見る場合にのみ使用できます。H264およびH265など他のコーデックを見ている場合に画質を落とすと、JPEGに再エンコードする際の帯域幅やCPU、GPUの使用量が増えます。 画質は帯域幅の使用にも影響する点に注意してください。XProtect Smart Clientをインターネットや低速ネットワーク接続で使用しているか、その他の理由で帯域幅の使用を制限しなければならない場合、低または中を選択してサーバー側で画質を低くすることができます。  セットアップモードでは、カメラに対してカメラプロパティを調整することで、カメラごとにこの設定を上書きすることができます。
デフォルトのフレームレート	XProtect Smart Clientで表示されるビデオのデフォルトフレームレートを選択します。  セットアップモードでは、カメラに対してカメラプロパティを調整することで、カメラごとにこの設定を上書きすることができます。
デフォルトのビデオバッファ	ライブビデオをジッターなく滑らかに表示するためのビデオバッファを指定できます。  ビデオバッファによって、ビューに表示されるそれぞれのカメラのメモリ使用が大幅に増加します。大きなビデオバッファを必要としない場合は、バッファリングレベルをできるだけ低く保ってください。
デフォルトのPTZクリックモード	お使いのPTZカメラのデフォルトのPTZクリックモードを指定します。オプションは、クリック箇所を中央へ、または、仮想ジョイスティックです。個々のカメラで異なるデフォルトPTZクリックモードを選択すると、個々のカメラの設定を上書きできます。
メインウィンドウの開始モード	ログイン後に開くXProtect Smart Clientのメインウィンドウのスクリーンモードを指定します。オプションは、フルスクリーン、最大化、ウィンドウ、最後です。

名前	説明
ウィンドウとタブを復元	最後にXProtect Smart Clientからログアウトしたときに開いていたウィンドウやタブを復元するかどうかを指定します。選択肢は以下のとおりです： ● 最後：XProtect Smart Client からログアウトしたときに開いていたすべてのウィンドウとタブを常に復元します。 ● 該当なし：XProtect Smart Clientからログアウトしたときに開いていたすべてのウィンドウとタブを復元しません。 ● 尋ねる：ログインすると、前回のセッションから XProtect Smart Client ウィンドウとタブを復元するかどうか尋ねられます。
マウスポインタを非表示	操作が一定時間行われない際に、マウスポインタを非表示にするかどうかを指定します。マウスポインタを非表示にするまでの経過時間を指定できます。デフォルトオプションは5秒後です。選択肢は以下のとおりです： ● 設定しない ● 5秒後 ● 10秒後 ● 20秒後 ● 30秒後 アイドル時間の後にマウスを動かすと、ただちに有効になります。
スナップショット	148 ページのスナップショットを撮って共有する
スナップショットの保存パス	スナップショットを保存する場所を指定します。
ヘルプ	XProtect Smart Clientでヘルプを利用可能にするかどうかを設定します。ヘルプを無効にすると、F1を押しても何も起こりません。また、コンテキスト依存のリンクも表示されません。また、設定およびその他メニューからヘルプにアクセスすることはできません。
ビデオチュートリアル	XProtect 製品に関するビデオチュートリアルを、設定およびその他メニューからアクセスできるようにするかどうかを指定します。

ペイン設定

ペインの設定では、特定のタブでペインを表示するかどうかを指定できます。



一部のペインには使用できない機能も含まれていますが、これはユーザー権限か、接続している監視システムのどちらかが原因です。

モード列には、ペインがどこで使用可能であるかが表示され、**機能**列には、ペインの名前が一覧表示されます。さらに、**設定**列では、ペインを使用できるか、できないかを指定します。

サーバーに従う列に入力できる場合は、XProtect Smart Clientがサーバーの推奨設定に従うように指定することができます。一部の設定はすでにサーバーから設定されている場合があります。この場合はサーバーでの設定によって、ユーザーがこれらの設定を上書きできるかどうか決まります。

機能設定

機能の設定では、特定のXProtectSmartClientタブに表示する機能（たとえば、ライブモードで再生）を指定できます。

[モード]列には、ペインがどこで使用可能であるかが表示され、**[機能]**列には、機能の名前が一覧表示されます。さらに、**[設定]**列では、ペインを使用できるかどうかを指定します。

サーバーに従う列に入力できる場合は、XProtect Smart Clientがサーバーの推奨設定に従うように指定することができます。一部の設定はすでにサーバーから設定されている場合があります。この場合はサーバーでの設定によって、ユーザーがこれらの設定を上書きできるかどうか決まります。

名前	説明
ライブ> カメラ再生	ライブモードで、個別のカメラで録画されたビデオを再生できる機能。
ライブ> オーバー レイボタ ン	スピーカーの起動、イベント、出力、PTZカメラの移動、カメラからのインジケーターを消去する等の機能を持つ、ライブモードのオーバーレイボタンを表示および使用する機能。
ライブお よび再生 >ブック	ライブまたは再生モードで、ビューアイテムのツールバーから、または設定済みのオーバーレイボタンを通して、クイックブックマークまたはブックマークの詳細を追加するかどうかを選択します。 再生モードでこのオプションを有効/無効にすると、検索タブで、対応するボタンを有効

名前	説明
マーク	にするかどうかを制御できます。  ユーザー権限によっては、一部のカメラからブックマーク追加機能にアクセスできない場合があります。
ライブおよび再生 >印刷	ライブまたは再生モードで印刷する機能。再生モードでこのオプションを有効/無効にすると、検索タブで、対応するボタンを有効にするかどうかを制御できます。
ライブおよび再生 >バウンディングボックス	すべてのカメラで、バウンディングボックスをライブモードでライブビデオに表示する、もしくは再生モードで録画済みビデオで表示する機能。バウンディングボックスは、たとえば対象物を追跡する場合などに便利です。  バウンディングボックス機能が使用できるのは、特定の監視システムおよびメタデータをサポートしているカメラに接続されている場合だけです。ユーザー権限によっては、一部のカメラからバウンディングボックスへのアクセスが制限される場合があります。
再生>独立再生	デフォルトではビュー内のすべてのカメラが同じ時刻（再生時刻）から録画を再生するのに対し、再生モードで個別のカメラの録画を独立した形で再生する機能です。 93 ページの録画したビデオをメインのタイムラインとは別に表示をご参照ください。
設定>オーバーレイボタンの編集	セットアップモードで、新規または既存のオーバーレイボタンを追加する機能。オーバーレイボタンを追加するには、オーバーレイボタンのリストが利用可能に設定されている必要があります（これは設定ウィンドウのペインタブで行います）。
設定>ビデオバッファリングの編集	ビデオバッファを編集する機能は、セットアップモードのカメラプロパティの一部です。ライブビデオバッファを編集するには、セットアップタブのプロパティペインが利用できるようになっていなければならない点に注意してください（これは、設定ウィンドウズのダイアログのペインタブで設定します）。

タイムライン設定

タイムライン 設定では、XProtect Smart Clientのタイムラインの標準設定を指定することができます。

サーバーに従う列に入力できる場合は、XProtect Smart Clientがサーバーの推奨設定に従うように指定することができます。一部の設定はサーバーによって制御されます。ユーザーが設定を上書きできるかどうかはサーバーでの設定によって決まります。

名前	説明
受信音声、発信音声、追加データ、追加マーカー、ブックマーク、動作指示、全カメラタイムライン	104 ページのタイムライン追跡に表示するものを設定をご参照ください。
再生	104 ページの録画間のギャップの再生を設定するをご参照ください。
非アクティブ時にタイムラインを非表示、およびSmart Wallビューでタイムラインを非表示	105 ページのメインタイムラインを非表示にするを参照

エクスポート設定

エクスポートの設定では、一般的なエクスポートの設定を指定できます。

サーバーに従う列に入力できる場合は、XProtect Smart Clientがサーバーの推奨設定に従うように指定することができます。一部の設定はすでにサーバー制御であり、この場合、サーバーの設定によって、ユーザーがこれらの設定を上書きできるかどうかが決まります。

名前	説明
エクスポート先	エクスポート先のパスを選択します。
プライバシーマスク	エクスポートしたビデオで、プライバシーマスクで特定の領域をカバーするか否かを選択します。 ここで追加したプライバシーマスクは、現行のエクスポート、および選択されたビデオにのみ適応されます。エクスポートは、システム管理者によってプライバシーマスクが設定されたビデオをすでに含んでいる可能性があります。これらのプライバシーマスクは、

名前	説明
	Management Client> デバイス >カメラ> プライバシーマスク で設定されています。
メディアプレーヤーのフォーマット	Media Player形式でのエクスポートを可能にするか不可にするかを選択します。
メディアプレーヤーのフォーマット - ビデオのテキスト	Media Player形式でエクスポートする場合、ビデオのテキストをオプション、必須、使用不可のどの設定にするか選択します。ビデオテキストにより、ユーザーはエクスポートされた録画にオーバーレイテキストを追加することができます。
メディアプレーヤーのフォーマット - ビデオコーデックのプロパティ	Media Player形式でエクスポートする場合、コーデック設定を利用可能にするか利用不可にするかを選択します。コーデックのプロパティは、選択されたコーデックに依存します。すべてのコーデックがこのオプションをサポートしているわけではありません。
XProtect フォーマット	XProtect形式でのエクスポートを可能にするか不可にするかを選択します。
XProtect フォーマット - プロジェクトのコメント	XProtect形式でエクスポートする場合、プロジェクトのコメントをオプション、必須、使用不可のどの設定にするか選択します。
XProtect フォーマット - デバイスのコメント	XProtect形式でエクスポートする場合、デバイスのコメントをオプション、必須、使用不可のどの設定にするか選択します。
静止画像エクスポート	静止画像をエクスポートできるかどうかを選択します。

スマートマップ設定

Bing Maps APIもしくはGoogle Maps APIを使用するために、Bing Mapsキー、または、Google MapsクライアントIDを入力します。



これらの設定は、管理者によってXProtect Management Clientで許可されている場合に限り編集できます。

名前	説明
Milestone Map Service	Milestone Map Serviceを地理的背景として使用できるかどうか指定します。 [利用不可] を選択すると、XProtect Smart Clientはオプションとして表示しません。
OpenStreetMap サーバー	システム管理者が指定したものと別のタイルサーバーを使用する場合は（ 332 ページのOpenStreetMapタイルサーバーの変更 を参照）、ここにサーバーアドレスを入力します。
レイヤー追加時にロケーションを作成する	ユーザーがカスタムオーバーレイを追加時、ロケーションを作成するかどうかを指定します。詳細については、 335 ページのカスタムオーバーレイの追加、削除および編集 をご参照ください。
Bing マップキー	Bing Maps API用に生成したプライベート暗号化キーを入力または編集します。
Googleマップ用クライアント ID	Google Static Maps API用に生成したクライアントIDを入力または編集します。
Google マップ用プライベートキー	Google Static Maps API用に生成したプライベート暗号化キーを入力または編集します。
Google MapsのURL署名シークレット	Google Static Maps APIで取得したサイン認証を入力します。

名前	説明
キャッシュされたスマートマップファイルを削除する	 地理的背景としてGoogle Mapsを使用している場合、ファイルはキャッシュされません。 スマート マップはローカルコンピュータのキャッシュ フォルダーに保存されるため、より早く読み込みます。キャッシュされたファイルをどのくらいの頻度で削除するかを指定する際、この設定を利用します。

検索設定

検索設定では、検索機能の特定部分の動作(通常は[検索]タブ)をカスタマイズできます。

名前	説明
プレビューエリアでビデオクリップを自動再生	デフォルトでは、検索結果を選択すると、プレビューエリアのビデオがイベント時刻にて一時停止します。再生を自動的に再開させる場合は、[はい] を選択します。
プレビューエリアでビデオクリップをループ	検索結果からビデオをプレビューした場合、デフォルトではビデオシーケンスは1度しか再生されません。これをループ再生させるには[はい]を選択します。

ジョイスティック設定

 ほとんどのPTZカメラはジョイスティックで制御できますが、すべてのPTZカメラがジョイスティックによる制御に対応しているわけではありません。

新しいジョイスティックを追加する場合は、カスタマイズ可能なデフォルトのパン/チルト/ズーム (PTZ) 構成が提供されています。

名前	説明
すべてのジョイスティックを無効にする	すべてのジョイスティックを無効にする場合に選択します。
追加	ビデオやユーザーインターフェースでナビゲーション用にジョイスティックを追加したい場合に選択します。 87 ページのビデオとユーザーインターフェースナビゲーションのためにジョイスティックを追加する をご参照ください。
ジョイスティックの選択	使用可能なジョイスティックのリストから選択します。
軸の設定：名前	次の3つの軸があります。 • X軸（水平） • Y軸（垂直） • Z軸（奥行きまたはズームレベル）
軸の設定：反転表示	選択すると、ジョイスティックを移動するときにカメラが移動するデフォルトの方向を変更します。例えば、ジョイスティックを右へ動かすとPTZカメラが左へ移動し、ジョイスティックを手前へ動かすとPTZカメラは下へ移動するよう選択します。
軸のセットアップ絶対的	選択すると、相対位置方式（ジョイスティックを移動すると、オブジェクトの現在の位置に基づいて、ジョイスティック制御オブジェクトが移動）ではなく、固定位置を使用します。
軸の設定：アクション	軸の機能を選択します。 • カメラPTZパン

名前	説明
ン	- カメラPTZチルト - カメラPTZズーム - アクションなし
軸の設定：プレビュー	選択した設定の効果をテストできます。テストする軸の機能を選択したら、ジョイスティックを該当する軸に沿って動かすと、青のバーの動きによって効果を確認できます。
デッドゾーン設定：パン/チルト	ジョイスティックのパンおよびチルト機能のデッドゾーンを指定できます。スライダーを右へドラッグするほど、デッドゾーンが拡大し、情報をカメラに送信するために必要なジョイスティックの動きが大きくなります。スライダーを左端の方へドラッグすると、デッドゾーンが無効になります(高精度のジョイスティックの場合にしか推奨できません)。 軸設定 プレビューを使って、デッドゾーンの設定の効果を確認してください。
デッドゾーン設定：ズーム	ジョイスティックのズーム機能のデッドゾーンを指定できます。スライダーを右へドラッグするほど、デッドゾーンが拡大し、情報をカメラに送信するために必要なジョイスティックの動きが大きくなります。スライダーを左端の方へドラッグすると、デッドゾーンが無効になります(高精度のジョイスティックの場合にしか推奨できません)。 軸設定 プレビューを使って、デッドゾーンの設定の効果を確認してください。
ボタン設定：名前	ボタンの名前。
ボタン設定：アクション	目的のジョイスティックボタンのうち、使用可能なアクションを1つ選択します。
ボタン設定：パラメータ	該当する場合、コマンドまたはアクションのパラメータを指定します。例えば、 選択されたカメラビューアイテムをコピーする パラメータのウィンドウとビューアイテムを指定する場合、2；1を入力すると、最初のビューアイテム（ビューアイテム1）で、カメラがフローティングウィンドウ（ウィンドウ2）にコピーされます。
ボタン設定：プレビュー	適切なボタンを設定しているか確認するには、ジョイスティックで該当するボタンを押します。関連するボタンが、プレビュー列で青色で表示されます。

キーボード設定

キーボードの設定によって、XProtect Smart Clientの特定の操作に対して独自のショートカットキーの組み合わせを割り当てることができます。XProtect Smart Client には少数のデフォルトのキーボードショートカットも含まれており、すぐに使用できます。[106 ページのデフォルトのキーボードショートカット](#)をご参照ください。

名前	説明
ショートカットキーを押す	特定のアクションに対するショートカットとして使用するキーの組み合わせを入力します。
新しいショートカットを使用	選択すると、ショートカットの適用方法を定義します。 ・ グローバル：XProtect Smart Clientのすべてのタブで有効です。 ・ 再生モード：ビューのあるタブのみ ・ ライブモード：ビューのあるタブのみ ・ セットアップモード：セットアップモードでのみ
カテゴリとコマンド	コマンドカテゴリを選択してから、関連付けられたコマンドを1つ選択します。すべてのビューを一覧表示して、個々のビューのキーボードショートカットを作成する場合は、ビュー：すべてカテゴリを選択します。  コマンドの中には、特定の条件でキーボードショートカットを使用したときだけ動作するものがあります。例えば、PTZ関連のコマンドに割り当てたキーボードショートカットは、PTZカメラを使用しているときにしか機能しません。
パラメータ	該当する場合、コマンドまたはアクションのパラメータを指定します。例えば、選択されたカメラビューアイテムをコピーするコマンドのウィンドウとビューアイテムを指定する場合、2;1を入力すると、最初のビューアイテム（ビューアイテム1）で、カメラがフローティングウィンドウ（ウィンドウ2）にコピーされます。

アクセスコントロール設定

XProtect Smart Clientでアクセスリクエスト通知をポップアップ表示させるかどうかを選択します。



サーバーに従うフィールドが選択されている場合は、システム管理者が**アクセスリクエスト通知を表示する**設定を制御します。

アラームマネージャー設定

名前	説明
アラームが発生した数秒前のビデオの再生を開始する	アラームが起動される前にビデオ再生を開始します。これは、ドアが開く前の瞬間を閲覧したい場合などに便利です。
最新のアラームをプレビュー	このチェックボックスを選択すると、新しいアラームが起動した場合にアラームリストの選択肢が最新のリストアイテムに変わります。このチェックボックスを選択しなければ、新しいアラームが起動してもアラームリストの選択肢は変わりません。
アラームの音声通知を再生する	アラーム発生時に音声通知を再生するかどうかを指定します。  フィールドがグレー表示されている場合は、XProtect Management Clientでシステム管理者によってフィールドがロックされています。
アラームのデスクトップ通知を表示	アラームのデスクトップ通知を表示させるかどうかを指定します。これらは、XProtect Smart Clientの稼働時にしか表示されません。  フィールドがグレー表示されている場合は、XProtect Management Clientでシステム管理者によってフィールドがロックされています。
サーバー設定を使用	このチェックボックスは、システム管理者がXProtect Management Clientで指定した設定を使用したい場合に選択します。

拡張設定

[詳細] 設定では、XProtect Smart Clientの設定を詳細にカスタマイズできます。詳細設定とその操作方法がよく分からない場合は、デフォルト設定のままにしてください。一部の監視システムに接続すると、**サーバーに従う**列が表示されることがあります。この列を使用すると、XProtect Smart ClientがSmart Clientのプロファイルで設定されているサーバーの推奨設定に従うようにすることができます。一部の設定はすでにサーバーから設定されている場合があります。この場合はサーバーでの設定によって、ユーザーがこれらの設定を上書きできるかどうか決まります。

名前	説明
マルチキャスト	録画サーバーからクライアントへのライブストリームのマルチキャストをサポートしています。複数のXProtect Smart Clientユーザーが同じカメラからのライブビデオを再生しようとする場合に、マルチキャストによってシステムリソースの消費量を大幅に低減できます。マルチキャストは、複数のクライアントが同じカメラからのライブビデオを頻繁に要求し、Matrix機能を使用する場合に特に有益です。 マルチキャストは、録画されたビデオ/音声ではなく、ライブストリームでのみ可能です。 [有効]がデフォルトの設定です。サーバーからクライアントへのマルチキャストを使用可能にするには、XProtect Management Clientで、録画サーバーおよびカメラの機能を有効にする必要があります。 [無効]: マルチキャストは使用できません。
ハードウェアアクセラレーション	ハードウェアアクセラレーションデコードが使用するかどうかを制御します。多数のカメラがあるビューでは、CPUの負荷が高くなります。ハードウェアアクセラレーションは、一部のCPU負荷をグラフィックスプロセッシングユニット(GPU)に移動します。これにより、コンピュータのデコード能力とパフォーマンスが上がります。これは主に高フレームレートおよび高解像度の複数のH.264/H.265ビデオストリームを表示する場合に便利です。 [自動]がデフォルトの設定です。コンピュータのデコードリソースをスキャンし、使用可能な場合は常にハードウェアアクセラレーションを有効にします。 [オフ]はハードウェアアクセラレーションを無効にします。CPUのみでデコードを処理します。
最大デコードスレッド	ビデオストリームのデコードに使用されるデコードスレッドの数を制御します。このオプションによって、マルチコアコンピュータを使用して、ライブおよび再生モードのパフォーマンスが改善できます。実際のパフォーマンスの改善は、ビデオストリームによって異なります。この設定は、H.264/H.265のような高度にコード化された高解像度ビデオストリームを使用している場合に主に適用されます。この場合、大幅なパフォーマンスの改善が見られる可能性があります。たとえば、JPEGまたはMPEG-4などを使用している場合は効果が低くなります。マルチスレッドでのデコード

名前	説明
	には一般的に大量のメモリが必要になることに注意してください。最善の設定は、使用しているコンピュータのタイプ、表示する必要のあるカメラの数、これらのカメラに使用される解像度およびフレームレートによって異なります。 標準では、コンピュータのコア数にかかわらず、カメラがある1つのビューアイテム当たり1つのコアのみが使用されます。 [自動]がデフォルトの設定です。自動では、コンピュータはカメラのビューアイテムごとにコアと同じ数のスレッドを使用します。ただし、最大スレッド数は8であり、実際に使用されるスレッド数は、使用するコーデック（圧縮/解凍テクノロジー）によってこれより少なくなることがあります。 上級ユーザーは、8スレッドを上限に、使用するスレッド数を手動で選択できます。選択する数は最大数を表し、実際に使用されるスレッド数は、使用するコーデック（圧縮/解凍テクノロジー）によってこれより少なくなることがあります。  この設定は、すべてのビュー、ライブおよび再生モードで、すべてのカメラのビューアイテムに影響を与えます。カメラのビューアイテムまたはビューの設定を個別に指定することはできません。この設定は、すべてのカメラのビューアイテムおよびビューに対し同様に適しているとは限らないため、効果を監視し、必要に応じて、パフォーマンスの改善とメモリー使用量との最適なバランスを達成するよう設定を再調節することをお勧めします。
アダプティブストリーミング	アダプティブストリーミング使用の有無を制御します。多数のカメラがあるビューでは、CPUとGPUの負荷が高くなります。アダプティブストリーミングを使用すれば、表示アイテムによって要求された解像度に最も近い解像度がXProtect Smart Clientによって自動的に選択されます。これによってCPUとGPUの負荷が軽減するため、結果としてコンピュータのデコード能力とパフォーマンスが上がります。 [無効]がデフォルトの設定です。自動ストリーム選択は行われていません。 [有効]に設定すると、利用可能なストリームのXProtectシステムの設定がスキャンし、選択したビューに最も近いものが選択されます。  アダプティブストリーミングは、ひとつのストリームしか利用できない場合にも有効にできますが、アダプティブストリーミングを活用するにはカメラ1台につき2つ以上のストリームが必要です。

名前	説明
	 この設定は、ライブモード時にすべてのビューに適用されます。
インターレースの解除	インターレースは、画面で画像をどのように更新するかを決定します。まず画像の奇数行をスキャンして画像を更新し、次に偶数行をスキャンします。スキャン時に処理する情報が少なくなるため、より高速のリフレッシュレートが可能になります。ただし、インターレースによってちらつきが発生したり、画像のラインの半分だけが変化する場合があります。インターレースを無効化すると、ビデオはノンインターレース形式に変換されます。多くのカメラでインターレースビデオが生成されません、そして、このオプションはインターレースされていないビデオの質やパフォーマンスに影響を与えることはありません。 フィルターなしがデフォルト設定です。インターレースの無効化が適用され、オブジェクトを移動したときの画像の端が特徴的なギザギザ状に表示されます。これは、画像全体の偶数および奇数の行を組み合わせて完全な解像度の画像が構成されるためです。ただし、これらは同時にカメラによってキャプチャされないため、物体が動いていると、2本の行間で調整されないため、端がギザギザに見えます。パフォーマンスへの影響：なし。 トップフィールドの垂直伸張：このオプションでは、偶数行のみを使用します。各奇数行は前の（偶数）行から「コピー」されます。効果として、ギザギザ状の端がなくなりますが、垂直解像度が減少します。パフォーマンスへの影響：ポスト処理が必要な行数が半分になるため、[フィルターなし]オプションと比較してパフォーマンスへの影響は少なくなります。 ボトムフィールドの垂直伸張：このオプションでは、奇数行のみを使用します。各偶数行は前のライン（奇数）から「コピー」されます。効果として、ギザギザ状の端がなくなりますが、垂直解像度が減少します。パフォーマンスへの影響：ポスト処理が必要な行数が半分になるため、[フィルターなし]オプションと比較してパフォーマンスへの影響は少なくなります。 コンテンツの適応型：このオプションでは、端がギザギザに表示される画像部分にフィルターを適用します。端がギザギザに表示される領域が検知されなければ、画像は処理されず渡されます。端のギザギザがなくなり、端がギザギザになる傾向がない画像部分では完全垂直解像度が維持される効果があります。パフォーマンスへの影響：デコードおよびレンダリングされるフレーム当たりの総CPU使用量がおおよそ10%上がるため、[フィルターなし]オプションに比べ影響が大きくなります。
ビデオ診断オーバーレイ	選択したビューでビデオストリームの設定とパフォーマンスレベルを表示します。設定の検証または問題の診断を行う必要がある場合に便利です。 次のオプションから選択します。 非表示：ビデオ診断オーバーレイはありません。デフォルト設定。

名前	説明
	レベル1：フレーム数/秒、ビデオコーデック、およびビデオ解像度を表示します。 レベル2：フレーム数/秒、ビデオコーデック、ビデオ解像度、マルチキャスト、およびハードウェアアクセラレーション状態を表示します。 レベル3：デバッグレベル。主にシステム管理者がシステムパフォーマンスをトラブルシューティングまたは最適化するための使用します。
タイムゾーン	例えば、カメラのタイトルバーに表示されている時刻が現在の時刻と一致しない場合は、タイムゾーンを変更します。事前に設定されたタイムゾーンまたはカスタムタイムゾーンを選択します。 • ローカル：対象を実行しているコンピューターのタイムゾーン。対象：XProtect Smart Client • サーバーのタイムゾーン：サーバーのタイムゾーン • 協定世界時 • カスタムタイムゾーン：特定のタイムゾーンを使用する場合は、このオプションを選択し、[カスタムタイムゾーン] フィールドで、利用できるタイムゾーンのリストから希望のタイムゾーンを選択します。
カスタム時間ゾーン	時間帯 フィールドでカスタムを選択していると、コンピュータに知られている任意の時間帯を選択できます。別の時間帯にいる2人のユーザーがインシデントを表示したい場合、同じ時間帯にすれば同じインシデントを見ていることを簡単に確認できるので、これが便利です。
PDFレポートのフォーマット	PDFレポートのフォーマットとして、A4またはレターを選択します。イベントのレポートを作成できます。
PDFレポートのフォント	PDFレポートで使用するフォントを選択します。
ロギング (技	アプリケーション イベントのロギングを有効にします (たとえば、アラームが起動された場合)。これは主にテクニカル サポートがXProtect Smart Clientで発生した問題のトラブルシューティングを

名前	説明
術サ ポート 向け)	行う際に役立ちます。 ログ ファイルには、以下の3種類があります。 • ClientLogger.log • MIPLLogger.log • MetadataLogger.log ログは、XProtect Smart Clientがインストールされているマシンの以下のパスにあります。 C:\ProgramData\Milestone\XProtect Smart Client\Logs。  これらのログは、XProtect Management Clientのシステム ログとは異なります。

言語設定

XProtect Smart Clientの言語を指定します (ユーザー インターフェイス要素を右から左に表示するかどうかなど)。使用できる言語のリストから選択し、XProtect Smart Clientを再起動して変更を反映します。 [86 ページのXProtect Smart Client の言語の変更](#)をご参照ください。

用語集

A

AVI

ビデオでよく使用されるファイル形式。この形式のファイルには.aviというファイル拡張子が付いています。

C

CPU

「Central Processing Unit（中央処理装置）」の略語。OS とアプリケーションを実行するコンピュータのコンポーネント。

D

DirectX

高度なマルチメディア機能を提供するWindowsの拡張機能。

F

FIPS

「連邦情報処理規格」の略語。

FIPS 140-2

ソフトウェアまたはハードウェアを米国政府機関に販売する前にベンダーが暗号化で使用する必要がある重要なセキュリティパラメータを定義する米国政府規格。

FPS

フレーム数/秒。ビデオに含まれている情報量を示す単位。各フレームは1つの静止画像を表しますが、数多くのフレームを連続して表示することでモーションを見ているように見えます。FPSの値が高いほど、より滑らかなモーションになります。ただし、FPSが高くなるとビデオを保存したときのファイルサイズも大きくなります。

G

GOP

画像グループ（GOP、Group Of Pictures）：個別のフレームをグループ化し、ビデオモーションのシーケンスを形成します。

GPU

「Graphics Processing Unit（画像処理装置）」の略語。画像の処理を扱う演算装置。

H

H.264/H.265

デジタルビデオの圧縮規格。MPEGと同様、この規格には不可逆圧縮が使用されます。

I

Iフレーム

イントラフレームの略語。デジタルビデオ圧縮のMPEG規格で使用されます。Iフレームは指定された間隔で保存される単一のフレームです。Iフレームはカメラのビュー全体を録画しますが、その後のフレーム（Pフレーム）は変化したピクセルのみを録画します。これにより、MPEGファイルのサイズを大幅に縮小できます。Iフレームはキーフレームと類似しています。

J

JPEG

画像圧縮方法の1つで、JPG または Joint Photographic Experts Group とも呼ばれます。この方法はいわゆる不可逆圧縮で、画像詳細の一部が圧縮時に失われることを意味します。この方法で圧縮した画像は、通常 JPG または JPEG と呼ばれます。

L

LPR

「License Plate Recognition（ナンバープレート認識）」の略語。

M

MAC アドレス

メディアアクセスコントロールアドレスの意味で、ネットワーク上の各デバイスを一意に識別する 12 桁の 16 進数です。

Matrix

一部の監視システムに組み込まれている製品で、分散表示を可能にするためにリモートコンピュータ上でライブカメラビューを制御できます。Matrixによってトリガーされたビデオを表示する、Matrix 受信 PC と呼ばれるコンピュータ。

Matrix 受信 PC

Matrix によってトリガーされたビデオを表示するコンピュータ。

MIP

「Milestone Integration Platform」の略語。

MIP SDK

「Milestone Integration Platformソフトウェア開発キット」の略語。

MIP エlement

MIP SDK を介して追加されたプラグインElement。

MKV

「Matroska Video」の略語。MKV ファイルは、Matroska マルチメディアコンテナ形式で保存されるビデオファイルです。複数のタイプの音声およびビデオのコーデックに対応します。

MPEG

Moving Pictures Experts Group (MPEG) によって開発された、デジタルビデオの圧縮規格とファイルフォーマットの集合。MPEG 規格は不可逆圧縮を使用しており、キーフレーム間の変化のみを保存し、冗長する情報の多くを除外します。キーフレームでは指定された間隔でカメラのビュー全体のデータを保持しますが、他のフレームは変化したピクセルデータのみを保持します。これにより、MPEG ファイルのサイズを大幅に縮小できます。

P

P フレーム

予測フレームの略語。デジタルビデオ圧縮のMPEG規格は、PフレームとIフレームを使用します。Iフレームはキーフレームとも呼ばれ、指定した間隔で保存される単一のフレームです。Iフレームはカメラのビュー全体を録画しますが、その後のフレーム（Pフレーム）は変化したピクセルのみを録画します。これにより、MPEG ファイルのサイズを大幅に縮小できます。

PoS

「Point of Sale（販売時点管理）」の略語。通常は小売店などのレジまたはレジカウンターを指します。

PTZ

パン/チルト/ズームの意味で、動きと柔軟性に優れたカメラです。

PTZ パトロール

複数のプリセット位置間での自動的なPTZカメラワーク。

Q

QVGA

320×240 ピクセルのビデオ解像度。QVGAは「Quarter Video Graphics Array」の略語です。320×240 ピクセルの解像度は標準的な VGA 解像度（640×480 ピクセル）の 4 分の 1 なので、この名前が付けられました。

S

SCS

XProtect Smart Client の制御を目的としたスクリプトタイプで使用されるファイル拡張子（.scs）。

Smart Wall コントロール

さまざまなモニターに表示される内容を制御できるビデオウォールを説明した図。

Smart Wall プリセット

XProtect Smart Client で 1 台以上の Smart Wall モニターに事前に設定したレイアウト。プリセットによ

り、ビデオウォールの各モニターに表示されるカメラとコンテンツの構成が決まります。

T

TCP

Transmission Control Protocol（伝送制御プロトコル）：ネットワーク上でデータパケットを送信する際に使用するプロトコル（規格）。TCP は多くの場合、別のプロトコルである IP（インターネットプロトコル）と組み合わせて使用されます。この組み合わせを TCP/IP と呼び、ネットワーク上の 2 つのポイント間でデータパケットを長時間にわたって送受信することができます。コンピュータとインターネット上にある別のデバイスの接続でも使用します。

TCP/IP

Transmission Control Protocol/Internet Protocol の略で、インターネットを含むネットワーク上でコンピュータと他のデバイスを接続する際に使用するプロトコル（規格）の組み合わせです。

V

VMD

ビデオモーション検知。IP ビデオ監視システムでは、多くの場合、モーションを検知するとビデオの録画が開始されます。これにより不必要な録画を防ぐことができます。ビデオの録画は、その他のイベントおよび／または時間スケジュールによって開始されることもあります。

VMS

「ビデオ管理ソフトウェア」の略語。

X

XProtect Transact

監視システムのアドオンとして使用できる製品。XProtect Transact では、時間にリンクした PoS または ATM トランザクションデータとビデオを組み合わせることができます。

あ

アーカイブ

カメラのデフォルトのデータベースから、別の場所へ自動的に録画を転送します。これにより、保存できる録画の量は、カメラのデフォルトのデータベースの最大サイズによる制限を受けません。アーカイブによって、任意のバックアップメディアに録画データを保存することもできます。

アスペクト比

画像の高さと幅の比率。

アダプティブストリーミング

映像デコーディング能力を向上させることで、XProtect Smart Client または他のビデオ閲覧クライアントが実行されているコンピュータのパフォーマンス全般を高める機能。

アラーム

XProtect Smart Client でアラームをトリガーするように監視システムで定義したインシデント。組織でこの機能を使用している場合、トリガーされたアラームは、アラームのリストまたはマップを含んでいるビューで表示されます。

い

イベント

監視システムで発生する定義済みの状態で、これを基に監視システムはアクションをトリガーします。監視システムの設定によっては、外部センサーからの入力、モーションの検知、あるいは他のアプリケーションから受け取ったデータによって、イベントが発生します。イベントの発生は、例えば、特定のフレームレートでのカメラ録画、出力の開始、電子メールの送信や、それら操作の組み合わせに使用できます。

え

エビデンスロック

保護され削除できないビデオシーケンス。

お

オーバーレイボタン

ライブモードでカメラがある個別のビューアイテムにマウスのカーソルを移動させた時に、ビデオの一番上のレイヤーとして表示されるボタン。オーバーレイボタンは、スピーカーの起動、イベント、出力、PTZ カメラの動作、録画開始、カメラからの信号の消去に使用します。

オペレータ

XProtect クライアントアプリケーションのプロフェッショナルユーザー。

か

カードホルダー

入退室管理システムで認識できるカードを所有し、1カ所以上のエリアや建物などの場所への立ち入りの権限を与えられている人物。入退室管理も参照。

カスタムオーバーレイ

建物内の平面図を示したり、区画の間に境界線をマークするなど、ユーザーがスマートマップに追加できるユーザー定義のグラフィック要素。カスタムオーバーレイには、画像、CAD 図面、あるいはシェープファイルなどがあります。

き

キーフレーム

デジタルビデオ圧縮の規格（MPEG など）で使用されます。キーフレームは指定された間隔で保存される単一のフレームです。キーフレームはカメラのビュー全体を録画しますが、その後のフレームは変化したピクセルのみを録画します。これにより、MPEG ファイルのサイズを大幅に縮小できます。キーフレームは I フレームに類似しています。

く

クラスター

デバイスまたはプラグイン要素の集合（または組み合わせ）。スマートマップ上では数字を囲む丸いアイコンとして表示されます。クラスターは特定のズームレ

ベルで現れ、特定の地理的エリア内のデバイスまたはプラグイン要素の数を示します。

こ

コーデック

エクスポートされた AVI ファイルなど、音声とビデオデータを圧縮および解凍するテクノロジー。

し

シーケンスエクスプローラー

シーケンスエクスプローラーは、ビュー内の各カメラまたはすべてのカメラからの録画シーケンスを表わすサムネイル画像を一覧表示します。サムネイル画像をドラッグして簡単に時間を移動でき、サムネイル画像を隣り合わせて比較できるため、多数のシーケンスにすばやくアクセスでき、最も適切なシーケンスを特定して、すぐに再生できます。

す

スナップショット

特定の時点におけるビデオフレームのインスタントキャプチャ。

スマートサーチ

1台以上のカメラが録画した1つ以上の選択されたエリアでモーションの検知されたビデオを見つける検索機能。

スマートマップ

地理的情報システムを使用して、地理的に正確かつ実世界のイメージで、監視システムのデバイス（カメラ、マイクなど）、構造、およびトポグラフィカル要素を視覚化するマップ機能。この機能の要素を使用するマップは、スマートマップと呼ばれます。

て

デッドゾーン

デッドゾーンは、情報をシステムに送信するためのジョイスティックハンドルの動作範囲を決定します。ジョイスティックのハンドルは、使用していない時は完全に垂直なのが理想的ですが、多くの場合、少し傾いています。PTZ カメラの制御にジョイスティックを

使用している場合、ジョイスティックが少しでも傾いていると PTZ カメラが動きます。このため、デッドゾーンを設定可能としておくことが望ましい場合があります。

は

パトロール設定

PTZ カメラを用いたパトロール実行方法の正確な定義（プリセット位置間の移動シーケンス、タイミング設定など）。「パトロールスキーム」とも呼ばれます。

ひ

ビュー

1台または複数のカメラからのビデオ群で、XProtect SmartClientで一緒に表示されます。ビューには、HTML ページや静止画像など、カメラからのビデオ以外のコンテンツが含まれている場合もあります。ビューには、個人ビュー（作成したユーザーのみ閲覧可能）と他のユーザーと共有できる共有ビューがあります。

ふ

ブックマーク

ビデオ録画の中の重要な時点で、ユーザーやユーザーの同僚が後から簡単に見つけられるように、ある時点にマークを付け、オプションとして注記を付けることもできます。

プライバシーマスク

カメラビュー内のビデオの領域をカバーするぼかし、あるいは単色。定義されたエリアは、クライアントのライブ、再生、ホットスポット、画面自動切替、スマートマップ、スマートサーチ、エクスポートモードで、ぼかされるか、隠されます。

プリセット位置

特定のイベントが発生したときに PTZ カメラが定義された異なる方向に自動的に向くようにしたり、PTZ パトロール設定を指定するために使用できます。

フレームレート

モーションビデオに含まれている情報量を示す単位。通常、FPS（フレーム数/秒）で計算します。

へ

ペイン

XProtect Smart Client ウィンドウの左側にあるボタン、フィールドなどの小さな集まり。ペインでは、XProtect Smart Client のほぼすべての機能にアクセスできます。表示されるペインは、設定およびタスクにより異なります。例えば、ライブモードでライブビデオを見る場合と、再生モードで録画されたビデオを見る場合ではペインが異なります。

ほ

ポート

データトラフィックの論理的エンドポイント。ネットワークでは、データトラフィックの種類ごとに異なるポートが使用されます。そのため、場合によっては、特定のデータ通信でどのポートを使用するかを指定する必要があります。ほとんどのポートは、通信に含まれるデータの種類の基に基づいて自動的に使用されます。TCP/IP ネットワークの場合、ポート番号は 0~65536 ですが、0~1024 までは特定用途向けです。例えば、ポート 80 は Web ページの表示に使用される HTTP トラフィック用です。

ホットスポット

XProtectSmartClientのビューで拡大したカメラ画像や高画質のカメラ画像を表示する特定のビューアイテム。

ま

マップ

1) XProtect Smart Clientナビゲーションやステータスの可視化により、マップ、平面図、写真などを使用する機能。2) ビューで使用される実際のマップ、平面図、写真など。

れ

レイヤー

スマートマップ上の地理的背景、カスタムオーバーレイ、あるいはカメラなどのシステム要素。レイヤーは、スマートマップ上に存在するすべての地理的要素です。

漢字

画面自動切替

XProtect Smart Client のビューで、複数のカメラからのビデオを次々に再生できる特定の位置。

外部 IDP

XProtect VMS に関連付けてユーザー ID 情報を管理し、ユーザー認証サービスを VMS に提供できる外部エンティティ。

魚眼レンズ

360° のパノラマ画像を作成、表示できるレンズ。

出力

コンピュータから送られるデータ。IP 監視システムで、出力はゲートやサイレン、ストロボなどのデバイスを起動するため、頻繁に使用されます。

静止画像

単一の静止画像。

入退室管理

建物や敷地に侵入する人物や車両、その他の存在をコントロールするセキュリティシステム。

録画

IP ビデオ監視システムでは、録画とはビデオを保存することを意味し、該当する場合、カメラからの音声を監視システムのデータベースに保存することも意味します。多くの IP 監視システムでは、カメラから受信したビデオと音声のすべてを保存する必要はありません。ビデオと音声の保存は、多くの場合、モーションの検知、特定のイベントの発生、あるいは特定の時間帯などの理由がある場合にのみ開始されます。そのため、モーションが検知されなくなったり、他のイベントが発生しなくなってから一定の時間が経つと、録画は停止します。録画という用語は、録音／録画ボタン

を押すまでビデオや音声をテープに保存できなかったアナログ時代の用語に由来しています。



helpfeedback@milestone.dk

Milestone について

Milestone Systems はオープンプラットフォームのビデオ管理ソフトウェア（VMS）の世界有数のプロバイダーです。お客様の安全の確保、資産の保護を通してビジネス効率の向上に役立つテクノロジーを提供しています。Milestone Systems は、世界の 15 万以上のサイトで実証された高い信頼性と拡張性を持つソリューションにより、ネットワークビデオ技術の開発と利用におけるコラボレーションとイノベーションを促進するオープンプラットフォームコミュニティを形成しています。Milestone Systems は、1998 年創業、Canon Group 傘下の独立企業です。詳しくは、<https://www.milestonesys.com/>をご覧ください。

